

## 日本国憲法

大嶽 浩

### 【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の事情や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

### 【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

### 【評価方法】

試験とレポートによる評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 民主主義と人権

初谷良彦

### 【授業の概要】

民主主義の根本原則は人権（人間としての権利）の尊重にある。人権の理想と実現が民主主義のあり方と人間の生き方に大きく影響する。民主主義の制度と仕組みについて、人権を保障する法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

### 【授業計画】

- 第1回 民主主義の歴史（ペリクレスからウィルソンまで）
- 第2回 近代民主主義の変容（市民社会から大衆社会へ）
- 第3回 現代民主主義の問題点
- 第4回 国家の正統性について
- 第5回 国家と社会契約の思想
- 第6回 議会制民主主義の歴史
- 第7回 議院内閣制と大統領制
- 第8回 多数決原理と民主主義
- 第9回 代議制民主主義と選挙制度
- 第10回 現代の民主主義体制
- 第11回 人権総論
- 第12回 人間の尊厳と人権
- 第13回 障害者の国務請求権
- 第14回 少数者の人権
- 第15回 平等権

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

概説 デモクラシーと国家（初谷良彦他 成文堂）

### 【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介する。

## 日本国憲法

初谷良彦

### 【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

### 【授業計画】

- 第1回 近代国家と憲法
- 第2回 日本国憲法制定の経緯
- 第3回 日本国憲法の基本原理
- 第4回 人権の歴史
- 第5回 人権の内容・享有主体
- 第6回 人権規定の効力
- 第7回 生命・自由・幸福追求権
- 第8回 法の下での平等
- 第9回 信教の自由と政教分離
- 第10回 表現の自由
- 第11回 人身の自由と刑事手続
- 第12回 国会・内閣
- 第13回 司法制度
- 第14回 地方自治
- 第15回 期末試験

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

憲法講義 I（第2版）（初谷良彦著 成文堂）

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 民主主義と人権

本秀紀

### 【授業の概要】

日本国憲法は人権と民主主義を保障しているが、その制度と仕組みについて、人権をまもる法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

### 【授業計画】

新聞報道などから、できるかぎり身近で具体的な素材を取り上げつつ、まずは現実を知り、その上で諸問題への対応を考える力を養う。

基本的には講義形式で行うが、受講生の問題関心を高めるため、適宜質疑をしたり、ビデオを観る予定である。

授業内容は現在のところ、以下の項目から適宜選択する予定だが、そのときどきのトピックによって変更もありうる。

- 1 はじめに：「民主主義と人権」って？
- 2 企業社会と人権：過労死、育児休業、労働者差別
- 3 女性と人権：ドメスティック・ヴァイオレンス、労働と女性差別
- 4 マスメディアと人権：プライバシー侵害、メディア規制立法
- 5 子どもと人権：校則・体罰、少年法、いじめ・児童虐待
- 6 医療と人権：インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、代理出産
- 7 外国人と人権：参政権、出入国管理、外国人差別、難民問題
- 8 平和と人権・民主主義：有事法制、イラクへの自衛隊派遣、憲法改正
- 9 ゴミ問題と民主主義：廃棄物処分場と環境、住民投票
- 10 政治の仕組みと民主主義：選挙制度、国会・内閣、政党法制

### 【評価方法】

学期末の筆記試験（受講者数によってはレポート）を基本とし、ビデオへの感想などを加味する。

### 【参考文献・資料】

テキストブック現代の人権〔第3版〕（川人博編著 日本評論社 2004年）  
人権ウォッチング（前田朗 凱風社 2000年）  
ハンドブック国際化のなかの人権問題〔第4版〕（上田正昭編 明石書店 2004年）  
それぞれの人権〔第2版〕（憲法教育研究会編 法律文化社 2002年）  
など。なお、必要に応じて、講義の際に資料・レジュメ等を配布する。

## 哲学的人間論

高畑祐人

### 【授業の概要】

東西の著名な哲学者の古典的な哲学論にふれながら、現代社会がかかえる諸課題についていかに対応し、対処すべきかについて講義をする。

### 【授業計画】

今日の環境問題は、人間と自然の関わり方の問題である。つまり、近代以降、技術の力で自然を自分たちのために改造し続けて来たことの問題である。そして、自然への関わり方は、「自然観」によって規定されている。だから、自然との関わり方・自然観は、人間の生き方を反映している。自然との関わり方を考え直すことが、人間の善い生き方を考えることにもなるのである。ところで近代的な自然科学的な自然観の以前に自然観の長い歴史が知的遺産として横たわっている。そこから学ばない手はない。そこで、この講義では西洋哲学の歴史の中の主な哲学者の思想を「自然」の概念を手がかりにして通覧し、「自然とのよりよい関わり方=人間のより善い生き方」の本質的要素を考えてみたい。

1. なぜ自然の哲学か
2. 神話的自然観—ギリシャ神話におけるプロメテウス観の移り変わり—
3. ソクラテス以前の自然哲学—アレスからアナクサゴラスまで—
4. ソフィストとソクラテス・プラトン
5. アリストテレス
6. デカルト
7. カント
8. シェリングとロマン主義的自然観
9. 進化論的自然観

### 【評価方法】

学期末の筆記試験あるいはレポート、授業への参加態度などで総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献・資料】

西洋哲学史 上・下 (シュヴェーグラー 岩波文庫)  
西洋哲学史 (岩崎武雄 有斐閣)  
哲学の原風景 (荻野弘之 NHKライブラリー)  
野生の歌が聞こえる (レオポルド 講談社学術文庫)  
エマソン論文集 上 (エマソン 岩波文庫)

## 生命倫理学

加藤太喜子

### 【授業の概要】

生命科学の進歩と発達に伴い、倫理的・法的・社会的視点の重要性が指摘されるようになった。新旧さまざまな問題を挙げながら、依拠する規範のあり方をともに考えたい。

### 【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 生命倫理学の成り立ち
2. インフォームド・コンセント
3. 脳死と移植医療
4. 生殖医療
5. 代理母
6. 人工妊娠中絶
7. 出生前診断
8. 優生思想とは
9. よりよい自己決定に向けて

### 【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する

### 【参考文献・資料】

優生学と人間社会 (米本昌平他著 講談社現代新書)  
クローン人間 (粥川準二著 光文社新書)

## 現代社会と倫理

大野波矢登

### 【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

### 【授業計画】

科学技術の進歩によってもたらされた現代の社会問題を、ビデオ等の資料を使って紹介し、その解決のためにわれわれは何をすべきかを考える。

1. 倫理的視点から見た現代の社会問題
2. 倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3. 倫理学理論の応用 (道徳的意思決定の方法)
4. 社会の安全性と科学技術者の責任  
クローン技術はどのように応用されるべきか?
5. 環境倫理の主張  
自然保護は何をめざしているのか?
6. インターネット時代の倫理  
知的財産は誰のものか?
7. 内部告発と社会の浄化  
内部告発は行なうべきか?

### 【評価方法】

小レポート (3、4回授業時に書いてもらう予定) と期末レポートの成績によって評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

入門講義 倫理学の視座 (新田孝彦著 世界思想社)  
先端技術と人間 21世紀の生命・情報・環境 (加藤尚武著 NHKライブラリー)  
環境と倫理 自然と人間の共生を求めて (加藤尚武編 有斐閣アルマ)

## ジェンダーと社会 I

國信潤子 星山幸子 佐藤光 林かぐみ 生江明

### 【授業の概要】

この講義は、まずジェンダーとは何かについて解説し、それらが日本社会において、また開発途上国においてどのように現象化しているかを紹介するオムニバス講座である。5名の開発協力の現場で活躍する講師によって日本、フィリピン、トルコ、バングラデシュ、ネパールなどでの現場の開発協力活動を基礎にジェンダー関係の多様性と開発協力におけるジェンダーに敏感な視点とは何かを紹介する。持続可能な開発、基本的生活ニーズの確保、参加型開発、地域住民の意識化など、近年の開発論の理論的展開をもとにジェンダー関係の変容を考察する。

### 【授業計画】

まず、本講座のコーディネーターである國信 (本学教授) がジェンダーとは何か、日本社会におけるジェンダー関係の実態、国際開発におけるジェンダー視点の展開について講じる。次に生江明 (日本福祉大学教授) による国際統計にみるジェンダー格差の意味を参加型小グループ討議で読み取り、発表、討議する。第三番目の講師は星山幸子 (金城学院大学講師) によってトルコ南東部アナトリア地方の綿摘み女性労働者の生活実態とイスラム農村社会にみるジェンダー規範を紹介する。第四番目の講師はアジア保健研修所 (AHI) の佐藤光医師および、林かぐみ研究員によって愛知県日進市にある国際的な NGO である AHI の活動、つまりアジア諸国で実施されている保健リーダーの参加型学習による医療・保健、ジェンダー平等の促進活動を紹介する。

各講師が3・4回ずつ講義を行うルーリング講義である。大半は講義形式である。必要に応じて、小グループ討議、ビデオ視聴なども取り入れる。

### 【評価方法】

期末のレポート、出席状況、履修態度、感想カード内容などの総合評価による。

### 【テキスト】

資料配布

### 【参考文献・資料】

開発とジェンダー (田中他 国際開発事業団出版刊 2001年)

## ジェンダーと社会II

中島美幸 山下智恵子

### 【授業の概要】

ジェンダーの観点から文学作品を分析することによって、〈女/男〉の規範がどのようにテキストにおりこまれているかを読み解き、さらにテキストがどれほど現実の女と男の生と性を規定してきたかを検証する。

(中島美幸兼任講師) 「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。特に近代以降の女性表現については外国の女性文学と比較しつつ読み解いていく。  
(山下智恵子兼任講師) 現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係を、ジェンダーの視点から検証する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
  - 第2回 〈ことば〉とジェンダー
  - 第3回 〈書く女〉の登場(1)
  - 第4回 〈書く女〉の登場(2)
  - 第5回 女性を描く男性作家のまなざし(1)
  - 第6回 女性を描く男性作家のまなざし(2)
  - 第7回 母と娘の物語(1)
  - 第8回 母と娘の物語(2)
  - 第9回 家族の物語
  - 第10回 文学の政治性
  - 第11回 文学と映像文化
  - 第12回 まとめ
- \*内2回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

### 【評価方法】

出席状況、毎回の感想、学期末のレポートを総合して評価する。

### 【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

## 女性学・男性学

竹信三恵子

### 【授業の概要】

男女についての定説化した知識やその内面化が日本の戦後の政策や働き方に及ぼした影響を、新聞記者としての取材の成果やマスメディアの検証から明らかにし、これらが生んだ社会病理をどう克服するかを考える。

### 【授業計画】

1. 戦後経済政策を男女分業はどう支えたか～高度経済成長からバブル崩壊まで
2. 日本の男女分業型経済と海外の動き～男女雇用機会均等法・男女共同参画社会基本法と「ワークライフバランス」
3. 男女分業型経済の浸透とマスメディアの役割～戦後経済政策の骨格となった男女分業主義に新聞報道はどう関わったかを検証
4. 男女分業型経済の乗り越え～マスメディア報道からは見えにくい現実の男女関係の変化とこれに見合った新しい働き方の展望

### 【評価方法】

出席状況、授業後のフィードバックシートの提出状況と内容、授業内での質問や意見発表などの貢献度で評価する。

### 【テキスト】

『家事の値段』とは何か  
(久場嬉子・竹信三恵子著 岩波ブックレット 1999年)

### 【参考文献・資料】

ジェンダーから見た新聞のうら・おもて～新聞女性学入門(田中和子・諸橋泰樹著 現代書館 1996年)、ワークシェアリングの実像～雇用の分配か、分断か(竹信三恵子著 岩波書店 2002年)

## 女性学・男性学

中島美幸

### 【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 女性学・男性学の誕生
- 第3回 男女をめぐる国際比較
- 第4回 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 第5回 恋愛と結婚
- 第6回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第7回 女性と労働
- 第8回 男性と労働
- 第9回 家族をめぐる諸問題(1)
- 第10回 家族をめぐる諸問題(2)
- 第11回 将来展望・男女のライフスタイル
- 第12回 まとめ

### 【評価方法】

毎回の授業の感想と中間レポート(2～3回)の内容、さらに学期末テストで総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

## 大衆文化論

鈴木 互

### 【授業の概要】

大衆に愛され、大衆に浸透した文化について構造的に把握するように試みたい。そのためには、戦後若者世代がどのような動向をしたかを確認する。次いで各世代に共通して見られる「消費」というキーワードを軸に、大衆文化を支える消費社会のあり方を探る。最終的には、21世紀というポスト・モダンの社会でどう生きるかに迫りたい。

### 【授業計画】

- 1 戦後世代の特徴からみた大衆文化の諸相を探る
  - 1:1 団塊の世代(1965～1975)
  - 1:2 新人類(1980年代)
  - 1:3 団塊ジュニア(1990年代)
  - 1:4 新人類ジュニア(2005～2015)
- 2 大衆文化を支える消費社会を分析する
  - 2:1 現状認識
  - 2:2 『消費社会の神話と構造』(ボードリヤール)
  - 2:3 人間の本源的な欲求としての消費(G・バタイユ)
- 3 モダンの脱構築=21世紀の大衆文化との戯れ方を探る

### 【評価方法】

出席、受講態度、提出物によって総合的に評価する。学習意欲のある、明るく元氣な学生の受講を歓迎します。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指示する。

## 暮らしの法律

辻田芳幸

### 【授業の概要】

私たちの生活に身近な法律問題について考察する。たとえば、とても有益な発明の結果である製品がよく売れて会社が大幅に儲けた場合、発明者である従業員の見返りはどうあるべきか。ブランドのマークを勝手に付けた商品（いわゆるコピー商品）はどうしていけないのだろうか。またネット上に他人が作成した写真や音楽をアップロードするときの注意点、さらにはネット上で商品を購入するときの注意点などについて解説したい。本講義ではできるだけ具体例を挙げながら話を進めたいと考えている。

### 【授業計画】

- 第1回 導入（情報社会と知的財産・契約）
- 第2回 特許というシステム
- 第3回 著作権というシステム
- 第4回 Webへの写真掲載と肖像権
- 第5回 インターネット上の名誉毀損
- 第6回 オンラインショッピングと契約法
- 第7回 オンラインショッピングと契約法
- 第8回 インターネット犯罪
- 第9回 著作権ビジネス
- 第10～12回 その他の問題点

### 【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

## 文化人類学

三木 誠

### 【授業の概要】

人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

### 【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

1. 文化
2. 性別と社会
3. 婚姻と家族
4. 独特の民族文化
5. 宗教と信仰
6. 民族と国家

### 【評価方法】

定期試験により評価する。ノートは持ち込み可とする。

### 【テキスト】

指定せず。

### 【参考文献・資料】

興味を持った学生にはそのつど指示する。

## 文化人類学

藤井麻湖

### 【授業の概要】

文化人類学は「人間社会をトータルに捉えて認識しようとする学」である。そこには、人間社会におけるあらゆる領域が含まれる。民族、親族組織、政治、経済、宗教、医療、音楽等々あらゆるものが含まれる。本講義では、伝統的な文化人類学で蓄積された興味深い成果を中心に解説する。

### 【授業計画】

1. 文化人類学の基本
  - (1) 文化人類学の起源
  - (2) 文化人類学の方法論
2. 集団が構成される原理
  - (1) 親族組織と親族名称
  - (2) 縁組み理論
  - (3) クラとボラッチ
  - (4) リネージ・システム
3. 集団が維持される原理
  - (1) 衣
  - (2) 食
  - (3) 住
  - (4) 儀礼
  - (5) 他界観

### 【評価方法】

定期試験により評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

文化人類学キーワード（山下晋司・船曳健夫編 有斐閣双書）

## 文化人類学

水口千里

### 【授業の概要】

人間の生活や行動様式は、帰属する社会の固有の文化から多くの影響を受けている。本講義では、さまざまな分野にわたる国内外の事例を取り上げ、その文化的背景を学ぶ。

### 【授業計画】

講義形式による。デジタル画像、VTRなど視聴覚教材を併用する。

1. 概論 文化人類学の調査、研究方法
2. 精神文化をひも解く  
(異界からのメッセージ/願い・占い・おまじない/幽霊と妖怪)
3. 食文化を読む  
(飲酒と宴会/家庭食と外食)
4. 贈答文化を探る  
(ギフトとプレゼント/贈与交換)
5. フィールドワークを知る  
(ニッポンと日本/ヨーロッパの日本コレクション)
6. 総論 異文化理解と自文化理解

### 【評価方法】

単位認定試験（論述形式）で評価する。講義時間中に小レポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映する。

### 【テキスト】

なし。プリント配布。

### 【参考文献・資料】

参考文献リストを講義時間中に配布。

## 比較文化論

文 嬉眞

### 【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

### 【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

### 【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

### 【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 比較文化論

星山幸子

### 【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

とくに、イスラームの文化を事例として取り上げ、異文化に対する視座について検証する。この授業をおして、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

### 【授業計画】

1. 文化と文明
2. 文化の理解
3. 民族と国家と文化
4. 南北問題と発展途上国の文化
5. 人の移動と異文化接触
6. グローバル化とローカル化
7. イスラームの文化
8. イスラームとジェンダー
9. 文化摩擦と国際問題
10. 中央アジアの人びと
11. トルコの人びとの暮らしと文化
12. 日本社会における異文化交流

### 【評価方法】

出席、授業中の提出物、討論と質疑応答 30%  
期末試験 30%  
期末レポート 40%

### 【テキスト】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業のなかで参考文献リストを配布する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

## 国際政治論

草間秀三郎

### 【授業の概要】

現代がバックス・アメリカーナ（アメリカ中心の世界平和）であることを重視して、建国以来のアメリカ外交の理念と展開を概観し、第一次大戦、第二次大戦、米ソ冷戦の各諸問題を学習する。国連とPKOの諸問題、EUやAPECなどの地域国際協力組織をも学習する。

### 【授業計画】

- 1) 歴代アメリカ大統領の外交理念と特徴
- 2) 第一次世界大戦（1）勃発の原因とアメリカの中立
- 3) 第一次世界大戦（2）アメリカの参戦とロシア革命
- 4) ウィルソン大統領の14か条の提案とパリ講和会議
- 5) 両大戦間の国際政治・ワシントン会議・条約
- 6) 第二次世界大戦（1）日独の動きと大西洋憲章
- 7) 第二次世界大戦（2）日米戦争と捕虜の問題
- 8) 第二次世界大戦（3）連合国の対日占領政策
- 9) 米ソ冷戦 トルーマン・ドクトリンと日米安保条約
- 10) 日米関係 国連と日米安保体制
- 11) 国連とPKOの諸問題（中東を重視して）
- 12) 地域的国際協力組織（EU,APEC, ASEAN）

### 【評価方法】

期末試験（筆記）による。毎回の出席を重視して欠席回数が多い場合には受験資格を失う。

### 【テキスト】

なし。毎回プリントを配布する。

## 国際政治論

瀬戸裕之

### 【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対立の時代から、相互依存の時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域に関する紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的な事象にふれながら講義する。

### 【授業計画】

1. 国際関係の基本概念
2. 国際関係理論
3. 冷戦構造の展開と終焉
4. 国際経済と地域統合
5. 国連と安全保障体制
6. 南北問題と開発
7. 地球環境問題
8. 地域紛争とテロリズム
9. アジアにおける日本の戦争
10. 戦後日本と安全保障
11. アジアと日本の国際協力

### 【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。

### 【参考文献・資料】

国際関係学講義 新版（原彬久編 有斐閣）

## 国際交流論

松本一子

### 【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNGOやNPOの活躍がめざましい。国際交流の歴史を概観しながら、主として日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のあり方について講義する。

### 【授業計画】

1. 国際交流とは
2. 国際交流の歴史
3. 国際交流活動の現状
  - ・自治体と国際交流
  - ・地域の国際化と多文化共生
  - ・地球市民教育
  - ・ネットワークの形成と活用
4. 実践国際交流
  - ・先進的組織運営のさまざまな事例

### 【評価方法】

レポート及び平常点で評価する

### 【テキスト】

国際交流の組織運営とネットワーク（榎田勝利編著 明石書店 2004年）

### 【参考文献・資料】

実践国際交流（国際交流基金・大阪国際交流センター編 1997年）

草の根の国際交流と国際協力（毛受敏浩編著 明石書店 2003年）

## 初めての外国語2（フランス語）

清水ベアトリックス

### 【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか？イラストや写真が多い教科書の「はじめてのパリ」が首都のパリでの様々な発見への旅先案内人になりながら実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいます。会話とコミュニケーションを中心にフランスの慣習を述べながらすぐ使えるフランス語を楽しく学びます。

### 【授業計画】

毎回、担当教員（フランス人）が文法と語彙のメインポイントをしっかりと説明した後、楽しい会話の練習をしたいと思います。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

### 【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

### 【テキスト】

*Partir pour Paris*（はじめてのパリ）（大津俊克・瀧川広子・藤井宏尚著 朝日出版社）

## 初めての外国語1（ドイツ語）

藤井たぎる

### 【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業計画】

授業はパートナー練習を中心にして、現在（および未来）のことがらに関する表現練習を行います。

学習する主な項目は、以下のとおりです。

- (1) 自己紹介、他人の紹介の練習
- (2) 数字に関する練習（ビンゴ・ゲームつき）
- (3) 冠詞の用法と表現練習
- (4) 名詞・人称代名詞の用法と表現練習
- (5) 動詞・助動詞の用法と表現練習

その他、ビデオやCDを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。このクラスでは、受講生のみなさんは毎回、ペアを組んでもらいます。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使いものにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使いものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないという意味がありません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。

### 【評価方法】

試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価する。

### 【テキスト】

行ってらっしゃい！（西村祐子/Rudolf Petrik著 朝日出版社）

## 初めての外国語3（ロシア語）

杉本一直

### 【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ロシア語への関心を高める。ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの風土と文化について学び、その歴史や日本とのかかわりなども理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業計画】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしてくださいね。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなかがいっぱいなら…
- g. 自分について話してみよう

### 【評価方法】

定期試験の成績による。

### 【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

## 初めての外国語4 (スペイン語)

木下まりあ

### 【授業の概要】

スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。世界でも屈指の言語圏を持つスペインの歴史と文化的影響について学び、独特の風土について理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3. 挨拶、自己紹介の仕方
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 形容詞 (性数の一致)
6. 人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7. 数詞と時刻の表現
8. スペイン語の手紙の書き方
9. 旅行に役立つスペイン語会話
10. まとめ

### 【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

### 【テキスト】

授業中に指示。

## 日本と外国の歴史1 (日本)

岩口和正

### 【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているものです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

### 【授業計画】

- (1) 戸と戸籍と姓
- (2) 明治民法の成立と日本近代の「家制度」
- (3) 婚姻の諸形態1 <妻問婚の特徴>
- (4) 婚姻の諸形態2 <婿取婚と嫁取婚の成立>
- (5) 前近代日本社会における離婚法と密懐法の展開
- (6) イエの成立と展開1 貴族社会とイエ
- (7) イエの成立と展開2 開発領主とイエ
- (8) イエの成立と展開3 主従制と家父長制の展開
- (9) 東アジア諸国の家族・親族制度と日本

### 【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

### 【テキスト】

使用しません

### 【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

## 日本と外国の歴史2 (郷土)

秦達之

### 【授業の概要】

東海地方が戦国統一の舞台になったのは周知の事実だが、その後の歴史については意外に知られていない。東西の文化を巧みに吸収した近世・近代について、一見地味だが、重要な事件や人物を取上げ、受験時の暗記の歴史から脱皮し、考え、愉しみ、哀しみつつ、生きるための歴史を目指したい。

### 【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにしたいが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「尾張のキリシタンたち」「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車(だし)」「渡辺華山とその周辺」「お札降りと「ええじゃないか」「戦争と女性」「モルフィと廃娼運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている(受講者もぜひご協力)。

### 【評価方法】

出席状況(特に厳しいので注意!)と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考にしている。

### 【参考文献・資料】

- 愛知県の百年(塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生共著 山川出版社)  
愛知県の歴史(三鬼清一郎編 山川出版社)  
東海・近代へのまなざし(都築亨・大嶋光義編 中部日本教育文化会)

## 日本と外国の歴史3 (東洋)

土屋 洋

### 【授業の概要】

東洋、特に中国を中心とした東アジア地域やその歴史を概説し、通史を学ぶ。日本は中国や朝鮮半島と歴史的・文化的に関係が深く、相互に影響を強く受けていることについても認識を深めたい。

### 【授業計画】

1. 期間計画指示・授業内容の説明
2. 歴史学とは何か? : 歴史リテラシーを身につけよう
3. 現代中国の雰囲気を知ろう
4. アジアを考えるということ : 日本においてアジアの歴史を学ぶとは?
5. 中国近現代史への眼差し : 歴史観の諸相
6. 中国の近代 : 「近代」という時代をどう考えるか?
7. 中国の近代と日本 : 東アジアの近代を日本との関係から考える
8. 近代日本の中国観
9. 日中戦争を考える : 南京事件をめぐる歴史認識の講
10. 「文革」、「改革開放」、「六四」 : 東西冷戦構造の狭間で
11. 「台湾」という問題
12. 現代中国と日本 : 特に歴史認識問題をめぐって
13. 21世紀の日本、中国、東アジア

### 【評価方法】

中間レポートと期末レポート(人数によってはテスト)、および随時課す感想・意見等の提出状況によって評価する。

### 【テキスト】

基本的に毎回レジュメを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に提示する。

## 日本と外国の歴史4 (西洋)

北村陽子

### 【授業の概要】

ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心とした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

### 【授業計画】

1. はじめに—国民国家とは何か
2. 近代国民アイデンティティ形成の前段階
  - (1) 「個人」の覚醒：ルネサンス
  - (2) 「他者」の認識：大航海時代
  - (3) 普遍性の否定：宗教改革
3. イギリスの国民国家
  - (1) イギリス国教会の成立と絶対主義国家
  - (2) 二つの市民革命—「イングランド」から「イギリス」へ
  - (3) パクス・ブリタニカ—ジェントルマンが支える「大英帝国」の時代
4. アメリカ合衆国の国民国家
  - (1) 対イギリス独立革命
  - (2) フロンティア開拓時代の「他者」認識
  - (3) 奴隷制と南北戦争
5. フランスの国民国家
  - (1) ルイ14世治下における絶対主義の確立
  - (2) フランス革命とナポレオン
  - (3) 「国民」の創出—「単一にして不可分のフランス」成立
6. ドイツの国民国家
  - (1) 三十年戦争とプロイセン・オーストリアの絶対主義
  - (2) 対ナポレオン解放戦争と諸国民の春
  - (3) ビスマルクによる「ドイツ」統一
7. おわりに—20世紀のナショナリズムと国民国家

### 【評価方法】

成績評価は、出席と学期末テストにより総合的に行う。

### 【テキスト】

とくに定めなし。

### 【参考文献・資料】

- 国民国家とナショナリズム (谷川稔 山川出版社)
- 国民国家を問う (歴史学研究会編 青木書店)
- その他講義中に指示する。

## 地域コミュニティ論

安藤純子

### 【授業の概要】

現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果たす役割と問題点について具体例にふれて講義する。

### 【授業計画】

- 1 イントロダクション
- 2 地域社会の歴史と構造 1
- 3 地域社会の歴史と構造 2
- 4 コミュニティの概念
- 5 コミュニティの組織論
- 6 地方分権とコミュニティ
- 7 コミュニティとネットワーク 1
- 8 コミュニティとネットワーク 2
- 9 コミュニティ活動と実践例 1
- 10 コミュニティ活動と実践例 2
- 12 まとめ

### 【評価方法】

定期試験と出席率など総合的に評価する。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 東アジアの生活と文化

楊 衛平

### 【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

### 【授業計画】

1. 中国の少数民族の構成
2. 儒教、仏教と道教の相異
3. 中国の年中行事
4. 南北食文化の比較
5. 中医学と西洋医学
6. 気の文化と気功術
7. 飲茶の文化と歴史
8. 伝統武術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の姓の色々
12. 中国の名勝物語
13. 中国人と日本人の考え方の相異

### 【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

- 中国人・文字・暮らし (李順然 東方書店)
- 中国仏・道・儒教史話 (劉克蘇 河北大学出版社)
- 中国伝統文化導論 (劉榮興 河北大学出版社)

## ビジネスの世界

伊藤義明

### 【授業の概要】

会社の組織やマネジメント、人の働き方、法律を含む社会のあり方など「ビジネスの世界」は21世紀に入り大きく変化しつつあります。

“Free, Fair, Global”の3つのキーワードをもちいて、その変化の全体像を具体的実例を挙げながら学習します。特にFinancial Literacyの重要性も学習します。

第一区分では“ビジネスを取り巻く環境変化”を、第二区分では“環境変化に適応する企業組織”を、第三区分では現在“社会から求められる企業経営”について、「日本経営品質基準」を参考に学習します。

(Q&Aを重視しますので学生の積極的な発言を期待します。)

### 【授業計画】

- 第1講 Introduction：ビジネスモデルと日本の国際競争力
- 第2講 企業活動の環境変化
- 第3講 Free, Fair, Global—規制緩和と自己責任
- 第4講 制度変革と企業活動
- 第5講 企業を取り巻く社会システムの変化
- 第6講 環境、労働市場、金融市場の進化とFinancial Literacyなど
- 第7講 市場 (マーケット) について
- 第8講 企業の組織 (その1)
- 第9講 ビジネスとは何か?会社とは何か? (その法的要件)
- 第10講 企業の組織 (その2)
- 第11講 組織の分解と再編、財務の重要性
- 第12講 企業のマネジメント
- 第13講 主要産業の動向
- 第14講 求められる企業経営：「日本経営品質基準」と「Malcolm Baldrige National Quality Program」
- 第15講 マネジメント：リーダーシップと企業の社会的責任
- 第16講 市場と顧客本位の経営—企業戦略：人材、プロセス、情報
- 第17講 総括 (テストと評価)

### 【評価方法】

学期末テストの成績で評価 (出席率は成績に反省させない)

### 【テキスト】

ビジネスの世界 (伊藤義明著 (印刷予定))

### 【参考文献・資料】

特になし、新聞を読むことが望ましい。



## 健康と医学

渡邊一功

### 【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入っているが、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助が必要である。健康を保ち、命を守るためにどうすればよいか、医学の立場から講義する。

### 【授業計画】

- 1) 性感染症  
感染症とは 性感染症の現状と予防 後天性免疫不全症候群
- 2) 免疫とアレルギー  
免疫のメカニズム、アレルギー反応の分類  
アレルギー疾患
- 3) 嗜好品と健康  
アルコール タバコ 薬物依存
- 4) 生活習慣病の予防  
糖尿病 がん 高脂血症 高血圧
- 5) 生殖の医学  
性機能 避妊 妊娠 分娩
- 6) 胎児からの子育て  
母子相互作用 母と子の絆 小児虐待
- 7) 子どもの成長と発達  
身体的発育 生理機能の発達 精神的発達  
しつけ
- 8) 乳幼児期の主な病気  
一般的症状 主な病気 障害児  
染色体と遺伝子異常

### 【評価方法】

主に筆記試験による。

### 【テキスト】

健康と保健の科学 (坂口他著 日本小児医事出版社)

## 健康とくすり

永井慎一

### 【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため、くすりの助けがなければ健康の維持が難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効き方と副作用について理解を深める。

### 【授業計画】

- 第1回 受講生に、すべての授業で学ぶ内容をまとめた「病気とくすりについて」の知識調査を実施後、医薬品業界と最近の傾向、新薬開発にかかわる動物実験と治験について解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識として、投与方法と生体内運命、受容体拮抗薬と酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせ、医薬分業、徐放薬など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
- 第5～6回 近年発売されたビルなどの生活改善薬をはじめ、繁用される一般用医薬品 (OTC) 500種と医者が処方する医療用医薬品200種を薬効別に解説
- 第7回 頭痛、生理痛の原因物質と治療薬のメカニズム
- 第8回 アトピー性皮膚炎、花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
- 第9回 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法
- 第10～13回 成人病検診で見つかる生活習慣病を中心に、高血圧、ガン、糖尿病、エイズなどの発症原因と最先端の医療用医薬品が効くくみを解説

### 【評価方法】

レポートの内容と出席授業時間数で評価する。

### 【テキスト】

プリントを毎回配布し講義する。

### 【参考文献・資料】

初回授業で紹介する。

## メンタルヘルス

長谷川純子

### 【授業の概要】

複雑な現代社会において、こころの病はもはや人ごとではない。なぜ多くの人のこころが病んでいくのだろうか。そもそも”こころ”とは一体何なのだろうか。この授業では、こころに影響を及ぼす様々な要因について、主に心理学モデルや幾つかの事例などをもとに論じながら、こころの健康 (メンタルヘルス) について考える。

### 【授業計画】

1. こころの構造～心理モデル
2. こころの病～歴史・分類・症状
3. こころの発達
4. パーソナリティからこころを考える
5. ストレスのメカニズムとコーピング
6. ライフスタイルと健康
7. 病と性格・行動パターン
8. 脳とこころ～認知障害から見たこころの風景
9. 社会の変化がもたらすこころの問題
10. こころの病を解決するために～心理療法
11. こころの健康を考える～セルフケアを中心に

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし。プリント配布。

## ライフサイクルと健康

松田秀子

### 【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も善しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて講義する。

### 【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション (理想と現実)
4. 肥満とやせ
5. 隠れ肥満
6. 骨密度・体脂肪測定
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪を正しく落とす方法
9. 筋肉と運動神経
10. 健康づくりのための運動
11. Walking
12. 性への理解
13. 学生生活と健康

### 【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。  
必要に応じて参考資料を配付する。

## スポーツ科学

杉山 和 山本啓子 松田秀子 門間 博 寺田邦昭 丸山治美

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・原則として、半期間に2種目を行う。(天候によって種目を変更する場合があります。)
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費(300円)を必要とする。

月曜日	2限	杉山	テニス・卓球
	3限	杉山	ゴルフ・バドミントン
	4限	杉山	ゴルフ・バドミントン
火曜日	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
水曜日	1限	門間	テニス・バドミントン
	2限	門間	テニス・バドミントン
	3限	山本	バレーボール・卓球
	3限	門間	テニス・バスケットボール
	4限	山本	バレーボール・卓球
	4限	門間	テニス・バスケットボール
木曜日	1限	寺田	スキルトレーニング
	2限	寺田	スキルトレーニング
	3限	杉山	バドミントン・卓球
	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
金曜日	2限	松田	テニス・ニュースポーツ
	3限	松田	テニス・ニュースポーツ
	3限	丸山	エアロビクス&フィットネス
	4限	松田	テニス・ニュースポーツ
	4限	丸山	エアロビクス&フィットネス

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

杉山 和

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費(300円)を必要とする。

#### 〔ゴルフ〕

1. クラブに慣れる
2. フォーム作り(回転運動のイメージ作り)
- 3～6. スイングの基本を身につける
7. 学外の練習場にてスキルテスト

#### 〔卓球〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットのグリップと打法
3. フォアハンド・バックハンド(ロング・ショート・カット・スマッシュ)
4. サーブとレシーブ
5. シングルスゲーム(審判)
- 6～7. ダブルスゲーム(審判とスコア)、テスト(スキル)

#### 〔バドミントン〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5～8. ミニゲーム

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

山本啓子

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

#### 〔卓球〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットのグリップと打法
3. フォアハンド・バックハンド(ロング・ショート・カット・スマッシュ)
4. サーブとレシーブ
5. シングルスゲーム(審判)
- 6～7. ダブルスゲーム(審判とスコア)、テスト(スキル)

#### 〔バレーボール〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. パスワーク(オーバーハンド・アンダーハンド)
3. サーブとレシーブ(サーブレシーブ・パスアタックレシーブ)
4. トス・アタック・ブロック(アタックカバー・ブロックフォロー)
- 5～7. ゲームと審判(ルール)、テスト(スキル)

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

松田秀子

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

#### 〔テニス〕

1. ガイダンス
2. ラケットとボールに慣れる
3. ボールをコントロールする
4. サーブを練習する
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ミニゲーム・スキルテスト

#### 〔ニュースポーツ〕

1. ガイダンス
- 2～8. ユニホッケー  
ベタンク  
ソフトバレーボール  
ミニテニス

上記のニュースポーツを実践する。

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

門間 博

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとボールに慣れる
3. ボールをコントロールする
4. サービスを練習する
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ミニゲーム・スキルテスト

〔バドミントン〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5～8. ミニゲーム

〔バスケットボール〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ボールに慣れる
3. 基本的な個人技能の確認
4. チームでの基本的な練習
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ゲーム・スキルテスト

### 【評価方法】

70点－(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

丸山治美

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・この授業では、1. エアロビクスの特性・効果を理解する 2. エアロビクスを通して運動する楽しさ・表現する楽しさを味わう 3. 自分の身体への感覚を敏感にし、自分の身体と対話し、自分の身体をよく知る の3点を目標に行う。

〔エアロビクス&フィットネス〕

1. ガイダンス
2. エアロビクスとは何か その理論と特性
3. 目標心拍数の設定と主観的運動強度
4. 筋力トレーニング 筋肉と骨格
- 5～6. ボールを使って
7. 体脂肪
8. ウェイトコントロール
9. 骨を強くする
- 10～15. エアロビクス ダンス パフォーマンス  
動きづくり練習 発表・相互評価

### 【評価方法】

70点－(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

寺田邦昭

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔スキルトレーニング〕

オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら練習し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。

打つ技術の獲得

- バットニング (ソフトボールでの打つスキル)
- ショット (ゴルフ・バスケットボールでの打つスキル)
- ストローク (卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル)
- スマッシュ (卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル)
- アタック (バレーボールでの打つスキル)
- キック (サッカー・ラグビーでの蹴るスキル)

投げる・送る技術の獲得

- スローイング及びパス (ソフトボール・バレーボール・バスケットボール・フライングディスク・サッカー・ラグビーでの投げる・送るスキル)

捕る技術の獲得

- キャッチング (ソフトボール・バスケットボール・ラグビー・フライングディスクでの捕るスキル)

1. ガイダンス
- 2～7. 主にアウトドア種目を中心に実施する。
- 8～13. 主にインドア種目を中心に実施する。
- 14～15. テスト (各種スポーツにおけるスキルテスト)

### 【評価方法】

70点－(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

杉山 和 山本啓子 松田秀子 門間 博 寺田邦昭 蛭田秀一

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	2限	杉山	バレーボール
	3限	杉山	バドミントン
	4限	杉山	バドミントン
火曜日	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
水曜日	1限	門間	バドミントン
	2限	門間	ソフトボール
	3限	山本	バドミントン
	3限	門間	サッカー
	4限	山本	バドミントン
	4限	門間	サッカー
木曜日	1限	寺田	バドミントン
	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	杉山	テニス
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
金曜日	1限	蛭田	卓球
	2限	松田	バドミントン
	2限	蛭田	卓球
	3限	松田	バドミントン
	4限	松田	バドミントン

### 【評価方法】

70点－(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

杉山 和

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バレーボール]

1. ガイダンス、競技の概略
2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3. サーブの種類と打ち方
- 4～6. パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

[バドミントン]

1. ガイダンス、競技の概略
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

[テニス]

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとボールに慣れる（グリップ、スタンス）
3. グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4. グランドストローク（バックハンドを中心に）
5. サーブ、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルールとマナー
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム、スキルテスト

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

山本啓子

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験（シングルスゲーム）
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

松田秀子

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 記録への挑戦（打ち続けよう）
3. 歴史的ゲームの追体験
4. 用具の特徴（貴重な水鳥の羽根）
5. フォーム作り（格好良いフォームで打とう）
6. 攻撃的なショット（初速はどれくらい？）
7. 守備的なショット
8. 基本の戦術
9. ダブルスのフォーメーション
10. 世界のバドミントンプレーヤーを観よう（VTR）
11. ゲームの特徴（心拍数、運動強度はどれくらい？）
12. ゲームのルールとマナーを身につけよう
13. ハーフコート・ミニゲーム
14. ダブルスゲーム
15. スキルテスト

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

門間 博

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

[ソフトボール]

1. ガイダンス
2. キャッチボールの基本、練習、ゲーム
- 3～5. バッティングの基本、練習、ゲーム
- 6～8. 守備の基本、練習、ゲーム
- 9～11. リーグ戦 1
- 12～15. リーグ戦 2、まとめ（記録整理・レポート）

[サッカー]

1. ガイダンス
2. 個人技能の確認
- 3～5. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
- 6～7. 個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
- 8～10. ミニゲームのリーグ戦
- 11～15. リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

寺田邦昭

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・2～8週までのうち、雨天の場合には、9～12週に予定しているインドア種目に変更して実施する。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔ニュースポーツ〕

1. ガイダンス
- 2～6. フライングディスク
- 7～8. ベタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
- 9～10. インディアカ、ミニテニス
- 11～12. ダーツ、ソフトバレー
- 13～15. グループによる遊びの創作と発表会

### 【評価方法】

70点－(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

蛭田秀一

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔卓球〕

1. ガイダンス
2. 用具の使用法と安全に関する注意点の説明、連続ラリー、簡易ゲーム
- 3～6. 卓球における各種基本打法の説明と学習（ルール、姿勢、位置どり、グリップ、スウィング、フットワークなど）、サービスとレシーブの学習、簡易ゲーム
- 7～11. シングルス・ゲームの進め方の説明、打球技術の定着を図るための多人数との対戦、個別指導
- 12～13. 一流選手の打球技術に関するビデオ学習、ダブルス・ゲームの進め方の説明と実施
14. 実技テスト、まとめ

上記は標準的な実施計画であり、受講者の技能レベルに応じて順序や時間配分を変更する場合がある。

### 【評価方法】

70点－(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 現代社会と福祉

見平 隆

### 【授業の概要】

現代社会において、なぜ「福祉」が必要なのか。当然のように「福祉」ということが一般化しているが、そもそも「福祉とは何なのか」を考えると現代社会のしくみが見えてくる。人々が生活を営むには「福祉」は避けられない問題であるが、「福祉はいかにあるべきか」という課題と解決策は難しい問題でもある。現代社会の福祉について具体的事例にふれながら講義する。

### 【授業計画】

1. 現在の生活から社会の現状を知る
2. ライフサイクルと福祉の関わりを考える
3. 日本と世界の福祉の歴史をふり返る
4. 日本と世界の福祉の現状を知る
5. 現代社会の福祉をめぐる問題を考える
6. これからの福祉の課題を考える

一つのテーマについて1回から数回講義するが、授業についての質問、感想などを適宜出してもらい、授業に反映したい。配布プリントを講義ノートとして使ってもらおう。

### 【評価方法】

定期試験の結果および授業で指示した課題提出により評価する。出席率は受験資格にはしない。

### 【テキスト】

講義プリントを授業計画にそって配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## ボランティア論

矢島洋子

### 【授業の概要】

ボランティアは今や新しい時代を生きて行くための行動様式のひとつになっている。ボランティア先進国アメリカの実例にふれながら、ボランティアの成り立ち、その存在意義や方法論などについて講義する。

### 【授業計画】

1. ボランティアの思想
2. イギリスのボランティア
3. アメリカのボランティア（1）
4. アメリカのボランティア（2）
5. アメリカのボランティア（3）
6. 日本のボランティアの変遷
7. 特定非営利活動促進法（NPO法）
8. 日本のボランティア活動（1）災害とボランティア
9. 日本のボランティア活動（2）高齢者とボランティア
10. 日本のボランティア活動（3）障害者とボランティア
11. 日本のボランティア活動（4）難民とボランティア
12. 日本のボランティア活動（5）開発とボランティア
13. ボランティアの課題

ビデオの活用や当事者による講義も予定している。ボランティアを具体的に理解できる授業を心がけたい。

### 【評価方法】

出席、授業中の提出物 30%。  
期末レポート 70%。

### 【テキスト】

使用しない。適宜、資料などを配布する。

### 【参考文献・資料】

- ボランティア学を学ぶ人のために（内海成治他編 世界思想社）
- フィランソロビーの思想：NPOとボランティア（林雄二郎他 日本経済評論社）他

## 手話・点字

堀 正和

### 【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

### 【授業計画】

1. 視覚障害概要
2. 視覚障害者のコミュニケーション方法
3. 点字の概要
4. 点字演習
5. 聴覚障害概要
6. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
7. 手話の概要
8. 手話演習

### 【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

### 【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き（日本点字図書館）及び手話教室入門（全日本ろうあ連盟出版局）

## スポーツ文化論

勝部篤美

### 【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

### 【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発し、技能を追求する。
2. スポーツは競争と協力の両面をもち、フェアプレイの精神によって成り立つ。
3. スポーツには富と閑暇が関係し、社会生活と関係が深い。
4. スポーツには教育、政治、科学が関係する。
5. スポーツは地理的環境に影響されることが大きい。
6. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある。
7. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある。
8. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

## スポーツ文化論

松田秀子

### 【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

### 【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもち
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

### 【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。  
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

## 生き物の世界

石崎宏矩

### 【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

### 【授業計画】

次のような項目について講義する。○カイコはどうしてクワしか食べないのか○モンシロチョウの雄はどのようにして雌を見分けるか○モンシロチョウの蛹はどのようにして寒い冬をのりこえるか○ミツバチの本能について。特に、蜜源を発見したハチは、どのようにしてその場所を仲間のハチに伝えるか。○生命が地球上に生まれてから40億年、さまざまな生物はどのようにして進化してきたのか、DNAの性質、遺伝子の突然変異、自然淘汰とは。

他に、NHKスペシャル「生命-40億年はるかな旅」他のVTRを放映し、解説を加える。エイズについてのビデオも放映し、エイズについての基礎知識を講義する。

全体として、生物の進化、近未来における地球上の生命-人間を含めての危機について、正しく理解してもらえようにつとめる。

### 【評価方法】

出欠、レポート、試験によって総合評価する。欠席した時は、友人のノートを見せてもらって、内容を理解しておくこと。試験問題が、たまたま欠席した日の授業内容だったからといって白紙であれば、特に区別はしない。

### 【テキスト】

進化とはなんだろうか（長谷川真理子著 岩波ジュニア新書）。これを読んで要約をレポートとして提出してもらうことを単位修得のための必須作業として課する。

### 【参考文献・資料】

随時、授業で指示する。図書館に備えつけてあるので、自主的に勉強してほしい。

## 生き物の世界

服部一三

### 【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生きているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

### 【授業計画】

- 第1回 1. 生物界の分類
2. 生物の進化
- 第2-6回 3. 植物と人の関わり
  - 1) 農耕の始まり
  - 2) 世界の農耕文化
  - 3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物-作物
  - 1) 作物とは?
  - 2) 世界の作物の起源
- 第7-8回 5. 作物改良の原理と方法
  - 1) 作物改良の原理
    - (1) メンデルの法則-遺伝学
    - (2) 遺伝の物質的基礎
  - 2) 作物の改良方法
- 第9回
- 第10回
- 第11-12回 6. バイオテクノロジー
  - 1) バイオテクノロジーとは?
  - 2) 作物の改良とバイオテクノロジー
    - (1) 細胞・組織培養
    - (2) 遺伝子操作
    - (3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか?
      - (1) 倫理
      - (2) 安全性

### 【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。

生物的自然と人間(平田豊著 開成出版)

## 人類と宇宙

安野志津子

### 【授業の概要】

宇宙の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

### 【授業計画】

一地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために-

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れた。

### 【評価方法】

基本的には、期末テスト(配布プリント、ノート持ち込み可)によるが、出席状況も考慮して判定する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて(池内了 新書館)
- (2) 星と宇宙の物理学読本(並木雅俊 丸善)
- (3) 見えてきた宇宙の神秘(野本陽代 草思社)
- (4) 太陽-その素顔と地球環境との関わり-(ケネス.R.ラング著 渡辺 堯・桜井邦朋訳 シュプリンガー・フェアラーク東京)

## 生命の科学

林 博司

### 【授業の概要】

生命の誕生、生命の維持、生体を構成する物質の特徴、遺伝の仕組み、遺伝子変異のメカニズムと機能などについてヒトの身体を例に講義する。

### 【授業計画】

1. 命の惑星地球
2. 命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3. 命を支える器官
4. 器官を作る細胞。
5. 細胞の仕組み
6. 分子機械としての生命
7. 分子機械の設計図: 遺伝子
8. 遺伝子の働き
9. 遺伝子を操作する
10. 細胞を操作する
11. 器官を操作する
12. 遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

### 【評価方法】

出席点と小テストの得点で総合的に評価する

### 【テキスト】

指定しない

### 【参考文献・資料】

講義中に適宜触れる

## 環境保護論

田部一史

### 【授業の概要】

現在、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

### 【授業計画】

- 第1講 序論: 自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊: 森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化: 世界は水を失いつつある
- 第4講 地球温暖化と異常気象: 人為による地球の異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨: 自然も文明も溶かし去る
- 第6講 フロンとオゾンホール: 降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1: 細胞レベル
- 第8講 いのちのしくみ2: 個体レベル
- 第9講 環境汚染とがん: 人工化学物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン: いのちのつながりを絶つ
- 第11講 生態系のバランス: 人の手で壊される自然
- 第12講 生命の多様性: 大量絶滅
- 第13講 環境保護: いのちと自然を守る

### 【評価方法】

出席状況、レポートおよび単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 食品の科学

千葉善根

### 【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

### 【授業計画】

1. 現代食生活の問題点  
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品  
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品  
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品  
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化学食品。
5. 無機質と食品  
骨粗鬆症等。
6. ビタミン  
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品  
食品と酵素・微生物との関係。

### 【評価方法】

定期試験にて評価。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 暮らしの化学

永井慎一

### 【授業の概要】

私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

### 【授業計画】

生命と健康の化学、豊かな暮らしの化学、身近な現象の化学、環境・資源・エネルギーの化学、日用雑貨の化学、ホルモンと生体の化学、くすりと作用の化学、毒とくすりの化学、生老病死の化学、未来をひらく化学などの分野から数例をあげ、図やイラストを多用しながらこれはなぜ？どうして？という[素朴な疑問]に答える。また、かつてマスコミやテレビコマーシャルを賑わしたヒット商品のカラクリを化学的に解説、化学のおもしろさや楽しさを学ぶ。さらに、病院・診療所でうける検査値の見かたと最先端医療についても紹介する。

### 【評価方法】

レポートの内容と出席授業時間数で評価する。

### 【テキスト】

毎回プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

初回授業で紹介。

## 文学1（日本）

堀尾幸平

### 【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙・二葉亭四迷
4. 三輪弘忠・巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明・鈴木三重吉
7. 千葉省三・浜田廣介
8. 少年詩・童謡・金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑・江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉・坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作方法理論
15. 試験

### 【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 文学2（中国）

寺尾剛

### 【授業の概要】

中国の歴史と文化は古く、その影響は世界に与えているが、特に日本文学が受けたものは大きい。中国の代表的な古典を中心に紹介し、鑑賞するとともに、中国文学への興味と関心を高めたい。

### 【授業計画】

毎回、一つのテーマを取り上げ、それにまつわる文学作品を鑑賞していく。

1. 男装の麗人・木蘭の物語
2. 和蕃公主・王昭君の物語
3. 亡国の美女・西施の物語
4. 万里の長城秘話・孟姜女の物語
5. 詩仙李白と酒の歌
6. 詩聖杜甫とそのヒューマニズム
7. 南宋の詩人・陸游～その愛の悲劇
8. 中国の詩人とその妻～悼亡詩の系譜
9. 『封神演義』～中国小説の世界
10. 中国の笑い話～下ネタは下品か？
11. 『論語』の世界～孔子、人生を語るなどを予定している。

### 【評価方法】

出席、平常点と試験。

### 【テキスト】

プリント

### 【参考文献・資料】

教場で指示する。



## 文学3 (欧米)

小野迪雄

### 【授業の概要】

西洋の文学史や文学思潮を概説し、特にイギリス文学・アメリカ文学を中心に代表的な作品について紹介し、鑑賞して、外国の文学への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

本年度はアメリカ文学を中心に講義をする。アメリカは移民の国として、先進国の中では非常に遅い出発をした国であるが、それだけに歴史の古い国にみられる伝統に欠ける面があるものの、他の先進国にみられない文学の活力や著しい特徴がある。アメリカの文学作品には、どんな特質や問題があるのか考えていく。時間の制約上、個々の作品を細かく扱うことが難しいので、中心は作品を生みだした社会的背景や文学思潮におく。話の展開の中でイギリス文学や日本文学にもふれる。

### 【評価方法】

レポートや受講態度を加味するが、評価の中心は定期試験による。

### 【テキスト】

未定。必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 現代の芸術1 (書道)

森美恵子

### 【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書き、技法の向上をはかり、書道への関心を高める。

### 【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書写した清書作品を提出する。

書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

### 【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

### 【テキスト】

書の鑑賞と学び方 (上田桑鳩 教育図書研究会)

## 現代の芸術1 (書道)

小川晃治

### 【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書き、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書之美について考え、書道への関心を高める。

### 【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

### 【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

### 【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

## 現代の芸術2 (音楽)

志水博子

### 【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

### 【授業計画】

- 第1回 名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
- 第2回 声の出るしくみを知る
- 第3回 腹式呼吸と身体のつかい方の練習
- 第4回 ビデオ鑑賞
- 第5回 発声練習と歌唱
- 第6回 ビデオ鑑賞
- 第7・8回 ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方練習
- 第9～12回 各自の課題による実技発表とアドバイス

### 【評価方法】

授業内での実技演奏 (各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可) と出席状況

### 【テキスト】

楽譜プリントは配布

## 現代の芸術 2 (音楽)

浅田まり子

### 【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

### 【授業計画】

- 第1講 音楽について
- 第2講 発声のしくみ
- 第3講 ヴォイストレーニング1 (自然体)
- 第4講 音楽療法 1 (歴史と原理)
- 第5講 ヴォイストレーニング2 (呼吸法)
- 第6講 サウンドスケープ (音の風景)
- 第7講 音楽療法 2 (音楽の作用)
- 第8講 音のしくみ1 (メロディーとリズム)
- 第9講 ヴォイストレーニング (楽器の確保)
- 第10講 音のしくみ2 (コードなど)
- 第11講 音楽と旅
- 第12講～発表

- \*さまざまな方向から音楽を考え、音楽の機能を健康的に活かし、人とコミュニケーションができる音楽を目指します。
- \*発表は、個人・またはグループでジャンルを問わない演奏の発表。(歌・ギター・ピアノ・コンピューターミュージックなど)

### 【評価方法】

実技・感想・出席状況・授業態度

### 【テキスト】

プリント・MUSIK (貸与)

## 現代の芸術 4 (映画)

吉村英夫

### 【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。ヨーロッパやアメリカ映画などとの比較の視点から日本映画の特徴などを講義し、映画への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

ミュージカル映画の楽しさを味わおう。たとえばミュージカル映画の代表的傑作『雨に唄えば』は、映画の歴史の教科書のような側面をもっている。映画の歴史がはじまって現在は約110年だが、大きなヤマは二つあった。一つは映画が「音」を持ったことで、サイレントからトーキーの出現である。二つは「色」を持ったことであり、白黒からカラーになったことである。『雨に唄えば』はミュージカルの歌と踊りに酔いながら、同時に1927年のトーキー出現という映画技術の決定的革新についても教えてくれる映画である。

参考上映する作品として検討中のもの

- \*『ウエスト・サイド物語』
- \*『ロミオとジュリエット』
- \*『キス・ミー・ケイト』
- \*『雨に唄えば』
- \*『バリの恋人』
- \*『掠奪された七人の花嫁』
- \*『トップ・ハット』
- \*『プラス』
- \*『ザッツ・エンタテインメント』
- \*『コーラスライン』その他

木曜日昼食時に「映画雑談会」を有志で実施する。

### 【評価方法】

\*学期末のテスト \*随時提出のレポート \*出席 \*テキストは使用しない

### 【テキスト】

なし。ただし、随時、講座通信『Limelight』を配布。4年前から続いており、これは講座生とつくる楽しい交流の広場。

## 現代の芸術 3 (美術)

藤井健仁

### 【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。写生などの実作の実技指導も行い、美術や絵画への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

前半

キュビズム、ダダイズム、シュルレアリスム、ポップアート等、現代美術のムーブメントをそれぞれの時代背景と照らし合わせながら講義する。

後半

小彫刻を制作することによって、表現が立ち現れる地点を体験する。教材として(樹脂パテ)等を各自が購入する。

### 【評価方法】

授業内で提出する制作物、レポートを重視する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

なし

## 現代の芸術 4 (映画)

HIGH, Peter B.

### 【授業の概要】

映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。アメリカ映画を題材として使って、映画芸術とは何かを考察

### 【授業計画】

授業のやり方としては、映画(全体又は部分)を見終わってから教室で、ディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章(原稿用紙2・3枚程度)にまとめて提出する。

課題:「古典ハリウッド映画」の表現手法

今学期、四つの映画を分析対象とする:

- 1)「駅馬車」(STAGECOACH, 1939年作品、監督: John Ford)
- 2)「マルタの鷹」(MALTESE FALCON, 1941年作品、監督: John Huston)
- 3)「市民ケーン」(CITIZEN KANE, 1941年作品、監督: Orson Welles)
- 4)「第三の男」(THE THIRD MAN, 1949年作品、監督: Carol Reed)

現代の芸術 4 (映画)の学期末評価は3つの宿題に基づく(学期末試験はなし):

- 宿題1:「マルタの鷹」の対極的分析の図(文章化する必要はない)
- 宿題2:「市民ケーン」の対極的分析(原稿用紙3-4枚の文章)
- 宿題3:「第三の男」の対極的分析(原稿用紙3-4枚の文章):この三日の宿題は学期末試験として扱われる

\*今学期学ぶこと:

- 1) 映画分析のための技術:
  - a. セグメンテーション(SEGMENTATION)=映画を見ながら、ノーツの取り方
  - b. 対極的分析法(映画ドラマにおける対立。競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること)
- 2) 典型的なハリウッド映画(1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターIII」等にいたるまで)のスタイルとストーリーの語り方:
  - a. 「因果的關係」とドラマの盛り上げ方
  - b. FABULA (ファビュラ)=観客が頭の中で作る「映画のストーリーの世界」対SUZHET (シュージェット、つまり「プロット」)=画面から与えられた「映画のストーリーの世界」を作るための「材料」「やヒント
  - c. ハリウッド映画はどうやって「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
  - d. ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
- 3) ハリウッド映画におけるGENRE (ジャンル)の役割

### 【評価方法】

出席と宿題によって、評価される

### 【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

## 現代の芸術5（演劇）

海上宏美

### 【授業の概要】

現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

1. 現代芸術としての演劇は多様であるため、演劇を軸としながら国内外のダンス、パフォーマンス、アートを重要な参照項として見ていく。
2. 身体を用いる表現であるため現代の思想やジェンダーとも切り離して考えることはできないので、その関わりを探っていく。
3. 戯曲=テキストの存在が演劇にとって大きな要素なので、演劇における戯曲=テキストの位置の変遷を概説する。
4. 演劇が行われる「劇場」というものがどのような時代思潮を具現しているものなのかを、ヨーロッパと日本の劇場を比較しつつ検討する。
5. 演技というものを身体と言語の関係から見直し、演技というものの在り方を歴史的視点から批評的に見ていく。

授業は上演ビデオや参考スライドを鑑賞しながら進めていく。

### 【評価方法】

レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術（演劇に限定しない）を見ることを求める。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

## 伝統芸能

林 和利

### 【授業の概要】

国際化が進み、さまざまな異文化にふれる機会も多くなったが、日本の伝統文化にも目を向けることが大切だ。伝統文化の中の芸能・演劇を中心に講義する。舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

### 【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
  2. 日本芸能演劇史概説
  3. 芸能の発生について
  4. 神楽について
  5. 伎楽・舞楽・散楽について
  6. 田楽について
  7. 猿楽について
  8. 能について
  9. 狂言について
  10. 歌舞伎について
  11. 文楽について
- また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

## 現代マナー論

近藤乃美子

### 【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

### 【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーの基本
2. 会話と傾聴
3. 身だしなみとおしゃれ
4. 服装 フォーマルとカジュアル
5. 訪問と応接 和風
6. " 洋風
7. 茶菓のマナー
8. 贈答のマナー
9. 冠婚のマナー
10. 葬祭のマナー
11. 食事のマナー
12. パブリックマナー

### 【評価方法】

出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。

### 【参考文献・資料】

参考文献・資料はなし。

## 文章表現

青木 健

### 【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎知識や構成について具体例を示しながら講義する。

### 【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。（伝達と表現1）
- 第2回 現代の口語表現について。（伝達と表現2）
- 第3回～12回

例文をテキストに、文章の構成、表現技法、語法、リズム、形容修辭法など具体的に講義。

この間に

課題を3回提出し、短文（2～3枚、400字詰）を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

### 【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

### 【テキスト】

高校生のための文章読本（筑摩書房）参考書籍は授業中に数冊指示します。

## 言語表現

三久保角男

### 【授業の概要】

音声表現。

マルチメディアの発達で人と人が直接的な会話することが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。人前で話すことや自分の意志を言葉で伝えるための基礎的な技術を身につける講義をする。

### 【授業計画】

1. 話し言葉概論  
ことばの機能 話し言葉の特徴 共通語と方言
2. 日本語の音声 1 (発声)  
呼吸法 音声器官 発声法
3. 日本語の音声 2 (発音)  
拍 音素 母音 子音 アクセント
4. 話し言葉の表現技法  
スピード ポーズ イントネーション プロミネンス
5. 文を読む  
朗読
6. 話しをする  
パブリックスピーキング リポート スピーチ インタビュー
7. 現在言葉事情  
敬語 言葉の変化

授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。

### 【評価方法】

筆記試験。随時のレポートも評価に加味する。

### 【テキスト】

毎回、レジュメ・資料を配布する。

## メディア表現

鎌田基子

### 【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩で、さまざまなメディアが新しい表現を生み、文化を形成している。現在あるメディアの構造と伝達の仕組みやかかわりについて、講義と実践をまじえながら考察する。

### 【授業計画】

1. どこからどこまでがメディアなのか
2. 「編集」がもつ創造力
3. 「伝える」と変化する
4. 人を動かす力
5. 自分との対話
6. 「コンセプト」の功罪
7. 共感する/させる
8. 心を開かなければならないとき

ほぼ毎回WORK SHOPを行なう。一項目に関する講義が複数回にわたる場合もあるので、極力遅刻、欠席のないよう注意してもらいたい。

状況により、可能であればゲストを招いての授業も計画する。

### 【評価方法】

レポートによる。

### 【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

## 職業と人生

伊藤義明 河合崇欣 中村 薫 都築久義 山脇正雄 伊藤義尚 井上陽介  
渡邊一正 古田 弘 神谷利徳 平田節子 伊藤武彦 伊藤健治

### 【授業の概要】

将来の職業選択に当たって参考事項や現代の企業社会の実態、就職するための予備知識、などを話します。

### 【授業計画】

5年～10年先の社会発展を展望したとき、学生に求められる資質、即ち「職業人としての心構え」「学識」「専門的スキル」などを社会の第一線で活躍中の学識経験者とプロフェッショナルによるオムニバス形式の連続講演により、具体的に語ってもらいます。

- |   |       |
|---|-------|
| 第1講：バイカル湖から見る古環境 (仮題)                                     | 4月13日 |
| 講師：河合崇欣   |       |
| 第2講：仕事をするということ (勤労の意味を考える)                                | 20日   |
| 講師：中村 薫 文学博士 同朋大学大学院教授                                    |       |
| 第3講：趣味と仕事   | 27日   |
| 講師：都築久義 愛知淑徳大学教授  |       |
| 第4講：この道一筋 (職人の生き方—ものづくりのための人づくり)                          | 5月11日 |
| 講師：山脇正雄 岐阜大学客員教授 前デンソー工業技術研修センター所長 (技能オリンピック金メダル選手の指導者)   |       |
| 第5講：自己発見の試み (自分の思考傾向を知り、他者とのコミュニケーション技法を学ぶ)               | 18日   |
| 講師：伊藤義尚 ブランディングコンサルタント G-Tech.Resource代表                  |       |
| 第6講：生涯教育 「新しい時代のキャリア形成」 (自分のキャリアは自分でつくる)                  | 25日   |
| 講師：井上陽介 株式会社グループス名古屋マネジャー                                 |       |
| 第7講：多様な働き方 (リクルートの専門家が語る)                                 | 6月1日  |
| 講師：渡邊一正 リクルート メディアプロデューサー 編集長                             |       |
| 第8講：専門性を身に着ける (人材派遣と専門性)                                  | 8日    |
| 講師：古田弘 株式会社ビー・ハーフ社長                                       |       |
| 第9講：専門性を身に着ける (その2—プロフェッショナルの世界)                          | 15日   |
| 講師：神谷利徳 住空間デザイナー 有限会社神谷デザイン事務所所長 (全国的に著名なフードサービスデザイナーに聞く) |       |
| 第10講：男女共生参画社会   | 22日   |
| 講師：平田節子 株式会社ジオコス取締役                                       |       |
| 第11講：国際化と職業選択 (外資系企業の人材教育)                                | 29日   |
| 講師：伊藤武彦 株式会社マーサー・ヒューマンリソースコンサルタントマネジャー                    |       |
| 第12講：インターンシップ   | 7月6日  |
| 講師：伊藤健治 日本碍子株式会社人事部採用研修マネジャー                              |       |
| 第13講 総括：レポート (教室で作成)                                      | 13日   |
| 第14講：講評   | 20日   |

### 【評価方法】

最後にアンケート形式のレポートを提出 (成績評価します)

### 【テキスト】

原則使用しない一人よりレジュメまたはパワーポイント使用

## 生涯学習論

五島敦子

### 【授業の概要】

現代は生涯学習の必要性和重要性が強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

### 【授業計画】

- 1 生涯学習の理念
- 2 発達段階と発達課題
- 3 高齢期の課題と学習支援
- 4 職業人の学習機会
- 5 ボランティアとNPO
- 6 大学開放の進展
- 7 男女共同参画社会に向けた学習支援
- 8 生涯学習政策の動向と課題

### 【評価方法】

レポート、授業内課題、出席状況による総合評価

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない

### 【参考文献・資料】

新しい時代の生涯学習 (関口礼子他編著 有斐閣アルマ)  
生涯学習の展開 (香川正弘他編著 ミネルヴァ書房)

## 一般心理学

青柳眞紀子

### 【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

### 【授業計画】

1. ガイダンス、心理学とは
2. 無意識の世界,1
3. 無意識の世界,2
4. ストレスとタイプA性格
5. 錯視の不思議
6. 学習,1
7. 学習,2
8. パーソナリティ,1
9. パーソナリティ,2
10. 対人関係,1
11. 対人関係,2
12. 集団の心理

### 【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

随時資料を配布する。

## 一般心理学

加藤智宏

### 【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

### 【授業計画】

- a. 知覚と感覚
- b. ノンバーバルコミュニケーション
- c. 愛着
- d. アイデンティティ
- e. 学習と記憶
- f. 忘却と変容
- g. 防衛機制と無意識
- h. 心理療法
- i. 心理テスト
- j. 個人・社会・環境

以上について、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

また応用分野として、環境心理学や犯罪心理学についても紹介していく予定です。

### 【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

### 【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

## 一般社会学

長濱一夫

### 【授業の概要】

社会学は人間同士の関係に視座を置いて、個人・社会集団、社会事象について研究する学問である。社会学の領域と一般的研究方法や基礎的知識について概説する。

### 【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります）、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

- (1) 社会学とはどんな学問か—個人と社会—
- (2) 都市と農村—地域社会の変容—
- (3) 都市化の進展—その光と陰—
- (4) 人々の暮らし—「出稼ぎ」という暮らし方—
- (5) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」  
—国際社会を視野に—
- (6) 高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

### 【評価方法】

試験（レポートor筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

### 【テキスト】

使用しません。

## 法律学

大嶽 浩

### 【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

### 【授業計画】

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学学習と文学作品
3. 法学学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

### 【評価方法】

試験とレポートによる評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 政治学

西尾林太郎

### 【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

### 【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
  - a 国際社会とは?
  - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
  - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
  - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
  - a 市民社会と大衆社会
  - b 立法国家と行政国家
3. 現代の政治過程
  - a 政治と利益団体、NPO
  - b 選挙、官僚、議会
  - c マスメディアとマスコミュニケーション
  - d 議会制デモクラシー
4. 戦後国際社会と日本の政治
  - a 冷戦構造と55年体制
  - b 利権の構造

### 【評価方法】

試験（配布資料と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

### 【テキスト】

暮らしから考える政治（姜尚中著 岩波ブックレットNo.564）

### 【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

## 経済学

細野義晴

### 【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済学的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

### 【授業計画】

1. 経済のしくみの全体像  
マクロの経済とミクロの経済、GDP統計のしくみ、有効需要と乗数のメカニズム、など。
2. 日本の経済と景気  
日本経済の発展と構造変化、日本の景気変動、など。
3. 個人のくらしと経済  
個人の消費行動とその理論、消費と貯蓄、など。
4. 企業の経済活動  
企業の生産・投資活動とその理論、需要・供給とモノの値段、失業とインフレーション、など。
5. 政府の経済活動  
財政のしくみと役割、わが国の財政事情と財政政策、など。
6. 金融のしくみと経済  
お金と金融機関の役割、中央銀行の役割と金融政策、金融のビッグバン、など。
7. 日本と世界の経済  
経済のグローバル化と国際収支、国際金融市場と外国為替相場の変動、国際機関の役割、欧州の通貨統合、など。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

### 【テキスト】

使用しない（資料配布）。

### 【参考文献・資料】

- (1) 入門の入門 経済のしくみ（大和総研著 日本実業出版社）
- (2) 入門 経済学（伊藤元重著 日本評論社）

## 数学

岡田克彦

### 【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているため、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

### 【授業計画】

- 以下の各項目について説明し、演習を行う。
- 1 確率
  - 2 統計、偏差値
  - 3 ベクトル
  - 4 微分
  - 5 積分
  - 6 物理学への応用

### 【評価方法】

課題及び試験で評価する。

### 【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

## 物理学

坂井貞彦

### 【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

### 【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

- 1 はじめに
- 2 運動と力、力学的エネルギー
- 3 振動と波動、光と電磁波
- 4 もののかたち、圧力、強さ
- 5 流れ、層流と乱流、カオス
- 6 熱とエネルギー、熱機関
- 7 電気と磁気
- 8 相対性理論
- 9 量子力学、粒子性と波動性
- 10 素粒子、電子・陽子・光子・中間子・ニュートリノ、クォーク

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

入門ビジュアルサイエンス・物理のしくみ（小暮陽三 日本実業出版社）

## 【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようにかかわっているか、いかに必要かを講義する。

1. 変数の性質
2. 度数分布
3. 基礎統計量—代表値・散布度・尖度・歪度
4. 正規分布
5. 2変量の関係—相関・回帰・連関
6. 母集団と標本
7. 統計的推定—点推定・区間推定
8. 統計的検定—母平均検定・母分散検定
9. 平均値の差の検定—t検定・分散分析
10. ノンパラメトリック検定

## 【授業計画】

講義の内容については、基本的に上記の順に進めるが、受講者の理解・興味に応じて構成していく予定である。また、講義で学んだことについて理解を深めるための課題を随時設ける。

## 【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価する。

## 【テキスト】

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本  
(吉田寿夫著 北大路書房)

## 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

山田久美子 DYCUS, David C. 他

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を、文法や語彙など基本事項に重点を置いて身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. Speed Listening と Speed Reading 機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1 回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション3 (Listening II)

石橋千鶴子 SUTHONS, Philip 他

### 【授業の概要】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1 回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション2 (Listening I)

横関美津紀 SUTHONS, Philip 他

### 【授業の概要】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1 回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション4 (Reading I)

福本明子 STEPHENSON, Brett 他

### 【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。具体的には、1 分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) の Speed Reading 機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1 回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。



## 英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

太田晶子 DYCUS, David C. 他

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

HARRIS, Richard S. 他

### 【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

### 【Schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

### 【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

WILLIAMS, Allen D. 他

### 【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

### 【Schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

### 【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション8 (Reading II)

隈井清臣 CURRAN, Beverley 他

### 【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## ASU TOEIC I G

天野純子 太田晶子

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC I H

天野純子 太田晶子

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC II G

STEPHENSON, Brett PUDWILL, Larry A.

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC II H

STEPHENSON, Brett PUDWILL, Larry A.

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## 上級英語セミナー 2005 A

WRINGER, Paul

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005A」は受講できない。）

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

First semester (AESa)  
Personal information  
Travel & vacations  
Strange phenomena  
Entertainment  
Crime & capital punishment  
Controversy

### 【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE  
CLASS PARTICIPATION / EFFORT  
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS  
END OF SEMESTER REPORTS  
TOEIC SCORES

「上級英語セミナー2005A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【Textbooks】

To be announced.

## 上級英語セミナー 2005 B

WRINGER, Paul

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

Second semester (AESb)  
The past  
Current events in the news  
Relationships  
Food & Health  
Fashion  
The world of work

### 【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE  
CLASS PARTICIPATION / EFFORT  
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS  
END OF SEMESTER REPORTS  
TOEIC SCORES

「上級英語セミナー2005B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【Textbooks】

To be announced.

## 上級英語セミナー 2005 A

CURRAN, Beverley

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005A」は受講できない。）

### 【Schedule】

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

### 【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

「上級英語セミナー2005A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【Textbooks】

No text required.

## 上級英語セミナー 2005 B

CURRAN, Beverley

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

### 【Schedule】

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

### 【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

「上級英語セミナー2005B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【Textbooks】

No text required.

## 上級英語セミナー 2005 C

横山綾子

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。(ただし、1年生および編入生(1年目)は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005C」は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

- 第一回  
通訳一般概論 Sight translation
- 第二～十回  
The Student Timesからの記事使用(テープ)  
Shadowing, Sight translation, メモ取り  
逐次通訳演習  
同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

「上級英語セミナー2005C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限(担当教員:横山綾子)、木曜日5限(担当教員:CHAMBERS, Tim)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

The Student Times その他

## 上級英語セミナー 2005 C

CHAMBERS, Tim

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。(ただし、1年生および編入生(1年目)は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005C」は受講できない。)

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

### 【Schedule】

Not yet determined.

### 【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

「上級英語セミナー2005C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限(担当教員:横山綾子)、木曜日5限(担当教員:CHAMBERS, Tim)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【Textbooks】

Rethinking America 1 (the student book), Thomson  
The CNN videotape

## 上級英語セミナー 2005 D

横山綾子

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

- 第一回  
通訳一般概論 Sight translation
- 第二～十回  
The Student Timesからの記事使用(テープ)  
Shadowing, Sight translation, メモ取り  
逐次通訳演習  
同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

「上級英語セミナー2005D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限(担当教員:横山綾子)、木曜日5限(担当教員:CHAMBERS, Tim)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

The Student Times その他

## 上級英語セミナー 2005 D

CHAMBERS, Tim

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

### 【Schedule】

Not yet determined.

### 【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

「上級英語セミナー2005D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限(担当教員:横山綾子)、木曜日5限(担当教員:CHAMBERS, Tim)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【Textbooks】

Rethinking America 1 (the student book), Thomson  
The CNN videotape

## 上級英語セミナー 2005 E

横山綾子

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。(ただし、1年生および編入生(1年目)は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005E」は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか...等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing, Sight translation, メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

「上級英語セミナー2005E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限(担当教員:横山綾子)、金曜日4限(担当教員:WOODMAN, Jo-Anne)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

The Student Times その他

## 上級英語セミナー 2005 E

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。(ただし、1年生および編入生(1年目)は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005E」は受講できない。)

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

a) teacher presented materials

b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article) .

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet" , that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

### 【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

### 【Assessment】

Assessment will include the following components:

- 1) Vocabulary tests
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) Attendance

「上級英語セミナー2005E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限(担当教員:横山綾子)、金曜日4限(担当教員:WOODMAN, Jo-Anne)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2005 F

横山綾子

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか...等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing, Sight translation, メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

「上級英語セミナー2005F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限(担当教員:横山綾子)、金曜日4限(担当教員:WOODMAN, Jo-Anne)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

The Student Times その他

## 上級英語セミナー 2005 F

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

a) teacher presented materials

b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article) .

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet" , that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

### 【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

### 【Assessment】

Assessment will include the following components:

- 1) Vocabulary tests
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) Attendance

「上級英語セミナー2005F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限(担当教員:横山綾子)、金曜日4限(担当教員:WOODMAN, Jo-Anne)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 中国語読解 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平

### 【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 母音、数字、挨拶
3. 疑問文、形容詞述語文
4. 子音、声調、曜日表現
5. 省略疑問文、疑問詞疑問文
6. 音節、勧誘表現
7. 動詞述語文、指示代名詞
8. 我姓松本。自己紹介
9. 介詞“和”、副詞“也”“都”
10. 我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
11. 部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12. 我们的大学。介詞“给”“在”
13. 名詞の修飾表現
14. 我的一天。時の表現、方向補語
15. まとめ

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語読解 1 A〉とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈中国語読解 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

### 【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

- |      |              |
|------|--------------|
| 第一課  | 発音 (1)       |
| 第二課  | 発音 (2)       |
| 第三課  | 発音 (3)       |
| 第四課  | 発音 (4)       |
| 第五課  | 人称代名詞・“是”    |
| 第六課  | 指示代名詞・数詞・量詞  |
| 第七課  | 形容詞と形容詞述語文   |
| 第八課  | 動詞述語文        |
| 第九課  | “有”・年月日      |
| 第十課  | 場所・時間・数量     |
| 第十一課 | 前置詞 (介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞         |

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平

### 【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

### 【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

- |      |          |
|------|----------|
| 第一課  | 発音 (1)   |
| 第二課  | 発音 (2)   |
| 第三課  | 発音 (3)   |
| 第四課  | 発音 (4)   |
| 第五課  | あいさつ表現   |
| 第六課  | 時間の表し方   |
| 第七課  | 年齢を言う    |
| 第八課  | 家庭を語る    |
| 第九課  | 自分の家を語る  |
| 第十課  | 学校について語る |
| 第十一課 | 趣味について語る |
| 第十二課 | 中国へ行く    |

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話 1 A・2 (中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈中国語会話 1 A〉とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが〈中国語会話 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 今天星期几? 曜日と疑問詞利用の疑問文
3. 我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4. 我学习中文专业。能願動詞“能”
5. 現在幾点? 時間表現、語気助詞“了”
6. 我的家庭。介詞“在”
7. 談天氣。天氣表現、選択疑問文、感嘆文、
8. 邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9. 中間テスト
10. 我的大学。伝聞の表現
11. 找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
12. 喜欢什么? 過去の経験表現「V+“过”」  
結果や程度表現「V+“得”」
13. 帮我。能願動詞“会”
14. 假期做什么? 結果補語“好”
15. まとめ

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話 1 B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平 陳惠貞

### 【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには〈HSK基礎コースA〉か、〈HSK基礎コースB〉と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには〈中国語会話2〉と並行した履修が望ましい。

### 【授業計画】

1. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
2. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3. 暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4. 使役の表現“让”
5. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6. 過去の経験表現「V+“过”」
7. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8. 介詞“离”、連動文
9. 终于习惯了。感嘆表現2
10. 自己の意見表示
11. 我做了一个梦。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12. 副詞用法の“地”
13. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14. 春暇の計画。未完了の表現、許諾の表現
15. まとめ

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語読解1A2（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平

### 【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

### 【授業計画】

中国語会話1をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分での学習できるように配慮した。

- |      |            |
|------|------------|
| 第一課  | 部屋を借りる     |
| 第二課  | 換金する       |
| 第三課  | 道を尋ねる      |
| 第四課  | 交通機関を利用する  |
| 第五課  | 市場での買い物の仕方 |
| 第六課  | デパート       |
| 第七課  | ホテル        |
| 第八課  | 郵便局        |
| 第九課  | 電話         |
| 第十課  | 中国人宅に訪問する  |
| 第十一課 | レストラン      |
| 第十二課 | スピーチの仕方    |

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話1A・2（中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK基礎コースA ※聴解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 王麗英 杜英起

### 【授業の概要】

履修後、HSK基礎試験の2級か3級に受かることを目標に定めた授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “时点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について  
授業の予習としてホームページを利用することができる。

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK基礎A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK基礎コースB ※読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 陳惠貞

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈HSK基礎コースA〉とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈HSK基礎コースA〉で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
3. “了”；“形容词谓语句”など
4. “动词+过”と“形容词+过”；“在”など
5. “数量补语”；“头”と“面”など
6. “有字句”；结构助詞“地”など
7. “量词的重叠”；“把字句”など
8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
9. “都”と“一共”；“程度补语”など
10. “被字句”；“在・正・正在”など
11. “趋向补语”；“多么”など
12. “复合趋向补语”；“是～还是～”など  
授業の予習としてホームページを利用することができる。

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK基礎B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解3

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 湯海鵬

### 【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 应该感谢谁。
3. 一件小事。
4. 生日宴会。
5. 中国人的问候语。
6. 在中国过春节。
7. 修自行车的张师傅。
8. 自行车上的宝座儿。
9. 雨披。
10. 服装与色彩。
11. 逛商场。
12. 一个特别的“村”
13. 学汉语趣事。
14. まとめ
15. 復習・テスト

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学のための中国語読解3（中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提出など。

## HSK 初等コースA ※聴解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 杜英起

### 【授業の概要】

履修後、HSK初等試験の4級に受かることを目標に定めた授業である。試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

### 【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK初等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話3

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 杜英起

### 【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語ることができる。

### 【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話3（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 初等コースB ※読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 湯海鵬

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

### 【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK初等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。



## 中国語読解4

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 杜英起

### 【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か、<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

### 【授業計画】

1. 接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
2. 連動文の構成。主語+動詞フレーズ1+動詞フレーズ2。
3. 動詞の繰り返しの構造。AA式：说说；A-A式：说一说等等。
4. 挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
5. 構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
6. 名量詞と動量詞の区別。“一个小时”和“一小时”。
7. 「宝宝」からの連想ゲーム。“宝贝、宝座、珠宝、心肝宝贝”。
8. 疑問文のイロハ。“吗、呢、是吗、是不是、是～不是”。
9. 副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
10. 方向動詞の使い方。“上、下、出、回、来、去”を中心。
11. 語気副詞の応用。“可、更不用说、真的”。
12. 形容詞と副詞の用例。“差不多”の使い方などを。
13. 比較の方法。“最、更、比、跟～一样”の使い方と区別。
14. 特殊な動詞述語文。“连动式文、兼语式文、把和被的用例”。
15. まとめ

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解4（中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提示など。

## HSK 中等上級コースA ※聴解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 陳惠貞

### 【授業の概要】

履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK中等上級A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話4

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 陳惠貞

### 【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語ることができる。

### 【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 中等上級コースB ※読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 杜英起

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK中等上級B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

下記の科目は、本年度開講しません。

## 中国語作文 1

### 【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500~3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

## HSK 中等高級コース 1 A ※聴解中心

### 【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2500~3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

## HSK 中等高級コース 1 B ※読解中心

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース1A>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース1A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

## 同時通訳入門 1

### 【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500~3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

## 中国語作文 2

### 【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

## HSK 中等高級コース 2 A ※聴解中心

### 【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

## HSK 中等高級コース 2 B ※読解中心

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

## 同時通訳入門 2

### 【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース2A>か、<HSK中等高級コース2B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。



下記の科目は、本年度開講しません。

## 韓国・朝鮮語読解 2

### 【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

## 韓国・朝鮮語会話 2

### 【授業の概要】

使用頻度の多い実用会話体の例文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

## 韓国語能力試験対策 2

### 【授業の概要】

韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に合格することを目標に定めた授業である。ねらいの試験に必ず合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

## 韓国・朝鮮語読解 3

### 【授業の概要】

わかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

## 韓国・朝鮮語会話 3

### 【授業の概要】

使用頻度の多い実用会話体の例文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

## 韓国語能力試験対策 3

### 【授業の概要】

韓国語能力試験の3級または4級あるいはハングル能力検定試験の準2級または2級に合格することを目標に定めた授業である。ねらいの試験に必ず合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

## 情報技術基礎 I

西荒井学 他

### 【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。特に、情報技術の基礎として不可欠なネットワーク利用技術ならびにデータ処理操作技術について、コンピュータ実習を通じて学習する。

### 【授業計画】

1. コンピュータの歴史、原理
2. 情報の表現 (2進数、16進数)
3. ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4. 情報社会と情報倫理 1 (ネットワーク犯罪)
5. 情報社会と情報倫理 2 (情報セキュリティ、知的所有権)
6. 情報収集と分析
7. 情報ツールとマナー
8. インターネット基本操作 1 (電子メール) 実習
9. インターネット基本操作 2 (WWW) 実習
10. EXCEL基本操作 1 実習
11. EXCEL基本操作 2 実習
12. EXCEL基本操作 3 実習
13. EXCEL基本操作 4 実習

当該科目については、科目履修前に情報技術に関するテストを実施し、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際にはフロッピー・ディスク (またはMO) が必要になる。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

情報技術基礎 I (愛知淑徳大学情報教育センター編、共立出版)

## 情報技術基礎 III

上原 衛 他

### 【授業の概要】

情報技術基礎 I、情報技術基礎 II を踏まえ、Windows の高度操作、WORD、EXCEL の高度操作、ACCESS の基本操作を学び、より高度で広範囲な情報技術の知識とスキルを習得する。当授業では、レポートや論文作成、ビジネス文書や表作成などを想定して、実践的なノウハウをコンピュータ実習によって学習する。

### 【授業計画】

1. デスクトップの高度操作
2. ファイルの高度操作
3. ネットワークの操作
4. 学術文書、ビジネス文書の操作 (WORD)
5. ビジネス情報処理 (EXCEL)
6. マクロ操作 (1)
7. マクロ操作 (2)
8. ACCESS の概要
9. ACCESS の基本操作 (1)
10. ACCESS の基本操作 (2)
11. ACCESS 総合演習 (1)
12. ACCESS 総合演習 (2)
13. まとめ

### 【評価方法】

コンピュータ実習を中心に授業を進行する。授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。なお、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎 I」と「情報技術基礎 II」で習得した知識、技術が必要となる。

### 【テキスト】

情報リテラシーの応用 (伊東俊彦他著、近代科学社)

## 情報技術基礎 II

西荒井学 他

### 【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけでなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎 I と同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

### 【授業計画】

1. Windows 基本操作 1 (キー・タイピングを含む) 実習
2. Windows 基本操作 2 実習
3. WORD 基本操作 1 実習
4. WORD 基本操作 2 実習
5. WORD 基本操作 3 実習
6. WORD 基本操作 4 実習
7. プレゼンテーションの概要
8. POWERPOINT 基本操作 1 実習
9. POWERPOINT 基本操作 2 実習
10. POWERPOINT 基本操作 3 実習
11. 総合課題 (プレゼンテーション資料作成 1) 実習
12. 総合課題 (プレゼンテーション資料作成 2) 実習
13. 情報発信の管理と運用

当該科目については、情報技術基礎 I と同じく、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎 III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際にはフロッピー・ディスク (またはMO) が必要になる。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

情報技術基礎 II (愛知淑徳大学情報教育センター編、共立出版)

## ネットワーク技術入門

三和義秀 他

### 【授業の概要】

ネットワーク (network) という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、および CGI プログラミングの実習によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。

### 【授業計画】

1. ネットワーク理論の基礎知識 (1): ネットワークの仕組みとその意義
  2. ネットワーク理論の基礎知識 (2): 情報量と通信速度、プロトコル
  3. ネットワーク技術の基礎知識 (1): LAN の仕組み
  4. ネットワーク技術の基礎知識 (2): サーバの種類と仕組み
  5. ネットワーク技術の基礎知識 (3): IP アドレスとファイアウォール
  6. HTML とホームページ (1): HTML の仕組み
  7. HTML とホームページ (2): 基本タグの設定、ハイパーリンクの設定、画像の表示
  8. HTML とホームページ (3): サウンドの再生と動画の再生、ファイルの管理方法
  9. CGI プログラミング (1): CGI の仕組みと Perl プログラミングの基礎知識
  10. CGI プログラミング (2): エディタと FTP、パーミッションの設定
  11. CGI プログラミング (3): form タグによるデータ入力フォームの作成
  12. CGI プログラミング (4): 環境変数、関数、文字列変換
  13. セキュリティと情報倫理: セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性
- この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎 I」、「情報技術基礎 II」で習得した知識、技術が必要になる。

### 【評価方法】

出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

ネットワークリテラシー (三和義秀著 共立出版)

## プログラミング入門

三和義秀 他

### 【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、BASICまたはC言語を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。なお、プログラミングに関する理解は、実際のプログラミング作業を経験していくことが不可欠であることから、コンピュータ実習を並行して行う。

### 【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
2. プログラミング言語の概要
3. プログラミングの基礎、手順
4. アルゴリズムとフローチャート
5. データ構造とデータ型
6. 順次構造
7. 選択構造
8. 繰り返し構造 (1)
9. 繰り返し構造 (2)
10. 配列の操作
11. 関数の利用
12. 事務計算
13. 技術計算

講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。またコンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスクまたはMOが必要になる。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

第1回目の授業にて指定する

## CG入門

川澄未来子 他

### 【授業の概要】

コンピュータグラフィックス (CG) を含むデジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。本講では、デジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

### 【授業計画】

画像・映像やスライド教材などを活用した講義を中心に、時にはコンピュータ実習や課題制作を交えて進める。扱うトピックは次のとおりである。

1. コミュニケーションと情報
2. プレゼンテーション
3. Webにおける情報デザイン
4. 映像制作
5. コンピュータグラフィックス1：基礎編
6. コンピュータグラフィックス2：アニメーション編
7. 表現の基礎
8. 技術の基礎

### 【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

『ビジュアル情報表現』－デジタル映像表現・Webデザイン入門－  
(CG－ARTS協会)

## 情報数学入門

親松和浩 他

### 【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、グラフィック処理で必要となる代数幾何の基礎を学ぶ。

### 【授業計画】

1. 命題と制御処理
2. 集合と写像
3. データの表現法と2進法
4. 情報量/計算量の評価
5. 三角関数
6. 2次元ベクトル
7. 2次元図形の表現法
8. 行列
9. 2次元図形の変換
10. 3次元ベクトル
11. 3次元図形の表現法
12. 3次元図形の変換

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験、課題レポートの提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

第1回目の授業にて指示する

## 人工知能入門

高橋信明 他

### 【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

### 【授業計画】

1. 人工知能の基本原則と考え方
2. 知識と知識表現
3. 述語論理と導出原理
4. 問題解決
5. 探索法とアルゴリズム
6. プロダクションシステム
7. 意味ネットワーク
8. 推論
9. 自然言語処理
10. 人工知能用言語
11. エキスパートシステム
12. ニューラルネットワーク
13. 人工知能の応用と展望

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

第1回目の授業にて指示する

## 情報処理技術特殊 I

中野雅晴

### 【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。  
情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

### 【授業計画】

- |       |                  |
|-------|------------------|
| ステップ1 | コンピュータ科学基礎       |
| ステップ2 | データベース技術         |
| ステップ3 | コンピュータシステムの開発と運用 |
| ステップ4 | ネットワーク技術         |
| ステップ5 | 情報と経営            |
| ステップ6 | セキュリティと標準化       |

### 【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊 II

中野雅晴

### 【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。  
情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する一般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

### 【授業計画】

- |       |              |
|-------|--------------|
| ステップ1 | コンピュータ科学基礎上級 |
| ステップ2 | コンピュータシステム上級 |
| ステップ3 | システムの開発と運用   |
| ステップ4 | ネットワーク技術     |
| ステップ5 | データベース技術     |
| ステップ6 | セキュリティと標準化   |

### 【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊 III

黒部晃一

### 【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門（CG検定）」の2級合格を目標として、その対策を会得する。2級問題は、3級レベルのCGに関する総合的な知識の他に、厳密な理論的知識をも要求されるので、VCによるCGプログラミングのサンプルを解説することでそれを理解する。

### 【授業計画】

- 配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。
1. CG概論、CG検定試験2級対策
  2. 各種CGツールの紹介、そのデモンストレーションと作例紹介
  3. VisualC++によるGUIプログラミング
  4. VisualC++によるインターフェースの設計
  5. 平成15年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
  6. 平成15年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
  7. 平成15年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
  8. 平成15年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
  9. 平成14年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
  10. 平成14年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
  11. 演習
  12. まとめ

### 【評価方法】

出席状況で評価

### 【テキスト】

技術編 CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）  
平成16年度版 CG検定2級問題集（画像情報教育振興協会）

### 【参考文献・資料】

- 入門コンピュータグラフィックス（画像情報教育振興協会）
- 基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥 CQ出版社）

## 情報処理技術特殊 IV

黒部晃一

### 【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門（CG検定）」の1級合格を目標として、その対策を会得する。1級問題は、CGプログラミングのスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたプログラミングの実習を行う。

### 【授業計画】

- 前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。
1. CG検定試験1級の概要と対策
  2. VisualC++によるGUIプログラミング
  3. 平成15年度CG検定1級試験問題（マークシート）の検証と分析
  4. 平成15年度CG検定1級試験問題（記述式）の検証と分析
  5. 平成15年度CG検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
  6. 平成15年度CG検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
  7. 平成15年度CG検定1級試験問題（三次試験）の検証と分析
  8. 平成15年度CG検定1級試験問題（三次試験）の検証と分析
  9. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
  10. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
  11. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
  12. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習、まとめ

### 【評価方法】

出席状況で評価

### 【テキスト】

技術編 CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）  
平成16年度版 CG検定1級問題集（画像情報教育振興協会）

### 【参考文献・資料】

- コンピュータグラフィックス理論と実践  
（J.D.Foley, A.v.Dam, S.K.Feiner F.Hughes オーム社）
- 基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥 CQ出版社）

## コミュニケーション心理学概論Ⅰ

斎藤和志 二宮 昭 吉崎一人

### 【授業の概要】

コミュニケーション行動、心理学に関わるいくつかの問題をオムニバス形式で概観する。コミュニケーション心理学概論Ⅰでは、認知心理学、発達心理学、社会心理学などの領域について基礎的な内容を取り上げる。

### 【授業計画】

1. ヒトの情報処理を支える生理学的基礎
2. 知覚：視知覚情報の処理を中心に
3. 記憶：2つの箱の謎
4. 注意と意識
5. 子どもとおとな：人が発達するとは
6. 世界を知る：「表象」の形成
7. コミュニケーションの拡がり：「ことば」の獲得
8. ことばで考える：「思考」の展開
9. 行動科学としての社会心理学
10. 社会的認知と対人認知
11. 社会的態度
12. 集団の認知

### 【評価方法】

各担当者の評価に基づき総合的に評価する。具体的には各担当者の指示による。

### 【テキスト】

共通したテキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

各担当者の指示による。

## 英語論文講読入門Ⅰ

鈴木哲至

### 【授業の概要】

英語論文読解の基礎を養成する。コンピュータ活用、インターネット活用においても、また、3年次以降の研究論文の講読においても、英語読解能力は不可欠であり、この能力の個人差を無くすように、理解度をチェックしながら基礎トレーニングを行う。

### 【授業計画】

主なトピックは以下のとおりである。

- Two Related Crises
- The Paradox of Culture
- Man as Extension
- Culture as an Irrational Force
- Culture as Identification

### 【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

### 【テキスト】

*Beyond Culture* 『文化を超えて』(Hall, Edward T. 著)

## コミュニケーション心理学概論Ⅱ

古井 景 米倉五郎 後藤秀爾

### 【授業の概要】

コミュニケーション心理学概論Ⅱでは、心理学全般を基礎的領域に限定し、知覚・思考・人格・感情・発達・社会適応・評価などを中心にオムニバス形式で概説する。

### 【授業計画】

1. 脳のはたらき
2. 感情と身体の反応
3. 思考のまとまりと障害
4. ストレッサーとストレス
5. 人格と社会適応
6. 人格の形成
7. 乳幼児期の発達課題
8. 児童・思春期・青年期の発達課題
9. 成人期の発達課題
10. 壮年期・老年期の発達課題
11. 意識と無意識
12. 心理測定

### 【評価方法】

それぞれの担当者が講義を終えた段階でレポート課題を出し、それによって評価する。授業中の積極的質問等も成績に加味するので、主体的に授業に参加すること。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。その都度、レジュメを配付する。

### 【参考文献・資料】

なし。

## 英語論文講読入門Ⅱ

鈴木哲至

### 【授業の概要】

英文講読入門Ⅰに続いて、平易な科学論文の講読を通して、学生個々の英語読解能力の向上に努める。語彙の習得、重要な語句・文の構造に対する理解を深めながら授業を進める。

### 【授業計画】

主なトピックは以下のとおりである。

- Apart from the Animals
- The Trouble with Love
- Some Thoughts about Thought
- Personality's Part and Parcel
- Mother's Day
- I'm OK, You're a Bit Odd
- Fast Track to Puberty
- Knock Wood
- Got a Minute
- A Neat Gift Idea
- Seeing is Believing
- The Other 90%

### 【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

### 【テキスト】

*We're Only Human* 『人間の心理と行動に関する12章』  
(Paul Chance 著)



## 英語論文講読Ⅰ

小川一美 坂田陽子 新美明夫 西出隆紀

### 【授業の概要】

3年生以降の専門教育を受けるのに必要な英語読解力の基礎を養成することをめざす。英語で書かれた心理学の入門書を講読することで、論文英語に固有の表現や学術用語に慣れることを目標とする。

### 【授業計画】

予めプリントを配布し、毎回、定められた範囲の英文を講読する。

### 【評価方法】

読解力の平常点、出席状況、テストなどによる。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 英語論文講読Ⅱ

小川一美 坂田陽子 新美明夫 西出隆紀

### 【授業の概要】

英語論文講読Ⅰに続いて、心理学を中心とする研究論文を読みこなす力の養成をめざす。比較的新しいトピックスをとりあげている実験論文や調査論文をテキストとして、そのスタイルに慣れるとともに読解スピードをあげることが目標になる。

### 【授業計画】

予めプリントを配布し、研究論文の内容を理解しながら講読する。

### 【評価方法】

英文理解力の平常点、出席状況、テストなどによる。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 心理統計基礎

齋藤和志

### 【授業の概要】

コミュニケーション行動、心理学に関する実証的研究を進めていく場合、さまざまな種類の資料・データを集めて分析を進めていくことになる。多くの場合、得られた資料・データは数値として扱われる。この数値はどのような特徴をもち、そこからどのようなことが読みとれるのであろうか。こうした数値を扱う際に必要となる統計的な考え方、方法の基礎について講義する。

### 【授業計画】

講義を行うが、必要に応じて小テスト、レポートを課す場合がある。また、調査や実験の被験者としての体験も重視する。

1. 統計とは何か、そして、統計はなぜ必要か？
2. 変数とデータ
3. Σの記号の意味
4. 度数分布表とは
5. 量的変数における度数分布表の表わし方
6. 質的変数における度数分布の表わし方
7. 量的変数に関するデータの数値要約
8. 質的変数に関するデータの数値要約
9. 線形変換と非線形変換
10. 2つの変数の関係についての分析
11. 統計的検定の基礎
12. 統計的検定の実際
13. 試験

### 【評価方法】

定期試験による。また、前述の小テスト、レポート、調査・実験の被験者体験を成績に加味する場合には事前に通告する。

### 【テキスト】

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本  
(吉田寿夫著 北大路書房)

### 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 心理学基礎実習Ⅰ

新美明夫 西出隆紀 松尾貴司 小川一美

### 【授業の概要】

心理学における実証的研究に用いられる実験・観察・調査・面接の基礎的な技法や体系的知識を習得し、科学論文としてのレポートを作成する。各種の課題に取り組み、研究テーマの設定、資料の検索、実証データの収集・分析、論理の構成、文章表現、図表の作成などの要点を、講義とともに少人数でのグループワークを通して学習する。

### 【授業計画】

全体構想として、授業4コマ分を1セッションとし、3セッションの課題と冬休みの宿題から講義を組み立てる。

- ◎オリエンテーション (第1回)  
「心理学的研究とは」と題して講義を行い、同時にグループ分け等、今後の準備作業を行う。
- ◎第1セッション (2～5回)  
ミュラー・リヤーの錯視実験を通して、互いに実験者・被験者となり、心理学実験の一連の流れを理解する。さらに得られたデータに対して適切な分析を行い、それに基づいてレポートを作成する。
- ◎第2セッション (6～9回)  
信号無視行動というテーマを設定し、そうした行動が起こる原理についてあれこれ仮説を立ててみる。次にそれらの仮説を実証するための方法論を組み立て、実際に観察を実施して、結果を考察するまでのレポート作成を行う。
- ◎第3セッション (10～13回)  
SD法によるイメージ測定尺度を作成し、質問紙調査によってデータを収集する。テーマは自由に設定し、対象のプロフィールを作成することによって考察し、レポートを作成する。
- ◎冬休みの課題  
「親世代と自分の子ども時代の体験の比較」をテーマとして、自分の親世代を対象としたインタビューを企画・実施、インタビュー・レポートの作成までを行う。

### 【評価方法】

評価は、実習への参加態度および提出されたレポートに基づいて行う。

### 【テキスト】

使用しない。必要な資料は随時配布する。

## 心理学基礎実習Ⅱ

坂田陽子 松尾貴司

### 【授業の概要】

心理学的研究をおこなう上で必要不可欠な技能の基礎を習得する事を目的とする。具体的には、1) ワードプロソフト (WORD) を使って指定された書式のレポートが作成できる、2) 表計算ソフト (EXCEL) を使って心理学的データの整理をすることができる、3) 統計解析ソフト (SPSS) を使って心理学的データの基礎的な分析ができる、ことを目標とする。

### 【授業計画】

- 1-2回 図表入りレポート、2段組レジュメ、スケール付き質問紙の作成
- 3-4回 表計算ソフトを使ったデータの整理、集計
- 5-6回 科学レポートのためのグラフの作成
- 7回 <中間試験>
- 8-9回 SPSSの操作方法、データファイルの作成、基礎集計
- 10-11回 質的データの分析：度数分布、クロス集計、カイ2乗検定
- 12-13回 量的データの分析：グループ別平均値、t検定、相関
- 14回 <期末試験>

### 【評価方法】

出席、試験、課題の提出等で総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## データ解析Ⅰ (2004年度以降入学者対象)

小川一美 新美明夫

### 【授業の概要】

統計パッケージソフトを利用して、複雑で冗長なデータを適切に集約し、そこに含まれる情報について正しく解釈・推論する能力を身につける。データ解析の基礎的技法を習得することに加え、統計的な考え方が理解できるようになることを目指す。具体的には、質的データと量的データのそれぞれについて、a) データの集約を適切に行えること、b) 変数の連関を数量的に検討できること、の2点を主な目標とする。

### 【授業計画】

1. イントロダクション
  - (1) データの概念とデータ解析の流れ
  - (2) データのコーディングと入力
2. 基本集計
  - (1) 度数分布を知る
  - (2) 基本統計量の算出：度数分布の数値要約
3. 2つの変数の関係
  - (1) 質的変数どうし ( $\chi^2$ 検定)
  - (2) 量的変数と質的変数 (t検定、一元配置分散分析)
  - (3) 量的変数どうし (相関係数)
4. SPSSによるファイル操作
  - (1) 新しい変数の作成
  - (2) 値の再割当
  - (3) 合成得点の算出

### 【評価方法】

単位認定試験の成績で評価する。

### 【テキスト】

心理学基礎実習Ⅱ (1年次) のテキストを引き続き使用  
SPSSでやさしく学ぶ統計解析第2版 (室 敦子・石村貞夫著 東京図書)

## 心理学研究法調査演習

新美明夫 石田靖彦 小平英志 遠山智子

### 【授業の概要】

心理学領域において実証的研究を進めていく際の研究法の一つである、質問紙調査法の演習を行う。調査テーマの検討から始まり、質問紙の作成と印刷、調査の実施を行う。さらに得られた調査データを元に、データ入力・集計・分析・調査レポートの作成の一連のプロセスを少人数のグループ単位で行い、質問紙調査法の科学的な方法を身につける。

### 【授業計画】

1. 調査計画の立案
  - (a) 演習計画とグループ分け
  - (b) 調査テーマの決定・文献の収集
  - (c) 調査目的の明確化・研究仮説の設定
2. 質問紙の作成
  - (a) 調査項目・尺度の作成
  - (b) 質問紙の作成・印刷
  - (c) 調査の実施
3. データの整理と分析
  - (a) データのコーディングと入力
  - (b) データの集計と分析
  - (c) 分析結果の整理
4. 調査報告書の作成
  - (a) 研究のまとめ方
  - (b) 報告書の作成
  - (c) 研究成果のプレゼンテーション

### 【評価方法】

報告書の内容および演習への参加態度を評価の対象とする。

### 【テキスト】

使用しない。必要な資料は随時配布する。

## 心理学研究法観察演習

坂田陽子 松尾貴司 中藤 淳 荒川礼行

### 【授業の概要】

コミュニケーション行動などに関する心理学的な研究を実証的に進めていくためには、さまざまな種類の資料・データの収集・分析が必要である。その研究方法の一つである観察法の基礎的技法を実際に体験しながら学ぶ。

さらに、問題の設定、観察法を用いたデータの収集、データの分析、報告書の作成およびプレゼンテーションといった、心理学的研究の一連のプロセスを体験・学習する。

### 【授業計画】

1. 授業全体のオリエンテーション、諸注意
2. 観察法概説
3. 基礎課題1：実験計画に基づいたデータの収集、分析。  
指定された課題を実施し、個人ごとにレポートを作成する。
4. 基礎課題2：サンプリングによるデータの収集と信頼性の検討。  
指定された課題を実施し、個人ごとにレポートを作成する。
5. 応用課題：グループ単位で具体的な研究テーマを設定し研究をおこなう。
  - 1) 問題の設定
  - 2) データ収集方法の検討
  - 3) データの収集
  - 4) データの分析
  - 5) 報告書の作成と研究発表
  - 6) 個人レポートの作成

### 【評価方法】

授業への参加態度、基礎課題1・2および応用課題の個人レポートについての個別評価と、応用課題の研究内容についてのグループ評価をあわせて総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 心理学研究法実験演習（生理・認知）

清水 遼 吉崎一人 遠山智子 赤嶺亜紀

### 【授業の概要】

- 1：生理心理学の領域で扱われる生理学的測定法を学習する。種々の心理事態での脳波や自律神経ポリグラフの測定や分析法について習得する。
- 2：認知心理学の領域で扱われる心理学実験の手法を学習する。記憶研究等の基礎的実験を通じて実験の計画と実施法データの分析法、結果のまとめ方等を習得する。

### 【授業計画】

実習は小グループ単位でローテーションしながら行い、総実習回数のうち半数を生理心理学、残りの半数を認知心理学の学習に充てる。生理心理学ではさらに事象関連電位と自律神経ポリグラフに分かれて実習する。

### 【評価方法】

生理心理学、認知心理学のそれぞれでレポートの課題が与えられる。それらのレポートの評点に遅刻、欠席などを考慮した総合評価を行う。

### 【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

## 心理学研究法実験演習（社会）

小川一美 斎藤和志 多川則子 吉澤寛之

### 【授業の概要】

コミュニケーション行動や心理学に関する実証的研究を進めていく場合、さまざまな種類の資料・データを集めて分析を進めていくことになる。研究者が人為的統制を加えた状況下で行動を観察し、因果関係を検討する実験法もその1つである。いくつかの社会心理学的な実験を実際に体験することによって、心理学研究における問題の設定と研究計画の立案、データの取集と分析、報告書の作成といった一連の研究プロセスを習得する。

### 【授業計画】

- 1：授業全体のオリエンテーション、諸注意、研究法概説、実験法概説
- 2、3：基礎課題A
- 4、5：基礎課題B
- 6、7：基礎課題C
- 8：応用課題オリエンテーション
- 9～13：応用課題
- 14：研究発表会

### 【評価方法】

授業への参加態度と、数本のレポートによる総合的評価。課題はグループ単位で行うが、レポートは個人単位で作成する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 生理心理学

清水 遼

### 【授業の概要】

ヒトや動物の行動を生物学的観点から説明する心理学の一分野（生理心理学）の概説をする。本講義では脳の構造と機能に関する基礎的知識の習熟に続いて、喜怒哀楽の感情や学習、記憶などの高次精神、更には精神障害の発現メカニズムなどについて考察する。

### 【授業計画】

1. 生理心理学とは
  - ・精神（こころ）と物質（脳）
2. 中枢神経系の構造と機能
  - ・大脳皮質の機能局在
  - ・大脳辺縁系と大脳基底核
  - ・視床と視床下部
  - ・脳幹と小脳
3. 自律神経系の構造と機能
4. ニューロンの電氣的伝導と化学的伝達
5. 心の異常と脳内化学伝達物質
6. ストレスと脳
7. 記憶と脳
8. 言葉と脳
9. まとめ

### 【評価方法】

学期末試験の成績で評価する。

### 【テキスト】

使用しない。講義時に適宜プリントを配布する。

## 社会心理学（2004年度以降入学者対象）

植村勝彦

### 【授業の概要】

人間の社会的な場面での行動を研究するのが社会心理学であるが、それを「実験」という方法によって明らかにしようとする「実験社会心理学」で得られた興味深い知見を数多く紹介することによって、入門としての社会心理学の面白さを味わってもらいたい。

### 【授業計画】

- 第1講 社会心理学とは何か
- 第2講 同調行動のメカニズム
- 第3講 実験室のナチズム
- 第4講 模擬監獄実験
- 第5講 冷淡な傍観者
- 第6講 社会的手抜き
- 第7講 認知的不協和理論
- 第8講 対人交渉：要請と承諾
- 第9講 類は友を呼ぶ
- 第10講 相互魅力のゲインーロス効果
- 第11講 情動二要因理論
- 第12講 偽業効果と逆偽業効果
- 第13講 割引かれた罪悪感
- 第14講 実験社会心理学における倫理的問題

### 【評価方法】

学期末のレポートと単位認定試験の成績で評価する。

### 【テキスト】

社会心理学ショート・ショート-実験でとく心の謎-  
(岡本浩一著 新曜社)

## 発達心理学 (2004 年度以降入学者対象)

坂田陽子

### 【授業の概要】

乳児期から児童期までの時期におこる発達の変化や年齢に応じた認知の特徴を概説する。特に、実際に行われた実験を紹介しながら、乳幼児の驚くべき能力や表象・概念の発達、および社会性の発達について述べる。

### 【授業計画】

1. 発達心理学とは？
2. 乳児の能力 1 知覚
3. 乳児の能力 2 運動
4. 乳児の能力 3 模倣
5. 言語発達 1 認知的言語発達
6. 言語発達 2 社会的言語発達
7. 表象の発達 1 対象物の永続性
8. 表象の発達 2 描画
9. 表象の発達 3 3つの山問題・空間認知
10. 概念の発達 Piaget理論・数概念・素朴理論
11. 社会性の発達 1 共同注意・心の理論・感情理解
12. 社会性の発達 2 テレビと子ども

### 【評価方法】

定期試験と授業中に出す課題の提出状況による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

### 【テキスト】

実験で学ぶ発達心理学 (杉村伸一郎・坂田陽子編 ナカニシヤ出版)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に紹介・配布する。

## 精神生理学 (2004 年度以降入学者対象)

清水 遼

### 【授業の概要】

ヒトの行動の生理学的指標に関する基礎知識について概説した後、現代社会で特に問題となっている情動やストレスをテーマにして、これらの問題に対する精神生理学のアプローチについて論ずる。

### 【授業計画】

1. はじめに
2. 自律神経系の電気生理学的指標  
心電図・皮膚電気活動・呼吸・脈波  
眼電図・筋電図
3. 中枢神経系の電気生理学的指標  
自発脳波・事象関連電位  
脳のイメージング
4. 精神内分泌指標と精神神経免疫指標
5. 感情の精神生理学的研究 (1)
6. 感情の精神生理学的研究 (2)
7. 感情の精神生理学的研究 (3)
8. ストレスの精神生理学的研究 (1)
9. ストレスの精神生理学的研究 (2)
10. バイオフィードバック (1)
11. バイオフィードバック (2)
12. まとめ

### 【評価方法】

定期試験の評点に基づき評価する。

### 【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

## 臨床心理学

西出隆紀

### 【授業の概要】

「臨床心理士」という名称が社会に認知されはじめ、「心理学を学ぶイコール臨床心理学」を学ぶという誤解も多く見られるようになった。この講義では心理学初学者である1年生を対象とするものであることを考慮し、臨床心理学は多くの心理学的・医学的知見に支えられている心理学の一分野であるということを確認しつつ、巷にある臨床心理学のイメージとその実際との乖離を埋めていけるような説明をしていきたい。

### 【授業計画】

1. 臨床心理学とは  
心理学と臨床心理学の歴史、応用心理学としての臨床心理学
2. カウンセリングと心理療法  
カウンセリングとは、心理療法とは、さまざまな心理療法
3. 心理アセスメント  
診断と見立て、心理検査、心理アセスメントの理論と実際
4. こころのしくみと発達  
パーソナリティ、適応と不適応、こころの構造、こころの発達
5. こころの病  
こころの正常と異常、発達障害、精神病、うつ、人格障害、不安障害
6. 臨床心理学の現場  
病院臨床、学校臨床、施設臨床、行政機関、産業界、新しい領域
7. 心理臨床家の訓練と倫理

### 【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可 (コピーを持ち込んだ場合は失格) とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

## 脳とコミュニケーション

沖田庸高

### 【授業の概要】

人のコミュニケーションに関わる認知活動を脳の機能から探る。特に認知活動に応ずる事象関連脳電位 (ERP) と行動測度から脳内認知情報処理を探求する試みについて学び、その基礎的な研究パラダイムと知見、そうした知見に基づく認知モデルの検証、さらに臨床的な応用について理解を深める。

### 【授業計画】

1. はじめに：行動・生理測度からみた健忘症患者の記憶障害
2. 活動する脳を探る方法
3. さまざまな認知活動にตอบสนองするERP
4. 刺激評価時間とERP-P3成分
5. 心理時間計測法とその応用
- 5.1. Dondersの引算法
- 5.2. Sternbergの要因加算法
- 5.3. Eriksen & Eriksenのコンフリクト課題
- 5.4. Posnerの空間手がかり課題
6. 注意
- 6.1. 受動的注意と能動的注意
- 6.2. 異なる認知処理レベルにおける注意効果
- 6.3. 非注意入力への「ゆくえ」 「運命」
7. 作業記憶
- 7.1. 作業記憶探索における制御と実行
- 7.2. 中央実行系における作業間干渉
8. 顔情報の認知
- 8.1. 全体依存型処理と部分依存型処理
- 8.2. 視線方向と表情認知
9. まとめ

### 【評価方法】

定期試験と出席状況により評価する。

### 【テキスト】

使用しない。適宜プリントを配布する。

## 脳への認知心理学的接近

吉崎一人

### 【授業の概要】

「脳と行動」のメカニズムについて認知心理学の視点で概説する。まず、認知心理学、神経心理学の研究手法について紹介する。また、脳構造の基礎を学習する。その上で、さまざまな高次機能（注意、物体認知、記憶、思考、情動等）脳内活動について議論する。

### 【授業計画】

1. 脳と心の研究史
2. 心のメカニズムを探る研究法—認知心理学的視点で—
3. 脳の働きを探る研究法
4. 脳の基本構造
5. ラテラルティとは 右脳と左脳の機能的差異
6. 認知心理学者がラテラルティに迫る
7. ラテラルティの個人差と認知能力
8. 物体の認知と脳
9. 注意の働きと脳
10. コミュニケーション機能と脳
11. 情動の機能と脳
12. 記憶と脳
13. 社会的認知と脳

### 【評価方法】

中間テストと期末テストの得点、さらには実験協力へのボーナス得点による。

### 【テキスト】

使用せず。A 4 版の資料を配付する。

### 【参考文献・資料】

授業内で紹介する予定。

## 対人コミュニケーション論

小川一美

### 【授業の概要】

われわれが多くのの人々と付き合い、社会生活を営むうえで、欠くことのできない重要な行動の1つが、対人コミュニケーションである。本授業では、集団や社会の中で行われている多様な行動の基礎とも言える対人コミュニケーションについて、様々な観点から心理学的に考察する。

### 【授業計画】

1. コミュニケーションとは
2. 対人コミュニケーションとは
3. 送り手に着目して対人コミュニケーションを考える
4. 受け手に着目して対人コミュニケーションを考える
5. 送り手と受け手という二者による効果
6. メッセージに着目して対人コミュニケーションを考える
7. 自己を知らせるコミュニケーション
8. 他者の心を動かすコミュニケーション
9. 現代日本人が抱えるコミュニケーションの問題

### 【評価方法】

試験および受講態度により評価する。

### 【テキスト】

なし。プリントを配布する。

## ノンバーバル行動

松尾貴司

### 【授業の概要】

ジェスチャー、表情、視線、空間行動などのヒトのコミュニケーションにおける非言語的なシグナルの諸相について概説し、個々のノンバーバル行動について、心理学的視点からばかりでなく、行動学的な視点からも論ずる。

### 【授業計画】

- 1) ノンバーバル行動とは
- 2) ノンバーバル行動の研究手法
- 3) ジェスチャーの分類と文化的変異
- 4) 表出としての表情と制御された表情
- 5) 視線の機能と規定因
- 6) パーソナルスペースと空間行動
- 7) ノンバーバルコミュニケーション

各トピックスについて1～2回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう予定。

なお、授業は座席を指定しておこなう。

### 【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合これを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 社会的行動の心理学

斎藤和志

### 【授業の概要】

現実の対人関係にはさまざまな問題が存在する。それらの中にみられる共通した特徴や法則性を、社会心理学的観点から考察する。社会の中で暮らす個人が、他者や社会からどのような影響を受けているのか、また周囲の他者や社会に対してどのように働きかけているのかを、社会心理学の実験や理論を通して考察する。

### 【授業計画】

講義を行うが、必要に応じてレポートを課す場合がある。また、調査や実験の被験者としての体験も重視する。

1. 社会的現象についての思考
2. 帰属過程と帰属の諸理論
3. 帰属過程と社会的認知
4. 帰属過程と達成行動
5. 社会的態度の諸相
6. 社会的態度の形成と変容
7. 社会的態度と認知的斉合性
8. 社会的交換という考え方
9. 社会的交換と衡平
10. 社会的交換と対人的相互作用
11. 他者への志向と対人的行動
12. 社会への志向と社会的行動
13. 試験

### 【評価方法】

試験による。レポートや調査・実験の被験者体験を成績に加味する場合には事前に通告する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## パーソナルメディア論

新美明夫

### 【授業の概要】

個人が手軽に情報を受発信できるパーソナルメディアの浸透は、既存の人的ネットワークと重なりつつも、新たな人的ネットワークを形成している。各種のパーソナルメディアが既存のネットワークに及ぼす影響や、それらを介して形成される新たなネットワークにおいて展開される人間関係やコミュニケーションについて考察する。

### 【授業計画】

1. パーソナルメディアとコミュニケーション  
メディアの歴史/メディアコミュニケーションの広がり/パーソナルメディアの特徴
2. メディアコミュニケーションの実験的研究  
電話コミュニケーションの実験的研究/CMC (Computer Mediated Communication) の実験的研究
3. ワープロとコミュニケーション  
活字 (印刷) 文字の変化/手書き文字の変化/ワープロ文字と手書き文字の与える印象
4. 電話とコミュニケーション  
電話の歴史と利用形態の変化/電話利用と人間関係
5. モバイルメディアとコミュニケーション  
モバイルメディアの歴史/ケータイ前史としてのポケベル/音声メディアとしての携帯電話/文字メディアとしての携帯メール/モバイルメディアと日常生活
6. コンピュータとコミュニケーション  
CMCの現状/自己表現とパーソナルホームページ/ネットワークのインパクト/デジタル・デバッド

### 【評価方法】

単位認定試験の成績で評価する。

### 【テキスト】

使用しない。資料を随時配布する。

## 認知の生涯発達心理学

坂田陽子

### 【授業の概要】

胎児期・乳児期から高齢期まで、人の生涯にわたる認知の変化を概説する。特に、記憶や注意能力、日常生活に必要な認知能力の年齢に伴う変化について、さまざまな実験結果に沿いながら取り上げる。

### 【授業計画】

1. 生涯発達をとらえるには
2. 加齢理論
3. 注意 1 乳児期
4. 注意 2 幼児期 1
5. 注意 3 幼児期 2
6. 注意 4 成人期・高齢期
7. 記憶 1 胎児期・乳児期・幼児期
8. 記憶 2 成人期・高齢期
9. 記憶 3 高齢者のメタ記憶
10. 記憶 4 高齢者の自伝的記憶
11. 日常生活 1 サーカディアンリズムと加齢
12. 日常生活 2 高齢者の日常と認知のエイジング

### 【評価方法】

定期試験と授業中に出す課題の提出状況による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

### 【テキスト】

認知のエイジング (口ノ町康夫・坂田陽子・川口潤監訳 北大路書房)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に紹介・配布する。

## コミュニティ心理学

植村勝彦

### 【授業の概要】

コミュニティ (地域社会) の中で生起する社会問題について、問題を抱えている個人や家族、集団、組織などを、人よりもむしろ環境に焦点を合わせて、予防したり、支援したり、エンパワーしたり、代替物を選択したり、コミュニティ意識を養うことを通して、人と環境の適合性をはかることを目指すのがコミュニティ心理学である。この講義では、こうしたコミュニティ心理学の理念について、具体的な社会問題と結びつけながら考えていく。

### 【授業計画】

- 第1講 序章 コミュニティ心理学とは  
1節 歴史的背景
- 第2講 2節 コミュニティ心理学の理念と目標
- 第3講 1章 高齢者とコミュニティ心理学  
1節 高齢者・高齢社会とは: aged societyとageism
- 第4講 2節 高齢者の幸福な老い: クオリティ・オブ・ライフ (QOL)
- 第5講 3節 高齢者の自立: エンパワーメント
- 第6講 4節 高齢者のヘルスケア: 予防
- 第7講 2章 障害者とコミュニティ心理学  
1節 障害とは: ラベリング理論とスティグマ
- 第8講 2節 知的障害者と社会: 多様性の尊重
- 第9講 3節 知的障害者と地域社会: コミュニティ感覚
- 第10講 4節 知的障害者の支援: セルフヘルプ・グループ
- 第11講 3章 子どもとコミュニティ心理学  
1節 子どもと生育環境: 人-環境適合
- 第12講 2節 学校不適応と子ども: コンサルテーション
- 第13講 3節 子育て支援と社会資源の活用: ソーシャルサポート・ネットワーク
- 第14講 終章 再び、コミュニティ心理学とは  
1節 まとめて代えて  
2節 心理・社会問題とコミュニティ心理学

### 【評価方法】

3つの章ごとに課題として出すレポートにより評価する。1度でも未提出であれば無条件で不可とする。

### 【テキスト】

毎回配布するプリントにより講義・解説する。

## 障害児の発達と援助

二宮 昭

### 【授業の概要】

自閉症や知的障害、脳性まひなど「障害児」と呼ばれる子どもたちの発達の様相・特性とその援助をめぐる問題について検討する。

その際、発達を年齢に依存した序列化に基づくような個人の能力の拡大としてではなく、個人と他者とのやりとり (コミュニケーション) の発展・展開として捉えること、「障害児」の発達援助においても、子どもを変えるという発想ではなく、援助者側が変わるという視点が重要であること、そして、そのような発達 (および援助) の場においては「からだ」というものがきわめて大きな意義をもつこと、を中心に論じる。

### 【授業計画】

1. 障害と健常
2. 福祉は障害児?—障害児の受け容れの歴史
3. 障害児とその特性① 自閉症児
4. 障害児とその特性② 脳性まひ児
5. 障害児とその特性③ 知的障害児
6. 障害児とその特性④ 重複障害児・その他の障害児
7. 傾く垂直線—世界を捉える場としての「からだ」
8. ストープは冷たいやりとり (コミュニケーション) の基盤としての「からだ」
9. 「からだ」「やりとり」から見た障害児の問題点
10. 「からだ」を通した「やりとり」の発達援助①—動作法の考え方
11. 「からだ」を通した「やりとり」の発達援助②—動作法の実践例
12. 子どもを変えるからこちらも変わるへ—発達援助の基本パラダイム
13. テスト

### 【評価方法】

最終回に実施するテストの成績による。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

障害特性の理解と発達援助 (昇地勝人他編 ナカニシヤ出版)  
講座・臨床動作学 3 障害動作法 (成瀬悟策編 学苑社)

## 分析心理学

後藤秀爾

### 【授業の概要】

心理療法の理論のひとつにC.G.Jungの分析心理学があり、そこではFreudの精神分析学と同様、無意識の存在を仮定している。しかし分析心理学では個人無意識の深層に普遍的無意識を仮定し、その世界を意識化する技法として夢分析や箱庭、芸術療法等イメージを介在させることが特徴である。

S.FREUDとともに精神分析を発展させてきたJUNGがFREUDから決別して独自の心理学をうち立てたのである。理論的にはそれほど複雑ではないものの、その知見を実際に自分のものとするには体験を通さないと分かったことにならないのが特徴と思われる。講義では受講者の日常的な体験に即して説明を行うつもりである。

### 【授業計画】

1. 導入
  - 1) エゴグラムで出会う知らない自分
2. 基礎知識
  - 2) 意識・前意識・無意識
  - 3) 自己と自我
  - 4) フロイトとユング
  - 5) ユングとエリクソン
3. 時代の病理とその背景・1
  - 1) 『千と千尋の神隠し』
  - 2) 思春期モーニング
  - 3) 母性原理と父性原理
  - 4) 愛することと働くこと
4. 時代の病理とその背景・2
  - 1) 『ハリー・ポッター』
  - 2) P.T.S.D.
  - 3) 子どもにとっての家庭と学校
5. 関係の病理を見る視点
  - 1) 虐待事例を通して
  - 2) 赤ちゃん部屋のゴースト/葛藤の世代間伝達
  - 3) エディプス葛藤とアジャセ葛藤
6. まとめ
  - 1) 『ビッグOとのであい』

### 【評価方法】

出席状況と期末試験結果による。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業内で紹介する。

## 精神分析療法

米倉五郎

### 【授業の概要】

精神分析療法（精神分析的な心理療法）について実務的な視点から講義する。精神分析的な心理療法は対話と面接により交わされる言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションによる心理学的な援助技法である。本講では、精神分析的な心理療法とロジャースの来談者中心療法やジェンドリンのフォーカシングなどを統合した対話心理療法についても解説する。

### 【授業計画】

1. 出会いと対話心理療法
2. 意識と前意識と無意識 心理力動と人格構造
3. 見立てと心理アセスメント、ストーリーを読むこと 心理査定法の活用
4. 面接構造、面接契約（約束） 中断と行動化そして終結
5. 転移と逆転移、抵抗と逆抵抗 ドラの事例とフロイトの失敗
6. ロジャースの来談者中心療法と精神分析的な心理療法
7. ゲシュタルト療法（パウルズ）と精神分析的な心理療法
8. 論理療法（エリス）と精神分析的な心理療法
9. プレエディパルとエディパルの人格水準 抑うつ態勢と妄想分裂態勢
10. 間主親性とウニコットの相互スクイグル描画法
11. 神経症、境界人格障害、統合失調症の心理療法
12. 心身症と自己愛的人格障害、アレクサイミアと心理療法
13. 集団心理療法とエンカウンターグループ、グループアプローチ
14. コンサルテーション・リエゾン臨床心理学の実務  
病院心理臨床 学校心理臨床 産業心理臨床

### 【評価方法】

学期末試験の成績で評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。その都度、レジュメを配布する。

### 【参考文献・資料】

なし。

## 心理療法

西出隆紀

### 【授業の概要】

数多く存在する心理療法の基礎理論について講義をする。精神分析各学派、現象学的人間学派、家族療法・短期療法など各学派の発達論、治療論、症候論、人格論などを具体的な事例も交えながら紹介し、心理療法というもののイメージをつかめるように説明していきたい。

### 【授業計画】

1. 心理臨床入門 心理臨床とは、心理臨床と人間関係
2. 古典的精神分析 錯誤行為、夢、心的構造論、精神性発達論、神経症総論、治療論
3. 対象関係論 Klein, M., Fairbairn, W.R.D., Guntrip, H., Winnicott, D.W., Bion, W.R. などの理論
4. 自我心理学（主に Freud, A.）と自己心理学（Kohut, H.）の理論
5. 現象学的人間学派 Rogers, C.R. の来談者中心療法、Gendlin, E.T. の体験過程療法
6. 家族療法 家族システム論、Erickson, M. の影響、二重拘束理論、構造派、戦略的家族療法、解決志向型短期療法

### 【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可（コピーを持ち込んだ場合は失格）とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

## 精神医学（2004年度以降入学者対象）

古井 景

### 【授業の概要】

人間の精神現象を扱い、治療していくために必要な、生物学的・心理学的方法論を論じ、多角的な視野を持って精神症状を把握する必要性を説く。又、具体的な各精神疾患の事例を織り交ぜながら、力動的な精神医学の観点から症状をどう理解し、患者とのコミュニケーションを通してどのように治療をしていくかを解説していく。

### 【授業計画】

1. 力動精神医学的理解
  - ・自我機能
  - ・精神力動
  - ・人格構造論
2. 従来の疾病分類（記述精神医学）
  - ・内因性精神病
    - 精神分裂病（破瓜型、妄想型、緊張病型、単純型）
    - 躁鬱病、うつ病
    - 非定型精神病（錯乱精神病）
  - ・外因性精神病
    - 器質性精神病
    - 症状性精神病
    - 中毒性精神病
  - ・心因性精神病
3. 近年の疾病分類（生物学的精神医学）
  - ・ICD-10（WHO疾病分類）
  - ・DSM-IV（アメリカ精神医学会）
4. 大脳生理学的理解
  - ・脳内神経伝達物質
  - ・画像診断
5. 治療の実際（事例を呈示して）

### 【評価方法】

レポート提出によって判定する。資料・参考図書などをそのまま写したものは評価に値しない。授業を通して理解した、知識に基づき自分の言葉で文章を作成すること。レポートに関しては厳しく評価し、内容が不十分な者に対しては再提出を課す。

### 【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

## 異文化コミュニケーション

高井次郎

### 【授業の概要】

異文化の相手との相互作用を円滑に運ぶために必要な知識、態度および対人行動技術について、言語および非言語行動を中心に考察する。日本の対人行動パターンの自覚を通じて、異文化コミュニケーションの障壁となり得る要因を考察する。

### 【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 文化とコミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 言語コミュニケーション
5. 非言語コミュニケーション
6. 非言語コミュニケーション
7. 対人認知
8. ステレオタイプ
9. 人種偏見
10. 人種差別
11. 異文化間能力
12. 異文化間トレーニング
13. コミュニケーション研究
14. コミュニケーション理論
15. 期末試験

### 【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

### 【テキスト】

未定

## 比較文化論Ⅱ（日・欧）

山井徳行

### 【授業の概要】

日本と欧州の関係を歴史的に概観しながら、日本人の中に生成されてきたヨーロッパのイメージを点検する。そのような関係性の中に、日本人としてのヨーロッパ理解の実態が浮き上がる、と思うからである。次に、ヨーロッパ精神の源流をギリシャ文化とキリスト教、さらには近代合理主義の中に求める。以上のような理解をした上で、地理的にヨーロッパをとらえて、具体的な国々の特徴を見て行く。

そして、現代に生きる同時代人としての日本人とヨーロッパ人の具体的な生き方において、比較文化的考察を行う。

時間があれば、ヨーロッパ連合の問題を取り上げたい。2004年には加盟国15ヶ国が25ヶ国に拡大した。

### 【授業計画】

- |         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| 第1週     | 授業のやり方や準備の仕方を説明する。               |
| 第2～4週   | 日本とヨーロッパの関係を歴史的に探る。              |
| 第5～7週   | ヨーロッパ文明の根幹をなすキリスト教や科学主義について講義する。 |
| 第8～10週  | 具体的なヨーロッパの国々と生活。                 |
| 第11～12週 | 日本人の生き方、ヨーロッパ人の生き方。              |
| 第13～15週 | 整理とまとめ。                          |
- 2004年の授業では、イラクにおける「日本人拉致事件」を題材に日本とヨーロッパとの反応を比較した。  
今年度も時事問題を題材に比較文化を試みることもありえる。Power Pointを使って授業をする予定です。

### 【評価方法】

発表（またはレポート）と定期試験の結果で行う。

### 【テキスト】

特になし。プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

沈黙のことはば（エドワード・T・ホール著 [The Silent Language (Edward T. Hall)]）  
英語と日本人（太田雄三著 講談社学術文庫）  
福翁自伝（福沢諭吉）

## 比較文化論Ⅰ（日・米）

松本青也

### 【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

### 【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由に伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則（CTR）
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日本語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化

### 【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

### 【テキスト】

日米文化の特質（松本青也 研究社）

## 比較文化論Ⅲ（日・アジア）

尹大辰

### 【授業の概要】

（概要）アジア諸国の中でも、特に日本と深い関わりのある中国と韓国を取り上げ、歴史認識や政治までを含めた広範囲な文化を日本と比較する。

前半は日本と中国、韓国の文化・習慣の違いについて説明する。主として、両国の食文化、風俗習慣、建築文化、漢字文化、交流文化及びお茶とお酒の文化などをテーマにし、講義し、比較する。

後半は「日韓両国の歴史認識への接近」をテーマに韓国近代史に焦点をあて、まず自らを点検し、共有する歴史認識の確立をめざし、今後のあるべき姿を模索していこうとするものである。

### 【授業計画】

学生のアジア諸国に対する真の理解を深めることを目的としているので、中国や韓国の文化習慣を多面的に紹介する。具体的に以下の内容となる。

1. 中国文化の原点である“天人合一”について
2. 何千年の歴史を持つ中国の漢字文化
3. 世界でも大変評判になっている中国の食文化
4. 中国の祝日と風俗習慣
5. 中国の古都の紹介
6. 中国の文化習慣がいかんにして中国人の日本語学習に影響を及ぼすか
7. 中国に関する全体的なまとめ
8. 日本と朝鮮半島との文化交流（古代）
9. 日本と朝鮮半島との文化交流（中世）
10. 日本と朝鮮半島との文化交流（近代）
11. 朝鮮半島の自然と文化・風土
12. 韓国の家族制度と姓・本貫
13. 韓国の社会生活から見た文化比較

### 【評価方法】

レポート及び平日の出席状況などを考えて、総合的に判断する。

### 【テキスト】

自作教材

### 【参考文献・資料】

金丙基監修図説「韓国の歴史」（河出書房新社）



## 比較文化論Ⅳ（日・中東）

澤江史子

### 【授業の概要】

現代世界に生きる私たちにとって理解が不可欠となっている中東イスラーム世界について、文明、歴史、国際政治、宗教という多様な側面から理解することを目指す。事例としてはトルコを中心に取り上げる。

### 【授業計画】

1. 導入
  - \* 「中東」とオリエンタリズムの問題
  - \* 中東の文化とアイデンティティの重層性
2. 近世から近代へ
  - \* オスマン帝国における近代化の歴史と問題
  - \* 近代の日本とオスマン帝国/トルコ
3. イスラーム世界と国際政治
  - \* イスラーム世界とヨーロッパ
  - \* 冷戦後のイスラーム世界
  - \* 「原理主義」と「文明の衝突」論
4. 現代国家におけるイスラーム
  - \* 国家原理の変更と新しい問題：世俗主義とイスラーム復興の対立
  - \* イスラームとは何か
  - \* イスラーム復興運動とは何か
  - \* イスラーム復興と女性

### 【評価方法】

授業中の課題および試験によって評価する。

### 【参考文献・資料】

オスマン帝国- イスラーム世界の「柔らかい専制」  
(鈴木董 講談社現代新書 1992年)  
イスラームとは何か (小杉泰 講談社現代新書 1994年)  
イスラームの日常世界 (片倉もとこ 岩波新書 1991年)  
その他、授業中に適宜指示する。

## ビジュアルコミュニケーション

後藤偉男

### 【授業の概要】

「ケータイ」の最近の使用状況が物語っているように、視覚的な情報媒体を用いたコミュニケーションの比重は、現代社会においてますます高まってきている。本講では、人の知覚が、外界の刺激の正確な反映ではなく、いかに人間の側の条件に依存しているかを論じ、コミュニケーションにおける望ましい視覚情報の利用について考察を深める。

### 【授業計画】

- 1 オリエンテーション (授業内容の説明)
- 2 ビジュアルコミュニケーションの意味について
- 3 視覚情報受容 (視知覚) の生理的基礎
- 4 視環境 (視覚情報の発信・受信空間) の成立
- 5 視環境の基点 (輪郭)
- 6 視環境の反転 (図と地)
- 7 視環境のまとまり (形)
- 8 視環境の広がり (奥行き)
- 9 視環境の安定性 (恒常現象)
- 10 視環境の振れ-1 (形の錯視)
- 11 視環境の振れ-2 (色の錯視)
- 12 視覚情報の統合 (視覚モデル)
- 13 ビジュアルコミュニケーションの意義と利用

### 【評価方法】

期末には、ペーパーテストを行う。また、授業への意欲的な出席を重視し、授業時間に行ったショートレポートを評価に加える。

### 【参考文献・資料】

ビジュアルコミュニケーション (藤沢英昭他著 ダヴィッド社)

## 比較文化論Ⅴ（日・中）

杜 英起

### 【授業の概要】

中国の花の文化、食の文化、お酒の文化、建築の文化 (民居、庭園)、そして漢字の文化を紹介し、儒教の思想の真髄を探究する。よって、日本の文化と中国の文化の接点を探るとともに、それぞれの文化の特質を浮き彫りにする。目的は、日・中両国間の相互理解を深めることにある。

### 【授業計画】

1. 花の文化について
2. 食の文化について
3. お酒の文化について
4. お茶の文化について
5. 建築の文化について
  - (1) 北京の民居・胡同
  - (2) 中国の四大名園の紹介 (主として頤和園と拙政園を紹介する)
  - (3) 万里の長城
  - (4) 日本の建築
6. 漢字と文化
7. 中国の儒教、儒教による日本への影響

### 【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

### 【テキスト】

未定

## マスメディア論

遠藤雄久

### 【授業の概要】

新しい情報メディアが次々に出現してくる状況のなかで、「もうマスメディアの役割は終わった」という声も聞かれるが、現実の社会生活のなかでのマスメディアの世論への影響力はむしろ強まっているように思われる。一方で、マスメディアは政治や経済と同じようにグローバル化の波に飲み込まれつつある。この講義はそうした現在のマスメディアの状況のなかでも、ジャーナリズム性という点に焦点を当てて、歴史的な考察もまじえながら、現在、未来のマスメディアのあり方について具体的に考えることを目的とする。

### 【授業計画】

- (1) 「ジャーナリズムとは何か」について歴史的に考える
- (2) マスメディア (マスコミ) とジャーナリズムの関係について
- (3) 世論とは何か、世論とマスメディア、ジャーナリズムとの関係
- (4) マスメディア、ジャーナリズムと民主主義
- (5) マスメディアはなくなってもいい、という議論について
- (6) 各国で現れてきているオルタナティブ (対抗的) メディアとはどんなものか
- (7) グローバル化はマスメディアにどんな影響を及ぼしているか
- (8) マスメディアの将来を考える

### 【評価方法】

数回出題するレポートと期末のテスト結果で判定する。出欠は受講者の人数に応じて考える。

### 【テキスト】

使用しない

### 【参考文献・資料】

授業のなかで適宜資料を配付し、参考文献を紹介する。

## リスク・コミュニケーション

元吉忠寛

### 【授業の概要】

私たちは、数多くのリスク（事故・災害・犯罪・環境・食・医療）に囲まれて生活しています。心理学を中心とした社会科学的な視点から、リスクというものについて理解し、リスクに関わるコミュニケーションについて考えます。

### 【授業計画】

1. 授業ガイダンス
2. リスクとは何か
3. リスク・イメージとリスク認知
4. 意思決定におけるリスク認知のバイアス
5. ゼロリスク症候群とリスクの社会的受容
6. ヒューマンエラーのメカニズム
7. 組織におけるリスク・マネジメント
8. 医療リスクと患者の意識
9. 災害リスクと防災行動
10. 環境と持続可能な社会の構築
11. 安全・安心・信頼
12. リスク教育と情報
13. まとめ

### 【評価方法】

課題レポートと、出席状況から評価します。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献・資料】

講義中に紹介します。

## コミュニケーション障害論

西村辨作

### 【授業の概要】

ことばには、日常生活の用を足す伝達の機能、人間関係を維持し発展させる社交の機能、ことばそのものを楽しむ鑑賞の機能、それに思考の道具となって合理的判断を助ける働きがある。ことばを喋って意思を伝えること、言語を操作して考えることは人間の高次の神経活動であるが、この機能に不全がある状態を言語障害という。言語障害はさまざまな原因によって生じるが、このことを人のこころの成長や働きと関連つけて講義し、コミュニケーションに障害をもつ人にはどのような援助が必要かを考えていただく。

### 【授業計画】

- 第1回 コミュニケーションについて
- 第2回 人間の言語行動の特徴
- 第3回 子どもの発達障害
- 第4回 認知発達のみちすじ
- 第5回 心理社会的な成長
- 第6回 知的障害
- 第7回 自閉症
- 第8回 障害児を持つ家族
- 第9回 軽度発達障害
- 第10回 構音障害
- 第11回 失語症
- 第12回 聴力障害
- 第13回 記憶障害
- 第14回 補助代替コミュニケーション
- 第15回 予備日

### 【評価方法】

障害児・者が主人公の映画（ビデオ）の鑑賞感想文。指定ビデオは授業の中で通知する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜配布する

## 言語への認知的アプローチ

増田尚史

### 【授業の概要】

人間の知的活動の一つとしての言語行動について、認知科学のおよび認知心理学的な観点から検討を加える。特に、言語行動を支えるハードウェアとしての脳、ソフトウェアとしての文法（grammar）、そしてそれらをつなぐ役割を担う心的表象（mental representation）について考察する。さらに、言語行動の社会的意味についても考える。

### 【授業計画】

1. 言語の歴史
2. 言語行動と記憶活動
3. 言語行動を支える脳部位と失語症
4. 生成文法の意義と限界
5. 語用論とレトリック
6. 心的辞書
7. 言語の獲得
8. 言語とコミュニケーション

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。なお、日常では意識化されない言語行動の一端に目を向けてもらうために、授業の中で各種の調査や実験を実施する。

### 【評価方法】

期末試験（あるいはレポート）の成績（80%）と、授業への出席および実験等への参加協力の程度（20%）とによって評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用せず、適宜資料を配付する。

### 【参考文献・資料】

随時紹介する。

## 社会学概論

長濱一夫

### 【授業の概要】

現代社会の主要な動向をとりあげ、社会学的手法—個人・集団・社会の相互潤—と実証的・総合的観点から、検討・分析を加える。すなわち、都市化、情報化、国際化、高度消費化、高齢化などの考察により、現代社会に関する基礎的知識を修得させたい。

### 【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります）、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

- (1) 社会学とはどんな学問か—個人と社会—
- (2) 都市と農村—地域社会の変容—
- (3) 都市化の進展—その光と陰—
- (4) 人々の暮らし—「出稼ぎ」という暮らし方—
- (5) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」  
—国際社会を視野に—
- (6) 高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

### 【評価方法】

試験（レポート or 筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

### 【テキスト】

使用しません。

## 哲学概論

長滝祥司

### 【授業の概要】

古代から現代にいたる西洋哲学をテーマに沿って概観することによって、哲学的思考力を養う。加えて、現代社会に生きるものとして、そうした思考力を人生に生かす方途を探っていく。

### 【授業計画】

1. はじめに
2. デカルトの認識論と心身問題
3. 表象と実在——デカルトの二元論が残したもの
4. 実在をどうあつかうか
5. 表象なしでやれるのか——哲学から認知科学へ
6. コンピュータは心をもつか1——『プレードランナー』とチューリングテスト
7. コンピュータは心をもつか2——中国語の部屋
8. ロボットが他者になるとき——『甲殻機動隊』の一話より
9. 他者と心の帰属——心の理論
10. 身体の機械化の果てにあるもの——『イノセンス』と人格の同一性
11. 心と脳の同一性をめぐって
12. 水槽のなかの脳と『マトリックス』の世界
13. クオリアとは何か

### 【評価方法】

平常点と論述形式を中心とするテスト。

### 【テキスト】

現象学と21世紀の知（長滝祥司 ナカニシヤ出版）

### 【講義の進め方】

基本的には教科書が中心となるが、折に触れて、講義で扱っている哲学的なテーマに関係する映画などを鑑賞しながら進めていく。

## 宗教学概論

川口高風

### 【授業の概要】

日本には異なった多くの宗教文化が混在している。宗教に関する基礎的知識を習得するため、世界の九種の宗教を概観し、続いて日本の宗教の神道、仏教、キリスト教、諸教に焦点をあてて役割や現代の状況などをながめてみる。祖師の著作や仏教古文書の解説も行う。必要に応じて、ビデオによる視聴覚授業もとり入れる。

### 【授業計画】

- 1: はじめに
- 2: 宗教の学問的見方
- 3: 宗教教義の構成 (1)
- 4: " (2)
- 5: 世界の諸宗教 (1)
- 6: " (2)
- 7: " (3)
- 8: 日本の諸宗教 (1)
- 9: " (2)
- 10: " (3)
- 11: 祖師の著作や古文書の解説 (1)
- 12: " (2)
- 13: まとめ

### 【評価方法】

学期末に行う論述式の試験による。

### 【テキスト】

参考文献・著作などのプリントは当方で用意し配布する。

## 倫理学概論

加藤太喜子

### 【授業の概要】

社会福祉や環境倫理・生命倫理が例になるように、倫理的なものの人々の関心を集めています。何故なら人間は倫理的な動物であるからです。そこで、本講義では、ソクラテス以降の倫理学を概説しながら、特に、人間の尊厳について考えていきたいと思っています。

### 【授業計画】

1. 倫理「学」とは
2. 功利主義 (1)
3. 功利主義 (2)
4. 功利主義批判 (1)
5. 功利主義批判 (2)
6. 義務論 (1)
7. 義務論 (2)
8. 義務論批判
9. 正義論
10. 応用倫理 (1)
11. 応用倫理 (2)
12. 応用倫理 (3)

### 【評価方法】

授業中に課す小レポートと、期末に行う筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 政治学

西尾林太郎

### 【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

### 【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
  - a 国際社会とは?
  - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
  - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
  - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
  - a 市民社会と大衆社会
  - b 立法国家と行政国家
3. 現代の政治過程
  - a 政治と利益団体、NPO
  - b 選挙、官僚、議会
  - c マスメディアとマスコミュニケーション
  - d 議会制デモクラシー
4. 戦後国際社会と日本の政治
  - a 冷戦構造と55年体制
  - b 利権の構造

### 【評価方法】

試験（配布資料と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

### 【テキスト】

暮らしから考える政治（姜尚中著 岩波ブックレットNo.564）

### 【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

## 国際政治論

草間秀三郎

### 【授業の概要】

現代がパクス・アメリカーナ（アメリカ中心の世界平和）であることを重視して、建国以来のアメリカ外交の理念と展開を概観し、第一次大戦、第二次大戦、米ソ冷戦の各諸問題を学習する。国連とPKOの諸問題、EUやAPECなどの地域国際協力組織をも学習する。

### 【授業計画】

- 1) 歴代アメリカ大統領の外交理念と特徴
- 2) 第一次世界大戦（1）勃発の原因とアメリカの中立
- 3) 第一次世界大戦（2）アメリカの参戦とロシア革命
- 4) ウィルソン大統領の14か条の提案とパリ講和会議
- 5) 両大戦間の国際政治・ワシントン会議・条約
- 6) 第二次世界大戦（1）日独の動きと大西洋憲章
- 7) 第二次世界大戦（2）日米戦争と捕虜の問題
- 8) 第二次世界大戦（3）連合国の対日占領政策
- 9) 米ソ冷戦 トルーマン・ドクトリンと日米安保条約
- 10) 日米関係 国連と日米安保体制
- 11) 国連とPKOの諸問題（中東を重視して）
- 12) 地域的国際協力組織（EU,APEC、ASEAN）

### 【評価方法】

期末試験（筆記）による。毎回の出席を重視して欠席回数が多い場合には受験資格を失う。

### 【テキスト】

なし。毎回プリントを配布する。

## 法律学概論

大嶽 浩

### 【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされており、数多くの「法」が日常生活に関わっているが、この授業では、その日常生活を「民法」の観点からみつめることで、「法」とは何か、を考える。

### 【授業計画】

1. 日常生活と法、法律と法
2. 公法と私法、民法と法
3. 商法と民法、民法典と民法
4. 行為能力と法、代理と法
5. 法律行為と法、時効制度と法
6. 占有と法、所有と法
7. 担保物権と法
8. 契約と法、保証と法
9. 不当利得と法、不法行為と法
10. 家族と法
11. 相続と法、法と人生

### 【評価方法】

試験による評価。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 国際政治論

瀬戸裕之

### 【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対立の時代から、相互依存の時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域に関する紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

### 【授業計画】

1. 国際関係の基本概念
2. 国際関係理論
3. 冷戦構造の展開と終焉
4. 国際経済と地域統合
5. 国連と安全保障体制
6. 南北問題と開発
7. 地球環境問題
8. 地域紛争とテロリズム
9. アジアにおける日本の戦争
10. 戦後日本と安全保障
11. アジアと日本の国際協力

### 【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。

### 【参考文献・資料】

国際関係学講義 新版（原彬久編 有斐閣）

## 国際法概論

初谷良彦

### 【授業の概要】

国際法は、国と国との関係を定める法である。数百年に及ぶ歴史の展開の中で、現代の国際法は地球社会の大変動を反映して、重大な転換期に入っている。地球環境保全、難民の保護、人権保障、安全保障などこれまでに見られなかった新しい問題をできるだけ取り上げ、できるだけ身近なものとして国際法を理解してもらいたい。

### 【授業計画】

- 第1回 国際法の概念
- 第2回 条約（条約の締結、条約の適用、条約の無効と終了）
- 第3回 国家（国家の種類、国家の承認、国家の基本権）
- 第4回 国際組織（国際連合、その他の国際組織）
- 第5回 国家領域（南極、宇宙、日本の領土問題）
- 第6回 外交（外交関係、外交特権、領事関係）
- 第7回 個人・外国人（国籍、難民の保護、犯罪人の引渡し）
- 第8回 国際社会における人権保障（1）（人権法の国際的実施措置、実施のための法と機構）
- 第9回 国際社会における人権保障（2）（女性の人権、子どもの人権）
- 第10回 国際協力（環境の国際規制、経済的国際協力）
- 第11回 紛争の平和的解決（国際裁判）
- 第12回 国際安全保障（国連軍、軍縮）
- 第13回 武力紛争（戦争法・人道法）
- 第14回 国際社会における法の支配（展望）
- 第15回 期末試験

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

授業の際、指示する。

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 経済学概論

福澤直樹

### 【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

### 【授業計画】

1. 「経済学とは何か」
2. 「資本主義とは何か」
3. 資本主義の基本的要素
  - (1) 市場経済下の商品交換・貨幣・雇用関係
  - (2) 資本主義の諸経済主体と国家の役割
4. 資本主義経済の諸機能
5. 資本主義経済社会の歴史的生成過程
  - (1) 近代資本主義の生成
  - (2) 19世紀資本主義の諸特徴
6. 現代(20世紀)資本主義の諸特徴
7. 世界経済の連関と各国経済社会
8. 21世紀経済社会の展望

### 【評価方法】

成績評価は出席と定期試験の結果で行なう。

### 【テキスト】

資本主義のしくみ(八木紀一郎・宇仁宏幸著 ナツメ社)

## 国際経済事情

福澤直樹

### 【授業の概要】

外国系主要各紙、雑誌等の経済トピックスを毎週採り上げ、世界情勢を分析した上で日本経済がそれにどう対応していくかを考察する。

### 【授業計画】

1. 世界経済の主要トピックス
2. グローバル化と国際経済
3. 国際通貨制度
4. 国際金融システム
5. 世界の企業活動
6. 米国経済事情
7. ヨーロッパ経済事情
8. アジア経済事情
9. 世界経済の課題

### 【評価方法】

成績評価は出席と定期試験の結果で行なう。

### 【テキスト】

講義の際に指示する。

### 【参考文献・資料】

講義の際に指示する。

## プレゼンテーション

松田照美

### 【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、自己表現の基本技術と面談の効果的な仕方、資料・データなどによる演出について実践的に学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 プレゼンテーションを学ぶにあたって
- 第2回 ノンバーバル・コミュニケーション(1)
- 第3回 ノンバーバル・コミュニケーション(2)
- 第4回 効果的な言語表現(1)
- 第5回 効果的な言語表現(2)
- 第6回 対人接遇における印象管理
- 第7回 対人接遇のスキル自己紹介
- 第8回 コミュニケーションにおける資料提示の技術
- 第9回 対人接遇としてのプレゼンテーション
- 第10回 3P分析と戦略
- 第11回 企画と構成
- 第12回 プレゼンテーションの演出法
- 第13回 ビジネスプレゼンテーションの実践

### 【評価方法】

出席状況・小テスト・実習課題などによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プレゼンテーション(関根健夫監修 一橋出版)

### 【参考文献・資料】

パーフェクト・プレゼンテーション(八幡紘声史・生産性出版)

## 異文化トレーニング

寺本史子

### 【授業の概要】

異文化コミュニケーションの分野における基本的な概念を理解すると共に、異なる文化をどうとらえどのように接するのが望ましいかについて、いくつかの今日的な事例を取り上げて考察する。また、さまざまなトレーニングやコミュニケーションワークを通して適切な異文化コミュニケーション能力を養成する。

### 【授業計画】

1. なぜ今異文化コミュニケーションか
2. 文化・異文化とは
3. コミュニケーション・スキル
4. コミュニケーションのメカニズム
5. 言葉によるコミュニケーション(1)
6. 言葉によるコミュニケーション(2)
7. 非言語コミュニケーション
8. 見えない文化
9. 価値観と文化的特徴
10. 異なる文化のとらえ方・接し方
11. 異文化理解
12. 異文化との出会い
13. 異文化適応能力
14. 学期末試験

### 【評価方法】

レスポンスペーパー、学期末試験の成績、授業態度出席状況などから総合的に判断する。

### 【テキスト】

異文化トレーニング(八代京子他著 三修社)  
必要な関連資料については適宜授業中に配布

### 【参考文献・資料】

異文化コミュニケーション・ワークブック(八代京子他著 三修社)  
*Culture, Communication, and Conflict*  
(Gary R. Weaver編 Simon・Schuster Publishing)

## データ解析 I (2003 年度以前入学者対象)

小川一美

### 【授業の概要】

統計パッケージソフトを利用して、複雑で冗長なデータを適切に集約し、そこに含まれる情報について正しく解釈・推論する能力を身につける。具体的にはデータ解析の基礎的技法を習得することを目標とし、質的データと量的データのそれぞれについて、a) データの集約を適切に行えること、b) 変数の連関を数量的に検討できること、の2点を主な目標とする。

### 【授業計画】

1. イントロダクション
  - (1) データの概念とデータ解析の流れ
  - (2) データのコーディングと入力
2. 基本集計
  - (1) 度数分布を知る
  - (2) 基本統計量の算出：度数分布の数値要約
3. 2つの変数の関係
  - (1) 質的変数どうし ( $\chi^2$ 検定)
  - (2) 量的変数と質的変数 (t検定、一元配置分散分析)
  - (3) 量的変数どうし (相関係数)
4. SPSSによるファイル操作
  - (1) 新しい変数の作成
  - (2) 値の再割当
  - (3) 合成得点の算出

### 【評価方法】

単位認定試験の成績で評価する。

### 【テキスト】

SPSSでやさしく学ぶ統計解析第2版(室 敦子・石村貞夫著 東京図書)

## 心理検査法 I・II

清滝裕子 具志堅伸隆 難波久美子

### 【授業の概要】

- I：各種の心理検査についての基礎知識と実施方法を学ぶ。扱う心理検査は病院や公的機関で使われやすいものを予定している。
- II：心理検査法 I で習得した基礎知識と実施方法に基づいて実際に検査を実施し、結果を解釈し、臨床レポートを作成することで、心理診断の基礎を身につける。

### 【授業計画】

全体的オリエンテーションと心理検査の基礎について講義した後、以下の心理検査について学ぶ。3グループのローテーションで指導するため、以下に示した順番通りに進まないグループもある。

1. 知能検査 (1) WAIS-R 知能検査
2. 知能検査 (2) 全訂版田中ビネー式知能検査
3. 人格(性格)検査 (1) MMPI (ミネソタ多面人格目録)
4. 人格(性格)検査 (2) PF スタディ、YG 性格検査
5. 精神作業検査 内田クレベリン精神作業検査
6. 津守・稲毛乳幼児発達診断検査、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法

### 【評価方法】

出欠・授業態度とレポートで成績評価する。レポートは各検査毎に提出しなければならない。また、1回でも欠席したりレポート提出を怠ったりした場合は単位を認めない。

## データ解析 II

吉崎一人

### 【授業の概要】

データ解析 I に引き続き、統計パッケージソフト (SPSS 等) を利用したデータの分析について、実際にデータを処理しながら学ぶ。主に実験計画法に基づいて収集されたデータを分析する分散分析の扱い方について取り上げる。

### 【授業計画】

授業の内容は以下のようであるが、各単元に複数時間を当てることがある。

0. 記述統計の復習
1. 推測統計の考え方
2. 研究計画の進め方・実験計画法について
3. SPSSの基本操作の確認
4. 被験者間1要因計画
5. 被験者内1要因計画
6. 多要因計画と交互作用の意味
7. 被験者間2要因計画
8. 被験者内2要因計画
9. 2要因混合計画
10. その他の分析法
11. 期末テスト

### 【評価方法】

授業への参加態度と5回～6回のレポート提出と期末テストによる

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

心理学マニュアル要因計画法 [再版] (後藤宗理他編著 北大路書房)  
SPSSにおける分散分析の手順 [改訂版] (遠藤健治著 北樹出版)  
心理学のためのデータ解析テクニカルブック (森敏昭・吉田寿夫編著 北大路書房)

## 発達心理学 (2003 年度以前入学者対象)

坂田陽子

### 【授業の概要】

乳幼児期から児童期までの、知覚、運動、認知、社会性の発達の变化を概説する。特に多数の実験を紹介しながら、乳幼児の驚くべき能力や、乳児期から幼児期にかけての劇的な認知能力の変化について論じる。

### 【授業計画】

1. 発達理論と発達研究法
2. 乳児の知覚・運動
3. 乳児の模倣
4. 記憶の発達
5. 言語の発達 1
6. 言語の発達 2
7. 知識と熟達、方略とメタ認知
8. Piaget理論とその後 1
9. Piaget理論とその後 2
10. Piaget理論とその後 3
11. 共同注意・心の理論・感情理解
12. テレビと子ども

### 【評価方法】

定期試験と授業中に出す課題の提出状況による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

### 【テキスト】

実験で学ぶ発達心理学 (杉村伸一郎・坂田陽子編 ナカニシヤ出版)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に紹介・配布する。

## 組織心理学

松浦 均

### 【授業の概要】

組織心理学では、テーマとして「集団と組織の心理学」について講義する。授業では、基本的な心理学の内容を踏まえた上で、できるだけ社会の中の現場で実証された理論や知見を紹介する。学生諸君には、とくに産業組織場面、企業や行政組織に関する場面において生の現代社会の様相を切り取ってくる課題を与える。インターネットや図書雑誌を通して自分で情報を収集し、また現実社会を実感できる機会などを通して理解していくことを目標とする。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション (第1週)  
半年間の授業の進め方を説明する。また学習方法や学習目標を説明し、授業方法、成績評価方法なども説明する。組織の問題に関するビデオ視聴。
2. 集団と組織の心理学1「集団について」(第2週～第4週)  
組織問題についての概略説明。集団の意義と定義。人間関係と対人関係の定義。集合と集団の相違。集団の機能。公式集団と非公式集団。集団内コミュニケーション構造・ソシオメトリック構造。
3. 集団と組織の心理学2「組織について」(第5週～第7週)  
組織の定義と概念。現代の組織の特徴。組織の原則。組織内コミュニケーションの特徴と問題点。成員の選別と組織社会化。組織行動の統制。組織の改革。硬直化現象と革新指向性。イノベーション。
4. 集団に関する実験研究の紹介 (第8週～第9週)  
革新の過程：少数者が多数派に及ぼす影響。集団圧力、同調の過程。集団による課題解決、集団浅慮、リスクシフト。
5. リスクの心理学 (第10週～第13週)  
リスク心理学について概略説明とビデオ視聴。リスクの定義、リスク受容行動。リスクのイメージ形成要因とイメージ構造。リスク認知におけるバイアス。リスクに関するマスコミ報道の特質。リスクと災害、緊急時の人間行動

### 【評価方法】

出席 (30%) と期末テスト (70%) による。

### 【テキスト】

使用しない。プリントを配布する。

## 社会心理学 (2003 年度以前入学者対象)

小川一美

### 【授業の概要】

社会心理学における主要な理論・研究について概説する。これを通して社会的な行動や現象を理解するための基礎的知識を身につける。また、研究は1つの論文を発表して完結するものではなく、様々な研究者が問題点を指摘しあい、その問題点を解消するためにさらなる実験や調査を行うことで、蓄積されていくものである。本授業ではそうした研究の蓄積を意識しながら概説するため、研究を行う際の思考プロセスを理解できるようになることも目的とする。

### 【授業計画】

1. 社会心理学の方法
2. 社会の中の自己 (1)
3. 社会の中の自己 (2)
4. 対人認知 (1)
5. 対人認知 (2)
6. 対人関係の展開 (1)
7. 対人関係の展開 (2)
8. 社会的影響過程 (1)
9. 社会的影響過程 (2)
10. 集団行動 (1)
11. 集団行動 (2)
12. まとめ
13. 試験

### 【評価方法】

試験および受講態度により評価する。

### 【テキスト】

社会心理学キーワード (山岸俊男編 有斐閣双書)

## 生活ストレス論

植村勝彦

### 【授業の概要】

現代人の最新の関心事となっている「ストレス」について、心理学の立場から考察する。コミュニケーション行動との関連については、コミュニケーション行動がストレスを引き起こすストレスラー (ストレス源) となる場合もあれば、ストレスをもつ人へのソーシャル・サポート (社会的支援) として、コミュニケーション行動を有効に用いることも可能である。

### 【授業計画】

- 第1講 序章 導入
- 第2講 第1章 ストレス研究の歴史  
1節 医学におけるストレスの概念
- 第3講 2節 心理学におけるストレスの概念
- 第4講 第2章 心理的ストレスの測定  
1節 生活ストレスの研究
- 第5講 2節 生活ストレスの測定
- 第6講 3節 心理的ストレス反応の測定
- 第7講 第3章 ストレス対処行動  
1節 対処の概念
- 第8講 2節 対処の規定因
- 第9講 第4章 ソーシャルサポート  
1節 ソーシャルサポートの概念
- 第10講 2節 ソーシャルサポートの測定
- 第11講 3節 ストレスとソーシャルサポート
- 第12講 第5章 ストレス・マネージメント  
1節 パーンアウト現象
- 第13講 2節 ストレス・マネージメント

### 【評価方法】

学期末の単位認定試験により評価する。

### 【テキスト】

毎回配布するプリントにより講義・解説する。

## 視聴覚論

松尾貴司

### 【授業の概要】

人の知覚のメカニズムを理解すると同時に、視聴覚メディア、マルチメディア等と呼ばれるさまざまなコミュニケーションメディアの技術的特性を理解することによって、視聴覚メディアが人のコミュニケーションに及ぼす影響、およびその可能性について考える。

### 【授業計画】

1. 視覚のメカニズム
2. 聴覚のメカニズム
3. さまざまなメディアとその発達
4. 映像メディアの特質
5. 視聴覚機器の特徴とその活用
6. 行動研究における視聴覚機器の利用

各トピックスについて2～3回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう。なお、受講者が少数の場合は、視聴覚機器の操作に関する実習をおこなうことがある。

### 【評価方法】

授業への出席状況および学期末におこなう筆記試験により総合的に評価する。レポートの提出を課した場合はこれを加算する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 尺度構成法

斎藤和志

### 【授業の概要】

心理学の領域では質問紙によってデータを収集することが少なくない。社会的態度や性格特性を測定するための尺度や心理テストを構成する際には信頼性と妥当性の検討が必要となり、そのために因子分析といった統計的処理を行うことになる。本授業では、こうした尺度構成を行う場合に必要となる統計的な考え方とその技法、その後の尺度得点の扱い方と分散分析について学習する。

### 【授業計画】

講義とコンピュータを使用した実習を行う。各単元に複数時間をあてることがある。

1. オリエンテーション
2. 心理統計基礎の確認
3. SPSSの基本操作の確認
4. 尺度構成の基本的考え方と手続き
5. 因子分析と信頼性分析の考え方
6. 因子分析と信頼性分析の実際
7. 尺度得点の扱い方
8. 分散分析の考え方
9. 分散分析の実際

### 【評価方法】

授業への参加態度とレポート課題（複数回）および単位認定課題（試験）による。

### 【テキスト】

未定。

### 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 精神生理学（2003年度以前入学者対象）

沖田庸嵩

### 【授業の概要】

精神生理学はコミュニケーションといった社会心理行動を生理学的現象や法則に関連づけて研究する科学である。さまざまなテーマのもとで行われてきた研究を概観し、精神生理学のアプローチについて考える。

### 【授業計画】

1. はじめに
2. 自律神経系測定
3. 中枢神経系測定
4. 睡眠と夢
5. 注意
6. 認知
7. 心的負荷
8. 不安とストレス
9. バイオフィードバック
10. 虚偽検出
11. 障害児への応用
12. まとめ
13. 試験

### 【評価方法】

試験と出席状況により評価する。場合によってはレポートを課し加味する。

### 【テキスト】

使用しない。適宜プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

新生理心理学1・2・3（北大路書房,2001年）

## 脳のエイジング

清水 遵

### 【授業の概要】

胎児期から老年期までの脳の形態的变化、機能的变化を近年飛躍的に発達してきた脳の検索技法も含め概説する。

また、比較的これまで等閑視されてきた感情研究に焦点を当て解説し、痴呆高齢者の感情コントロール法についても考察する。

### 【授業計画】

1. 出生までの脳の発達
  - ・神経細胞の発達過程
2. 出生後の脳の発達
  - ・視覚系の発達
  - ・聴覚系の発達
  - ・味覚と嗅覚の発達
3. 脳の老化
  - ・老化の原因
  - ・生理的老化と病的老化
  - ・形態的变化と機能的变化
  - ・アルツハイマー病とパーキンソン病
4. 脳と情動のプロセス
  - ・情動体験と情動表出
5. 痴呆高齢者の感情コントロール法
6. まとめ

### 【評価方法】

学期末に行われる筆記試験の結果によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリント資料を配布する。

## 神経心理学

吉崎一人

### 【授業の概要】

「脳と行動」の関係の解明を目指す神経心理学の概説をする。特に、認知心理学的な視点から考察を中心とする。まず、基礎的な知識として（1）脳、特に大脳の基本構造論じ、（2）さらに神経心理学の研究法を論じ、（3）最後に大脳半球機能差（ラテラルリティ）について論じる。次に、重要な認知活動ごとに脳との関連について論じる。具体的には、脳とことば、脳と記憶、脳と物体の認知、脳と注意、脳と情動、脳と運動である。

### 【授業計画】

1. 認知を支える生理学的基礎
2. 神経心理学の研究法
3. ラテラルリティ：中間テスト
4. 物体認知と脳
5. 記憶機能と脳
6. 言語機能と脳
7. 注意機能と脳
8. 情動と脳
9. 脳機能の発達と可塑性
10. 脳と運動：期末テスト

### 【評価方法】

期末テスト、中間テストさらには実験への協力回数（ボーナス点）によって行われる。

### 【テキスト】

使用しない。授業毎にA4版の資料を配付する。



## 記憶と思考

川口 潤

### 【授業の概要】

認知心理学の基本となる「記憶」と「思考」を中心に講義する。現在のこれらの研究分野では、実験室的研究とともにそれらが日常の人間の生活とどのように関わっているかという生態学的妥当性 (ecological validity) を考慮することが当然の考えとなっている。本年は、そのような観点から、特に日常場面に関わる記憶と思考の問題を取り上げることによって、現代の認知心理学が何を解明しようとしているか、また我々の生活にそれらがどのように関わっているのかを考えていく。

### 【授業計画】

1. 心のイリュージョン：認知の歪みについて
2. 展望的記憶
3. 注意とヒューマンエラー
4. 行為の記憶
5. 自伝的記憶
6. 目撃証言
7. 記憶の歪み：フォルスメモリー
8. 潜在記憶：意識と記憶
9. 顔と名前
10. メタ記憶と感情
11. 思考と進化
12. まとめ

### 【評価方法】

随時のレポートおよび単位認定試験を総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

日常認知の心理学 (井上・佐藤編 北大路書房)  
情報処理の心理学 (多鹿・川口・池上・山 サイエンス社)  
現代の認知研究 (梅本堯夫監修・川口潤編 培風館)  
認知心理学2：記憶 (高野陽太郎 (編) 東京大学出版会)  
認知のエイジング (D.パーク・N.シュワルツ著 ロノ町・坂田・川口監訳 北大路書房)  
日常記憶の心理学 (G.コーエン著 川口潤 (訳者代表 サイエンス社)  
その他、授業中に指示をする。

## 表現行為の発達

坂田陽子

### 【授業の概要】

コミュニケーションを成り立たせる表現の問題に焦点を当てて、その発達を論ずる。ことばによる表現、ことばによらない身振りや手振りの表現、絵による表現の発達をそれぞれ取り上げ、子どもの豊かな表現行為の獲得を保障する条件とは何かについて考察を深める。また生涯にわたる表現行為の変化についても概説する。

### 【授業計画】

1. 生涯発達の变化を説明する理論
2. 「注意」をともなう表現行為 1 乳児期
3. 「注意」をともなう表現行為 2 幼児期
4. 「注意」をともなう表現行為 3 成人～高齢期
5. 「記憶」をともなう表現行為 1 乳幼児期
6. 「記憶」をともなう表現行為 2 成人～高齢期
7. 「知識」をともなう表現行為 1 乳幼児期
8. 「知識」をともなう表現行為 2 成人～高齢期
9. 「言語」をともなう表現行為 1 乳幼児期
10. 「言語」をともなう表現行為 2 乳幼児期
11. 「言語」をともなう表現行為 3 成人～高齢期
12. 日常生活の表現行為の変化

### 【評価方法】

定期試験と授業中に出す課題の提出状況による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

### 【テキスト】

認知のエイジング (ロノ町康夫・坂田陽子・川口潤監訳 北大路書房)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に紹介・配布する。

## 生体情報学

田丸政男

### 【授業の概要】

生体は外界の情報を感覚刺激として受容し処理する。これらの生体情報処理の中核として、脳は最も重要な働きを担っている。生体情報学では脳に入力された情報が如何なるメカニズムで知覚・認識・学習・記憶・情緒などの反応を生じるかについて、神経生理学のおよび神経化学的な手法で明らかにする。

### 【授業計画】

- 第1回 脳の情報処理の概要
- 第2回 神経の興奮伝導とシナプス伝達
- 第3回 脳の構造 I 大脳皮質
- 第4回 脳の構造 II 大脳辺縁系
- 第5回 脳の構造 III 視床・視床下部
- 第6回 反射
- 第7回 意識と睡眠
- 第8回 情動行動
- 第9回 学習と記憶
- 第10回 言語機能
- 第11回 視覚の情報処理
- 第12回 聴覚の情報処理
- 第13回 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

(現在検討中)

### 【参考文献・資料】

「わかる脳と神経」羊土社 99年

## ことばの発達と障害

二宮 昭

### 【授業の概要】

人間のことばによるコミュニケーション行動に関して、それは一体どのような過程を経て発達してくるのか、また、その障害はそのような場合にどのようなかたちで現れ、それを改善していくにはどうすることが重要であるか、ということを通して、人間にとってことばのもつ意義を考える。

### 【授業計画】

- 第1～6回 「ことば」の発達
  - 1) 原初的コミュニケーションー「ことば」の発達の基盤
  - 2) 語と文の発達
  - 3) 言語的現実の自覚の発達ー3歳児はなぜしりとりができないのか
- 第7～12回 「ことば」の障害
  - 1) 自閉症児の「ことば」
  - 2) 知的障害児の「ことば」
- 第13回 試験

### 【評価方法】

学期末に行う筆記試験による。

### 【テキスト】

使用しない。適時参考資料を配付する。

## 動物のコミュニケーション

松尾貴司

### 【授業の概要】

ヒト以外の動物が示す様々なコミュニケーション行動の特徴を動物行動学の知見を基に概観し、ヒトにおけるコミュニケーションと比較しながら、コミュニケーションの生物学的な基礎について論じる。

### 【授業計画】

1. 運動パターンと動機づけ
2. 動物のコミュニケーションとは
3. コミュニケーションの研究手法
4. コミュニケーションと情報
5. コミュニケーションと環境
6. コミュニケーションの進化

各トピックスについて1～2回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう。

### 【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合これを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

動物のコミュニケーション行動のしくみから学習の遺伝子まで  
(T.R.ハリディ、P.J.B.スレイター編 西村書店)

## 放送メディア論

遠藤雄久

### 【授業の概要】

多メディア化、多チャンネル化、更には国際化の趨勢のなかで、放送システムとりわけテレビ放送の地位は大きく揺らぎ、新しい対応を迫られている。本講義は、テレビ放送を中心にして、放送の「公共性」に焦点を当て、その過去、現状を日本、欧米やアジアの放送制度を比較しつつ考察する。

### 【授業計画】

- (1) 「公共性」とは何か
- (2) アメリカ、イギリス、ドイツなど欧米の送制度の歴史と現状を分析する
- (3) 日本の放送誕生時期にさかのぼり放送の公共性がどうとられてきたかを考える
- (4) 日本のテレビ放送の現状を公共性という点から見つめ直す
- (5) 韓国の最近のテレビ放送制度の変革について解説しその意義を考える
- (6) グローバル化した現代のなかでの放送のあり方を、インターネット放送なども含めて考察する

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績を総合して判断する

### 【テキスト】

使用せず

### 【参考文献・資料】

授業のなかで適時資料を配付し、参考文献も紹介する

## マン・マシン・インタラクション

新美明夫

### 【授業の概要】

コンピュータテクノロジーの浸透は個人のまわりにあるさまざまな機器を知的化し、人間との疑似的コミュニケーションを可能にした。現代において人々はさまざまな場面でこれらの機器と向き合わざるをえない。本講義では個人がこれらの知的機器と対面する際の諸問題について考察する。

### 【授業計画】

1. 人間と機械の関係  
人間のもつ機能の延長としての機械/機械の用途の変遷/機械との情報交換の歴史/2つのインタフェース
2. 機械を使ったコミュニケーション  
コミュニケーション・チャンネル/対面コミュニケーションとメディア  
コミュニケーション/メディアコミュニケーションの実験的研究/インタフェースとしてのメディア
3. コンピュータの発達とユーザ層の拡大  
コンピュータの歴史/ユーザの構成の変化/ヒューマン・インタフェース
4. 見えないコンピュータとのインタラクション  
個人所有の機械とのインタラクション/公共の機械とのインタラクション
5. 見えるコンピュータとのインタラクション  
OSのユーザインタフェース/出力インタフェース/入力インタフェース/  
日本語とコンピュータ

### 【評価方法】

単位認定試験の成績で評価する。

### 【テキスト】

使用しない。資料を随時配布する。

## カウンセリング

清滝裕子

### 【授業の概要】

心理療法の一つとして、日本で広く知られている“カウンセリング”。その理論や歴史について学ぶだけではなく、さまざまなカウンセリング技法についても触れ、簡単な実習を加えながら授業をすすめていく。また、カウンセリング事例やさまざまな問題点も扱うことによって、カウンセリングの実践的な部分についても扱っていききたい。

### 【授業計画】

1. カウンセリングとは
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの理論と人間観
4. カウンセリングの基本的態度
5. 共感的理解とは
6. カウンセリングの技法
7. カウンセリングの実際
8. カウンセリングにおける諸問題

### 【評価方法】

成績評価はおもに期末試験の結果でおこなう。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業中に提示する。

## 児童臨床

西出隆紀

### 【授業の概要】

不登校をはじめとする情緒障害、自閉症や学習障害などの発達障害、低出生体重児などハイリスク児の発達の問題やひきこもり・摂食障害など、思春期までの心の問題を取り上げ、そのような子どもたちをどう理解し、彼らとどう関わっていくかを解説したい。

### 【授業計画】

1. 子どもと症状・問題行動
2. 発達障害 自閉症、学習障害、精神発達遅滞など
3. 情緒障害 神経性習癖、非社会的行動、反社会的行動、心身症
4. 児童精神病 (子どもの抑鬱を含む)
5. 思春期の問題行動
6. ハイリスク児の心理臨床
7. 遊戯療法について Klein, M.の遊戯分析、Freud, A.の児童分析  
Axline, V.M.の児童中心療法、Allen, F.の関係療法、Moustakas, C.E.の制限設定

### 【評価方法】

成績は出席を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可 (コピーを持ち込んだ場合は失格) とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

## 専門演習 I

植村勝彦

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

コミュニティ心理学が対象とする社会問題について、ゼミ生の討論に基づいてテーマを決め、共同研究を行う。夏のゼミ合宿までに面接データを収集し終え、そのまとめ方をゼミが宿で討論する。

また、前期のうちから、各自の研究テーマを模索しておかないと、なかなか卒論のための問題意識が定まらないという経験的現実から、後半には毎回個人発表を行う。

### 【評価方法】

毎回の演習への出席と、個人発表、さらには授業での取組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に使用しない。必要なものは資料として配付する。

## 精神医学 (2003 年度以前入学者対象)

古井 景

### 【授業の概要】

人間の精神現象を扱い、治療していくために必要な、生物学的・心理学的の方法論を論じ、多角的な視野を持って精神症状を把握する必要性を説く。又、具体的な各精神疾患の事例を織り交ぜながら、力動的な精神医学の観点から症状をどう理解し、患者とのコミュニケーションを通してどのように治療をしていくかを解説していく。

### 【授業計画】

1. 力動的な精神医学的理解
  - ・自我機能
  - ・精神力動
  - ・人格構造論
2. 従来の疾病分類 (記述精神医学)
  - ・内因性精神病
    - 精神分裂病 (破瓜型、妄想型、緊張病型、単純型)
    - 躁鬱病、うつ病
    - 非定型精神病 (錯乱精神病)
  - ・外因性精神病
    - 器質性精神病
    - 症状性精神病
    - 中毒性精神病
  - ・心因性精神病
3. 近年の疾病分類 (生物学的精神医学)
  - ・ICD-10 (WHO 疾病分類)
  - ・DSM-IV (アメリカ精神医学会)
4. 大脳生理学的理解
  - ・脳内神経伝達物質
  - ・画像診断
5. 治療の実際 (事例を呈示して)

### 【評価方法】

レポート提出によって判定する。資料・参考図書などをそのまま写したものは評価に値しない。授業を通して理解した、知識に基づき自分の言葉で文章を作成すること。レポートに関しては厳しく評価し、内容が不十分な者に対しては再提出を課す。

### 【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

## 専門演習 I

遠藤雄久

### 【授業の概要】

次々に新しいメディア技術が出現し、情報があふれる社会にあつて、マス・メディアのジャーナリズム性はどんどん衰退しつつある。あるいは、グローバル化の進展のなかでナショナリズムに傾斜していく傾向も出てきている。一方で、オルタナティブ (対抗的) なメディアを目指す動きも活発化してきている。この授業では、このようなマス・メディアの現状をジャーナリズムの視点から批判的に考察することを目的とする。

### 【授業計画】

- (1) 関連するテキストを読み、マス・メディアとジャーナリズムのあり方について考える
- (2) 適時、実際の新聞記事やテレビニュースを材料にジャーナリズムの現状を分析する
- (3) 日本を含め各国のオルタナティブを目指すメディアを調査しその意図や内容を分析する
- (4) 上記の作業をしながら受講生相互の間で活発な討論を行う

### 【評価方法】

授業のなかでのテーマに対する熱意、討論への参加の活発性などをみて評価する。テストなどは行わない

### 【テキスト】

未定。

### 【参考文献・資料】

授業のなかで適時指摘・紹介する。

## 専門演習 I

小川一美

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

社会心理学研究の研究手法、分析手法、データの読み取り方、論理的な思考を習熟するために、対人社会心理学に関する研究論文などの文献を講読する。各回、レポーターが発表をし、全員で討論を行うという形式である。

### 【評価方法】

出席状況、レポーターおよび討論時の取り組み態度などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

文献や資料などについては、適宜指示する。

## 専門演習 I

沖田庸高

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

まず、事象関連脳電位（ERP）研究の基礎と研究テーマを解説する。ついで、各自の興味にしたがって国内外の雑誌から論文を選び、その要旨を発表し、ゼミ全体で討論する。

### 【評価方法】

課題への取り組み、発表・討論、出欠により評価する。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じ資料を配布する。

## 専門演習 I

後藤秀爾

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

- 1) 自己理解のためのワーク
- 2) ボランティア活動の経験
- 3) 関連の文献講読

この3つの活動が授業の柱となる。

1) は、授業時間内にボディワークを中心に行なう。無意識のうちに身につけている身構えや、人のかかわり方の癖などについての自己理解を深める。

2) は、各自で心理臨床に関連するボランティア活動に参加した経験を、授業内で交流する。体験したことを文章化して他者に伝える努力は、感情を理性化して内省的自己を育てるための大切な作業である。

3) は、1) 2) の活動を通して生まれる問題意識にそって進める自己学習の成果を、授業内で報告する形をとる。各自に必要な文献を探すためのアドバイスは、個別に行なう。

この授業を通して、「時代のニーズを知ること」「自分自身を知ること」「心理臨床の基本を知ること」を、それぞれに目指してもらえれば幸いである。

### 【評価方法】

授業への参加状況（出席回数だけのことではない）と、期末に出す課題レポートの結果による。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業の流れの中で指示する

## 専門演習 I

斎藤和志

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

1. 社会心理学的研究法
2. 社会心理学論文講読
3. 研究課題の明確化

### 【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

### 【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

### 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 専門演習 I

坂田陽子

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

1. 実験計画法についての講義
2. 卒業論文のテーマを大まかに絞る
3. 各自興味のあるテーマにそった先行研究の集め方を学ぶ
4. 各自興味のあるテーマにそった先行研究を講読する
5. 先行研究の要旨の発表

### 【評価方法】

出席状況、論文講読状況および発表内容等から判断する。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。

## 専門演習 I

清水 遼

### 【授業の概要】

専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

生体内外の情報のコミュニケーション過程で生じる様々な反応のうち、行動に直接変化をもたらす感情的プロセスを精神生理学的観点から考察していく。

### 【授業計画】

精神生理学に関する基礎的知識の習熟のため、入門的な内外の書籍を講読し、適宜配布プリント等を用い、解説を加える。

- (1) 精神生理学における実験計画
- (2) 神経系の電気生理学的指標
- (3) 神経内分泌指標
- (4) 精神神経免疫学的指標

### 【評価方法】

出欠および授業への積極的参加度で評価する。

### 【テキスト】

特に指定せず、適宜配布するプリント等を用いる。

## 専門演習 I

新美明夫

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

社会心理学的な観点からメディアコミュニケーションを扱った基本的な文献の輪読を行う。毎回、指定されたレポーターが発表を行い、参加者全員での討論を通して、互いに知識を深めていく。

### 【評価方法】

毎回の個人発表の内容、および、適宜提出を求めるレポートにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。授業内で取り上げる文献については、適宜指示する。

## 専門演習 I

西出隆紀

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション 感受性訓練（運動場で実施）
2. 事例研究論文講読 神経症、不登校、摂食障害、自閉症、統合失調症などの症例の論文を読んでレジメにまとめ、レポーター形式で討論する。各症例の発症メカニズムや治療方針等を検討する。
3. 体験実習 箱庭療法体験、コラージュ療法体験、催眠療法体験などを通じて、心理臨床実践への体験的理解を深める。

なお、2、3の内容は毎週交互に行われる。箱庭療法体験などは授業時間外にも箱庭作成等のための時間が必要となる。

また、授業時間枠とは別に情緒障害児短期治療施設での臨床実習を泊まり込みで行う予定である（5泊6日）。臨床現場の厳しさを肌で感じ、1人の子どもに真剣に関わり、その生き方を考え、ケースレポートをまとめてケースカンファレンスに臨む。それによって、心理臨床の本当の難しさを体験することになる。また、実習に先立って、夏期休業中に事前学習を行う。

### 【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

【備考】 症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

## 専門演習Ⅰ

二宮 昭

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

1. 論文講読  
ことばの獲得と障害、障害児の発達援助、少数事例からのデータ収集の方法に関する文献を担当者がその内容を報告し、それに基づいて討論する。
2. 体験実習  
からだを使った様々な課題を通して、からだところの結びつき、コミュニケーションの基盤としてのからだのもつ意義などを体験する。

### 【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

## 専門演習Ⅰ

古井 景

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

力動精神医学、力動的心理療法、心身医学などの立場から、毎回担当者を決め課題発表を行っていく。参加者全員での討論を通して、互いに知識を深めていきたい。

### 【評価方法】

知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。

## 専門演習Ⅰ

松尾貴司

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

1. ノンバーバル行動に関する実験実習  
2～3のグループに分かれ、ノンバーバル行動をテーマとした実験をおこなう。グループごとに、関連する文献の紹介、実験計画の立案・実施、結果について報告し、全員で討論する。実施した実験については各個人でレポートを作成する。
2. 各自の研究テーマの明確化および研究論文の紹介  
4年次の卒業論文に向けて、各自の具体的な研究テーマを報告する。報告にはレジメを用意し、研究テーマの概略と関連する研究論文を紹介する。進行状況によっては、夏期休業中に自主補講をおこなうことがある。

### 【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

## 専門演習Ⅰ

吉崎一人

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

1. クリティカルシンキング
2. 実験計画法
3. 実験論文の購読（邦文）
4. 資料収集の方法
5. 実験論文の購読（英文）

### 【評価方法】

実験レポートの内容と授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## 専門演習Ⅰ

米倉五郎

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

心理アセスメントは、クライアントにはどのような問題と苦悩を抱え、どんな心理療法を求め必要としているかを見立て理解する臨床心理学的な面接技法である。また心理面接では、どのような技法を用いようとも、面接と対話による問答法である。すなわち、面接し対話することに治療的な要因があると考えられる方法である。したがって、心理療法は実践であり、その技法を習得するためには、自分の身体にその技法のコツをのみこませなくてはならない。聴き方、話し方などの言語的コミュニケーションとともに、非言語的コミュニケーションも大切なものである。実習講義では、初回面接のロールプレイング（二人一組の役割演技）による実習により、心理アセスメントや見立てを実際的に理解できる体験学習をする。

### 【評価方法】

作成されたレポートと授業への参加態度から評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

### 【参考文献・資料】

参考文献はその都度提示する。

## 専門演習Ⅱ

植村勝彦

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

各自の卒論のための研究テーマの発表を主体とする。また、夏期ゼミ合宿でまとめ方を検討した共同研究について、報告書を作成する作業を行い、出版する。

### 【評価方法】

毎回の演習への出席と、個人発表、さらには授業での取組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

特には使用しない。必要なものは資料として配付する。

## 専門演習Ⅱ

遠藤雄久

### 【授業の概要】

前期の演習を受けて、さらに授業テーマを深化させ、各受講生ごとに卒業論文のテーマを発見できるよう指導する。授業は学生の調査や研究の発表を中心に、各学生に共通したテーマについての文献講読を行うことで進めていく。

### 【授業計画】

- (1) 論文を書くとはどんなことか
- (2) 論文を書くためにどんな準備が必要か
- (3) 参考文献、引用資料・文献はどのようにして集めるか
- (4) 各人の研究テーマについての発表と指導
- (5) みんなに共通したテーマをあつかったすぐれた論文の講読

### 【評価方法】

平常点で判定する

### 【テキスト】

使用しない

### 【参考文献・資料】

授業のなかで配布する

## 専門演習Ⅱ

小川一美

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

下記のような流れで研究を進めていくが、各回、交代で自分の研究の進行状況を報告し、全員で討論を行う。

1. 各自の関心をもとに、先行研究の講読
2. 研究課題の明確化
3. 研究計画の立案

### 【評価方法】

出席状況、レポーターおよび討論時の取り組み態度などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

資料などは、適宜指示する。

## 専門演習Ⅱ

沖田庸高

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

各自が卒業研究に向けてテーマを明確化し、それに関わる先行研究の概略および研究計画を発表し検討する。後半は、研究テーマに応じてグループをつくり、グループ単位で予備実験を行い、ERP測定に習熟するとともに予備データを収集する。

### 【評価方法】

課題への取り組み、発表・討論、出欠により評価する。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じ資料を配布する。

## 専門演習Ⅱ

斎藤和志

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究手法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

1. 社会心理学論文講読
2. 研究課題の明確化
3. 研究計画の立案

### 【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

### 【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

### 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 専門演習Ⅱ

後藤秀爾

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に向けて、問題意識を明確にし、主題を絞り込むと同時に、研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

- 1) 自己理解のためのワーク
- 2) ボランティア活動の経験
- 3) 関連の文献講読

前期に引き続き、この3つの活動が授業の柱となる。

1) は、心理査定や投影法の基礎的な技法や考え方をを用いて、自己理解と他者理解の表裏一体性への気づきを深める。

2) は、前期のボランティア経験を継続しつつ、個別の事例を理解することに焦点を移していくことを期待したい。

その視点でレポートを作成し、授業内で報告する。

3) は、さらに問題意識を絞り込んで、特定のテーマについての文献学習を進める。2) の活動と結びつような学習ができるとうい。

この授業を通して、「時代のニーズを知ること」「自分自身を知ること」「心理臨床の基本を知ること」をさらに深めることはもとより、年度の終わりには卒業研究につながる論文を完成させる。

### 【評価方法】

授業への参加状況（出席回数だけのことではない）と、学期末に提出する1年間の成果をまとめたレポートの結果による。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業の流れの中で指示する

## 専門演習Ⅱ

坂田陽子

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

1. 各自興味のあるテーマにそった先行研究の講読および発表
2. 先行研究から問題点を見つける
3. 卒業論文の問題・目的を絞る
4. 卒業論文の実験計画を立てる
5. 幼稚園や老人ホームでの実験実習

### 【評価方法】

出席状況、論文講読および発表状況、実験計画、実習への積極的参加・協力等から判断する。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。



## 専門演習Ⅱ

清水 遵

### 【授業の概要】

4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

生体内外の情報のコミュニケーション過程で生じる様々な反応のうち、行動に直接変化をもたらす感情的プロセスを精神生理学的観点から考察していく。

### 【授業計画】

感情体験と深く関係したトピックスについて内外の論文を広く講読し、それらを参考にして各自が選択した研究テーマとそれに関する論文についてレポーター形式で発表、討論を重ねる。3年次終了までには自己の研究テーマを具体化し、生理学的手法を取り入れた実験計画が立案できるよう方向づけを行う。

### 【評価方法】

授業への積極的参加度、レポート評点など総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜配布するプリント等を用いる。

## 専門演習Ⅱ

新美明夫

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

各自の関心テーマにしたがって、いくつかのグループに分かれ、予備的な研究を行うとともに、研究の一連の流れや方法論を身につける。グループによる作業は、おおよそ次のような過程をたどる。授業では、それぞれの段階での成果を発表し、全員で検討を行う。

1. 問題意識の明確化と研究目的の具体化
2. 研究方法の検討
3. データの収集と分析
4. 結果の考察と研究レポートの作成

### 【評価方法】

毎回のグループ発表の内容と、提出された研究レポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。必要な参考文献は適宜指示する。

## 専門演習Ⅱ

西出隆紀

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

#### 1. 論文講読

「Family Process」等の家族心理学関係の研究誌に掲載された論文を中心に、広く家族心理学・家族臨床に関わる論文にふれ、研究論文の読み方・書き方を学ぶ。

#### 2. 体験実習

ミニ試行カウンセリング、解決志向型短期療法のロールプレイ等を行い、体験的に心理療法を理解していく。また、実際のケースのビデオを見て、模擬ケースカンファレンスなども行い、症例に対する見立ての仕方などについても学ぶ。

### 【評価方法】

出欠と授業態度、提出されたレポートをもとに評価する。

#### 《備考》

症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

## 専門演習Ⅱ

二宮 昭

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

#### 1. 研究方法の検討

個人もしくはグループで関心のある研究テーマを選び、それを具体化するための研究方法について報告し、討論を通して検討する。

#### 2. 予備研究の実施

検討した研究方法に従って、予備研究を実施する。その結果についてレポートにまとめ、報告する。

### 【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

## 専門演習Ⅱ

古井 景

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

力動精神医学、力動的心理療法、心身医学などの立場から、毎回担当者を決め課題発表を行っていく。力動論的見地から様々な出来事の背景要因を探っていく。このための研究方法を様々な方法論を屈指して見つけていく。

### 【評価方法】

知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。

## 専門演習Ⅱ

松尾貴司

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

1. 各自の研究テーマに基づいて、予備的研究のための具体的な研究方法（実施可能な手続き）を報告し、全員で検討する。
2. 予備研究を実施し、その結果を報告する。この予備研究については、全員が個人で論文形式のレポートを作成し学期末に提出する。レポートの形式・内容について、後期授業終了後に個別に指導する。

### 【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

## 専門演習Ⅱ

吉崎一人

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

1. 研究テーマの説明
2. 実験の立案
3. 課題の作成
4. 実験実施
5. データ分析
6. レポートの書き方

### 【評価方法】

プレゼンテーションの内容、授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## 専門演習Ⅱ

米倉五郎

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

心理療法の学習では、フロイトの精神分析的な心理療法を中心として、ロジャース、ユング、サリヴァン、クライン、ウイニコットなどの心理治療と人格理論のエッセンスを講義する。また思春期から青年期、成人期の事例を報告しながら、クライアントの人格発達の病理とともに成長の過程、家族療法や集団心理療法についても講義する。実習講義では、心理面接の佳境期でのロールプレイングにおける、転移と抵抗および逆転移と逆抵抗などについてのカウンセリングの技法、態度、自己理解について、体験的な学習をする。

### 【評価方法】

作成されたレポートと授業での参加態度から評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて指示する。

### 【参考文献・資料】

参考文献はその都度提示する。

## 専門演習Ⅲ

植村勝彦

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

3年次までに確定した各自のテーマに従って、面接や調査の項目を作成し、対象者を得て、実施・分析・論文作成に至るまでの全過程について指導・助言する。

毎回個人発表を行い、進捗状況に応じた助言・指導を行うが、とくに面接・調査の質問の構造の完成までの段階に全力を注ぐ。

### 【評価方法】

毎回の演習への出席と個人発表、さらには授業での取り組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

## 専門演習Ⅲ

小川一美

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

専門演習Ⅱに引き続き、下記のような流れで各自、積極的に卒業研究を進めていく。毎回、交代で自分の研究の進行状況を報告し、全員で討論を行う。

1. 研究計画の立案
2. 実験や調査などを通してデータの収集
3. データ分析

### 【評価方法】

出席状況、研究への取り組み状況などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

資料などは、適宜指示する。

## 専門演習Ⅲ

後藤秀爾

### 【授業の概要】

学生が各自設定した研究テーマに沿って、問題意識の整理、必要な文献の購読、研究方法の選定、考察の方向性などについて、指導・助言を行なう。

### 【授業計画】

必要に応じて報告会などを行なうほか、卒業論文の作成に向けて個別に指導を行なう。

学期末にはゼミ生全員で、卒業研究に向けての中間報告会を行なう。

### 【評価方法】

報告会でのレポートの完成度とプレゼンテーションの仕方などを考慮して、研究に取り組む姿勢を中心に評価する。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献・資料】

研究に必要なものを個別に指導する。

## 専門演習Ⅲ

斎藤和志

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

1. 研究課題の明確化
2. 研究計画の立案
3. 実証的データの収集

### 【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

### 【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

### 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 専門演習Ⅲ

坂田陽子

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

1. 卒業論文の方法部分の検討・推敲
2. 卒業論文の実験計画の明確化および序論と方法部分の執筆
3. 卒業論文の実験の実施

### 【評価方法】

出席状況、発表態度、発表内容の進展、卒業論文作成における計画性等から判断する。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。

## 専門演習Ⅲ

清水 遵

### 【授業の概要】

学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

以下の研究テーマのうち、同領域のテーマをもつ4～5人を1グループとし、グループ単位で研究指導する。

1. 環境刺激の感情に及ぼす影響
2. パーソナリティ特性がストレス反応に及ぼす影響
3. 高齢者の感情コントロール法の評価
4. その他

### 【評価方法】

研究に取り組む姿勢により、評価する。

## 専門演習Ⅲ

新美明夫

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

3年次の専門演習Ⅰ・Ⅱを通して検討してきた各自の関心テーマにしたがって、必要十分なデータを収集・分析し、最終的に卒業論文として結実させる。

4年前期に行われる専門演習Ⅲでは、すでに行った予備的な研究の成果をもとに、質問紙調査や面接調査など各自のテーマに適切な研究方法を用いて、データ収集の実施が可能となるまで、各自の研究計画をブラッシュアップする。

授業では、毎回個人発表を行い、各自の進捗状況を報告し、参加者全員での討論を通して、研究計画を完成させていく。

研究計画の完成した者から順次、データ収集の実施を許可する。

### 【評価方法】

毎回の個人発表の内容と、提出された研究計画により総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 専門演習Ⅲ

西出隆紀

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

1. 卒業論文指導 卒業論文の作成に向けて、各自が興味を持つ内容に関する論文をレポーター形式で発表してもらい、討論をする。その後、それぞれが卒業論文作成の進行状況をまとめて報告し、参加者全員（3年ゼミ生を含む）で問題点などを討議しつつ、よりよい論文作成を目指す。おおそ各自の発表は以下の過程をたどることになる。
  - a. 問題意識と研究目的の検討
  - b. 研究方法の検討
2. 体験実習（投影法実習） 投影法を中心に心理臨床、特に病院臨床分野に必要な検査の実習を行う。扱う投影法は、Rorschach法、TAT（主題統覚検査）、各種描画法（動的家族画、Baum test、風景構成法など）で、まず各自が実際にテストとなり検査を受ける。その後、各検査の理論的背景、実施法、解釈法などについて説明し、臨床データをもとにスコアリング、解釈を実践する。そして、最終的には自分のデータをまとめて自己理解を深めることになる。

### 【評価方法】

出席と授業態度を中心にして成績評価する。

【備考】 症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

## 専門演習Ⅲ

二宮 昭

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

1. 研究テーマおよび研究方法の確定  
専門演習Ⅰ・Ⅱで検討してきたことを基に、各自の研究テーマを確定させる。また、そのテーマに従い、実験や調査などの研究方法を具体化させる。原則として、毎回交代で個人発表を行い、全員で討論することを通して、その作業をより確実に、より内容あるものとするようにする。
2. 研究の実施（データの収集）  
夏休みまでに、実際にデータを収集し、分析するという作業を進める。9月のゼミ合宿で進行状況をまとめて報告する。

### 【評価方法】

発表の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

## 専門演習Ⅲ

古井 景

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

参加者全員で文献講読・討論をおこない、各自の知識を現実的に応用可能なものへと深めていく。

### 【評価方法】

各自の参加意欲・態度を中心の評価する。受け身的な参加では評価されない。

### 【テキスト】

使用せず。

## 専門演習Ⅲ

松尾貴司

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

1. 各自の研究テーマに関わらず、最新の心理学論文（和文・英文）を紹介し、全員でそのテーマについて論議する。
2. 専門演習Ⅱで実施した予備研究の結果に基づいて、各自の研究テーマおよび具体的な研究方法を修正し、最終的な方法を決定する。これに基づいてデータを収集し、その結果を報告する。

### 【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

## 専門演習Ⅲ

吉崎一人

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

卒業研究の完成をめざし、個々に指導する。  
実験計画、並びに結果についてプレゼンテーションの行い、その内容について議論する。

### 【評価方法】

プレゼンテーションの内容、授業への取りくむ姿勢を総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## 専門演習Ⅲ

米倉五郎

### 【授業の概要】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

### 【授業計画】

4年次の前期では学年各自が卒業論文のテーマを特定することになる。卒業研究の対象と方法では、臨床面接法による事例研究を中心としながらも、自己分析法、調査法、文献、資料、およびそれらを組み合わせたものなど、さまざまなアプローチを選択できる。臨床事例研究（精神障害、不登校、虐待、非行、児童期・思春期・青年期）および研究方法（臨床面接法、調査法、文献など）において共通する3・4名のサブグループを作り、グループ別での検討と発表も活用しながら、各自の研究テーマを決定していく。

### 【評価方法】

発表の内容や討論への参加態度、および学外での心理臨床のボランティア活動の内容より評価する。

### 【テキスト】

その都度指定する。

### 【参考文献・資料】

必要な文献と資料を配布する。

## 専門演習Ⅳ

小川一美

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

下記のような流れで卒業研究を完成させる。

1. データ分析
2. 卒業論文の完成
3. 卒業研究に関するプレゼンテーション

### 【評価方法】

卒業研究への取り組み状況、完成度などから総合的に判断する。

### 【テキスト】

資料などは、適宜指示する。

## 専門演習Ⅳ

植村勝彦

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。とくに、面接、調査などで得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

夏休みに提出を求めた卒業論文の「問題」および「方法」の下書きに対して、個別に指導することを皮切りに、適宜個別および全体指導を行い、11月中旬の中間発表、12月初旬の論文全部の下書き提出に基づく個別添削指導と順序を踏んで卒業論文の完成・提出に導く。

### 【評価方法】

毎回の演習への出席と個人発表、さらには各段階での下書き内容などの取組への姿勢等を加味して、総合的に評価する。

## 専門演習Ⅳ

後藤秀爾

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言・指導を行なう。体験記録を含め、調査・面接・心理検査的手法などによって得られた情報を、卒業論文のためのデータとしてどのように生かすかを中心に、個別的な指導を行なう。

### 【授業計画】

必要に応じて適宜報告会を行なうほか、テーマの絞込み、問題意識の整理、研究方法の選択、結果の整理と考察の方向性などについて、個別に指導・助言を行なう。

### 【評価方法】

指導過程を考慮して、完成論文の内容により評価する。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて個別に指示する。

## 専門演習Ⅳ

斎藤和志

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

1. 研究計画の立案
2. 実証的データの収集
3. 研究論文の作成

### 【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

### 【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

### 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 専門演習Ⅳ

坂田陽子

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

1. 卒業論文のための実験実施
2. データ分析
3. 卒業論文の結果及び考察部分の作成
4. 卒業論文の完成

### 【評価方法】

出席状況、卒業論文作成における計画性、考察力、完成度等から判断する。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。

## 専門演習Ⅳ

清水 遵

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

以下の研究テーマのうち、同領域のテーマをもつ4～5人を1グループとし、グループ単位で研究指導する。

1. 環境刺激の感情に及ぼす影響
2. パーソナリティ特性がストレス反応に及ぼす影響
3. 高齢者の感情コントロール法の評価
4. その他

### 【評価方法】

研究に取り組む姿勢により、評価する。

## 専門演習Ⅳ

新美明夫

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

4年前期の専門演習Ⅲに引き続き、各自の関心テーマにしたがって、必要なデータを収集・分析し、最終的に卒業論文として結実させる。

各個人の進捗状況にしたがって、データの収集・コーディング・入力・分析作業を順次行う。

授業では、データの分析方法の解説を行う一方で、各自の進捗状況を毎回報告しあい、励まし合うとともに自己の進捗を客観的に確認する。

11月より、順次中間発表を行い、参加者全員での討論を行う。中間発表を終了した者から、卒業論文の下書き提出を許可し、添削指導を行う。

### 【評価方法】

毎回の個人発表の内容と、提出された卒業論文により総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 専門演習Ⅳ

西出隆紀

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

1. 卒業論文指導 卒業論文の作成に向けて、各人が興味を持つ内容に関する論文をレポーター形式で発表してもらい、討論をする。その後、それぞれが卒業論文作成の進行状況をまとめて報告し、参加者全員（3年ゼミ生を含む）で問題点などを討議しつつ、よりよい論文作成を目指す。おおよそ各自の発表は以下の過程をたどることになる。
  - a. 結果と考察の検討
  - b. 論文提出前の全体的検討
  - c. 卒業論文の発表
2. 体験実習（投影法実習） 投影法を中心に心理臨床、特に病院臨床分野に必要な検査の実習を行う。扱う投影法は、Rorschach法、TAT（主題統覚検査）、各種描画法（動的家族画、Baum test、風景構成法など）である。最終的には各自がテストィーに対し、投影法を実施し解釈する。

### 【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

【備考】 症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

## 専門演習Ⅳ

二宮 昭

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

1. 研究結果の分析・検討  
講義や討論を等して、各自が行った研究結果をどのようにまとめたらよいかについて検討する。
2. 卒業論文の作成  
各自の研究を卒業論文としてまとめるための個別指導を行う。11月中旬には卒業論文の中間発表会を行う予定である。

### 【評価方法】

研究論文作成に対する意欲や態度、および作成された論文の内容によって評価する。

## 専門演習Ⅳ

古井 景

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

参加者全員で文献講読・討論をおこない、各自の知識を現実的に応用可能なものへと深めていく。  
4年間大学で学んだ知識の総まとめとして、社会で通用するものに仕上げることが目標とする。

### 【評価方法】

多くの学生にとって最終学歴となる『愛知淑徳大学卒業』および『学士』の資格を得るに相応しい人間性を備えているかどうかを評価する。

社会にでて、『愛知淑徳大学』の名を高める人材でなければならない。

### 【テキスト】

使用せず。

## 専門演習Ⅳ

松尾貴司

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

1. 専門演習Ⅲに引き続き、各自が研究を進め、その結果について報告する。
2. 研究結果の分析方法、および論文の作成方法について講義をおこなう。その後、各自の研究テーマを論文形式にまとめる。個人の論文については個別に指導する。

### 【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。



## 専門演習Ⅳ

吉崎一人

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

卒業研究の完成をめざし、個々に指導する。  
実験計画、並びに結果についてプレゼンテーションの行い、その内容について議論する。

### 【評価方法】

プレゼンテーションの内容、授業への取りくむ姿勢を総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## 専門演習Ⅳ

米倉五郎

### 【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

### 【授業計画】

専門演習Ⅲで特定した卒業論文のテーマと研究方法に基づいて収集されていく情報について、学生各自がレポーター形式で発表し、参加者全員で討論し検討する。また適宜個別指導を行い、情報についての分析と考察を深めていく。11月中旬には卒業論文の中間発表会を行い、卒業論文の完成・提出へと指導する。

### 【評価方法】

卒業論文作成に取りくむ意欲や姿勢、作成された論文の内容、および心理臨床のボランティア活動の内容により評価する。

### 【テキスト】

未定。必要に応じてその都度指示する。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて配布する。

## プレゼンテーション

松田照美

### 【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、自己表現の基本技術と面談の効果的な仕方、資料・データなどによる演出について実践的に学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 プレゼンテーションを学ぶにあたって
- 第2回 ノンバーバル・コミュニケーション (1)
- 第3回 ノンバーバル・コミュニケーション (2)
- 第4回 効果的な言語表現 (1)
- 第5回 効果的な言語表現 (2)
- 第6回 対人接遇における印象管理
- 第7回 対人接遇のスキル-自己紹介-
- 第8回 コミュニケーションにおける資料提示の技術
- 第9回 対人接遇としてのプレゼンテーション
- 第10回 3P分析と戦略
- 第11回 企画と構成
- 第12回 プレゼンテーションの演出法
- 第13回 ビジネスプレゼンテーションの実践

### 【評価方法】

出席状況・小テスト・実習課題などによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プレゼンテーション (関根健夫監修 一橋出版)

### 【参考文献・資料】

パーフェクト・プレゼンテーション (八幡紙芦史・生産性出版)

## 英文ビジネスジャーナル講読

大塚英揮

### 【授業の概要】

ビジネスウィークやインターネット上のBBC、ABCの経済ニュース記事等を英文教材として用い、世界でどのような経済問題が起きているのか、海外から見た日本経済の評価などについて英語での理解を深める。

### 【授業計画】

第1～第12講 経済、金融、ビジネスコミュニケーションなど幅広いテーマを取上げる。

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1講の開始前に配布する。

### 【参考文献・資料】

随時指示する。

## 異文化トレーニング

寺本史子

### 【授業の概要】

異文化コミュニケーションの分野における基本的な概念を理解すると共に、異なる文化をどうとらえどのように接するのが望ましいかについて、いくつかの今日的な事例を取り上げて考察する。また、さまざまなトレーニングやコミュニケーションワークを通して適切な異文化コミュニケーション能力を養成する。

### 【授業計画】

1. なぜ今異文化コミュニケーションか
2. 文化・異文化とは
3. コミュニケーション・スキル
4. コミュニケーションのメカニズム
5. 言葉によるコミュニケーション (1)
6. 言葉によるコミュニケーション (2)
7. 非言語コミュニケーション
8. 見えない文化
9. 価値観と文化的特徴
10. 異なる文化のとらえ方・接し方
11. 異文化理解
12. 異文化との出会い
13. 異文化適応能力
14. 学期末試験

### 【評価方法】

レスポンスペーパー、学期末試験の成績、授業態度出席状況などから総合的に判断する。

### 【テキスト】

異文化トレーニング (八代京子他著 三修社)  
必要な関連資料については適宜授業中に配布

### 【参考文献・資料】

異文化コミュニケーション・ワークブック (八代京子他著 三修社)  
*Culture, Communication, and Conflict*  
(Gary R. Weaver編 Simon・Schuster Publishing)

## 情報システム概論II

MAHSUT, Muhtar

### 【授業の概要】

情報処理システムの各種インターフェース、システム開発、テスト方法、システムの環境整備、運用と管理などについて実習を通して学習する。

### 【授業計画】

1. システム開発技法
2. ヒューマンインターフェースの設計
3. テスト技法
4. システムの運用と管理
5. プログラム言語と言語処理系
6. CPUの性能計算
7. ネットワークの性能計算
8. システムの構成と評価
9. システムの信頼性
10. コンピュータウイルスとワクチンソフト
11. セキュリティ対策
12. 開発と取引の標準化
13. まとめ

### 【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

システムの運用と管理 (ウイネット)

### 【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

## プログラミングⅠ

石橋善弘

### 【授業の概要】

コンピュータを道具として問題解決をはかるという過程が、諸方面で進展している。プログラミングの基本的な考え方を概説し、Visual BASICを用いて日常生活、社会活動において有用なプログラムを作成する能力を養う。

### 【授業計画】

第1回 本講義の目的と授業計画の提示

第2回～第11回 以下の項目について解説する

コンピュータの歴史

プログラミングの基礎

プログラミングに必要な数学的基礎

2進法

算術演算

論理演算

第12回 まとめ

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## プログラミングⅡ

石橋善弘

### 【授業の概要】

プログラミングⅠにおいて習得したプログラミング能力を活用して日常生活、社会活動において有用なプログラムを作成させる。

### 【授業計画】

第1回 本講義の目的と授業計画

第2回～第11回 以下の項目について解説する。

1. 統計学の基礎的概念

2. 統計解析に必要なプログラムの作成

3. 乱数

4. 乱数を用いたシミュレーション（株価変動、車の流れ、人の流れ等）

5. 簡単なゲーム用ソフトの作成

第12回 まとめ

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## システムデザインⅠ

三浦信宏

### 【授業の概要】

データベースシステムの設計、運用、管理、及び情報検索に関する知識・技能を習得し、関係データベースを利用することによって実践的なスキルを養う。

### 【授業計画】

1. 情報システムとデータベース

2. データベースシステムの基本概念

3. データベースの種類と特徴

4. 業務フローとデータベースの位置付け

5. 構造化分析（1）

6. 構造化分析（2）

7. 構造化分析（3）

8. 構造化分析（4）

9. データベース設計（1）

10. データベース設計（2）

11. データベース設計（3）

12. データベース設計（4）

13. まとめ

### 【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし、プリント配布

## システムデザインⅡ

伊東俊彦

### 【授業の概要】

情報システムは情報の入手・処理・活用を行うためのシステムである。近年とみに企業環境の変化の激しさから情報システムの構築がビジネスのニーズに追いつかない面が顕著に現れている。そのため、いままでも企業独自に開発してきた情報システムを捨てて統合的なソフト・パッケージを採用した情報システムへの移行も進んでいる。本情報システム論では、はじめにアプリケーションシステムの設計・開発の過程を学習する。その後、簡単な会計システムのプログラミングを行う。具体的なプログラミングをとおして会計システムの機能設計（概要設計を含む）や運用設計の基本も学ぶ。全体を通して、実際の業務とアプリケーションシステムの整合性をどのようにとりシステムを構築・管理すればよいかの基本を理解することを目標にしている。

### 【授業計画】

第1回 オリエンテーション（授業の進め方）

第2回 情報システムとはなにか

第3回 情報システム設計・開発の概要

第4回 アプリケーションシステム設計・開発の基礎（1）

第5回 アプリケーションシステム設計・開発の基礎（2）

第6回 情報システムの構造変化

第7回 情報システムとビジネスモデル

第8回 会計情報システムの現状と要求分析

第9回 会計の基礎知識

第10回 会計システムの概要設計

第11回 会計システムの詳細設計

第12回 Excelによる開発演習（1）

第13回 Excelによる開発演習（2）

第14回 Excelによる開発演習（3）

第15回 まとめ

### 【評価方法】

出席点およびミニテスト（1～2回実施）により評価する。

### 【テキスト】

テキストは適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

システム構築のための4つの設計（アシストソリューション技術部編著 翔泳社発行）  
会計情報入門：Excelによる会計処理と分析（橋本義一・他著 創成社発行）  
スーパー入門 簿記と仕訳（城戸広之著 日本実業出版発行）  
情報リテラシーの応用（伊東俊彦・他著 近代科学社発行）  
会計情報システムの機能と構造（田宮治雄著 中央経済社発行）

## 国際金融論

藤井正志

### 【授業の概要】

国際金融市場の生成と発展、累積債務問題の発生と国際金融に従事する銀行や投資家のリスクについて考察し、リスク管理の一手法としてのデリバティブの活用法など、基礎と現実の動きを幅広く考察し今後の課題についても検討する。

### 【授業計画】

- 第1講 外国為替のしくみと貿易取引
- 第2講 国際収支
- 第3講 経常収支の不均衡と国際金融
- 第4講 シンジケート・ローン
- 第5講 アジアの通貨・金融危機
- 第6講 アメリカの対外累積債務
- 第7講 累積債務問題
- 第8講 国際資本市場
- 第9講 外国為替相場
- 第10講 デリバティブ取引Ⅰ
- 第11講 デリバティブ取引Ⅱ
- 第12講 国際金融まとめ

### 【評価方法】

期末試験、ミニテストなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

国際金融講義ノート（マナハウス）を使用する。

### 【参考文献・資料】

適宜指定する。

## 国際投融資論

森下允之

### 【授業の概要】

世界に独立国（independent）はなく、みな相互依存国（interdependent）である。国内ですべての取引が完結し、海外との接点がない、あるいは影響を受けないビジネスはない。現代のビジネスにとり国境の壁は低くなっており、企業は全世界で調達生産・販売している。この実態を企業の海外拡張の側面を有する海外直接投資の視点から分析し、主要投資先国のビジネス環境を紹介し、空洞化問題など、国内産業に与える影響を論ずる。

### 【授業計画】

- 第1回 世界貿易の大潮流
- 第2回 ビジネスの国際化（生産・調達の海外依存度の高まり）
- 第3回 国際投融資の目的と形態（直接投資、証券投資）
- 第4回 証券投資の急増とその功罪
- 第5回 マルチ企業による超大型企業買収合戦の功罪
- 第6回 日本の対外直接投資（本邦企業の海外進出とグローバル戦略）
- 第7回 対外直接投資が国内産業に与える影響（産業空洞化問題）
- 第8回 日本への対内直接投資（日本の優良企業も外資に狙われる）
- 第9回 WTOと自由貿易協定（日本の対応方針）
- 第10回 カントリー・リスクとビジネス・リスク
- 第11回 東南アジア諸国の投資環境
- 第12回 NIES（韓国、台湾、香港）の投資環境
- 第13回 中国の投資環境

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリントを適時配布する。

### 【参考文献・資料】

マネー・マーケットの大潮流（加野忠、砂村賢、湯野勉著 東洋経済新報社）  
2004年版ジェトロ貿易投資白書（日本貿易振興会）

## 外国為替論

森下允之

### 【授業の概要】

「国際金融」のExchange（交換、為替）の側面。基礎的な概念・理論から今日の制度・為替政策、さらに経済への影響まで触れる。経済的なできごと、変化が外国為替相場にどう影響するか理解できるようにしたい。

### 【授業計画】

- 第1講 外国為替の仕組み
- 第2講 外国為替市場
- 第3講 外国為替相場の種類
- 第4講 スワップとアウトライト
- 第5講 外国為替リスクと回避方法
- 第6講 外国為替相場と経済の関係
- 第7講 外国為替相場と国際収支
- 第8講 オプション取引
- 第9講 外国為替相場の決定理論
- 第10講 国際通貨制度
- 第11講 ユーロ
- 第12講 アジアと円の国際化
- 第13講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

日経文庫「外国為替の知識」（国際通貨研究所編 日経新聞社）

### 【参考文献・資料】

国際金融・外為市場（佐久間潮著 財経詳報社）

## 銀行ビジネス論

森下允之

### 【授業の概要】

日本の銀行界は未曾有の危機、再編の渦中にあり、日本経済不振の元凶とも非難されている。しかしながら、実際には銀行は加害者でもあり、被害者でもある。金融機関その代表である銀行が再び十分な利益をあげ、日本経済に貢献する方法を論ずる。

### 【授業計画】

- 第1講 金融システムの基礎知識
- 第2講 金融システムにおける銀行
- 第3講 バブル崩壊と不良資産
- 第4講 間接償却と直接償却
- 第5講 金融再編成
- 第6講 日本の銀行の特徴（なぜ儲からないか）
- 第7講 ペイオフ問題と中小金融機関
- 第8講 政府系金融機関の功罪
- 第9講 郵政民営化
- 第10講 日本の資金需給の大変化
- 第11講 金融ビッグバン
- 第12講 異種業種からの参入
- 第13講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じ、プリントを配布

### 【参考文献・資料】

図説 わが国の銀行（全国銀行協会調査部編 財経詳報社）  
日経文庫 ベーシック金融自由化入門（円居総一著 日本経済新聞社）  
21世紀日本の金融産業革命（植田、川北、高月著 東洋経済新報社）  
銀行収益革命（川本裕子著 東洋経済新報社）

## 保険ビジネス論

跡部浩一

### 【授業の概要】

保険業法の基本事項を学習し、現代の企業経営と日常生活にとって不可欠な各種保険の意義と役割についての理解を深める。特に保険業法の法的解釈論とも、日常の経済活動を通じての保険の現状とその仕組みの解説を中心のテーマに、その法的根拠としての保険業法の基本を理解する。

### 【授業計画】

- 第1講 保険と保険業法の概要と授業のすすめ方  
\* 保険とは何か・保険業法とは何か
- 第2講 身近な保険を考える①  
\* 米国同時多発テロと海外旅行傷害保険
- 第3講 損害保険の基礎知識①  
\* 自動車保険と自賠責保険
- 第4講 損害保険の基礎知識②  
\* 自動車事故を素材に自動車保険と自賠責保険
- 第5講 損害保険の基礎知識③  
\* 自動車保険のまとめ
- 第6講 損害保険の基礎知識④  
\* 損保の原形—火災保険と地震・台風
- 第7講 生命保険の基礎知識①  
\* 生命保険とは何か
- 第8講 生命保険の基礎知識②  
\* どの生命保険が必要なのか
- 第9講 身近な保険を考える②  
\* 損害保険と生命保険の違い
- 第10講 身近な保険を考える③  
\* 最近の保険犯罪と保険募集のあり方
- 第11講 身近な保険を考える④  
\* 保険の思想と保険業法
- 第12講 身近な保険を考える⑤  
\* 保険と企業経営・リスク管理
- 第13講 身近な保険を考える⑥  
\* リスクと保険・授業のまとめ
- 単位認定試験

### 【評価方法】

- 1 出席状況と 2 単位認定試験の成績により、総合的に評価する

### 【テキスト】

特定の教科書を教材には使用しない。講義ごとにレジュメを配布する

### 【参考文献・資料】

- 「現代保険概論」(加藤修著 中央経済社)  
「損害保険の知識」(玉村勝彦著 日経文庫)  
「保険の知識」(真屋尚生著 日経文庫)

以上

## 金融システム論

石坂綾子

### 【授業の概要】

中央銀行と金融政策、銀行と証券市場、国際的金融制度など金融システムについての基本的特徴をその機能と歴史的背景から考察する。

### 【授業計画】

1. ガイダンス
2. 日本の金融システム
  - (1) 金融システムの発展とその特徴
  - (2) 日本銀行と金融政策
  - (3) 金融業務についての規制・慣行と変化
  - (4) 金融自由化 —日本版ビッグバン—
3. アメリカの金融システム
  - (1) 大恐慌の教訓
  - (2) 金融システムの発展とその特徴
  - (3) アメリカ金融革命
4. ヨーロッパの金融システム
  - (1) イギリス —国際金融市場とビッグバン—
  - (2) フランス —国有化と公的金融—
  - (3) ドイツ —ユニバーサルバンキングの展開—
5. 国際通貨体制
  - (1) 国際通貨制度の変遷
  - (2) 現在の国際通貨体制
6. 1980・1990年代の金融世界
  - (1) バブルの陶酔と清算 (1985~1994年)
  - (2) ボーダーレスマネー (1994年)
  - (3) 金融異変 (メルトダウン)
7. 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。第1回目の授業において資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

- ゼミナール現代金融入門 (斎藤 精一郎著 日本経済新聞社)  
金融システム (酒井 良清・鹿野 嘉昭著 有斐閣)  
金融政策 (酒井 良清・鹿野 嘉昭著 有斐閣)

## 証券ビジネス論

島田舒一

### 【授業の概要】

日本版ビッグバン後、証券市場、証券会社、証券行政などいずれも変革が進みつつあり、また、グローバル化の中で証券ビジネスは質量とも変わってきている。そこで広範囲にわたる証券ビジネスを具体的に論ずるとともに、金融システムや市場の変化の中でどう変わっていくか、その背景と方向性についても考察する。

### 【授業計画】

- 第1講 証券市場の機能と役割
- 第2講 証券の種類と内容
- 第3講 証券市場の仕組み
- 第4講 証券会社の業務1 株式業務
- 第5講 証券会社の業務2 債券業務ほか
- 第6講 銀行の証券業務
- 第7講 投資信託業務
- 第8講 資産運用業務と投資計算
- 第9講 証券流通市場関連業務
- 第10講 国際証券業務
- 第11講 日本版ビッグバンと金融・証券市場の変化
- 第12講 規制緩和と新しい証券ビジネス

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布

### 【参考文献・資料】

証券業務の基礎 (住友信託銀行著 経済法令研究会)

## ファイナンス特論

細野義晴

### 【授業の概要】

資金の需要者と供給者との間には、現在、多種多様な金融機関が存在している。これらの金融構造を学習し、現在の各種金融機関の特色とその役割を理解する。

### 【授業計画】

1. 日本の資金循環と各経済主体の金融行動  
貨幣の機能と日本の資金循環、家計の金融行動、企業の金融行動、政府の金融行動、経済主体別資金過不足の動向、など。
2. わが国の金融機関とその変化  
近代的金融機関の成立、第2次大戦後に確立した金融システムと金融機関の体系、金融の自由化・国際化による金融システムの変化、など。
3. 金融機関の業務とその変貌  
中央銀行の機能と金融政策、民間金融機関の業務とその変貌、公的金融機関とその役割の変化、など。
4. わが国の金融構造と金融機関行政の変化  
高度成長時代の金融構造の特色、護送船団方式の金融機関行政、低成長時代への移行に伴う金融構造の変化、市場機能重視の金融機関行政とそこでの金融機関経営、など。
5. 金融ビッグバンと金融機関の将来像  
金融ビッグバンの背景とその歩み、金融ビッグバンの金融機関と国民生活への影響、不良債権処理とペイオフ問題、など。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

### 【テキスト】

使用しない(資料配布)。

### 【参考文献・資料】

1. 金融 (貝塚啓明・奥村洋彦・首藤恵著 東洋経済新報社)
2. 図説、わが国の銀行 (全国銀行協会連合会調査部編著 財経詳報社)

## 簿記Ⅰ

遠藤秀紀

### 【授業の概要】

簿記は、企業の活動を一定の原理にしたがって認識・記録・計算し、さらに報告するための技術である。簿記に基づいて作成される財務諸表は、一般の人々が経済的意思決定を行うために必要な情報を提供している。本講義は、取引の発生から財務諸表を作成するまでの簿記の基本的原理について学ぶ。

### 【授業計画】

1. 簿記の前提
2. 貸借対照表
3. 損益計算書
4. キャッシュ・フロー計算書
5. 取引の勘定記入
6. 仕訳と転記
7. 帳簿
8. 決算手続き

### 【評価方法】

定期試験（60%）、小テストまたはレポート提出（30%）および出席状況（10%）を総合して評価する。

### 【テキスト】

入門アカウンティング（鎌田信夫編著 創成社）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

## 簿記Ⅱ

遠藤秀紀

### 【授業の概要】

簿記Ⅰで学習した簿記の基本的原理をふまえて、さまざまな取引の会計処理および株式会社の会計について学ぶ。

### 【授業計画】

1. 現金・預金の取引
2. 有価証券の取引
3. 手形の取引
4. 特殊売買
5. 繰延資産
6. 長期的に利用する資産の取引
7. 法律上の権利と営業権
8. 投資活動などの取引
9. 社債の発行
10. 株式の発行

授業中、適宜プリントを配布し、各テーマにそった演習問題をおこなう。

### 【評価方法】

定期試験（60%）、小テストまたはレポート提出（30%）および出席状況（10%）を総合して評価する。

### 【テキスト】

入門アカウンティング（鎌田信夫編著 創成社）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

## 会計学概論

森 恒夫

### 【授業の概要】

取引の記録から財務諸表の作成に至る一連の手続についての理解を深め、現代の企業会計の基本的な考え方を学習する。そして、現代の会計制度がどのような考え方に基づいて形成されているのか、また現実の経済社会においてどのような役割を果たしているのかを学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 会計の意義
- 第2回 管理会計と財務会計
- 第3回 会計と法律
- 第4回 企業と会計
- 第5回 企業会計の技術的特徴
- 第6回 企業会計の理論的特徴
- 第7回 企業会計制度（1）
- 第8回 企業会計制度（2）
- 第9回 会計基準
- 第10回 決算の仕組み
- 第11回 製造業の会計（1）
- 第12回 製造業の会計（2）
- 第13回 利益計画と会計
- 第14回 会計監査
- 第15回 企業会計と税務

### 【評価方法】

単位認定試験及びレポートにより評価

## 原価計算

林 慶雲

### 【授業の概要】

製造業における製造過程を貨幣額によって記録・計算・整理する簿記が工業簿記であり、その中心は原価の算定にある。工業簿記の基本的仕組みを理解し、記帳技術を習得する。

### 【授業計画】

- 第1回 工業簿記の構造
- 第2回 材料費の計算
- 第3回 労務費の計算
- 第3回 経費の計算
- 第4回 製造間接費の計算
- 第5回 部門費の計算
- 第6回 個別原価計算（1）単純個別原価計算
- 第7回 個別原価計算（2）部門別個別原価計算
- 第8回 総合原価計算（1）
- 第9回 総合原価計算（2）
- 第10回 標準原価計算（1）
- 第11回 標準原価計算（2）
- 第12回 直接原価計算（1）
- 第13回 直接原価計算（2）
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

### 【評価方法】

期末試験の結果を中心に、出席状況等を参考に評価する。

### 【テキスト】

段階式日商簿記ワークブック2級「工業簿記」新会計基準に対応 改訂版（岡本清、広本敏郎 中央経済社）

### 【参考文献・資料】

随時指示

## 管理会計

林慶雲

### 【授業の概要】

製造業において製造された製品が1個いくらであるかを知ることはそれほど容易ではない。製品の製造過程において生じた原価を集計する手続きが原価計算であるが、原価の発生をどのように認識・記録するか、そしてそれをどのように集計するかについて考察する。

### 【授業計画】

- 第1回 原価の本質と原価の諸概念
- 第2回 費目別原価計算
- 第3回 部門別原価計算
- 第4回 総合原価計算の意義と諸形態
- 第5回 工程別総合原価計算
- 第6回 等級別総合原価計算
- 第7回 組別総合原価計算
- 第8回 連産品原価の計算と副産物
- 第9回 標準原価計算(1)
- 第10回 標準原価計算(2)
- 第11回 標準原価差異の分析表示
- 第12回 直接原価計算
- 第13回 標準直接原価計算
- 第14回 原価計算と予算制度
- 第15回 価格決定と原価

### 【評価方法】

期末試験の結果を中心に、出席状況等を勘案して総合的に評価する。

### 【テキスト】

段階式日商簿記ワークブック2級「工業簿記」新会計基準に対応 改訂版  
(岡本清、広本敏郎 中央経済社)

### 【参考文献・資料】

随時指示

## 国際会計

白木俊彦

### 【授業の概要】

基本的な英文会計の用語について解説するとともに、国際会計基準および米国FASBの会計基準による財務諸表の用語・様式について講義する。

また、必要な範囲で国際会計基準の条文自体も取り上げるほか、実際の英文による財務諸表と国内基準による財務諸表との比較も行う。

### 【授業計画】

講義と演習方式で行う。以下の内容について解説し、用語等については演習をして理解を確認しながら進めていく。

1. 英語による会計用語の解説
2. 国際財務報告基準の用語解説
3. FASB基準書及び国際財務報告基準の内容
4. アニュアルレポートの理解
5. 上記以外の理論的な文献解説

### 【評価方法】

定期試験及び講義中での演習結果と出席状況及び講義中の態度も含めた総合評価による。

### 【テキスト】

講義の中で指示する。

### 【参考文献・資料】

国際財務報告基準、FASB基準書  
各社ホームページに開示されるアニュアルレポート等

## 国際会計

山川勝

### 【授業の概要】

財務諸表を理解するためには、その財務諸表がどのような会計基準に基づいて作成されているのかを知らなければならない。今日、国際的に用いられる会計基準は、国際会計基準または米国会計基準である。本講義では、英文財務諸表を中心とする財務会計の諸領域を取り上げ、日米をはじめとする各国の会計基準の相違について学習する。

### 【授業計画】

1. 日本の会計基準の現状と課題
2. 国際会計基準の概要
3. 米国会計基準の概要
4. 会計基準各論
5. 企業の財務情報開示の分析(代表的な日本企業の海外向財務情報開示書類であるアニュアルレポートの分析)
6. 会計と監査

### 【評価方法】

課題に対するレポートの提出を求め、出席状況とあわせて総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

日本の代表的な有力企業の海外向けに開示された財務情報の実例(アニュアルレポート)をケース・スタディとして使用する。

この授業の履修は、会計学概論又は財務会計論を履修していることが望ましい。

## 監査論

前川三喜男

### 【授業の概要】

現代の株式会社制度を支える一つの制度として、専門的な能力を有する独立の第三者による財務諸表の検証とその結果報告が求められている。それが会計監査である。本講義では、公認会計士による財務諸表監査の目的や制度についての基本的な知識を学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 監査の意義
- 第2回 監査の類型
- 第3回 会計士監査の歴史的展開
- 第4回 監査とディスクロージャー
- 第5回 監査制度1
- 第6回 監査制度2
- 第7回 監査人の資格と要件
- 第8回 公認会計士制度
- 第9回 監査人の職業倫理
- 第10回 監査人の独立性
- 第11回 監査人が負うべき法的責任
- 第12回 不正・違法行為と監査人の義務
- 第13回 粉飾決算と訴訟
- 第14回 監査基準の必要性
- 第15回 まとめ

### 【評価方法】

概ね授業4回ごとに学習した内容に関するテスト(10~15分程度)を実施し、合計3度のテストの結果で評価する。

### 【テキスト】

なし  
レジュメで対応

## 財務会計論

森 恒夫

### 【授業の概要】

企業が財務諸表を作成するうえで従わなくてはならない会計処理上の諸規則について、まずその基本的な考え方を学習するとともに、なぜそうした規則が必要であるのか、どのような課題もしくは問題点があるのかを理解する。次に財務諸表の作成・表示に係る諸規則を学習し、現代会計制度についての理解を深める。

### 【授業計画】

- 第1回 財務会計の意義
- 第2回 会計公準
- 第3回 時価主義と原価主義
- 第4回 損益計算の原則
- 第5回 流動資産
- 第6回 有形固定資産（1）
- 第7回 有形固定資産（2）
- 第8回 無形固定資産
- 第9回 繰延資産
- 第10回 負債会計
- 第11回 資本会計
- 第12回 損益会計（1）
- 第13回 損益会計（2）
- 第14回 財務諸表
- 第15回 中間財務諸表

### 【評価方法】

単位認定試験及びレポートにより評価する。

## 会計学特論 I

杉本典之

### 【授業の概要】

現代の企業に求められる会計情報ないし会計ディスクロージャーの範囲はかなり広い。そうしたニーズに応えるためには従来の企業会計原則や商法だけでは対応しきれない。そのため、制度上もさまざまな会計基準が設けられている。本講義では、そうした会計基準を中心に解説し、現代会計制度に対する理解をより深いものとする。

### 【授業計画】

下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明し、会計学特論IIへの橋渡しを目指す。

1. 株式会社会計を典型とする企業会計
2. 情報システムとしての企業会計
3. 企業会計の基本的構造と会計基準の位置づけ
4. 会計測定のための基本的構造と会計基準
5. 勘定記録と会計情報

### 【評価方法】

授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

### 【テキスト】

各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する予定。

『会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近—』（杉本典之著 同文館）

『キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題—』（杉本典之・洪慈乙共著 東京経済情報出版）

### 【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようになりたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。

## 経営分析

浅野敬志

### 【授業の概要】

企業が公表する財務諸表を中心とする会計情報は企業についての重要な情報の一つである。会計情報から企業の成績を把握するために必要な基本的な技法を学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 経営分析の必要性
- 第2回 財務諸表を理解する
- 第3回 成長性の分析（1）
- 第4回 成長性の分析（2）
- 第5回 収益性の分析（1）
- 第6回 収益性の分析（2）
- 第7回 採算性の分析（1）
- 第8回 採算性の分析（2）
- 第9回 安全性の分析（1）
- 第10回 安全性の分析（2）
- 第11回 総合分析（まとめ）
- 第12回 実例を使つての総合分析（1）
- 第13回 実例を使つての総合分析（2）
- 第14回 実例を使つての総合分析（3）
- 第15回 実例を使つての総合分析（4）

### 【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

3ステップ式だからキャッシュフロー重視の経営分析がらくらくできる本（増木清行著 あさ出版）

## 会計学特論 II

杉本典之

### 【授業の概要】

企業活動が多様化しグローバル化の中で、より迅速なディスクロージャー、企業グループ全体についての会計情報、資金に関する情報、企業の現在価値に関する情報など、企業に求められる会計情報の内容や質も多様化している。本講義では企業会計に求められる課題や制度上の最近の動向を取り上げる。

### 【授業計画】

会計学特論Iの続きとして、下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明する。

1. 情報システムとしての企業会計
2. 会計情報を搬送する決算財務諸表
3. 決算財務諸表をめぐる会計基準
4. 会計基準の国際的調和化
5. 各国の会計基準と国際会計基準

### 【評価方法】

授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

### 【テキスト】

各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する予定。

『会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近—』（杉本典之著 同文館）

『キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題—』（杉本典之・洪慈乙共著 東京経済情報出版）

### 【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようになりたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。



## 国際経済事情

真田幸光

### 【授業の概要】

国際ビジネストレンドの講義に於いては、国際化の進む日本経済の現状を鑑み、日本経済の動向、そして日本企業の国際戦略を意識しつつ、Currentな国際経済情勢を学んでいくことを大きなテーマとしている。従って、その題材は新聞、雑誌等のマスコミ報道や日本政府、国際機関の示すデータや情報から取り上げ、これを担当教員が解説した上で、日本経済に与える影響や日本企業に対するビジネス・チャンスやビジネス・リスクなどについて考察、その上で可能な限り、受講生との意見や視点を引き出すことを心掛け、授業を展開していくことを予定している。

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、入門基礎レベル確認試験
- 第2回 国際経済情勢下に於ける日本経済概況の解説
- 第3回 最新米国経済事情の解説
- 第4回 最新欧州経済事情の解説
- 第5回 最新北東アジア経済事情の解説
- 第6回 最新中国経済事情の解説
- 第7回 最新東南アジア経済事情の解説
- 第8回 最新国際経済事情概要の総括
- 第9回 日本企業の国際ビジネス展開概要の解説
- 第10回 日本企業の対外投資戦略に関する解説
- 第11回 日本政府・日本企業の外資誘致戦略、政策に関する解説
- 第12回 日本の地方自治体政府の地域企業国際化支援策に関する解説
- 第13回 日本企業の国際ビジネス展開（ケーススタディ1）
- 第14回 日本企業の国際ビジネス展開（ケーススタディ2）
- 第15回 理解力確認試験

### 【評価方法】

試験による評価

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

特になし。必要に応じて、資料を配布する。

## ビジネスプレゼンテーション

梅田敏文

### 【授業の概要】

ビジネスの場面における自己表現の効果的な技法を理論面、実践面から考察する。ビジネスの諸局面で発生する課題を各自で分析し、プレゼンテーションツール（パソコンなど）を使用して実践することにより、プレゼンテーションスキルを取得する。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンスとプレゼンテーション概要
- 第2講 パワーポイントの構成と基本機能
- 第3講 プレゼンテーションシナリオの作成
- 第4講 プレゼンテーション資料の作成（1）
- 第5講 プレゼンテーション資料の作成（2）
- 第6講 プレゼンテーション資料の作成（3）
- 第7講 プレゼンテーション資料の作成（4）
- 第8講 発表（1）
- 第9講 発表（2）
- 第10講 発表（3）
- 第11講 発表（4）
- 第12講 発表（5）
- 第13講 まとめ

### 【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容を総合的に評価する。

### 【テキスト】

創造するプレゼンテーション（梅田敏文著 弘学出版）

### 【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

## 経済交流史

真田幸光

### 【授業の概要】

国際経済交流の歴史的意義を明らかにし、第二次世界大戦後から今日に至るまでの日本と東アジアの経済交流を中心に、金融、通商、直接投資などの面を多目的に考察する。

### 【授業計画】

1. ガイダンス
2. 第二次世界大戦後の国際経済（総括）
3. 戦後の日本経済の発展と国際経済
4. ブレトンウッズ体制
5. ニクソンショックと国際経済
6. 石油危機と国際経済
7. ブラザ合意の与えた影響
8. 1990年代の東アジアの発展と日本、世界
9. アジア通貨危機の意味
10. 今後の国際経済交流の見通し
12. ひと、もの、かね、情報と国際経済
13. 外交、軍事と国際経済交流
14. 総括
15. 理解力試験

### 【評価方法】

試験による評価

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

特になし。

## スキルマネジメント

浅井敬一朗

### 【授業の概要】

本講義では、プロダクションマネジメントを「スキル」の視点で議論を進める。まず、プロダクションマネジメントが必要となった背景について概観する。また工学技術が進展するに伴って企業の競争力として重要となる。「スキル」の企業経営における意味を明らかにし、スキルの獲得、移転のプロセスについて論じる。

### 【授業計画】

- |          |  |
|----------|--|
| 第1回      | ガイダンス  |
| 第2回      | 生産経営の誕生した背景                                      |
| 第3回～6回   | 生産システムとスキル<br>・テイラーシステム<br>・フォードシステム<br>・トヨタシステム |
| 第7回～9回   | 日本の生産システムとスキル                                    |
| 第10回～11回 | IT化によるスキルの変化                                     |
| 第12回～13回 | 新たな生産システム  |
| 第14回～15回 | 技術移転と海外での技術の捉え方                                  |

### 【評価方法】

出席、講義での発表、レポートおよび定期試験によって評価する

### 【テキスト】

特に指定しない

### 【参考文献・資料】

能力構築競争（藤本隆宏著 中公新書）  
ものづくりの技能（小池和男他著 東洋経済新報社）  
日本のリーン生産システム（石田光男・藤村博之他著 中央経済社）  
生産マネジメント入門Ⅰ・Ⅱ（藤本隆宏著 日本経済新聞社）  
セル生産システム（岩室宏著 日刊工業新聞社）

## 比較文化特論

國信潤子

### 【授業の概要】

日本はその援助額では世界的に1～2位にある国際開発支援国である。日本の政府開発援助は世界各国に多大な影響を及ぼしている。またNGO、NPOが多く確立され、政府のみではできない協力、支援を実践している。この開発を「ジェンダーに敏感な視点」でみるのが今必要になってきている。異なる文化的背景をもつ地域住民の人権擁護、自立とエンパワーメントをめざした「もう一つの、持続可能な開発」とはどのようなものかについて国際比較統計データ、開発協力事例などから考察する。ビジネスとジェンダーを履修しておくことが望ましい。

### 【授業計画】

ジェンダーという概念を紹介し、日本社会のジェンダー関係の特徴、近年の国際法における男女平等法をまず紹介する。次いで、開発途上国におけるジェンダー関係の事例をいくつか検討し、日本の政府機関、民間組織による開発協力の実態とその課題点を考察する。その場合、経済活動と異文化接触に焦点をしばり検討する。

### 【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

### 【テキスト】

特になし 資料を随時プリントとして配布する

### 【参考文献・資料】

ジェンダーと開発（田中ほか 国際協力出版会刊）

## 異文化コミュニケーション特論

霜田一敏

### 【授業の概要】

異なったライフ・スタイルや価値観を持った人々との共存が時代の要請であり、異質なものの、異文化的なものを知ることは自国文化の本質を知ることでもある。その意味からも、日本人の常識と社交性の特徴を取り上げ、究明するなかから外国人とのコミュニケーションを良くする方途を考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 異文化間コミュニケーションの背景
2. 異文化間コミュニケーションの領域
3. 文化とコミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション
5. 言語と文化的認識
6. 言葉の中のジグザクとハイド
7. カルチャー・ショック
8. より効果的なコミュニケーション

### 【評価方法】

授業中の発言や参加度、積極的な態度、最後に期末試験を行い、総合して評価する。

### 【テキスト】

異文化間コミュニケーション入門（鍋倉健悦著 丸善ライブラリー）

## 社会心理学

北折充隆

### 【授業の概要】

われわれの生活は、さまざまな集団や社会の中で営まれている。そうした集団や社会で発生するダイナミクスについて、社会心理学的理論をもとに解説し、個人と集団・社会の相互作用過程について考察する。

### 【授業計画】

社会心理学の諸知見から、具体例をふまえながら紹介する。社会心理学の諸知見を具体例をふまえながら紹介し、対人関係の形成や相互作用について解説する。本講では主に説得方略の観点を絡めて解説する。

### 【評価方法】

試験により評価する。持ち込みは不可。

### 【テキスト】

特に使用しないが、プリントを配布する。数回分を單元ごとに配布するので、トピック終了まで毎回持参をすること。

### 【参考文献・資料】

プリント中に記述しておくので、内容に関心を持った場合、購入して読んでおくこと。

## 組織心理学

松浦均

### 【授業の概要】

組織心理学では、テーマとして「集団と組織の心理学」について講義する。授業では、基本的な心理学の内容を踏まえた上で、できるだけ社会の中の現場で実証された理論や知見を紹介する。学生諸君には、とくに産業組織場面、企業や行政組織に関する場面において生の現代社会の様相を切り取ってくる課題を与える。インターネットや図書雑誌を通して自分で情報を収集し、また現実社会を実感できる機会などを通して理解していくことを目標とする。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション（第1週）  
半年間の授業の進め方を説明する。また学習方法や学習目標を説明し、授業方法、成績評価方法なども説明する。組織の問題に関するビデオ視聴。
2. 集団と組織の心理学1「集団について」（第2週～第4週）  
組織問題についての概略説明。集団の意義と定義。人間関係と対人関係の定義。集合と集団の相違。集団の機能。公式集団と非公式集団。集団内コミュニケーション構造・ソシオメトリック構造。
3. 集団と組織の心理学2「組織について」（第5週～第7週）  
組織の定義と概念。現代の組織の特徴。組織の原則。組織内コミュニケーションの特徴と問題点。成員の選別と組織社会化。組織行動の統制。組織の改革。硬直化現象と革新指向性。イノベーション。
4. 集団に関する実験研究の紹介（第8週～第9週）  
革新の過程：少数者が多数派に及ぼす影響。集団圧力、同調の過程。集団による課題解決、集団浅慮、リスクシフト。
5. リスクの心理学（第10週～第13週）  
リスク心理学について概略説明とビデオ視聴。リスクの定義、リスク受容行動。リスクのイメージ形成要因とイメージ構造。リスク認知におけるバイアス。リスクに関するマスコミ報道の特質。リスクと災害、緊急時の人間行動

### 【評価方法】

出席（30%）と期末テスト（70%）による。

### 【テキスト】

使用しない。プリントを配布する。

## 集団行動論

北折充隆

### 【授業の概要】

社会心理学における主要な理論・研究の中から、意思決定や課題遂行における集団内の影響過程、集団間の葛藤と協調、個人行動と集合行動の関連などの問題を取り上げて論じる。

### 【授業計画】

社会心理学の諸知見を具体例をふまえながら紹介する。主に対人関係の形成や認知、相互作用について解説する。内容は進度に応じて調整する。

### 【評価方法】

試験により評価する。持ち込みは不可。

### 【テキスト】

特に使用しないが、プリントを配布する。数回分を単元ごとに配布するので、トピック終了まで毎回持参をすること。

### 【参考文献・資料】

プリント中に記述しておくので、内容に関心を持った場合、購入して読んでおくこと。

## 放送メディア論

大西 誠

### 【授業の概要】

マスメディアの中でもデジタル化の波で、厳しい対応を迫られているのが、放送メディアである。現代社会に欠かせない基幹メディアとしての放送を中心にメディアがどのように変貌しているかに関心を向ける。従来の新聞、出版、映画、広告のいわゆるマス媒体に加えて、活動領域を広げている音楽やゲームなどメディアの横断が見られる境界領域にあるメディア産業も注目したい。その一方で、マスメディアが引き起こす人権侵害や過剰報道など個人との軋轢などの実態を検討し、マスメディアのあるべき姿を展望する。

### 【授業計画】

講義形式

- ・マスメディアとは
  - ・マスメディアの現場・新聞
  - ・マスメディアの現場・放送
  - ・マスメディアの現場・出版
  - ・マスメディアの現場・映画
  - ・マスメディアの現場・広告
  - ・マスメディアの現場・音楽
  - ・マスメディアと政治
  - ・マスメディアと人権
  - ・表現の自由とメディア・リテラシー
- など

(内容については変更になる場合がある)

### 【評価方法】

出席状況、小テストと期末レポートなどによる。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介

## マスコミュニケーション

小塚哲司

### 【授業の概要】

新聞、テレビなどによって伝えられるニュースは、国内外で起る日々の動きを映す鏡である。IT革命と相まって、ますますグローバル化、スピード化する21世紀高度情報社会。マスコミ、マスメディアは、そうした刻々と起る地球レベルのニュースを、迅速に収集し、公正な価値判断をして、国民に伝えるのが役割である。それは「報道の自由」が保証されてこそ可能だが、逆に厳しい職業倫理も求められる。ジャーナリズムに課せられた責務と職業観、勤労観のほか、主として新聞報道を素材としてのニュースへの理解を深めるため、新聞記者、海外特派員の体験を交え、分かりやすく教えていきたい。

### 【授業計画】

1. マス・コミュニケーションの役割と機能  
高度情報化時代の中で、マスコミの果たすべき役割。その歴史と日本、世界の新聞事情、デジタル時代を迎えたメディア事情。
2. マスコミの倫理と功罪  
一度に大事件などを多数に伝えられる点で、マスコミは有効だが、一つ誤ると大混乱する。また公平な視点を欠くと、偏った見方を伝えてしまう。加害者、被害者の人権、報道される側のプライバシーに十分な配慮が必要である。加害報道の実態と背景、厳しく問われる報道倫理。イラク戦争や米大統領選、少年非行、北朝鮮拉致問題など、具体的なニュース報道で検証したい。
3. 授業を面白くし、時代を考える手助けとして、毎週、その週の大きなニュースを解説。

### 【評価方法】

教室での応答、小レポートと期末レポートで総合評価する。

### 【テキスト】

未定。

### 【参考文献・資料】

授業の中で、随時紹介する。

## 現代マーケティング論

大塚英揮

### 【授業の概要】

『移り気な消費者が求めるものをいかに見出し、いかに売り込むか。』マーケティング戦略の究極の目標はまさにこの一点にある。激しい販売競争を勝ち抜くために、マーケティング戦略の成功には不可欠であり、そのためには消費者の需要、ライバルとの競争関係といった環境要因を分析し、適切な意思決定を行う能力が求められる。本講義では、先ず現実の企業がやっているマーケティング戦略を紹介し、マーケティングの面白さとは何かについて学習する。そしてケースを随時交えながらマーケティングの「基本的知識」を学習する。

### 【授業計画】

1. マーケティングとは何か
2. 買い物行動を振り返る (1)
3. 買い物行動を振り返る (2)
4. CMについて考える (1)
5. CMについて考える (2)
6. モノの値段について考える (1)
7. モノの値段について考える (2)
8. 製品について考える (1) - 製品ライフサイクル
9. 製品について考える (2) - ブランドの基礎知識
10. サービスマーケティングの基礎知識
11. グローバルマーケティングの基礎知識
12. 売り場をめぐる闘い (1)
13. 売り場をめぐる闘い (2)
14. マーケティングミックス-最適な組み合わせを探せ
15. まとめ

### 【評価方法】

毎回の小テスト (50%) と期末テスト (50%) の合計で評価します。小テスト以外の出席点はありませんが、連続物の講義なので、休まないで出席してください。

### 【テキスト】

使用しません。毎回プリントを配布します。

### 【参考文献・資料】

わかりやすいマーケティング戦略 (沼上幹 有斐閣アルマ 1800円)  
日経マーケティングジャーナル (旧流通新聞) を時々読んでみることもおすすめです。

## 消費者行動

大塚英揮

### 【授業の概要】

他国に比べて厳しいといわれる「流通規制」に守られていた小売業界も、大店法撤廃、酒販免許緩和などの規制緩和の結果、年々競争が激化する傾向にある。セブンイレブンV S ローソンのようなコンビニという同じ業態同士の競争のみならず、ユニクロなどの急成長する専門店とイトーヨーカ堂のようなGMS間の異なる業態間の競争も活発化している。激化する競争にどう対応すればよいのか。本講義では小売業に関する基礎知識を学習した上で、小売業のとりうる競争戦略のパターンについてケースを用いて、よ実践的に考察する。

### 【授業計画】

- 第1回 小売とは何か
- 第2回 小売の実態について考える (1) 一般小売店と専門店
- 第3回 小売の業態について考える (2) GMSと百貨店
- 第4回 小売の業態について考える (3) コンビニエンス
- 第5回 小売の「輪」は回る—業態変化のプロセス
- 第6回 小売の出店戦略 (1)
- 第7回 小売の出店戦略 (2)
- 第8回 売り場を「創る」(1)
- 第9回 売り場を「創る」(2)
- 第10回 小売のIT戦略
- 第11回 メーカーと小売のパートナーシップ (1)
- 第12回 メーカーと小売のパートナーシップ (2)
- 第13回 小売の日米比較
- 第14回 黒船襲来—流通外資の戦略 (1)
- 第15回 黒船襲来—流通外資の戦略 (2)

### 【評価方法】

小テストなどの平常点 (60%) + 期末試験 (40%) で総合的に評価します。

### 【テキスト】

使用しない。プリントをその都度配布します。

### 【参考文献・資料】

ベーシック 流通と商業 (原田英生・向山雅夫・渡辺達朗 有斐閣)

## Communication Strategies I

JOLLY, James A.

### 【Course Content】

議論やディベートについて基本的な概念を学びながら、その際の主張や証拠、論理の組立てについて分析し、話し合う。

This course is aimed at providing students with training and practice in English, as used in international business communication, through review of basic English grammar with practical application in model conversations in social and business situations. Lesson topics and content will also provide students with opportunities for expanding their functional vocabularies and to gain confidence in expressing themselves. Textbook drills will be supplemented with additional materials and activities to facilitate and enhance conversational skills.

### 【Schedule】

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics, and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

### 【Assessment】

The students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and (4) final examination. Active participation in class will be valued highly.

### 【Textbooks】

The textbook for this course will be announced at the first class session. Additionally each student is expected to have her or his own personal English / Japanese dictionary to be used for study, during class sessions, for homework and during quizzes or the final examination.

### 【Reference】

To be recommended individually as need arises.

## Communication Strategies II

JOLLY, James A.

### 【Course Content】

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

The aim of this course is to provide students with continued review and practice of English as used in international business communication. Class assignments will include practice in written business communications in addition to business conversation practices. Lesson topics and content are designed to provide students with opportunities for expanding their functional vocabulary and to better express themselves in varied business situations. Special handout supplementary materials will be used with the textbook drills to provide broader experience.

### 【Schedule】

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week, and each unit will reflect the communication needs in a different business situation. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics, and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

### 【Assessment】

The students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and (4) final examination. Active participation in class will be valued highly.

### 【Textbooks】

The textbook for this course will be announced at the first class meeting. Additionally each student is expected to have her or his own personal English / Japanese dictionary to be used for study, during class sessions, for homework and during quizzes or the final examination.

### 【Reference】

To be recommended individually as need arises.

## Communication Strategies III

JOLLY, James A.

### 【Course Content】

主張や証拠、理論の組み立てを論破する様々な方法を学びながら、論議やディベートへの対応について考察する。

This course will concentrate on studying international sources of business information for use in typical international business operations of most companies. Class assignments and activities will include practice in gathering and summarizing data from such sources. Continued instruction and practice in English communication skills, particularly reading and writing, will be provided as necessary to meet students' needs. Continued vocabulary expansion in business, technical and legal terminology will also be emphasized.

### 【Schedule】

Topics to be covered in one or more class sessions include:

- 1) Assessing information needs and setting the scope of investigation;
- 2) Determining the best source of information - libraries, data banks, specialized research organizations, investigative services, internet search engines, etc.; and
- 3) Assembling acquired data for summarization and presentation.

A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class session.

### 【Assessment】

Each student's grade for the course will be assessed based upon his or her performance in class attendance, home assignments, quizzes, and a course final examination or term project. Active participation in class sessions will be highly valued.

### 【Textbooks】

The textbook and resource materials will be announced during the first class. Each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine) .

### 【Reference】

To be recommended individually as need arises.

## Communication Strategies IV

JOLLY, James A.

### 【Course Content】

議論やディベートにおける相互作用という側面に焦点をあてながら、実際にディベートを準備してクラスで行い、ディベートのもつ様々な要素について考察を加える。

The lessons and activities of this course are aimed at retrieving, summarizing and presenting information and data on international business topics. Students will be encouraged to use their communications skills in dealing with problems they may encounter in the international trade and business affairs, using English language as the common mode of communication.

### 【Schedule】

Training topics to be covered include:

- 1) Information resources - where and how to get information;
- 2) Information summarization - evaluating and arranging information;
- 3) Report presentation - supplying data for management decisions; and
- 4) Persuading and defending - advocating your ideas and views.

A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class session. In addition to the presented in-class instruction and sharing of students' findings, students will be assigned to a team course project which will be practical application of the lessons of the course.

### 【Assessment】

The students will be graded approximately one-half on their class attendance and participation and one-half on the quality of their work on the team course project. No quiz or test will be given. Active participation in class and the team's work will be highly valued.

### 【Textbooks】

No textbook will be used in this course, and supplementary materials related to lesson topics may be provided as necessary. However, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

### 【Reference】

To be recommended individually as need arises.

## 専門演習 I

藤井正志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、経済金融に関する理解を深める。

### 【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

## ビジネス英語

蜂須賀幸志

### 【授業の概要】

このクラスは、ビジネスに基づいたビジネス取引に欠かせない交渉英語の再確認をすると共に、実践的な取引事例をとりあげながら、海外との取引に欠かせない外国為替の知識の修得をゴールとする。従って、受講者は各自でビジネス関連資料、新聞、経済関係雑誌（海外ニュース紙含）、外国為替の推移等に興味を持ち、日々そうした記事に目とをうし精通するように努力することが必要である。

### 【授業計画】

- 1) 取引、交渉に入る事前準備
- 2) 会社組織の知識
- 3) アポイントメントの取り方、電話の応対
- 4) アポイントメントの確認、
- 5) 取引交渉の不成立、拒絶にたいする対処、再確認
- 6) 小テスト（これまでの復習）
- 7) 外国為替の知識、扱い方
- 8) 外国為替の流れ
- 9) 外国為替送金
- 10) クレームにたいする対処
- 11) 小テスト（これまでの復習）
- 12) プレゼンテーション
- 13) クラスおよび自己評価
- 14) 定期試験

### 【評価方法】

出席回数、クラスにたいする貢献度、小テスト、宿題、期末試験など全てを対象にした総合評価。

テキスト：プリント及び supplementary reading materials

### 【テキスト】

テキスト Market Leader :Elementary Business English  
Course book  
by David Cotton, David Falvey, Simon Kent  
Published Pearson Longman

### 【参考文献・資料】

テープ、ビデオ等視聴覚教材

質問日時：火曜日14：00～15：00

場所：非常勤講師室

## 専門演習 I

國信潤子

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導はゼミとともに論文指導時間に詳細に指導する。領域は基礎演習と連動している。労働、家族、雇用平等、国際協力などがキーワードである。学生各自が自分の問題関心をほりおこし、文献・資料・情報を多様なメディアから収集する。国内外学習、海外研修なども実施する。各自の報告によってすすめる。共同調査等もとり入れる。

### 【授業計画】

学生各自の問題意識にそったテーマを決定し、主体的にリサーチ、発表をする。リサーチ方法、発表方法は随時指導する。また講義を折り込み、基礎情報や最新情報を紹介する。小論文執筆、英文講義を行なう。

### 【評価方法】

授業出席状況、履修態度、感想カード内容、期末レポートなどの総合評価による。

### 【テキスト】

授業時に提示する。

### 【参考文献・資料】

また随時資料配布する。

## 専門演習Ⅰ

森下允之

### 【授業の概要】

世界の国、地域の政治・経済状況を調べ、ビジネスの可能性を探る。そのための専門知識を対話形式で論ずる。

### 【授業計画】

教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

### 【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

### 【テキスト】

国に応じ演習中に指示する。

## 専門演習Ⅰ

霜田一敏

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

基礎演習で明確になった各人の研究テーマをどのように展開するか、その計画を相互に検討して明確にしていく。

1. 問題意識の具体化
  2. 研究計画の作成
  3. 資料収集の方法
  4. 参考文献の収集と理解
  5. 調査方法の検討
  6. 論文作成の書き方
- などを一人一人に即して具体的に検討する。

### 【評価方法】

各人のレポートと発表、討論への態度、最後の提出する論文によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

## 専門演習Ⅰ

梅田敏文

### 【授業の概要】

インターネットを活用して、情報を収集、分析し、効果的な情報発信を行う。具体的には、ホームページ作成の知識とスキルを習得し、自分のホームページを作成、公開する。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 インターネットを活用した情報収集と情報発信
- 第3講 HTMLの機能(1)
- 第4講 HTMLの機能(2)
- 第5講 HTMLの機能(3)
- 第6講 ホームページの作成(1)
- 第7講 ホームページの作成(2)
- 第8講 ホームページの作成(3)
- 第9講 ホームページの発表と評価(1)
- 第10講 ホームページの発表と評価(2)
- 第11講 ホームページの発表と評価(3)
- 第12講 まとめ

### 【評価方法】

作成されたホームページ、そのプレゼンテーション、発表内容、態度、出席などを総合的に評価する。

### 【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。  
授業の途中で、適宜、資料を配布する。

## 専門演習Ⅰ

杉本典之

### 【授業の概要】

複式簿記の機構に支えられた企業会計について学生自身が主体的かつ自発的に学習した成果を論文にまとめ、卒業論文に発展させるための準備を試みる。

### 【授業計画】

この専門演習Ⅰの共通テーマは、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と卒業論文の準備、である。

基礎演習ⅠとⅡの成果として学生各人が自覚するようになった問題意識を明確化・発展させ、各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。これらの作業を通じて、卒業論文のテーマを模索する。

### 【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

### 【テキスト】

相談して決める。

### 【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

## 専門演習Ⅰ

真田幸光

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

東アジア経済の現状を分析、その上で日本と東アジア経済の関わり合いを考察する。

その後、各ゼミ生が特定地域を分析し日本との関係について考察する。

### 【評価方法】

演習に対する取組姿勢と分析・考察レポートによる。

### 【テキスト】

無し

## 専門演習Ⅰ

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

- (1) 経営戦略、人事労務、国際経営など、企業経営の基礎について、テキスト、雑誌の記事を輪読し、実際の事例を交えながら考察する
- (2) 生産経営の基礎についてイノベーションをキーワードにして分析する
- (3) グループごとに共同レポートを作成し、パワーポイントを使用し、定期的に発表する
- (4) マネジメントゲームを2年生と合同で行う(春休み、夏休み集中)

### 【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。特に質問者からの質問に答えるだけでなくいかに議論を引き出し、リードするかという点を重視する。無断欠席をした場合は単位を認定しない。

### 【テキスト】

経営戦略の経済学 (浅羽茂著 日本評論社)  
この他については適宜指示する

### 【参考文献・資料】

イノベーションダイナミクス (アッターバック著 有斐閣)  
イノベーションのジレンマ (クレイトン・クリステンセン著 ハーバードビジネスプレス)  
イノベーションの解 (クレイトン・クリステンセン著 ハーバードビジネスプレス)

## 専門演習Ⅰ

石川雅之

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。

### 【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

### 【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

演習の最初に指示する。

## 専門演習Ⅰ

浅野敬志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

バーチャル株式投資をしながら、会計、ファイナンス、経済学、経営学などを幅広く学習し、企業・景気・その時々トピックなどを深く分析・議論する。また、同時に、様々な手法を用いて、実際に企業を深く分析する。

### 【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

### 【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

ゼミナール現代会計入門 (伊藤邦雄著 日本経済新聞社)  
すぐわかる株式投資2005年度版 (日本経済新聞社編著 日本経済新聞社)  
ビジネス・アカウンティング-MBAの会計管理- (山根節著 中央経済社)

## 専門演習 I

石坂綾子

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

### 【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

### 【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

## 専門演習 I

島田舒一

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

第1～6回 資金運用と投資戦略などを中心に、いくつかの課題を取り上げ、理論とビジネスの両面から研究し、その報告をもとに討論を行う。

第7～12回 資金調達とファイナンスを中心とする諸問題について、理論に加え、実務的な取り扱いを含め研究し、報告、討論を通じて理解を深める。

なお、上の学習と並行して、その時々々のマーケットの動きを取り上げ、現実的な感覚と対応の仕方についても習熟させる。

### 【評価方法】

参加状況、課題に対する取組み、報告内容によって評価する。

### 【参考文献・資料】

証券投資論（日本証券アナリスト協会編 日本経済新聞社）  
現代ファイナンス入門（現代ファイナンス講座Ⅰ 中央経済社）

## 専門演習 I

森 恒夫

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

我々の経済生活の中で会計学は欠くべからざる存在であり、会計学なくして企業は成立し得ない。基礎演習では、財務諸表の作成を中心に学んできたが、専門演習では、一部作成とその利用に主軸を移す。

「主な予定」

- (1) 工業簿記演習
- (2) 管理会計
- (3) 監査の概要
- (4) 会計に関するNEWSについて討論

### 【評価方法】

出席状況、平常点により評価

### 【テキスト】

演習時に指示

## 専門演習 I

前川三喜男

### 【授業の概要】

将来、公認会計士、税理士等の会計職業専門家を目指し、その基礎となる会計知識を高めるとともに、新しい会計基準を理解する。

### 【授業計画】

新会計基準のしくみを理解させる  
連結財務諸表原則の理解、実務指針の演習  
税効果会計  
キャッシュフロー計算書

### 【評価方法】

授業への出席状況と発表の仕方・内容で評価

### 【テキスト】

監査小六法



## 専門演習 I

石橋善弘

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

日常生活にかかわる数学的な問題（特にビジネス、経済に関する問題）について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

## 専門演習 I

上原 衛

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。基礎固めを行った知識を更に高め、新たなIT技術や情報処理に関する知識を習得する。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1. ACCESSの基礎と応用
2. Excelの応用とVBA
3. ホームページ作成
4. 経営情報論
5. 株式投資シミュレーション

### 【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

### 【テキスト】

経営情報論（有斐閣アルマ）。その他、授業中に適宜指示・紹介する。

## 専門演習 I

小池弘道

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

基礎演習 I、IIでの学習内容を踏まえ、国内及び国際社会で必要な、人事労務管理、効率化の進め方、問題解決手法などの能力・知識を深める学習をするとともに、国際社会での仕事の進め方について取り組んでいく。

### 【評価方法】

出席状況、演習への取り組み姿勢、レポートなどを総合して評価する。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

演習の中で、適宜紹介する

## 専門演習 I

三浦信宏

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

情報システムとその開発方法についての基礎知識の修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

### 【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし、プリント配布

## 専門演習Ⅱ

藤井正志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、学生に問題意識を持たせる。

### 【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

## 専門演習Ⅱ

國信潤子

### 【授業の概要】

労働環境、組織における人間関係などをジェンダー視点から分析する。領域としては産業社会学である。国際統計比較、英語資料による海外のジェンダー関係についても考察する。各学生の関心に基づき、テーマは選べる。卒業論文あるいはゼミ・ペーパーのテーマを決定し、それについての先行研究を体系的にリサーチし、各自が報告する。

### 【授業計画】

学生各自の問題意識にそったテーマを決定し、主体的にリサーチ、発表をする。リサーチ方法、発表方法は随時指導する。また講義を折り込み、基礎情報や最新情報を紹介する。

### 【評価方法】

授業出席状況、履修態度、発表内容、ゼミ論文等の総合評価による。

### 【テキスト】

授業時に提示する。

### 【参考文献・資料】

また随時資料配布する。

## 専門演習Ⅱ

森下允之

### 【授業の概要】

世界の国、地域の政治・経済状況を調べ、ビジネスの可能性を探る。そのための専門知識を対話形式で論ずる。

### 【授業計画】

教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

### 【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

### 【テキスト】

国に応じ演習中に指示する。

## 専門演習Ⅱ

霜田一敏

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

基礎演習で明確になった各人の研究テーマをどのように展開するか、その計画を相互に検討して明確にしていく。

1. 問題意識の具体化
2. 研究計画の作成
3. 資料収集の方法
4. 参考文献の収集と理解
5. 調査方法の検討
6. 論文作成の書き方

などを一人一人に即して具体的に検討する。

### 【評価方法】

各人のレポートと発表、討論への態度、最後の提出する論文によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

## 専門演習Ⅱ

梅田敏文

### 【授業の概要】

ビジネス分野における学生の関心に基づき、それぞれのトピックスを文書にまとめる。その文書をベースに論文の作成方法を学習する。このトピックスは卒業論文につながることを望ましい。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 論文とは何か
- 第3講 論文の構成
- 第4講 個人別作業割り当て
- 第5講 発表とディスカッション (1)
- 第6講 発表とディスカッション (2)
- 第7講 発表とディスカッション (3)
- 第8講 発表とディスカッション (4)
- 第9講 発表とディスカッション (5)
- 第10講 発表とディスカッション (6)
- 第11講 発表とディスカッション (7)
- 第12講 まとめ

### 【評価方法】

トピックスの発表、討議内容、文書の再作成の結果、出席などを総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業の開始時にレジュメを配布する。  
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

## 専門演習Ⅱ

真田幸光

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

前期に作成した各自レポートを発表、これを基に全ゼミ生によるディベートを実施する。

### 【評価方法】

各自発表内容とディベート参加姿勢による。

### 【テキスト】

無し

## 専門演習Ⅱ

杉本典之

### 【授業の概要】

複式簿記の機構に支えられた企業会計について学生自身が主体的かつ自発的に学習した成果を論文にまとめ、卒業論文に発展させるための準備を試みる。

### 【授業計画】

この専門演習Ⅱの共通テーマも、専門演習Ⅰのそれと同じく、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と卒業論文の準備、である。

専門演習Ⅰでの作業を通じて模索した学生各人の卒業論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、専門演習Ⅲへつなげるように準備する。

改めて論文の書き方に関する解説書を学習する。

### 【評価方法】

この専門演習Ⅱの主旨は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

### 【テキスト】

相談して決める。

### 【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

## 専門演習Ⅱ

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

- (1) 経営戦略、人事労務、国際経営など、企業経営の基礎について、テキスト、雑誌の記事を輪読し、実際の事例を交えながら考察する
- (2) 生産経営の基礎についてイノベーションをキーワードにして分析する
- (3) グループごとに共同レポートを作成し、パワーポイントを使用し、12月中に完成、発表を行う
- (4) マネジメントゲームを2年生と合同で行う(春休み、夏休み集中)
- (5) 論文・レポートの書き方についての書籍を輪読し、なるべく早い時期に卒業論文のテーマと文献リストを決定し、3年次終了時までに概要についてのレポートを提出する
- (6) エントリーシートや1分間自己PRについてゼミのメンバーの原稿を検討する

### 【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。特に質問者からの質問に答えるだけでなく

いかに議論を引き出し、リードするかという点を重視する。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

### 【テキスト】

適宜指定する

### 【参考文献・資料】

イノベーションダイナミクス (アッカーバック著 有斐閣)  
イノベーションのジレンマ (クレイトン・クリステンセン著 ハーバードビジネスプレス)  
イノベーションの解 (クレイトン・クリステンセン著 ハーバードビジネスプレス)

## 専門演習Ⅱ

石川雅之

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。

### 【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

### 【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

演習の最初に指示する。

## 専門演習Ⅱ

浅野敬志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

バーチャル株式投資をしながら、会計、ファイナンス、経済学、経営学などを幅広く学習し、企業・景気・その時々トピックなどを深く分析・議論する。また、同時に、様々な手法を用いて、実際に企業を深く分析する。

### 【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

### 【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

企業分析シナリオ（西山茂著 東洋経済新報社）  
ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著 日本経済新聞社）  
すぐわかる株式投資2005年度版（日本経済新聞社編著 日本経済新聞社）

## 専門演習Ⅱ

石坂綾子

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

### 【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

### 【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

## 専門演習Ⅱ

島田舒一

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

第1～6回 金融工学など新しい金融技術を学ぶとともに、デリバティブや証券化などのビジネスについても実務的な面から研究し、討論する。  
第7～12回 また、証券関連の法律や慣行、証券税制など制度的な面についても研究し、討論を通じて理解を深め、実務的な応用力を高める。

### 【評価方法】

参加状況、課題に対する取り組み、報告内容によって評価する。

### 【参考文献・資料】

デリバティブ入門（高橋誠・新井富雄著 日本経済新聞社）  
証券化の知識（大橋和彦著 日経文庫）

## 専門演習Ⅱ

森 恒夫

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

専門演習Ⅰに引き続き下記の如く予定

- (1) 財務諸表の読み方  
有価証券報告書  
営業報告書
- (2) 経営分析の基礎

### 【評価方法】

出席状況、平常点により評価

### 【テキスト】

演習時に指示

## 専門演習Ⅱ

前川三喜男

### 【授業の概要】

将来、公認会計士、税理士等の会計職業専門家を目指し、その基礎となる会計知識を高めるとともに、新しい会計基準を理解する。

### 【授業計画】

新会計基準のしくみを理解させる  
退職給付会計制度  
金融商品会計

### 【評価方法】

授業への出席状況と発表の仕方、内容で評価

### 【テキスト】

監査小六法

## 専門演習Ⅱ

石橋善弘

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

日常生活にかかわる数学的な問題（特にビジネス、経済に関係する問題）について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

## 専門演習Ⅱ

上原 衛

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。基礎固めを行った知識を更に高め、新たなIT技術や情報処理に関する知識を習得し、分析手法の応用としてのコンピュータ・シミュレーション、ケース・スタディを利用した実社会の経営戦略の研究、経営情報理論を学ぶ。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1. コンピュータ・シミュレーション
2. 経営情報論
3. 経営戦略ケース・スタディ

### 【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

### 【テキスト】

経営情報論（有斐閣アルマ）  
ケースに学ぶ経営学（有斐閣ブックス）

## 専門演習Ⅱ

小池弘道

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

学生各自の問題意識にそったテーマを絞り込み、主体的に資料収集、文献による学習、ヒヤリングなどに取り組んで、知識・考え方を深める。必要に応じて企業経営、国際企業経営などに関する講義を織り交ぜる。

### 【評価方法】

出席状況、演習への取り組み姿勢、レポートなどを総合して評価する。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

演習の中で、適宜紹介する。

## 専門演習Ⅱ

三浦信宏

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

IT革命と社会・生活に関する知識修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

### 【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし、プリント配布

## 専門演習Ⅲ

藤井正志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

学生が選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

### 【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

## 専門演習Ⅲ

國信潤子

### 【授業の概要】

この演習を履修する学生は基礎演習Ⅰ、Ⅱ、専門演習Ⅰ、Ⅱの履修あるいはそれと同等の情報・知識を習得していることが必要である。キーワードは労働、家族、ジェンダー、産業社会学、持続可能な開発等である。学生の関心、問題意識にそってビジネス界にみるジェンダー、人種等による格差について考察する。開発協力における持続可能な開発について国内外のNGO、NPOの活動現状等についても事例的に調査・研究する。

学生の関心に基づき、演習指導する。学生の調査、発表を中心とする。卒業論文予定者はその進行状況を演習にて報告する。

### 【授業計画】

文献講読、インターネット調査、さらに現地調査も含めて労働とジェンダーの関係についての研究を指導する。学生各自の調査と報告、討議が中心である。

### 【評価方法】

受講態度、提出小論文・調査報告内容、討議貢献度、各種活動への参加度などを総合判断する。

### 【参考文献・資料】

随時資料配布

## 専門演習Ⅲ

森下允之

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱで習得した専門知識にもとづき、世界の国、地域の政治・経済状況を調べ、ビジネスの可能性を探る。

### 【授業計画】

学生の関心度と重要性から、対象地域・国・テーマを学生ごとに選択させ、卒論に耐えられるような報告書を作成する。

### 【評価方法】

出席状況と演習への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の報告書への意見表明も含む）を総合的に評価する。

## 専門演習Ⅲ

霜田一敏

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

学生の関心と問題意識を重視して、次のような手順で専門演習を行う。

1. 各人のこれまでの学習経験や関心領域を整理してレポートに作成し、発表する。
2. それぞれのレポートに基づく発表を集団で検討し、指導を行う。
3. 関連する参考資料や文献を収集する方法、調査する場合は調査方法について指導する。
4. 各人で上記の作業や文献購読を行う。
5. 中間まとめをしながら期末にレポートとして集約する。その際、論文の書き方の指導を行う。
6. 期末にこれまでの研究のまとめを行い、演習時に発表し、論文としてまとめる。

### 【評価方法】

演習への参加度と研究に対する態度及び研究成果とレポートについて総合的に評価する。

## 専門演習Ⅲ

梅田敏文

### 【授業の概要】

ビジネス分野における問題解決の実践的な方法を学ぶ。問題解決の概念や手順を学ぶことによって参加者はグループ討議をリードすることができる。また、参加者は問題解決セッションに参画し実践的なスキルを身につける。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 問題とは何か
- 第3講 問題の分析
- 第4講 解決策の策定
- 第5講 問題解決セッション（1）
- 第6講 問題解決セッション（2）
- 第7講 問題解決セッション（3）
- 第8講 問題解決セッション（4）
- 第9講 問題解決セッション（5）
- 第10講 問題解決セッション（6）
- 第11講 問題解決セッション（7）
- 第12講 まとめと講評（1）
- 第13講 まとめと講評（2）

### 【評価方法】

発表態度、内容、ディスカッションの参画度合、出席などで評価する。

### 【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

## 専門演習Ⅲ

杉本典之

### 【授業の概要】

複式簿記の機構に支えられた企業会計について学生自身が主体的かつ自発的に学習した成果を卒業論文にまとめるための準備に入る。

### 【授業計画】

この専門演習Ⅲの共通テーマも、専門演習Ⅰ及び専門演習Ⅱのそれとほぼ同様に、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と論文の準備」である。

論文を卒業論文として作成することに挑戦する学生は、「卒業論文・制作」という授業も履修することになるので、その授業での成果を折々に発表する。

それ以外の学生も、専門演習Ⅰ及び専門演習Ⅱでの作業を通じて模索してきた論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、作業の進捗状況と論文の構想について折々に発表する。

いずれの学生も、改めて論文の書き方に関する解説書を学習する。

### 【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

### 【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

### 【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

## 専門演習Ⅲ

真田幸光

### 【授業の概要】

就職に向けての学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

各授業に於いて毎回、それぞれの学生に対して個別指導をしていく形式をとる。

### 【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

### 【テキスト】

特に指定しない。

## 専門演習Ⅲ

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

日本企業の経営システムに関する文献の輪読を行う  
エントリーシートや1分間自己PRについてゼミのメンバーの原稿を検討する

### 【評価方法】

出席回数、演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する  
特に重視するのは、どのようなディスカッションポイントを提示し、議論をいかにリードしていくかという点である。

### 【テキスト】

適宜指定する

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する

## 専門演習Ⅲ

石川雅之

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。

### 【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

### 【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

演習の最初に指示する。

## 専門演習Ⅲ

浅野敬志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

これまでの総復習として、企業およびその業界の分析を行う。その際に、総資本利益率等、様々な比率を計算し、企業の問題点を導出するだけでなく、同業他社や市場の分析等を通じて、当該問題点の改善策も検討する。

### 【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

### 【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

企業分析入門（第2版）（パレブ他著 東京大学出版会）  
企業分析（増補版）（山口孝他著 白桃書房）  
要説 経営分析（青木茂男著 森山書店）



## 専門演習Ⅲ

石坂綾子

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨、貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

### 【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

### 【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

## 専門演習Ⅲ

島田舒一

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

第1～6回 日本と外国の証券市場改革を比較検討することにより、資本市場の現状と課題を深く理解させる。

第7～12回 専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱで取り上げた資金運用や投資戦略について、金融工学的な手法の実務的な応用力を高めるため、事例研究を通じて理解を深めさせる。

### 【評価方法】

参加状況、課題に対する取組み、報告内容によって評価する。

### 【参考文献・資料】

金融システム改革と証券取引制度（証券取引法研究会編 日本証券経済研究所）

アメリカの資本市場改革（淵田康之・大崎貞和編 日本経済新聞社）

図説 ヨーロッパの証券市場（日本証券経済研究所）

## 専門演習Ⅲ

森 恒夫

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

激変している会計の現状を学ぶと共に、従来にはなかった会計の分野も研究する。

- (1) 商法等の改正による会計への影響問題
- (2) 会計に関するNEWSについての分析
- (3) 会計領域の拡大及び現代の問題  
環境、企業倫理、MKA、情報技術、グローバル化
- (4) 卒業論文の指導

### 【評価方法】

出席状況、平常点により評価

### 【テキスト】

演習時に指示

## 専門演習Ⅲ

前川三喜男

### 【授業の概要】

将来、公認会計士、税理士等の会計職業専門家となる為、企業の財務情報の分析・比較検討、監査報告書の事例研究を行う。

### 【授業計画】

企業の財務情報の開示制度について事例分析を行なう。  
監査報告書の事例研修

### 【評価方法】

授業への出席状況と発表の仕方、内容で評価

### 【テキスト】

監査小六法、有価証券報告書等

## 専門演習Ⅲ

石橋善弘

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

日常生活にかゝる数学的な問題（特にビジネス、経済に関係する問題）について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

## 専門演習Ⅲ

上原 衛

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

企業がどのように情報を経営に活用すべきかという点に関して、「経営」と「情報」と「システム」という切り口から検討する。また、企業が抱えるさまざまなビジネスリスクに対してどのように対応すべきかというリスクマネジメントについて、実践に即したケース・スタディをとおして研究する。そして、学生各自の調査と分析を行い、報告・討議を行う。

### 【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題の提出と発表により総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

## 専門演習Ⅲ

伊東俊彦

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

企業においてビジネス活動を支援する道具としての情報技術（IT）の研究を枠組みとして、各自が希望するテーマを研究していただく。研究は原則として前期・後期を通して行う。ゼミ全体の大テーマは「ビジネスにおける情報技術の活用」である。

テーマとしてはたとえば、「e-ビジネス」「電子商取引」「Webマーケティング」「インターネットとビジネス」「電子コミュニケーション」「ビジネスモデル特許」「業務のアウトソーシング」「ASPの活用」「サプライチェーンマネジメント」「ビジネスインテリジェンス」「モバイル・ビジネス」「ERP（統合業務パッケージ）」「経営情報システム」「意思決定支援システム」「BPRと情報技術」「ベンチャービジネスの起業」「e-ラーニング」などが挙げられるが、これ以外でもなんらかの形でITに関連するテーマであれば研究可能である。

（前半）

各自のテーマに基づく素材集めとしての研究と発表

（後半）

各自のテーマに基づく研究と発表

（最終）

最後に小レポートを作成・提出する。

### 【評価方法】

出席点、ゼミへの貢献および小レポートの内容により評価する。

### 【テキスト】

テキストは適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

各自の研究内容に応じて適宜指示する。

## 専門演習Ⅲ

小池弘道

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行なう。

### 【授業計画】

それぞれの学生が選択した分野において取り組んだ内容を授業において発表し、その指導をしていく。

### 【評価方法】

出席状況、演習への取り組み、および取り組んだ結果を総合的に評価する。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 専門演習Ⅳ

藤井正志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

学生を選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

### 【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

## 専門演習Ⅳ

國信潤子

### 【授業の概要】

この演習を履修する学生は基礎演習Ⅰ、Ⅱ及び専門演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの履修あるいはそれと同等の情報・知識を習得していることが必須である。指導内容は主に産業社会学領域であり、ゼミ論文作成および事例調査、資料調査など方法指導を行う。各自がテーマを選び、学生の問題意識にそって労働、ジェンダー、持続可能な開発、雇用関係、組織内の人間関係等の領域について資料研究を行う。調査研究領域として前期に引き続き、ビジネスとジェンダーの接点、開発支援における国内外のNGO、NPOの現状等についても事例的に資料調査等を行う。学生の調査、発表を中心とする。卒論執筆予定者はその進行状況を演習で報告する。

### 【授業計画】

各自がテーマをしばり、リサーチを主体的に進める。資料・文献講義、インターネット調査、さらに現地調査なども行う。ゲストスピーカーなども招聘し、最新情報を紹介する。学生各自の調査と報告、討議、講義によって授業を進める。

### 【評価方法】

受講態度、提出小論文・調査報告内容、討議貢献度、各種活動への参加度などを総合判断する。

### 【テキスト】

随時プリント配布

### 【参考文献・資料】

随時プリント配布

## 専門演習Ⅳ

森下允之

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱで習得した専門知識にもとづき、世界の国、地域の政治・経済状況を調べ、ビジネスの可能性を探る。

### 【授業計画】

学生の関心度と重要性から、対象地域・国・テーマを学生ごとに選択させ、卒論に耐えられるような報告書を作成する。

### 【評価方法】

出席状況と演習への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の報告書への意見表明も含む）を総合的に評価する。

## 専門演習Ⅳ

霜田一敏

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

- 専門演習Ⅲでの研究成果を踏まえて、各人の研究を発展的に展開する。
1. 前期で明確になった研究上の問題点を検討整理してその克服のために新たな資料の発掘と文献の購読を行う。
  2. 演習に参加している学生同士の検討と相互支援を行う。
  3. 最終レポート作成上の留意点や注意を行う。
  4. 共同研究としてまとめる場合は、その分担を明確にし、論理的統一性を保つよう指導する。
  5. 何度かの個人指導で修正を行い、最後に論文形式としてのレポートを作成し、提出する。

### 【評価方法】

研究論文としての完成度と独創性を評価する。

## 専門演習Ⅳ

梅田敏文

### 【授業の概要】

ビジネスにおける総合的なコミュニケーションスキルを実践する。資料作成、発表、討議によって自らのスキルと知識をブラッシュ・アップする。卒業論文を選択する学生は卒論の発表を行うことが望ましい。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 プレゼンテーションの概念
- 第3講 プレゼンテーションの計画
- 第4講 プレゼンテーションの技法
- 第5講 論文orレポート発表(1)
- 第6講 論文orレポート発表(2)
- 第7講 論文orレポート発表(3)
- 第8講 論文orレポート発表(4)
- 第9講 論文orレポート発表(5)
- 第10講 論文orレポート発表(6)
- 第11講 論文orレポート発表(7)
- 第12講 論文orレポート発表(8)
- 第13講 論文orレポート発表(9)

### 【評価方法】

発表態度、内容、ディスカッションの参画度合、出席で評価する。

### 【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

## 専門演習Ⅳ

杉本典之

### 【授業の概要】

複式簿記の機構に支えられた企業会計について学生自身が主体的かつ自発的に学習した成果を卒業論文にまとめる。

### 【授業計画】

この専門演習Ⅳの共通テーマも、専門演習Ⅲのそれと同じく、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と論文の準備」である。論文を卒業論文として作成することに挑戦する学生も、それ以外の学生も、各自が目指す論文のテーマと目次を定め、収集してきた参考文献や資料を駆使して論文の草稿を執筆し、その草稿を何度も書き直して論文を完成させる。そのような一連の作業の節目をとらえて、論文の進捗状況について複数回発表する。

### 【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

### 【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

### 【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

## 専門演習Ⅳ

真田幸光

### 【授業の概要】

就職に向けての学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を行った前期の研究成果を基に各自発表、その後ゼミ員によるディベートを行う。

### 【授業計画】

各授業で学生が順次発表を行い、議論を展開していく。

### 【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

### 【テキスト】

特に指定しない。

## 専門演習Ⅳ

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

各自の関心のある企業における基本的な財務データ、経営戦略、人事制度、海外展開などについて調べ、同業他社との比較を行う。書籍、雑誌、新聞記事等のデータに加え、必要に応じて各自ヒアリング調査を行う。各自4回の中間発表を行うこと。

### 【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。  
卒業論文・制作を履修しない者は1万字程度の単位認定レポートを提出すること。

### 【テキスト】

使用しない

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する

## 専門演習Ⅳ

石川雅之

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。

### 【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

### 【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

演習の最初に指示する。

## 専門演習Ⅳ

浅野敬志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

これまでの総復習として、企業およびその業界の分析を行う。その際に、総資本利益率等、様々な比率を計算し、企業の問題点を導出するだけでなく、同業他社や市場の分析等を通じて、当該問題点の改善策も検討する。

### 【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

### 【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

企業分析入門（第2版）（バレブ他著 東京大学出版会）  
企業分析（増補版）（山口孝他著 白桃書房）  
要説 経営分析（青木茂男著 森山書店）

## 専門演習Ⅳ

石坂綾子

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨、貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

### 【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

### 【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

## 専門演習Ⅳ

島田紓一

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

- 第1～6回 資金調達とファイナンス理論について事例研究を通じて理解を深め、応用力をつけさせる。
- 第7～12回 企業経営とビジネスについての総合的な知識を習得させるため、ベンチャー企業の設立とそれに伴う課題への対処を事例研究センターで行う。

### 【評価方法】

参加状況、課題に対する取り組み、報告内容によって評価する。

### 【参考文献・資料】

ベンチャー企業株式公開への道（エンゼル証券株式会社 監査法人アイ・ビー・オー編著 清文社）  
ベンチャー企業の経営と支援（早稲田大学アントレプレヌール研究会編 日本経済新聞社）

## 専門演習Ⅳ

森 恒夫

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

専門演習Ⅲの計画をⅣに於いても引き続き行う予定

### 【評価方法】

出席状況、平常点により評価

### 【テキスト】

演習時に指示

## 専門演習Ⅳ

前川三喜男

### 【授業の概要】

将来、公認会計士、税理士等の会計職業専門家となる為、企業の財務情報の分析・比較検討、監査報告書の事例研究を行う。

### 【授業計画】

企業の財務情報の開示制度について実例分析を行なう。  
監査報告書の事例研修

### 【評価方法】

授業への出席状況と発表の仕方、内容で評価

### 【テキスト】

監査小六法、有価証券報告書等

## 専門演習Ⅳ

石橋善弘

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

日常生活にかゝる数学的な問題（特にビジネス、経済に関係する問題）について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

## 専門演習Ⅳ

上原 衛

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

企業がどのように情報を経営に活用すべきかという点に関して、「経営」と「情報」と「システム」という切り口から検討する。また、企業が抱えるさまざまなビジネスリスクに対してどのように対応すべきかというリスクマネジメントについて、実践に即したケース・スタディをとおして研究する。そして、学生各自の調査と分析を行い、報告・討議を行う。

### 【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

## 専門演習Ⅳ

伊東俊彦

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

企業においてビジネス活動を支援する道具としての情報技術（IT）の研究を枠組みとして、各自が希望するテーマを研究していただく。研究は原則として前期に続けて行う。ゼミ全体の大テーマは「ビジネスにおける情報技術の活用」である。

テーマとしてはたとえば、「e-ビジネス」「電子商取引」「Webマーケティング」「インターネットとビジネス」「電子コミュニケーション」「ビジネスモデル特許」「業務のアウトソーシング」「ASPの活用」「サプライチェーンマネジメント」「ビジネスインテリジェンス」「モバイル・ビジネス」「ERP（統合業務パッケージ）」「経営情報システム」「意思決定支援システム」「BPRと情報技術」「ベンチャービジネスの起業」「e-ラーニング」などが挙げられるが、これ以外でもなんらかの形でITに関連するテーマであれば研究可能である。

〈前半〉

各自のテーマに基づく研究の進捗発表

〈後半〉

研究レポートの進捗発表

〈最終〉

研究レポートの作成と発表会

### 【評価方法】

出席点、ゼミへの貢献および期末レポートの内容により評価する。

### 【テキスト】

テキストは適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

各自の研究内容に応じて適宜指示する。

## 卒業論文・制作

藤井正志

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

卒業論文の骨子の提出を求め、骨子に添って卒業論文の指導を行う。

### 【評価方法】

卒業論文に対する取組姿勢等から総合的に評価する。

### 【テキスト】

指定しない。

## 専門演習Ⅳ

小池弘道

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行なう。

### 【授業計画】

それぞれの学生が取り組んだ内容を授業において発表し、まとめができるように討議・指導していく。

### 【評価方法】

出席状況、演習での報告、およびレポート内容を総合的に評価する。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 卒業論文・制作

國信潤子

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ～Ⅳを通じて問題意識を発見、探求し、その内容を調査研究論文としてまとめる。

卒業論文テーマは専門演習と同様で学生の問題意識にそって選ぶ。領域として産業社会学、労働、ジェンダー、持続可能な開発等の領域について調査・研究をもとに論文を執筆指導を行う。各自が主体的にリサーチすることが重要である。

### 【授業計画】

卒業論文指導時間に各自が調査・研究結果を報告する。テーマごとの資料調査方法、事例、現地調査方法などを指導する。

インターネットを通じて論文を推敲、助言を常時進めるのでインターネットの活用に慣れておくこと。必要に応じて英語の資料講読も含まれる。

### 【評価方法】

卒業論文内容の評価による。

テーマの独創性、先行研究の調査、実態調査、現状記述などの正確性、さらに執筆者の意見の妥当性などを評価対象とする。

## 卒業論文・制作

森下允之

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

和文のみならず英文資料を読解、利用しながら、質の高い論文作成を指導。この課程で、英語の専門用語の習得も目指す。

### 【評価方法】

卒論への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の卒論への意見表明も含む）および卒論の内容と水準などを総合的に評価する。

## 卒業論文・制作

霜田一敏

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

専門演習Ⅲ、Ⅳと絶えず関連させながら、発展的に研究を展開する。

1. 各人の問題意識と目的に応じた卒業論文の書き方の指導を行う。
2. 論文構成をどのようにしたらよいか、具体的な論文を事例を通して指導する。
3. 各人の研究の進展と論文作成について具体的な作業を行う。
4. 各章ごとの内容について集約する。
5. 序章から順次執筆にかかる。その都度指導を行う。
6. 中間まとめを行い、再度全体構成について検討を図る。
7. 全体を書き上げ、見直し、数度の推敲を行う。
8. 一冊の論文として完成させる。

### 【評価方法】

研究方法と論文構成について、また研究成果について評価する。

## 卒業論文・制作

梅田敏文

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

卒業論文の作成について小グループごとに個別指導を行なう。各種の提出期限を遵守して、学生は必要な書類を提出すること。

### 【評価方法】

論文の形式、内容の観点から評価する。

### 【テキスト】

特になし。

## 卒業論文・制作

杉本典之

### 【授業の概要】

卒業論文の作成をめざす学生に対して個別指導する。

### 【授業計画】

杉本典之が担当する専門演習Ⅰないし専門演習Ⅳの共通テーマは、一貫して「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と卒業論文の準備」である。そのような共通テーマの下で卒業論文の作成に挑戦する学生は、5月中に自らの卒業論文のテーマを明確にし、夏休みが終わるまでに必要な参考文献や資料を収集し、秋には卒業論文の草稿を実際に執筆したうえで、12月初めまでに卒業論文を完成させるように努める。

学生各人による中間研究発表は、卒業論文作成のための上記作業の節目ごとに行う。つまり、少なくとも、卒業論文のテーマを絞り込んだ段階、参考文献や資料を収集して一読し終わった段階、そして、論文の草稿を一応書き上げた段階、のそれぞれの段階で中間発表する。

論文の書き方に関する解説書の学習は、すでに2年次の基礎演習の段階から学生各自が折々に心掛けてきたはずであるが、論文作成作業の具体的な進展に併行して改めて学習し直す。

### 【評価方法】

卒業論文の出来栄によって成績を評価する。

### 【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

### 【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。



## 卒業論文・制作

真田幸光

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

各授業に於いて学生各位に対して個別指導を実施する。

### 【評価方法】

卒業論文により評価する

### 【テキスト】

特に指定しない。

## 卒業論文・制作

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

### 【授業計画】

各自の卒業論文のテーマに沿って、下記の(1)～(4)の提出期限前に最低各2回、計8回以上の中間報告を行う。必要に応じ個別指導を行う。

- (1) 5月上旬までに論文骨子の提出
- (2) 7月下旬までに論文概要の提出
- (3) 11月上旬までに第1稿の提出
- (4) 最終稿提出(12月中～下旬)

### 【評価方法】

卒業論文の内容および、中間報告のレポート内容、討論の状況により評価する。授業計画にある(1)～(4)を全て提出しなければ単位を認定しない。

### 【テキスト】

使用しない

### 【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する

## 卒業論文・制作

石川雅之

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

個々人の卒論の進捗度合に応じて対処する。

### 【評価方法】

卒業論文によって評価する。

## 卒業論文・制作

浅野敬志

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

卒論の制作・発表を中心に、ゼミの総まとめを行う。

### 【評価方法】

卒論の内容およびその発表を考慮して決定する。

### 【テキスト】

卒論の内容に応じて必要な資料を配布する。

## 卒業論文・制作

石坂綾子

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

卒業論文テーマの決定、参考文献の収集と読解、論文の執筆を進める。論文骨子、論文概要、初稿作成の過程において個別指導を行い、完成度を高めていく。

### 【評価方法】

卒業論文によって評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて学術論文の作成方法にかんするテキストを指示し、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

卒業論文のテーマに対応して個別に指示する。

## 卒業論文・制作

島田舒一

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

- 第1～3回 関心のある分野、課題の中から議論を通じ取組み目的を明確にしたうえでテーマを選定する。
- 第4～12回 テーマに沿った参考文献・資料の収集、使い方について助言をしながら論文作成に取組ませる。
- 第13～20回 論文の素案がまとまった段階で中間発表をさせ、不十分な箇所および全体の構成を修正のうえ、より充実した論文作成にあたらせる。
- 第21～24回 最終的な内容、資料などを点検のうえ論文を完成させる。

### 【評価方法】

課題に対する取組み、参考文献、資料の利用の仕方、論理の展開及び論文内容などを総合的に勘案して評価する。

## 卒業論文・制作

森 恒夫

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

1. テーマの選択
2. テーマへのアプローチの仕方について
3. テーマの論点
4. 論文の構成

### 【評価方法】

論文の創造性及び論理性等を勘案して評価

## 卒業論文・制作

前川三喜男

### 【授業の概要】

専門演習で習得した知識の中から、各人で興味と関心のあるテーマを選んで卒業論文の制作指導を行う。

### 【授業計画】

ゼミ生が選んだ卒論の内容について、研究の仕方、参考図書のアドバイスを行なう。  
卒論の内容の添削

### 【評価方法】

卒論の内容で評価

### 【テキスト】

なし

## 卒業論文・制作

石橋善弘

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

基礎演習、専門演習を通じて習得した知見をもとに、卒業論文を制作させる。また論文作製のための技術、論文口頭発表のための技術を習得させる。

### 【評価方法】

日常の勉学態度および作製された卒業論文の良否によって評価する。

## 卒業論文・制作

上原 衛

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

### 【授業計画】

卒業論文テーマの決定を行い、テーマに沿った資料・事例・データ・文献の収集・調査と分析方法について指導する。論文骨子の作成、論文概要の作成、初稿作成の過程に従い、学生各自に個別指導を実施する。

### 【評価方法】

卒業論文作成への取り組み姿勢、卒業論文内容により総合的に評価する。研究の新規性・独創性、有用性に加え論旨の展開、従来研究の調査、研究成果の意義が明確であるかを重視する。

### 【テキスト】

指定しない。

## 卒業論文・制作

伊東俊彦

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

### 【授業計画】

〈前期〉

- ・各自の研究計画書の作成と発表
- ・論文テーマの先行研究と第1次中間報告

〈後期〉

- ・論文テーマの研究と第2次中間報告
- ・論文の最終報告
- ・論文発表会

### 【評価方法】

出席点、ゼミへの貢献および論文の内容により評価する。

### 【テキスト】

テキストは適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

各自の研究内容に応じて適宜指示する。

## 卒業論文・制作

小池弘道

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

個人別の指導を行なう。

### 【評価方法】

卒業論文により評価する。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 民法基礎

西山一博

### 【授業の概要】

私法の一般法である民法は私的な生活関係を秩序づけている基礎法である。日常生活と関わりが深い民法のうち、まず総則と親族法を中心に引き上げ、権利や法律行為についての理解を深める。事例式で行い、実務的・実地的な解決や考え方を意識したい。また、法令用語や基礎的な事項についても解説し、必要を限り民法に限らず法学全般の基本的な事項に言及する。

### 【授業計画】

- 第1回 民法の原則～私的自治の原則とは。
- 第2回 契約の成立・意思表示～未成年者の法律行為は取り消せる。
- 第3回 代理・表見代理～他人が勝手に自分名義で契約を結んだ場合はどうなるか？
- 第4回 不法行為に基づく損害賠償請求～交通事故でけがをしたら、どんな請求ができるのか？
- 第5回 債権と物権の違い・物権～担保とは。
- 第6回 債権総論～保証人はどんな責任を負うのか？
- 第7回 債権各論～契約の種類。賃貸借契約を中心に。
- 第8回 契約の効力・拘束力～自己都合で契約を解除したら、どんな請求を受けるのか？
- 第9回 時効～10年住み続けたら、他人の家が自分のものになるということが本当にあるのか？
- 第10回 親族法～離婚に伴う金銭問題はどうか考えるのか？
- 第11回 相続法1～相続人と相続分。遺言。
- 第12回 相続法2～自分だけが故人の面倒をみてきたのに相続分は同じか？
- 第13回 民法の周辺法規～消費者契約法、破産法等。
- 第14回 法律事務所における弁護士業務・事務員業務～法律事務所における実務の運用と法律の扱われ方。
- 第15回 試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】

Q&A そうだ! 弁護士に聞いてみよう!! (弁護士法人愛知総合法律事務所著 全国書籍出版)

### 【参考文献・資料】

入門民法 (森泉章著・有斐閣ブックス)

## 税務特講

森 恒夫

### 【授業の概要】

税務会計といってもその範囲はかならずしも明確ではない。本講義では、範囲を法人税法および所得税法に絞り、その基本的な考え方や重要な概念・項目などについての解説を行う。

### 【授業計画】

- 第1回 税法の意義
- 第2回 税務会計の概要
- 第3回 租税法律主義
- 第4回 税法の体系と税金の種類
- 第5回 応能負担原則と税の平等問題
- 第6回 法人税の仕組み
- 第7回 確定決算主義の意義
- 第8回 企業利益と課税所得
- 第9回 寄付金と交際費
- 第10回 原価償却
- 第11回 使途秘匿金
- 第12回 同族会社課税
- 第13回 別表について
- 第14回 所得税の仕組み
- 第15回 連結納税制度

### 【評価方法】

単位認定試験及び出席などを加味する

## 商法基礎

上田純子

### 【授業の概要】

会社法のうち、まず会社の種類を取り上げ、社員の責任の態様について学習する。株式会社の設立・運営に関して商法はどのような考え方に基いてどのような規定を設けているのか講義する。株式に係る規定についても解説する。

### 【授業計画】

- 1 会社の概念 (3週)
- 2 法人格否認の法理
- 3 株式会社法の改正経過 (3週)
- 4 株式会社の設立 (2週)
- 5 株式 (3週)
- 6 株式の譲渡 (2週)
- 7 試験

### 【評価方法】

期末に実施される筆記試験の成績を中心に評価するが、授業への出席状況や授業態度、授業内の提出物の提出状況などを考慮することもある。

### 【テキスト】

開講時に指示する。

### 【参考文献・資料】

講義内容の全体をカバーする参考図書については、開講時に指示する。特定のテーマについて深く学びたい受講生に対しては、その都度参考文献を指示する。なお、テキストの記述で不足する部分については、適宜補助資料を配布する。

## 会計特講

前川三喜男

### 【授業の概要】

財務諸表の適正性を判断するためにどのような手続きが必要とされるのかについて、監査基準を中心として学習する。また、会計士監査における課題や問題点を取り上げ、監査の本質についての理解を深める。

### 【授業計画】

- 第1回 監査契約
- 第2回 予備調査
- 第3回 監査計画
- 第4回 内部統制
- 第5回 リスク・アプローチ
- 第6回 実証的監査手続
- 第7回 実査
- 第8回 立会
- 第9回 確認
- 第10回 監査調査
- 第11回 監査結果
- 第12回 監査意見の形成

### 【評価方法】

概ね授業4回ごとに学習した内容に関するテスト(10～15分程度)を実施し、合計3度のテストの結果で評価する。

### 【テキスト】

なし  
レジメで対応

## 管理会計Ⅰ

吉村文雄

### 【授業の概要】

企業は資源の効果的・効率的な運用を図るため、貨幣額によってこれを測定・評価し、そのデータをもとにさまざまな意思決定を行わなければならない。しかも、企業経営には実績情報だけでなく予測情報も必要不可欠である。こうした情報を適切に把握し、分析するための基本的な考え方を学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 管理会計の体系
- 第2回 利益管理のプロセスと利益目標の設定
- 第3回 損益分岐点分析
- 第4回 プロダクトミックス
- 第5回 原価管理
- 第6回 責任会計
- 第7回 原価センターと投資センター
- 第8回 企業予算の意義
- 第9回 企業予算の編成
- 第10回 標準原価管理
- 第11回 原価標準の設定
- 第12回 原価差異分析
- 第13回 原価企画
- 第14回 意志決定会計1
- 第15回 意志決定会計2

### 【評価方法】

講義の最終回に試験を行う。自筆ノート、教科書持ち込み可。コピー類の持ち込みは禁止。

### 【テキスト】

最初の講義でテキストを指示する。

### 【参考文献・資料】

講義中に随時指示する。講義内容に関する質問は、講義終了後の休憩時間内に受け付ける。

## 経営分析Ⅱ

浅野敬志

### 【授業の概要】

会計情報による経営分析の基本的な手法についての理解を深め、実際に企業が公表している会計情報をもとに経営分析を行い、企業の安全性・成長性・収益性などを把握するための方法を習得する。

### 【授業計画】

- 第1回 企業評価の必要性
- 第2回 資本利益率 (ROA・ROE) の意義と問題点
- 第3回 株主価値の創造と EVA™
- 第4回 投下資本利益率 (ROIC) と加重平均資本コスト (WACC)
- 第5回 実例を使った EVA™ 計算
- 第6回 実例を使った EVA™ 分析
- 第7回 財務分析の意義と問題点
- 第8回 企業評価モデル (1) - DCF モデル -
- 第9回 企業評価モデル (2) - Ohlson モデル -
- 第10回 実例を使った企業評価 (1)
- 第11回 実例を使った企業評価 (2)
- 第12回 株主価値を高める事業戦略 (1)
- 第13回 株主価値を高める事業戦略 (2)

### 【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

企業分析シナリオ (西山茂著 東洋経済新報社)

## 管理会計Ⅱ

吉村文雄

### 【授業の概要】

企業・組織の計画と管理に役立つ会計情報の特性を理解するとともに、会計データを事業計画の策定や業績評価に活用するための合理的な方法がどのようなものであるのかを、また会計情報システムをどのように設計すべきかを検討する。

### 【授業計画】

前半で管理会計の発達史と体系を説明し、後半で実践的な管理会計技法の構造と機能を把握するとともに、財務諸表分析の管理的意義を検討する。

概ね、以下の順に講義する。

1. 職能部門制組織の成立と管理会計
2. 階層組織の発達と管理会計
3. コントローラシップの発達
4. 計画会計と統制会計
5. 戦略予算とバランス・スコアカード
6. 情報処理と財務諸表分析
7. 管理会計論の諸問題

### 【評価方法】

講義の最終回に試験を行う。自筆ノート、教科書持ち込み可。コピー類の持ち込み禁止。

### 【テキスト】

最初の講義でテキストを指示する。適宜プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

講義を進めるなかで示す。授業中に常時質問を受け付ける。

## ビジネスとファイナンス

島田舒一

### 【授業の概要】

経済のグローバル化と企業の海外進出、金融システム改革に伴い、資金の調達方法は多様化し、また、企業の財務戦略もバランスシートの管理、資金の運用、リスク管理と範囲が広がってきている。このような変化の中における企業のファイナンスの動きと内容をビジネスと関連づけて考察する。

### 【授業計画】

1. 企業経営とファイナンスの役割
2. 金融資本市場の変化と企業財務
3. 資金の調達1 金融市場からの調達
4. 資金の調達2 資本市場からの調達
5. 事業への投資とその評価
6. バランスシート管理の重要性とその手法
7. 資金の運用と管理
8. 国際的な取引と資金の管理
9. 企業の直面するリスクとその管理
10. プロジェクトファイナンス
11. 証券化の活用
12. 企業ファイナンスとビジネスの展望

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

企業ファイナンス入門 (津森信也著 日経文庫)

### 【参考文献・資料】

現代ファイナンス入門 (現代ファイナンス講座1 中央経済社)  
証券化の知識 (大橋和彦著 日経文庫)

## 数理ファイナンス

上原 衛

### 【授業の概要】

この講義ではファイナンス理論の基礎を数理的なアプローチで解説する。実社会での事例や簡単な応用を交え、なるべく平易でわかりやすい解説を試みる。具体的には、金利と現在価値の概念、ポートフォリオ選択問題、オプション、スワップ、先物の各取引を含む金融派生商品（デリバティブ）についての基本的な概念、リスクのコントロールの基礎的な概念について最新の動向を交えながら紹介し解説する。

### 【授業計画】

1. 金利の概念
2. 現在価値の概念
3. ポートフォリオ選択問題
4. オプション、スワップ、先物の各取引を含むデリバティブ
5. ブラック＝ショールズ・モデル
6. リスクのコントロール

### 【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

金融工学を勉強しよう（足立光生著 日本評論社）

## 現代ビジネス事情II

石坂綾子

### 【授業の概要】

ヨーロッパ諸国の金融業を中心に、その基本的特徴を具体的事例を挙げて考察する。

### 【授業計画】

1. ガイダンス
2. 銀行・証券・保険業（アメリカ・ヨーロッパ）
3. 鉄道業（ヨーロッパ）
4. 高級ブランド（ヨーロッパ）
5. 航空業（アメリカ・ヨーロッパ）
6. 旅客機メーカー（アメリカ・ヨーロッパ）
7. コンピューター産業（アメリカ）
8. 鉄鋼業（ヨーロッパ）
9. 自動車産業（アメリカ・ヨーロッパ）
10. 流通業（アメリカ・ヨーロッパ）
11. 通信業（アメリカ・ヨーロッパ）
12. 石油産業（アメリカ）
13. 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。授業においてプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業において適宜提示する。

## 金融工学

上原 衛

### 【授業の概要】

この講義を受講するにあたり、数理ファイナンスを履修済みか同等の能力があることが望ましい。金融ハイテク商品の開発や市場価格の決定方法、企業の信用力の変動に伴う金融取引のリスクを減らし効率的に利益を得る方法を、高度な数理的・工学的アプローチを駆使して取り扱う「金融工学」について、実社会での事例を用いて平易でわかりやすい解説を試みる。まず、金融のリスクについて考え、ポートフォリオ理論、金融派生商品（デリバティブ）、オプション価格決定についての基礎を解説し、金融工学の応用を最新の動向と具体的な事例を交えて解説する。オプション価格決定のためのブラック＝ショールズ・モデルの解説に当たっては、身近な表計算ソフトを利用して例題や演習を解くことにより、その概念を確実に理解することを目指す。

### 【授業計画】

1. 金融のリスクを考える
2. ポートフォリオ理論の本質
3. 金融派生商品（デリバティブ）とは
4. オプションの価格決定理論
5. 金融工学の応用

### 【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

金融工学 マネーゲームの魔術（吉本佳生著 講談社+α新書）

### 【参考文献・資料】

Excelで学ぶ金融市場予測の科学（保江邦夫著 講談社）

## ファイナンシャルプランニングI

島田舒一

### 【授業の概要】

ライフスタイルの多様化、少子高齢化社会の到来に伴い、人々のライフプランニングや老後の生活設計に対する関心が高まってきている。Iでは、学習する6分野のうち、金融資産の運用、保険とリスク管理、ライフプランニングと年金などを取り上げて考察するほか、問題練習を通じて理解を深める。

### 【授業計画】

1. ライフプランニングの重要性
2. 社会保険
3. 公的年金
4. ライフプランの策定と計画
5. リスクマネジメントと保険
6. 生命保険
7. 損害保険
8. 第3分野の保険
9. 金融マーケットと金融商品
10. 債券投資
11. 株式投資
12. 資産運用の考え方

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

パーフェクトFP技能士入門（3級用）（きんざいFP技能研究会編 きんざい）

### 【参考文献・資料】

パーフェクトFP技能士3級対策問題集・学科編（きんざいFP技能研究会編 きんざい）  
パーフェクトFP技能士3級対策問題集・実技編（個人資産相談業務）（きんざいFP技能研究会編 きんざい）

## ファイナンシャルプランニングⅡ

島田 舒一

### 【授業の概要】

ライフスタイルの多様化、少子高齢化社会の到来に伴い、人々のライフプランニングや老後の生活設計に対する関心が高まってきている。Ⅱでは、Ⅰで学習した3分野以外のタックスプランニング、不動産、相続・事業承継などを取り上げて考察するほか、問題練習を通じて理解を深める。

### 【授業計画】

1. 所得税の仕組み
2. 各種所得
3. 所得控除、税額控除と所得税の申告
4. 保険、年金、金融商品と税金
5. 不動産の見方と不動産取引
6. 不動産と法律
7. 不動産と税金
8. 不動産の有効活用
9. 相続と法律
10. 相続
11. 贈与
12. 相続財産の評価

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

パーフェクトFP技能士入門（3級用）（きんざいFP技能研究会編 きんざい）

### 【参考文献・資料】

パーフェクトFP技能士3級対策問題集・学科編（きんざいFP技能研究会編 きんざい）

パーフェクトFP技能士3級対策問題集・技能編（個人資産相談業務）（きんざいFP技能研究会編 きんざい）

## ITと職業倫理

梅田 敬文

### 【授業の概要】

情報化の進展による産業や職業の変化を検討する。情報と関わる職業に要求されるプロフェッショナル倫理を、ケーススタディなどを通して理解を深め、情報化社会における職業観や勤労観を育成する。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 情報化社会の進展
- 第3講 職業とは
- 第4講 情報化と職業
- 第5講 企業活動と情報化
- 第6講 企業の人材育成
- 第7講 職業倫理（プロフェッショナル倫理）（1）
- 第8講 職業倫理（プロフェッショナル倫理）（2）
- 第9講 職場監視
- 第10講 内部告発
- 第11講 事例研究（1）
- 第12講 事例研究（2）
- 第13講 事例研究（3）
- 第14講 まとめ
- 第15講 テスト

### 【評価方法】

出席点とテストで評価する。

### 【テキスト】

適宜、レジュメを配布する。

## システムリスク管理論

上原 衛

### 【授業の概要】

インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したeビジネスの進展とともに、企業や金融機関は、ビジネスリスクや通信ネットワークのリスクにさらされるようになった。

本科目では、これらのリスクをシステムリスクとして概観し、とくにネットワークの構築や運用時のリスクと、ネットワーク上でのコミュニケーション時のリスクに焦点をあて実習を通して学習する。

また、リスク低減策としてのセキュリティの知識と技術を習得する。

### 【授業計画】

1. 情報化環境の構築と整備
2. 情報化環境の運用と活用
3. 情報化環境の管理
4. 情報通信ネットワークとコミュニケーション
5. 情報システム・経営システムにおけるリスクについて
6. eビジネスの進展に伴うビジネスリスクとシステムリスクの増大
7. リスクの評価とコントロール
8. 情報セキュリティ管理（1）
9. 情報セキュリティ管理（2）
10. 情報化社会における新たなリスクとリスクマネジメント
11. システムリスク発生時のコンティンジェンシープラン（1）
12. システムリスク発生時のコンティンジェンシープラン（2）
13. 企業経営と全社的リスクマネジメント
14. システムリスク・マネジメントの実践例（1）
15. システムリスク・マネジメントの実践例（2）

### 【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

## 流通情報システム論

三浦 信宏

### 【授業の概要】

流通サービス産業におけるコンビニエンスストアをとりあげて、情報システムの設計、管理、活用の知識を習得する。とくに、コンビニ経営のためのデータベース設計や情報検索の手法を、実習を通して習得する。また、情報システムを基盤としたコンビニ経営の最新動向を学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 企業経営における情報システムの役割
- 第3回 流通業における情報システムの変遷
- 第4回 流通情報システムの特徴
- 第5回 流通業務フローと業務処理
- 第6回 流通情報システム事例Ⅰ（企業間取引情報システム）
- 第7回 流通情報システム事例Ⅱ（企業内情報システム）
- 第8回 流通情報システムの適用業務設計（DFDによる実習）
- 第9回 流通情報システムのデータベース設計Ⅰ（論理設計と物理設計）
- 第10回 流通情報システムのデータベース設計Ⅱ（最適化）
- 第11回 流通情報システムの運営と管理
- 第12回 流通業の諸形態と小売業の将来像
- 第13回 ロジスティクス改革（QR、ECR、SCM）と新流通情報システム
- 第14回 まとめ
- 第15回 テスト

### 【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし、プリント配布

### 【参考文献・資料】

流通情報概論（高崎商科大学ネットビジネス研究所編 成山堂）

## プロジェクト管理

三浦信宏

### 【授業の概要】

適用業務開発プロジェクトを想定し、情報システムの設計局面、管理局面の作業内容とプロジェクトコントロールの知識と技法を学習する。とくに、画面設計やデータベース設計の作業を取り上げ、設計の作業を実習するとともに、作業の進捗管理、品質管理、変更管理の知識を習得し、情報システムの効果的な設計と管理の技法を学習する

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 情報システム開発とプロジェクト
- 第3回 情報システムの開発プロセス
- 第4回 プロジェクト実施計画の立案
- 第5回 情報システムの適用業務分析
- 第6回 情報システムの適用業務設計
- 第7回 情報システムのデータベース設計 I (論理設計と物理設計)
- 第8回 情報システムのデータベース設計 II (最適化)
- 第9回 情報システムの出力 (画面、帳票等) 設計
- 第10回 プロジェクト実施局面における進捗管理
- 第11回 プロジェクト実施局面における品質管理
- 第12回 プロジェクト実施局面における変更管理
- 第13回 プロジェクトの評価方法
- 第14回 国際標準プロジェクトマネジメント (PMBOK) の動向
- 第15回 テスト

### 【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし、プリント配布

### 【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

## 経営情報システム論

伊東俊彦

### 【授業の概要】

経営情報システムを情報通信ネットワークの形態やその進展、およびコミュニケーション形態の変遷との関係でとらえ、MIS、意思決定支援システム、SIS、BPRなどの機能と構造をネットワークの構築、運用の観点から学習する。また、経営戦略やビジネスモデルの策定が、通信ネットワークとコミュニケーションにより、どのような影響を受けるのか、実習も含めたセキュリティ対策などを通して学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション (授業の進め方)
- 第2回 情報通信ネットワークの進展と情報システム
- 第3回 コミュニケーション形態の変遷と情報システム
- 第4回 経営情報システムとネットワーク
- 第5回 MISの歴史
- 第6回 意思決定支援システム
- 第7回 SIS (戦略的情報システム)
- 第8回 BPRと情報システム
- 第9回 ロジスティクスシステム
- 第10回 SCMとネットワーク
- 第11回 経営戦略・ビジネスモデルと情報システム
- 第12回 データベースとデータウェアハウス
- 第13回 経営情報システム構築手法
- 第14回 まとめ

### 【評価方法】

出席点およびミニテスト (1~2回実施) により評価する。

### 【テキスト】

テキストは授業開始までに指示する。

### 【参考文献・資料】

新版 図解経営情報システム (佐々木宏著 同文館発行)  
経営情報論 (遠山暁 他著 有斐閣発行)  
経営情報システム 第3版 (宮川公男編著 中央経済社発行)  
現代経営情報システム開発論 (立川丈夫著 創成社発行)

## コンピュータシミュレーション

上原 衛

### 【授業の概要】

情報処理システムを活用してデータの統計処理やシミュレーション機能を学習するとともに、図形処理や画像処理機能を活用して効果的なデータ提示方法を検討する。

### 【授業計画】

- 第1回 コンピュータシミュレーションとは
- 第2回 ウィンドウズでのプログラム、表、グラフの作り方
- 第3回 乱数とは、一様乱数の発生方法
- 第4回 オペレーションズリサーチ (OR) とは
- 第5回 Excelを利用したシミュレーション (OR:線形計画法)
- 第6回 Excelを利用したシミュレーション (OR:日程計画)
- 第7回 Excelを利用したシミュレーション (OR:在庫管理)
- 第8回 Excelを利用したシミュレーション (OR:待ち行列)
- 第9回 Excelを利用したシミュレーション (OR:モンテカルロシミュレーション)
- 第10回 経済性工学、財務管理のシミュレーション
- 第11回 リスクの計量化、信用リスク管理のシミュレーション
- 第12回 金融工学、デリバティブズのシミュレーション
- 第13回 不確実な状況での意思決定のシミュレーション (1) ゲーム理論
- 第14回 不確実な状況での意思決定のシミュレーション (2) 意思決定論
- 第15回 まとめ

### 【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指示する。

## ビジネスとジェンダー I

國信潤子

### 【授業の概要】

主に、産業社会学と開発社会学の視点からビジネス関係におけるジェンダー (社会・文化的性) 区分の実態を国内外の男女別統計データなどから検討し、雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法などの法制整備がどのように変化しているかについて講じる。家族、地域、就労の3領域におけるジェンダー・バランスについて各種データなどから現状を理解する。

### 【授業計画】

まずジェンダーという概念が形成されてきた社会背景を紹介する。次に国内外のジェンダー関係の統計データを紹介しながら、男女賃金格差、地位格差、職域区分などを解説する。次いで雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、さらにセクシュアル・ハラスメント防止のための施策、育児・介護休業法などについて紹介する。少子化の進行する日本社会において、ビジネスとジェンダー関係の近年の変容と、男女がともに有償労働・無償労働を均等に分担しつつ社会をささえるためには今どのような新たな政策が推進されているかを検討する。

### 【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

### 【テキスト】

特になし、随時資料配布

### 【参考文献・資料】

授業時に随時紹介



## ビジネスとジェンダーⅡ

北仲千里

### 【授業の概要】

産業社会におけるビジネス行為はジェンダー：社会・文化的性によってその役割、評価、影響などが異なる場合がある。特に日本社会においては女性の経済的地位はまだ脆弱であり、雇用機会均等法の実施も不十分である。近年の経済のグローバル化のなかで職域、職階、賃金のジェンダー格差にどのような変化が見られるかについて統計データから考察する。また、産業界における人間関係についてジェンダーに敏感な視点をもって考察する。さらに職場の人間関係における問題、賃金格差、地位格差、セクシュアルハラスメント訴訟などについて、その内容について詳細に検討し、今後を展望する。

### 【授業計画】

現代でも女性の平均賃金は男性の約6割でしかありませんし、性別（ジェンダー）は、私たちの人生設計や職業選択などにも大きな影響を与え続けています。この講義では、「働くこと」「職場」「男と女」というテーマを、社会学的な方法で考えていきます。

講義を通じて、社会学的な見方を身につけること、統計データの読み方を身につけることも目指します。

1. 統計データから見る仕事とジェンダー
  2. ジェンダーという概念
  3. 職業分類や賃金の基礎知識
  4. 就職と学歴と性別の関係
  5. 就業パターンと家事労働との関係を考える
  4. 「差別」と「区別」を考える～その1 頭の体操 編
  5. 「差別」と「区別」を考える～その2 法律と裁判からみる
  6. 男女雇用機会均等法と就職の現状
  7. 職場でのセクシュアル・ハラスメント
  8. 社会が変わる、会社が変わる
- これらのテーマを1～2週ずつ取り上げていきます。

### 【評価方法】

毎回ではありませんが、講義の中でミニレポートを書いてもらったり、宿題を課す場合があります。評価はそのミニレポートの提出回数と最後の試験の点数の総合点で行います。

### 【テキスト】

特に指定しません。講義時に毎回プリントを配布します。

### 【参考文献・資料】

女性学・男性学（伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子 有斐閣アルマ）  
竹中恵美子が語る労働とジェンダー（関西女の労働問題研究会 ドメス出版）

## ビジネスマナーと異文化

ジョリー佐々木幸子

### 【授業の概要】

当講座は、21世紀の国際ビジネスパーソンを目指す学生が、海外との取引や異文化における習慣や価値観などを学習することによって、国際ビジネスマナーや、世界に共通するプロトコールについて広範囲にわたり研鑽を積み、将来の国内、海外での商取引をはじめ、国際交流におけるコミュニケーションでの正しいマナーを身につけることを目的とする。

### 【授業計画】

1. Orientation
2. 序章： 国際儀礼の基本的な考え方
3. 第1部： 日常生活【社交面】のDoとDon't
4. 第2部： ビジネス【オフィス】のDoとDon't
5. まとめ
6. 期末試験

### 【評価方法】

期末試験、レポート、授業への出席・関与度を総合的に評価判断する。

### 【テキスト】

国際ビジネスのためのプロトコール（寺西千代子 有斐閣 2000）  
世界60カ国比較文化事典（T. モリスン、W.A. コナウエイ、G.A. ボーデン、マクミラン ランゲージハウス 1999）

### 【参考文献・資料】

海外のビジネスマナー（ジェトロ 【日本貿易振興会】編 2003）

## 異文化コミュニケーションⅡ

福本明子

### 【授業の概要】

本講義では、日常の検証されない前提やコミュニケーションへの影響を、構築主義・批判主義的視点から探求することを目的とする。「文化」を静止的なものではなく、流動的・構築的なものとして捉え、異文化コミュニケーションⅠで学習した「文化」の概念を再検討する。「日本人の境界」やその境界の影響を中心に、民族や力関係の文化への影響を身近な事例を用いて検証し、多文化共生社会へ向け、コミュニケーションを通じて個人の社会への関与・貢献の可能性を探求する。異文化コミュニケーションⅠを履修すること。

### 【授業計画】

以下のテーマに沿って異文化コミュニケーションへの社会的「力」の影響を学習します。

1. 異文化コミュニケーションの発展と複数のアプローチ
2. 「コミュニケーション」と「視点」、Framing、社会的現実の構築
3. 「力」についての考察
4. 社会のマイノリティとマジョリティ、whiteness研究
5. 「力」とアイデンティティ
6. 日本社会、日本文化、日本人論
7. グローバリゼーションと異文化コミュニケーション
8. 多文化共生とは

### 【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

### 【テキスト】

初回の授業にて発表。

### 【参考文献・資料】

多分化社会と異文化コミュニケーション（伊佐雅子 監修 三修社）

## ビジネスと社会

國信潤子 原山恵子

### 【授業の概要】

ビジネスにおける人間関係の諸側面を法制、社会階層、ジェンダー関係そして産業社会学的視点から考察する。近年女性・男性の社会参画が社会のあらゆる側面で進展している。しかし雇用均等法などの法制は十分に浸透しているとは言えない。そこで2名の講師によるビジネス活動の多面的な考察をおこなう。

（オムニバス方式）  
（國信潤子教授）

社会学的統計データ、産業社会学、男女共同参画などの領域でビジネスにおけるジェンダー関係を紹介する。

（原山恵子兼任講師）

法制面でのビジネス関係の変容、特にビジネス活動、経済活動と家庭生活などにおけるジェンダー関係、日本社会における組織、家庭におけるジェンダー関係を法制面から事例的に考察し、雇用機会均等法、家族関係の変容などについて解説する。

### 【授業計画】

ジェンダーの概念を紹介し、その社会的現象について日本の現状を紹介する。各種統計、調査報告、企業における職域、職階別統計データなどから日本のビジネス界にみるジェンダー区分を考察する。國信が最初の4回、ついで原山によって5～6回、最後にまとめとして國信が2～3回日本のビジネス界におけるジェンダー領域の課題を講じる。

講師2名によるオムニバスである。

### 【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

### 【テキスト】

特になし。随時資料を配布。

### 【参考文献・資料】

ジェンダーと職業（亀田ほか 東洋経済社）  
新しい産業社会学（犬塚編 有斐閣）  
女性学・男性学～ジェンダー論入門～（國信、伊藤ほか 有斐閣）

## ビジネスレター

寺本史子

### 【授業の概要】

経済のグローバル化の進む中、英文ビジネスレターを書く機会は間違いなく増えている。手紙、ファックス、Eメールと形は異なっても、ビジネスレターについて最も大切なものは“50%が文法、のこりの50%は書き手の態度”ともいわれており、明確・簡潔・誠実・友好的に書くことが基本となる。読みやすく、プロフェッショナルに見える英文ビジネスレターの書き方を、豊富な事例に学び、練習することを通じて、マスターする。

### 【授業計画】

1. 英文手紙の特徴・よい手紙を書くためのルール
2. ビジネスライティングのポイント
3. 問い合わせ
4. 問い合わせに対する返答
5. 注文
6. 支払い
7. 案内
8. クレーム
9. クレームに対する返答
10. 請求
11. 請求に対する返答
12. 好意・感謝を示す手紙
13. ホテル・旅行業に関する手紙
14. 通関に関する手紙

### 【評価方法】

第一に、課題に取り組む態度を重視するが、出来上がった手紙の内容（正確さと表現の適切さ）そして出席状況等を含め総合的に判断

### 【テキスト】

最新英文ビジネスレター（ブルース・ハード著 立花久稔訳 松柏社）

## 英語プレゼンテーション

福本明子

### 【授業の概要】

本講義は、英語でのプレゼンテーション技能の向上を目指します。スピーチの作成・プレゼンテーションの学習から始め、パワーポイントの操作を習得し、パワーポイントを用いたプレゼンテーションまで学習する。更に、コミュニケーション研究から言語・非言語による信頼性の構築や意味付与等に関する知識を学習する。定期的にプレゼンテーションを伴う課題を体験し、学習した情報を実践し、個々人が「自分らしさ」を伴うプレゼンテーションを探求する。

### 【授業計画】

1. コミュニケーションモデル
2. 自己紹介プレゼンテーションと相互評価のポイント
3. 意味付与
4. 言語メッセージとプレゼンテーション
5. 非言語メッセージとプレゼンテーション
6. スピーチと自分らしさ
7. スピーチと文化
8. パワーポイントとプレゼンテーション

### 【評価方法】

出席率、授業への参加度合いやプレゼンテーションやクラスメートとの相互評価を総合して最終評価を行う。

### 【テキスト】

初回の授業にて発表。

### 【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

## 交渉術 / ディベート

福本明子

### 【授業の概要】

本講義は、「交渉術」をmediation（ミディエーション：第3者仲介調停）とDebateを含む広い概念として捉え、交渉術の概要を講義すると同時に、ディベートを中心に据えた技能習得を目的とする。概要にて、文化・感情・面子などの交渉・議論への関与を学習する。その後ディベートを中心に、議論の組み立て方・批判検証のポイント・言語操作の俊敏性などの技能向上を目指す。ディベートの使用言語は様子を見ながら日本語と英語の分量を調整する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 交渉・説得
3. ディベートの構成要素、模擬ディベート
4. 論証・検証のポイントI
5. ディベート（練習I）
6. リサーチ・準備I
7. 論証・検証のポイントII、スピーチ・デリバリー
8. ディベート（練習II）
9. リサーチ・準備II
10. ディベート（トーナメント）
11. ディベート（トーナメント）
12. まとめ

### 【評価方法】

出席率、ディベートへの準備やプレゼンテーション、グループ内の相互評価を総合して最終評価を行う。

### 【テキスト】

初回の授業にて発表。

### 【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

## ビジネス外書講読I

小池弘道

### 【授業の概要】

新聞、雑誌・本（リーダーズダイジェスト、日経ジャーナルなど）の英語版や、放送（BBC、CNNなど）などを教材として基礎的な読書力を養う。内容としては、世界の政治、経済、外交などに関するビッグなニュースを読んで理解するとともに、その出来事の本国および私達の生活への影響を考察する。また景気動向、物価の動き、金融情勢、雇用・失業状況などの経済ニュースを読んで、日本や世界各国の動きを知る。更には、企業の技術革新、収益状況、リストラクチャー、合併統合などに関する記事を読んで、最近の企業動向を理解する。

### 【授業計画】

下記の内容の載っている記事を読み、読解力を高める。日本及び海外諸国の経済の動向、景気の動向、雇用の動向、物価の動きなど。企業の経営状況・・・決算状況、収益性分析、倒産など。企業再編成・・・合併、統合、提携など。マーケティング・・・市場調査・解析、新製品開発など。新技術研究。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

### 【テキスト】

必要に応じ資料配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

## ビジネス外書講読II

小池弘道

### 【授業の概要】

ビジネス外書講読Iでの学力向上を踏まえて、新聞、雑誌・本（リーダーズダイジェスト、日経ジャーナル、ハーバードビジネスレビューなど）の英語版や、放送（BBC、CNNなど）などを教材として使い、さらにレベルアップを図る。

### 【授業計画】

下記の内容の載っている記事を読み、読解力を高める。

世界の政治、経済、外交などに関するニュースを読んで理解する。また景気動向、物価の動き、金融情勢、雇用・失業状況などの経済ニュースを読んで、日本や世界各国の動きを知る。更には、企業の技術革新、収益状況、リストラクチャー、合併統合、法律問題、環境問題などに関する分野も取り入れて講義していく。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

### 【テキスト】

必要に応じ資料配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

## マーケティングストラテジー

大塚英揮

### 【授業の概要】

本講義では、マーケティングベーシックで習得した知識を基礎に、この目標を達成するためにとられる戦略的手法について理解を深めていく。先ず企業の競争戦略を理解するために必要な「考え方」を習得し、その上で個別企業が操作可能な戦略手段である価格、製品、マーケティングチャネル、広告の各手段をそれぞれ取り上げ、これら各手段に関する具体的戦略の理解を深めていく。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 戦略的思考法 (1)
3. 戦略的思考法 (2)
4. 戦略的思考法 (3)
5. 市場構造とマーケティング戦略 (1)
6. 市場構造とマーケティング戦略 (2)
7. 戦略的ブランドマネジメント (1)
8. 戦略的ブランドマネジメント (2)
9. 戦略的ブランドマネジメント (3)
10. 知識創造と製品開発 (1)
11. 知識創造と製品開発 (2)
12. 消費者心理と広告戦略 (1)
13. 消費者心理と広告戦略 (2)
14. 関係性マーケティング
15. ケース分析

### 【評価方法】

平常点 (50%) と期末試験 (50%) で評価します。

### 【テキスト】

使用しない

### 【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示する。

※履修条件：マーケティングベーシックを履修済みのこと

## TOEFL (Writing)

JOLLY, James A.

### 【Course Content】

本講義はTOEFLテストのwritingのセクションのための基本的技能を培うことを目的とする。TOEFLテストに含まれるエッセイ・ライティングの問題に関し、書き方の方法と技術を一步一步学んでいくものである。実際のテストに類似した練習問題が、TOEFLテストの中で期待される質問に慣れるために使われる。英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指すものである。

### 【Schedule】

A detailed schedule of the lessons and assignments for each class will be provided at the second meeting of the class. The topics to be covered in this course include:

1. Understanding what you are to write about
2. Planning what you will write about (notes and outline)
3. Developing sentences and paragraphs to express your ideas
4. Improving your expressions and writing style
5. Checking and editing your essay

### 【Assessment】

Assessment will be based on class attendance and participation, completion of homework assignments, and demonstrated improvement in skill in practice tests. Practice written tests will be given at mid-term and at the end of course.

### 【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine) .

### 【Reference】

To be recommended individually as need arises.

## ビジネスストラテジー

河合篤男

### 【授業の概要】

企業を取りまく環境は常に変化している。こうした環境変化に対して、うまく適応して成長を続ける企業もあれば、適応に失敗してしまう企業もある。このような違いがなぜ生み出されるか。それを解明するためのひとつの柱は、経営戦略の立案プロセスの研究である。環境適応に成功している企業が、どのように変化を認識して、次なる経営戦略の立案に結び付けているのか、企業が内部に構築している環境適応のための仕組み、さらには社外からのCEOや経営コンサルティング企業など、外部の力を利用した企業革新について、事例を交えて解説する。

### 【授業計画】

0. イントロダクション
1. 経営戦略について (その1)
2. 経営戦略について (その2)
3. 企業のドメイン
4. ドメインの変化
5. 企業革新のモデル (その1)
6. 企業革新のモデル (その2)
7. 資源展開 (その1)
8. 資源展開 (その2)
9. 企業とパラダイム
10. パラダイムの逆機能
11. 企業革新の新機軸
12. 企業革新と経営コンサルタント

### 【評価方法】

試験中心

### 【テキスト】

組織能力を活かす経営 3M社の自己超越ストーリー (河合篤男・伊藤博之・山路直人・山田幸三 中央経済社)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて配布する

## ヒューマンリソースマネジメント

小池弘道

### 【授業の概要】

労働法の基礎知識について講義する。それから企業風土、組織について説明する。更に日本の労働慣行の崩壊について解説する。そのうえで、日本と欧米との人事・労務管理の違いなどを踏まえて、今後の人事・労務管理の変化について説明する。

### 【授業計画】

人というものについて色々な視点から考察する。そのうえで労働基準法などについて講義する。更に企業風土、組織、権限などについて解説する。また日本の強みと言われた終身雇用制度、年功型処遇制度の崩壊とその原因について考察する。更に今後の労働市場の変貌について説明する。また日本と欧米との人事・労務管理の違いについて、役割期待、責任と権限、採用、賃金制度、人事異動、従業員教育、モラル向上などの視点から講義する。

そのようことを踏まえて、今後の人事・労務管理において予想される変化と個人としての対応について解説する。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

### 【テキスト】

必要に応じ資料配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

## ビジネスマネジメント

辻村宏和

### 【授業の概要】

起業ブームの裏には低成長率もあることを見逃してはならない。財務テクニックや法律知識、あるいは最新テクノロジーに関して自分の不得意領域をカバーすべく起業には良きビジネス・パートナーが不可欠であるが、「ビジネスであるがゆえに親友（兄弟）の正体を知るはめとなった」最大最悪のトラウマに陥ったケースは枚挙にいとまがない。起業自体はマネジメントにとってほんのプロローグに過ぎず経営者は意外にも起業後の非経済的要因で苦悩する。本講義では、そういった苦悩を「組織の病氣」として、事例を交えながら理論的に学習する。

### 【授業計画】

主要なテーマは以下の通りである。

1. 起業の形式的手続き
2. 起業前の諸問題
3. 起業後に発生するトラブル
  - (1) 経済的要因によるトラブル
  - (2) 非経済的要因（ヒューマン・ファクター）によるトラブル
4. ビジネス・パートナーにかかわる諸問題
  - (1) 同族経営の場合
  - (2) 親友を共同出資者とした場合
5. 創業後2～3年に求められる経営手腕
6. 経営のターニング・ポイント：後継者問題
7. 二代目経営者の権威
8. 組織規模の拡大と経営の変質
9. その他

### 【評価方法】

期末試験の結果に講義中に取得したポイント数を加味する。

## アントレプレナー特論

真田幸光

### 【授業の概要】

本講義では、ビジネスの原点とも言うべき「起業」、即ち、人々が「業を起こす」という初期過程からビジネスとは何かを考察していくことを目的としている。起業をするには、財務分析等の定量分析的考察のみならず、市場環境調査、労務管理、リーダーシップなど、幅広い視点からビジネスの本質を捉えていく必要が生じ、こうした幅広い視点を研究することによって受講生のビジネスに対する学問的知識の向上と共に実践的な知識・ノウハウの向上を図っていくべく、講義を展開する。尚、実践的知識・ノウハウ向上の為、開講中、3～4人前後の外部講師（外資系企業経営陣、ベンチャー企業経営者、ベンチャーキャピタル経営者、マスコミ関係者、行政関係者などを予定）を招き、講義を受けた後、担当教員とのディベート、更には受講生との意見交換などを組み入れていくことを予定している。

### 【授業計画】

1. ガイダンス
2. ビジネスとは何か
3. 起業の契機
4. コアビジネスの作り方
5. 販売戦略
6. コスト部門の効率化戦略
7. 人材活用
8. 企業組織論
9. ファイナンス
10. 中期計画の立て方
11. 投資家の視点と起業
12. ケース・スタディー1
13. ケース・スタディー2
14. 総括
15. 理解力試験

### 【評価方法】

試験による評価

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

特になし。

## チャネルマネジメント

大塚英揮

### 【授業の概要】

メーカーが自社商品のシェアを高めていく上で、流通チャネルをどう管理していくかは非常に重要な意味を持つ。本講義では次の3つのトピックスについて取り扱う。(a)「チャネル」の形状、「チャネル」を構成する基本要素であるメーカー、卸、小売三者間の取引関係、(b)メーカーが流通業者とどのような取引関係を結び、どう流通業者を管理するのが最適なのか、(c)メーカーと流通業者間の「製販統合」、これら3つのトピックスについて具体的ケースを用いて学習し、流通に関する専門的知識を習得する。

### 【授業計画】

1. 流通チャネルとは何か (1)
2. 流通チャネルとは何か (2)
3. 流通の基礎理論 (1) 機能代替可能性、取引数最小化
4. 流通の基礎理論 (2) 取引費用アプローチ
5. 流通の基礎理論 (3) パワー理論、帰属原理
6. 日本型流通システムとは何か
7. 日本型流通 (1) 専売店制
8. 日本型流通 (2) 返品制
9. 日本型流通 (3) 製販統合と製販連携
10. 環境変化と日本型流通の変質 (1) 流通規制緩和
11. 環境変化と日本型流通の変質 (2) 流通外資の参入
12. 環境変化と日本型流通の変質 (3) 流通におけるパワー関係の変化
13. 環境変化と日本型流通の変質 (4) 流通情報化の進展
14. 環境変化と日本型流通の変質 (5) 卸売業の機能強化
15. まとめ

### 【評価方法】

小テストなどの平常点 (60%) + 期末試験 (40%) で総合的に評価します。

### 【テキスト】

使用しない。プリントをその都度配布します。

### 【参考文献・資料】

現代流通 (渡辺達朗 有斐閣)  
流通原理 (田村正紀 千倉書房)

## e ビジネス

伊東俊彦

### 【授業の概要】

前半はe-ビジネスと一般のリアル・ビジネスとの違いをe-ビジネスのタイプ事例を通して習得し、ビジネスモデル特許の問題やe-ビジネスの現状と課題について学習する。後半はe-ビジネスのしくみをエージェントシステム、オークションをとおして学び、e-ビジネスを支援する情報推薦システムについても見ていく。最後にe-ビジネスのシステムを構築する際の概要を留意点を中心に学んでいく。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方）
- 第2回 eビジネスとは
- 第3回 eビジネスのタイプ
- 第4回 ビジネスモデル特許と課題
- 第5回 eビジネスの現状と課題（1）
- 第6回 eビジネスの現状と課題（2）
- 第7回 eビジネスのしくみ（1）：エージェントシステム
- 第8回 eビジネスのしくみ（2）：オークション
- 第9回 eビジネスの支援：情報推薦システム
- 第10回 日本型eビジネス
- 第11回 eビジネスのシステム構築概要（1）
- 第12回 eビジネスのシステム構築概要（2）
- 第13回 eビジネスのシステム構築概要（3）
- 第14回 まとめ

### 【評価方法】

出席点およびミニレポート（1～2回実施）により評価する。

### 【テキスト】

テキストは授業開始までに指示する。

### 【参考文献・資料】

e-ビジネスの理論と応用（菅坂玉美・他著 東京電機大学出版局発行）  
e-ビジネス 企業変革のロードマップ（ラビ・カラコタ・他著 渡辺聡監訳  
ピアソン・エジュケーション発行）

## ビジネスと法

上田純子

### 【授業の概要】

現代企業がビジネスの現場で遭遇すると思われる問題を取り上げ、法的側面から検討する。また、ビジネスに関する興味深い裁判例を取り上げ、解説するとともに、今後企業が対応すべき新たな領域や問題についても考察する。

### 【授業計画】

- 第1回 ビジネスと法律のかかわり
- 第2回 契約に関する法律知識
- 第3回 代理と委任
- 第4回 債権の担保
- 第5回 債務の履行、時効
- 第6回 売買契約
- 第7回 不法行為と損害賠償
- 第8回 会社組織に関する法律（1）
- 第9回 会社組織に関する法律（2）
- 第10回 競争を制限する企業活動に関する法律
- 第11回 手形と小切手に関する法律
- 第12回 証券取引に関する法律（1）
- 第13回 証券取引に関する法律（2）
- 第14回 企業の倒産に関する法律
- 第15回 試験

### 【評価方法】

期末に実施される筆記試験の成績を中心に評価するが、授業への出席状況や授業態度、授業内の提出物の提出状況などを考慮することもある。

### 【テキスト】

開講時に指示する。

### 【参考文献・資料】

講義内容の全体をカバーする参考図書については、開講時に指示する。特定のテーマについて深く学びたい受講生に対しては、その都度参考文献を指示する。なお、テキストの記述で不足する部分については、適宜補助資料を配布する。

## 有価証券法

原 秀六

### 【授業の概要】

商取引の決済等において重要な役割を果たしている手形について、手形法がどのように規定しているのかについて講義する。高度ではあるが、テキストを用いながら法の基本的な考え方の理解を深める。

### 【授業計画】

- \* 手形の振出
- \* 手形理論
- \* 手形行為と意思表示の瑕疵と欠缺
- \* 手形の譲渡方法
- \* 手形取得者の保護
- \* 手形の支払と遡求
- \* 手形行為独立の原則と手形保証
- \* 為替手形・小切手

### 【評価方法】

期末試験、出席状況および授業中のパフォーマンス。

### 【テキスト】

『最新手形小切手法（四訂版）』（田邊光政著 中央経済社）。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

## インターンシップ

上原 衛

### 【授業の概要】

2週間程度の短期間であるが、企業に出向き実際の会社での業務に触れて、実社会での活動を体験する。これまで主として座学によって学んだ理論や事柄が、どのように応用されているかを理解する。また、実社会でビジネスパーソンとしてどのような心構えを持つべきかを自分なりに考えかつ体得する。

### 【授業計画】

原則として、夏期1～2週間程度の期間、企業や公共機関でインターンシップ研修を実施し、実社会を体験する。その前後に、下記の事前講義および事後の研修報告と成果発表を行い、研修の準備ならびに総括を行う。

1. ガイダンス（インターンシップについて、心構え等）
2. 職業と人生について
3. 各種業種について（学生各自の調査と発表も実施）
4. 日本の企業経営について
5. ビジネスマナー講座
6. 研修後の報告レポートの作成と成果報告（発表会を実施）

### 【評価方法】

出席状況、企業での実地研修状況、成果報告書の作成と発表の3つにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

随時資料を配布する。

# 資本市場と証券投資（野村証券提供講座）

上原 衛

## 【授業の概要】

現在、証券業務に従事している各分野のプロが、基礎から最先端かつ専門的な資本市場と証券投資について実践的な講義を行います。直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何かについて考え、金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク・リターンを考え、株式投資・債券投資・分散投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説します。

## 【授業計画】

- (1) ガイダンス
- (2) 経済情報の捉え方
- (3) 経済成長と金融資本市場
- (4) これからの日本と資本市場の果たす役割
- (5) 証券投資のリスク・リターン
- (6) ポートフォリオ・マネジメント
- (7) 債券市場の役割と投資の基礎知識
- (8) 株式市場の役割と投資の基礎知識 1
- (9) 株式市場の役割と投資の基礎知識 2
- (10) 投資信託の役割とその仕組み 1
- (11) 投資信託の役割とその仕組み 2
- (12) 資本市場における投資家心理
- (13) 資産運用とライフプランニング

※授業はオムニバス形式で毎回講師が来て行われる。

## 【評価方法】

出席状況と毎回の授業で提出するレポートにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

必要に応じてそのつど関連資料を配布する。

## 【参考文献・資料】

- 証券投資の基礎（野村証券投資情報部編 丸善株式会社）  
日本の資本市場（氏家純一編 東洋経済新聞社）

## プレゼンテーション

松田照美

### 【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、自己表現の基本技術と面談の効果的な仕方、資料・データなどによる演出について実践的に学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 プレゼンテーションを学ぶにあたって
- 第2回 ノンバーバル・コミュニケーション (1)
- 第3回 ノンバーバル・コミュニケーション (2)
- 第4回 効果的な言語表現 (1)
- 第5回 効果的な言語表現 (2)
- 第6回 対人接遇における印象管理
- 第7回 対人接遇のスキルー自己紹介ー
- 第8回 コミュニケーションにおける資料提示の技術
- 第9回 対人接遇としてのプレゼンテーション
- 第10回 3P分析と戦略
- 第11回 企画と構成
- 第12回 プレゼンテーションの演出法
- 第13回 ビジネスプレゼンテーションの実践

### 【評価方法】

出席状況・小テスト・実習課題などによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プレゼンテーション (関根健夫監修 一橋出版)

### 【参考文献・資料】

パーフェクト・プレゼンテーション (八幡紘芦史・生産性出版)

## 英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

DYCUS, David C. 山田久美子 CHAMBERS, Tim 横関美津紀 寺本史子 今井加寿 PUDWILL, Larry A. 岡瀬成英 村上洋子  
野口朋香 磯村香里 今井知子 SUTHONS, Philip HARRIS, Richard S. REINTSMA, Sharell 森本素子 松本一喜

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を、文法や語彙など基本事項に重点を置いて身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・ブラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 異文化トレーニング

寺本史子

### 【授業の概要】

異文化コミュニケーションの分野における基本的な概念を理解すると共に、異なる文化をどうとらえどのように接するのが望ましいかについて、いくつかの今日的な事例を取り上げて考察する。また、さまざまなトレーニングやコミュニケーションワークを通して適切な異文化コミュニケーション能力を養成する。

### 【授業計画】

1. なぜ今異文化コミュニケーションか
2. 文化・異文化とは
3. コミュニケーション・スキル
4. コミュニケーションのメカニズム
5. 言葉によるコミュニケーション (1)
6. 言葉によるコミュニケーション (2)
7. 非言語コミュニケーション
8. 見えない文化
9. 価値観と文化的特徴
10. 異なる文化のとらえ方・接し方
11. 異文化理解
12. 異文化との出会い
13. 異文化適応能力
14. 学期末試験

### 【評価方法】

レスポンスペーパー、学期末試験の成績、授業態度出席状況などから総合的に判断する。

### 【テキスト】

異文化トレーニング (八代京子他著 三修社)  
必要な関連資料については適宜授業中に配布

### 【参考文献・資料】

異文化コミュニケーション・ワークブック (八代京子他著 三修社)  
*Culture, Communication, and Conflict*  
(Gary R. Weaver編 Simon・Schuster Publishing)

## 英語コミュニケーション2 (Listening I)

太田晶子 相川由美 鈴木哲至 HEWER, Robert WILLIAMS, Allen D.  
SMITH, September LACEY, Charles F. SUTHONS, Philip REINTSMA, Sharell DAVIES, Alun

### 【授業の概要】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・ブラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション3 (Listening II)

石橋千鶴子 DYCUS, David C. 横関美津紀 SMITH, September HARRIS, Richard S. HEWER, Robert REINTSMA, Sharell WILLIAMS, Allen D. SMITH, September LACEY, Charles F. RUDWILL, Larry A. BROWNING, Jeremy S. 船山由美 鈴木哲至 磯村雅也 寺本史子 今井知子 松本一喜 太田道子 CHAMBERS, Tim

### 【授業の概要】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

DYCUS, David C. 横関美津紀 SMITH, September HARRIS, Richard S. CAMERON, Leona R. DUNKLEY, Daniel REINTSMA, Sharell STEPHENSON, Brett HEWER, Robert 二村眞一 寺本史子 石橋千鶴子 若山真幸 太田道子 LACEY, Charles F. 鈴木哲至

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション4 (Reading I)

DYCUS, David C. 山田久美子 横関美津紀 松本一喜 間瀬欣英 村上洋子 野口朋香 STEPHENSON, Brett REINTSMA, Sharell

### 【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。具体的には、1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

HARRIS, Richard S. WILLIAMS, Allen D. HEWER, Robert SMITH, September WACHOLTZ, Terry STEPHENSON, Brett BROWNING, Jeremy S. CHAMBERS, Tim SUTHONS, Philip

### 【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身につける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

### 【Schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

### 【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced



## 英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

HARRIS, Richard S. LACEY, Charles F. SUTHONS, Philip WILLIAMS, Allen D. CAMERON, Leona R. SMITH, September HEWER, Robert WACHOLTZ, Terry STEPHENSON, Brett BROWNING, Jeremy S. CHAMBERS, Tim

### 【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

### 【Schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

### 【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション8 (Reading II)

横関美津紀 山田 豊 安田千恵 寺本史子 今井知子  
磯村香里 SUTHONS, Philip REINTSMA, Sharell 鈴木哲至

### 【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 言葉とコミュニケーション

野口朋香

### 【授業の概要】

他者とのコミュニケーションでは多くのメッセージがやりとりされており、それらのメッセージをどう発信し、どう受け止めるかは、それぞれの人の社会的・文化的背景と大きく結びついています。本講義では、コミュニケーションにおける「言葉」に焦点をしばり、私たちがどのように言葉を用いながらコミュニケーションを行っているのかを考察していきます。

### 【授業計画】

- ことばとは？言語・社会・文化的側面からの考察
- 子供の言語習得とコミュニケーション
- 対人関係と会話
- 談話分析と会話のスタイル
- 対人関係から見た会話のスタイル
- 言語・非言語コミュニケーション
- サイバーコミュニケーションにおける「ことば」の役割

### 【評価方法】

授業参加および試験・レポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布

## コミュニケーション入門

野口朋香

### 【授業の概要】

本講義では、コミュニケーションの基礎概念を学びながら、コミュニケーションの色々な形態について考察します。私たちの身近に起こっている具体例を挙げながら、コミュニケーション全般に対する理解を深めることを目的とします。

### 【授業計画】

- コミュニケーションとは？
- 家族内におけるコミュニケーション
- 男女間におけるコミュニケーション
- 組織内におけるコミュニケーション
- 異文化間コミュニケーション
- 対人コンフリクト
- コミュニケーション・スキル (アクティブ・リスニング)
- 交渉・説得

### 【評価方法】

授業参加および試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布

## 応用言語学概論

松本青也

### 【授業の概要】

応用言語学の主な研究分野について、最新の研究成果を概観する。特に外国語学習に関連のある第二言語習得理論と、母語である日本語の認識を深める日英対照言語学、更に外国語学習の意義を考える社会言語学について詳しく考察する。

### 【授業計画】

1. 応用言語学とは
2. 心理言語学
- 3～5. 第二言語習得理論
- 6～12. 日英対照言語学
- 13～14. 社会言語学
15. まとめ

### 【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

### 【テキスト】

自作教材

## Cyber-English I

McGEE, Jennifer J.

### 【Course Content】

Eメールやメーリングリスト、さらにリアルタイムなチャットなどによる、コンピュータを介しての英語コミュニケーションを実際に経験する。お互い同士の英語によるやり取りも活動に含めながら、インターネットの歴史と仕組みにも触れる。

### 【Schedule】

1. Introduction to the computers
2. Introduction to the Internet
3. Web pages and search engines
4. Email keypals
5. Blogs and Diaries

### 【Assessment】

Assessment will be based on classroom attendance, effort, and completion of assignments.

### 【Textbooks】

An English-language textbook may assigned.

## English Interaction I

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J. McDANIEL, Edwin R. GIBSON, Mark WRINGER, Paul DAVIES, Alun

### 【Course Content】

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

This course aims to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

### 【Schedule】

The course will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Greetings
2. Small talk
3. Social encounters.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

### 【Textbooks】

A text may be assigned on the first day of the course.

## 中国語入門

馮富榮 杜英起 陳惠貞 張玉玲

### 【授業の概要】

中国語の漢字、発音、文の構成規則などにおける中国語全体の特徴について重点的に説明する。また日本語と中国語の比較をしながら、両言語の相違による中国語の学習の困難点を探る。

### 【授業計画】

本講義では、主として、中国語能力の基礎作り力を入れる。中国語の発音の基礎のみでなく、中国語コミュニケーションに使われている基礎的な語彙、基礎的な文型を講義する。「中国語読解入門Ⅰ」と同じように、自作教材を使用するが、学生たちの置かれている環境や、趣味などを考慮して作られたものである。さらに、教材をホームページに作ったので、授業のみでなく、授業以外の時間でも、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して、発音の練習や宿題の提出ができる。授業は、下記のように展開される。

1. 日本語の発音との違いによる中国語の発音の難点を詳しく説明し、その難点を克服する方法を提示する。学生の一人一人が立派な発音を身に付けることができるように、発音を徹底的に訓練する。
2. 中国語表現の基本的、尚且つ重要な文型を中心にして説明する。習った単語や基本文型の使用練習を繰り返して行う。よって中国語の実際運用能力を高め、中国語の基礎を固める。
3. 日本語の基本文型との違いを比較することによって、中国語の基本文型への理解を深め、中国語表現の特色を掴める。
4. 本文の日本語訳を見ながら、中国語を言うことができる訓練をする。
5. 練習問題を宿題に出し、宿題に出た問題点について説明をする。

### 【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを行い、その成績と出席状況及び平日の宿題の完成状況を期末テストに加味して、総合的に判断する。

### 【テキスト】

【中国語入門】(出版社: マナハウス)

### 【参考文献・資料】

初級漢語課本 第1冊と第2冊(北京語言学院出版社)

## 中国語読解 I

馮 富榮 杜 英起 陳 惠貞 湯 海鵬

### 【授業の概要】

主として、「是」による判断文、形容詞による描写文、動詞による叙述文と存在文などを中心にして説明していく。いわゆる中国語の入門編にあたる講義である。

### 【授業計画】

学生の中国語を読んで理解する力を養成することを目的としているので、中国の学校、社会、経済及び文化習慣などを紹介する多くの楽しい話題を提供する。説明の重点を日・中両言語の違いに置き、興味深く読めるか否か、そして知識性が高いか否かという二つの要素を配慮に入れながら作ったオリジナルの教材である。その教材をホームページにも載せているので、自宅や大学のパソコン自習室で自分の好きな時間に発音の練習や宿題をすることができる。宿題の結果がメールで先生の所に届くようになっている。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 我是学生
2. 春天很暖和
3. 我家在名古屋
4. 鈴木早晨七点起床
5. 他去打排球了
6. 日本人和中国人
7. 田中会游泳
8. 鈴木和佐藤

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。単語や本文の発音を徹底的に指導し、立派な発音を身に付けられるように期待している。

### 【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを行い、その成績と出席状況及び平日の宿題の完成状況によって、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

【中国語読解入門】(出版社：マナハウス)

## 中国語会話 I

馮 富榮 杜 英起 陳 惠貞 張 玉玲

### 【授業の概要】

自己紹介、初対面の挨拶、家庭で交わされている家族の間での基本的な挨拶、また友達同士でよく使われている基本的な会話、要するに中国語会話の基本を中心に説明する。会話の練習をすると同時に、発音の徹底的な指導を行う。

### 【授業計画】

以下のステップを踏んで、授業を展開する予定である。

1. まず常用表現について、統語論と語用論の両方から説明する。つまり文法現象のみでなく、中国語の表現習慣と日本語の表現習慣の違いについても説明を加える。
2. 読む練習を繰り返して行う。初歩から正しい発音を身につけることが極めて大切であるので、そのための徹底的な訓練を行う。
3. 本文の内容をめぐって学生と中国語で会話をする。
4. 単語のリストを配って、置き換え練習などをする。よって、学生たちの会話の応用能力を高める。
5. 本文の内容と関連する実際の場面を設定し、その場面で行われる会話を学生同士で練習する。

この授業では、本文の暗記ではなく、中国語の生きている会話表現を身につけることができるように工夫がなされている。しかもみんな楽しく中国語の会話ができるような授業としてデザインがされている。また教材をホームページに載せるので、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して発音や会話と聴解の練習ができる。また宿題もすべてメールで提出する。要するに、この授業を履修することによって、中国語の学習に興味を持ち、中国人と簡単な会話ができるように期待している。

### 【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績に出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

【中国語会話入門】(出版社：マナハウス)

## 中国語作文 I

馮 富榮 杜 英起 陳 惠貞

### 【授業の概要】

中国語の学習者にとって、読んで理解するだけでなく、自分で中国語が書けることも必要である。ゆえに、本講義では、作文の練習を反復して行う。よって、中国語に関する基礎的な文法知識と基本的な語彙の使い方をマスターする。

### 【授業計画】

中国語は、格助詞などもなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、それだけで文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なことは語彙の並べ順序である。ゆえに、この授業では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学の力は作文にあると言われてるように、この授業に出れば中国語の力を一段と高めることが期待できよう。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 曜日の言い方。
2. 天気について。
3. 家庭の紹介。
4. 自己紹介
5. 愛知淑徳大学の紹介
6. 四季について(1)
7. 公園。

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。また教材をホームページに載せるので、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して発音や作文の練習ができる。宿題もすべてメールで提出する。本講義を履修することによって、中国語の実力が一段と高まることを期待している。

### 【評価方法】

平常点出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

【中国語作文入門】(出版社：マナハウス)

## 中国語情報処理

葛 漢彬

### 【授業の概要】

本講義では、主として(1)日本語Windows環境で如何にして中国語ワープロを作るか；(2)如何にして中国語のメールを受送信するか；(3)如何にして中国語のホームページを利用するか3点に力を入れて説明する予定である。要するに、本講義では、中国語の語学力とマルチIT知識を活用できる人材の育成とメディアによる中国語授業を実施するための基礎作りを目的としている。

### 【授業計画】

1. パソコン操作の専門用語の日中対照
2. パソコンの基本設定  
日本語と中国語IMEの設定  
多言語処理の時の条件
3. Wordによる文章の作成・編集  
中国語の入力、日本語と中国語混在文の入力、印刷、文字化け時の対策、フォントの指定
4. 電子メール  
エンコードの指定、フォント・サイズの選定、中国語メール(ワードファイルの添付形式を含む)の送受信
5. 通信ネットワーク  
各種中国語ウェブサイトの紹介、インターネットの情報収集
6. 拼音(pinyin)を使わない中国語入力法

### 【評価方法】

出席状況、レポート及び期末テストで総合して評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の時、指示する。

## 日本語論 I

窪田守弘

### 【授業の概要】

日本語とはどのような言語かについて、その系統、周辺の言語との関係、また日本語の位置などを概観する。そして、特に日本人の話し言葉と書き言葉、地域、性別、階層などの違いなどをまとめ、日本人がどのような言語生活を送っているかについて、資料やデータを活用しながら言及する。

### 【授業計画】

日本語には多くの特徴や面白さがあり、それが現代の日本人の言語運用にどのように反映されているかを解明する。そして、日本語の構造を中心に生きた日本語の諸相について、具体的な例をあげながら考えていく。本講義は日本語と外国語との比較も随時行ない、広い視野より日本語を考え、発音・語彙・文法・文体などの領域が概観できるように配慮する。主な内容は次のようになっている。

〈日本語の世界に触れる〉

1. 日本語の特色
2. 発音からみた日本語
3. 語彙からみた日本語
4. 表記法からみた日本語
5. 文法からみた日本語
6. 外国語としての日本語
7. 日本語コミュニケーションの特色
8. 日本人の新しい日本語表現

### 【評価方法】

学期末の試験結果、提出レポート、出席状況などで総合的に判断する。

### 【テキスト】

日本語（上）（金田一春彦著 岩波新書）

### 【参考文献・資料】

随時プリントを配布する。

## 日本語教育入門 I

山内啓介

### 【授業の概要】

日本語教育の基本的なことから概観し、日本語学習者、日本語教師、日本語教材、日本語教育と能力試験などについて講義をおこなう。

### 【授業計画】

日本語教育とは日本語を学習する人たちのための教育であった。そして日本語を言語のひとつにおき、外国語としての日本語学び研究する人たちの語学教育として展開してきた。いまは日本語を外国語として学習する第2言語教育をふくめて、コミュニケーションのための語学教育科目、ひろく国語教育科目との関連をもちながら日本語教育を捉えようとしている。

次の項について入門のための概説をおこなう。

- 1 日本語教育とは
- 2 日本語教育の学習者
- 3 日本語教師の資格と役割
- 4 日本語教材と教科書
- 5 日本語教育と能力試験
- 6 コミュニケーションのための日本語

### 【評価方法】

出席度30%、期末テスト60%、クイズなどレポート提出10%で評価する。

### 【テキスト】

日本語教育入門（山内啓介）開講時に配布する。

### 【参考文献・資料】

プリント資料

## 日本語表現演習 I

山内啓介 窪田守弘

### 【授業の概要】

この演習は、学生の書いた小論文を毎回添削することに大きな特徴がある。それは、日本人として日本語の文章の基本的な表現力を身につけることを目標としているからである。そのために、学生は新聞や週刊誌などを主な教材として、毎回提示されたテーマに従って自分の考えをまとめ、書く練習を繰り返して文章の完成を図る。そして、それを他学生の前で発表して、お互いがディスカッションを通じてテーマの内容を深めていくようにする。

### 【授業計画】

- 1 演習ガイダンス 自己紹介文の作成 350字
- 2 作文課題 大学に入学して 800字
- 3 小論文 最近のニュースから 1200字
- 4 要約を作る 200字文に要約してみる<1>
- 5 要約を作る 200字文に要約してみる<2>
- 6 要旨を作る 100字文にしてみる<3>
- 7 要旨を作る 100字文にしてみる<4>
- 8 小論文 政治と経済と 2000字
- 9 小論文 社会と国際と 2000字
- 10 小論文 教育と専門と 2000字
- 11 ディスカッション テーマについて
- 12 ディスカッション 文章について
- 13 ディスカッション 論文について
- 14 論文課題 愛知淑徳大学の未来像について

講義は第1回～第5回を窪田、第6回～第10回を山内、第11回～第14回をそれぞれがクラスにわかれて担当する。作文練習はクラス編成をして行う。

### 【評価方法】

作文・小論文による。出席を重視する。

### 【テキスト】

文章表現法（樺島忠夫 角川選書）

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 英語科教育法 I

松本青也

### 【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

### 【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 機能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史（日本）
9. 教授法の歴史（外国）
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. 〈模擬授業〉指導過程の構成
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

### 【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

### 【テキスト】

未定。

## 英語科教育法Ⅱ

高橋美由紀

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するために、特に入門期でどのような指導をすればいいかを中心に教育方法を考える。授業は、入門期の英語教育の意義や効果的な指導法、授業計画、指導案の書き方、教材・教具研究などの講義と、入門期の学習者が楽しめる英語教育を行うためのワークショップから構成される。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：入門期の英語教員の資質について
2. 入門期の英語教育の現状と課題・レベルや経験年数が異なる学習者の指導について
3. 入門期の英語教育の目的と意義・入門期の学習者の効果的な教授法
4. 音声重視の英語教育・入門期の学習者と文字教育
5. 歌やゲームを利用した英語教育
6. 入門期の英語教育の視覚教材・聴覚教材研究
7. 入門期の英語教育のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
8. ALTとのTT授業について・テキストと授業計画、指導案の書き方について
9. 模擬授業の具体例と指導案（その1）
10. 模擬授業の具体例と指導案（その2）
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業の反省と今後の課題

### 【評価方法】

テスト、出席状況、授業態度  
課題レポート

### 【テキスト】

小学校英語活動実践の手引き（文部科学省 開隆堂出版）  
*Sunshine Kids Book 1*（山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版）  
*Sunshine Kids Book 2*（高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版）  
その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

## English Linguistics II

CHARLEBOIS, Justin

### 【Course Content】

The main purpose of this course is to introduce students to the field of sociolinguistics (社会言語学). The knowledge acquired from English Linguistics I will aid students as we look at the relationship between language and society in this course.

### 【Schedule】

Linguistics and Sociolinguistics (言語学と社会言語学)  
Speech Act Theory (言語行動論)  
Language Variation (言語のバリエーション)  
Language and Gender (言語とジェンダ)  
Language and Identity (言語とアイデンティティ)  
Politeness (ポライトネス)  
Intercultural Communication (異文化コミュニケーション)  
Discourse Analysis (談話分析)

### 【Assessment】

Midterm, Final Paper

### 【Textbooks】

社会言語学入門（東照二 研究社 1997）

### 【Reference】

社会言語学への招待（田中春美 1996 ミネルヴァ）  
*Sociolinguistics: A Reader and Coursebook.*  
(Coupland, N. and Jaworski, A. (Eds.). (1996). London: Macmillan)  
*Sociolinguistics.* (Spolsky, B. (1998). Oxford: Oxford)

## English Linguistics I

CHARLEBOIS, Justin

### 【Course Content】

The purpose of this course is to introduce you to the field of linguistics. Students will learn how to analyze both the sound system and structure of the English language. This class will be taught mostly in English, however, translations of difficult concepts and terminology will be provided in Japanese.

### 【Schedule】

phonetics (音声学)  
phonology (音韻論)  
morphology (形態論)  
syntax (統語論)  
pragmatics (語用論)

### 【Assessment】

Tests, Final Paper

### 【Textbooks】

Not required

## English Linguistics III

WRINGER, Paul

### 【Course Content】

This course will serve as an advanced introduction to the study the English language and to the more specific field of language and linguistics. Particular attention will be paid to the study of English pragmatics and variation.

### 【Schedule】

(EACH THEME WILL BE STUDIED OVER A 2 - 3 WEEK PERIOD)

INTRODUCTION TO THE STUDY OF LANGUAGE  
THE ROLE OF LANGUAGE  
THE USE OF LANGUAGE  
SOUND PATTERNS  
IDENTIFYING WORDS  
SENTENCE PATTERNS  
LANGUAGE AND SOCIETY (DIALECT AND ACCENT)  
SIMPLE MODELS OF GRAMMAR

### 【Assessment】

ASSESSMENT will be continual and include the following:  
\* ATTENDANCE  
\* CLASS PARTICIPATION/EFFORT  
\* HOMEWORK  
\* REPORT

### 【Textbooks】

A decision about a suitable textbook will be made after the first week of classes.

## English Literature I

EASLEY, Keith

### [Course Content]

Romanticism (1789-1832)

The course will show something of the literary and cultural importance of Romantic poetry, both in its own time and today. Key themes will be Romantic individualism, beauty and nature. Selections will be made from Keats, Byron, Shelley, Wordsworth, Coleridge and Blake.

### [Schedule]

Weeks 1-2 Key themes, then and today  
Weeks 3-6 Individual writers  
Weeks 7 Key themes  
Weeks 8-11 Individual writers  
Week 12 Review

### [Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and final examination.

Depending on the size of the class, there may be tests during the semester to decide whether students can continue the course.

### [Textbooks]

To be announced.

## English Literature II

EASLEY, Keith

### [Course Content]

Romanticism (1789-1832)

The many kinds of Romantic fiction will be considered, along with their relationship to the key themes of Romantic poetry. Selections will be made from Jane Austen, gothic romances, social satire, feminist fiction, historical romances and Mary Shelley's "Frankenstein."

### [Schedule]

Weeks 1-2 Key themes, then and today  
Weeks 3-6 Individual writers  
Weeks 7 Key themes  
Weeks 8-11 Individual writers  
Week 12 Review

### [Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and final examination.

Depending on the size of the class, there may be tests during the semester to decide whether students can continue the course.

### [Textbooks]

To be announced.

## English Interaction II

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J. McDANIEL, Edwin R.  
WRINGER, Paul DAVIES, Alun GIBSON, Mark

### [Course Content]

English Interaction I の内容をもとに、引き続き話し言葉を中心に学習を深める。ここでは小グループなどの形も取り入れ、英語によるやり取りを学ぶ。

This course continues to aim to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

### [Schedule]

We will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Show and tell
2. Social encounters

### [Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

### [Textbooks]

A text may be assigned on the first day of the course.

## Cyber-English II

McGEE, Jennifer J.

### [Course Content]

Cyber-English I の内容を更に発展させて、アメリカの学生とのやり取りも含め、コンピュータによる海外との交信を実習する。同時にインターネットについての文献や講義も取り入れ、例えば、コンピュータによってコミュニケーションが変化するか、すべてがインターネットに依存する社会はあるか、といった問題を考える。

### [Schedule]

1. Message boards
2. Mailing lists
3. Real-time chat

### [Assessment]

Assessment will be based on classroom attendance, effort, and completion of assignments.

### [Textbooks]

An English-language textbook may be assigned.

## English Interaction III

McDANIEL, Edwin R. GIBSON, Mark  
DAVIES, Alun WILLIAMS, Allen D.

### [Course Content]

This course aims to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

### [Schedule]

The course will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Using libraries
2. Giving presentations

### [Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

### [Textbooks]

A text may be assigned on the first day of the course.

## English Interaction IV

DAVIES, Alun GIBSON, Mark WILLIAMS, Allen D.

### [Course Content]

This course aims to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

### [Schedule]

The course will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Using libraries
2. Giving presentations

### [Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

### [Textbooks]

A text may be assigned on the first day of the course.

## Reading and Discussion I

MOLDEN, Danny T. DAVIES, Alun  
WRINGER, Paul METCALF, Nicholas F.

### [Course Content]

This class will introduce students to a discussion centered classroom.

In this class, students will be asked to read a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) .

The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the article.

### [Schedule]

Each week, students will be expected to have read the assigned article, attend class with questions, and be prepared to talk about the article.

### [Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation in the discussions, and homework.

### [Textbooks]

A textbook has not been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## Reading and Discussion II

MOLDEN, Danny T. DAVIES, Alun  
WRINGER, Paul METCALF, Nicholas F.

### [Course Content]

This class will introduce students to a discussion centered classroom.

In this class, students will be asked to read a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) .

The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the article.

### [Schedule]

Each week, students will be expected to have read the assigned article, attend class with questions, and be prepared to talk about the article.

### [Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation in the discussions, and homework.

### [Textbooks]

A textbook has not been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## Business English I

STEPHENSON, Brett

### 【Course Content】

This course will serve to develop students' ability to communicate effectively in English on variety of conversation and business topics. Throughout the course, students will be encouraged in activities designed to stimulate genuine communication and discussion in process of business topics.

### 【Schedule】

To be announced

### 【Assessment】

Students will be assessed on the basis of in-class participation and a final examination. Since this course has a practical focus, a large percentage of assessment will depend on students' ability to handle various business situations with appropriate vocabulary and expression.

### 【Textbooks】

To be announced.

## Business English II

STEPHENSON, Brett

### 【Course Content】

This course will serve to develop students' ability to communicate effectively in English on variety of conversation and business topics. Throughout the course, students will be encouraged in activities designed to stimulate genuine communication and discussion in process of business topics.

### 【Schedule】

To be announced

### 【Assessment】

Students will be assessed on the basis of in-class participation and a final examination. Since this course has a practical focus, a large percentage of assessment will depend on students' ability to handle various business situations with appropriate vocabulary and expression.

### 【Textbooks】

To be announced.

## 中国語読解Ⅱ

馮富榮 杜英起 陳惠貞 湯海鵬

### 【授業の概要】

基本的な文法知識と幅広い語彙の習得に力を入れて授業を進める。受講者の読解力を引き上げると同時に、中国語への勉強意欲を引き出すこともこの授業の目的である。ゆえに、興味深い読み物を教材とする。

### 【授業計画】

中国語読解入門Ⅱは、中国語読解入門Ⅰと同じように、学生の中国語を読んで理解する力を養成することを目的としているが、後期の全学の共通科目の中国語 HSK 基礎コースの授業と協力して、翌年の5月に本学で実施する HSK 基礎能力試験の3級に合格するように授業を進めていく。ゆえに、検定試験の内容を配慮に入れながら作成されたオリジナルの教材である。さらにその教材をホームページに載せているので、自宅や大学のパソコン自習室で自分の好きな時間に発音の練習や宿題をすることができる。宿題の結果がメールで先生の所に届くようになっている。授業の内容は主として下記の通りである。

1. 高橋病了
2. 見面時的習慣
3. 終于把屋子收拾干净了
4. 我被老師批評了
5. 莉莉变了
6. 今天真倒?
7. 我該怎麼?

主として部屋の掃除が嫌いなこと、先生に叱られたときのムッとした気持ち、そして女の子が年頃になると綺麗になること、またはとても運がっていないときのことなど、大学生に身近な笑い話を多く取り入れている。

### 【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績に出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

「中国語読解入門」(出版社: マナハウス)

## 中国語作文Ⅱ

馮富榮 杜英起 陳惠貞

### 【授業の概要】

中国語を書く力を養成することが本講義の最大の目的であるが、内容を聞いてから書くこと、図の意味を言葉で書くこと、概要の肉付けを書くこと、または文章の概要を書くこと、短文の表現を変えて別の表現にすることなど多くの方法を取り入れ、常に書く材料があるように心がけて授業を進める。

### 【授業計画】

中国語は、格助詞などもなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、それだけで文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なことは語彙の並べ順序である。ゆえに、この授業では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学の力は作文にあると言われてるように、この授業に出れば中国語の力を一段と高めることが期待できよう。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 名古屋と南京の紹介
2. 趣味について語る
3. 理想について
4. 日記の書き方 (1)
5. 日記の書き方 (2)
6. 四季について (2)
7. 一年の大学生生活を振り返って

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。また教材をホームページに載せるので、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して発音や作文の練習ができる。宿題もすべてメールで提出する。本講義を履修することによって、中国語の実力が一段と高まることを期待している。

### 【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績に出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

「中国語作文入門」(出版社: マナハウス)

### 【参考文献・資料】

基礎漢語写作 (北京語言学院出版社)



## 中国語会話Ⅱ

馮 富榮 杜 英起 陳 惠貞 張 玉玲

### 【授業の概要】

この授業は中国語会話Ⅰの延長として考えている。中国人とコミュニケーションをするときの場면을教材に取り入れている。たとえば、家族や大学の紹介、趣味や専攻の紹介、そして夏休みや冬休みなどが主な素材となっている。要するに、実用性を最大限に重視し、本講義を履修することによって中国人と生きている会話ができるように期待している。

### 【授業計画】

以下のステップを踏んで、授業を展開する予定である。

1. まず常用表現について、統語論と語用論の両方から説明する。つまり文法現象のみでなく、中国語の表現習慣と日本語の表現習慣の違いについても説明を加える。
2. 読む練習を繰り返して行う。初歩から正しい発音を身につけることが極めて大切であるので、そのための徹底的な訓練を行う。
3. 本文の内容をめぐって学生と中国語で会話をする。
4. 単語のリストを配って、置き換え練習などをする。よって、学生たちの会話の応用能力を高める。
5. 本文の内容と関連する実際の場面を設定し、その場面で行われる会話を学生同士で練習する。

この授業では、本文の暗記ではなく、中国語の生きている会話表現を身につけることができるように工夫がなされている。しかもみんな楽しく中国語の会話ができるような授業としてデザインがされている。また教材をホームページに載せるので、自宅や大学のパソコン自習室などを利用して発音や会話と聴解の練習ができる。また宿題もすべてメールで提出する。要するに、この授業を履修することによって、中国語の学習に興味を持ち、中国人と簡単な会話ができるように期待している。

### 【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績に出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

「中国語会話入門」(出版社：マナハウス)

## 中国語表現Ⅱ

杜 英起 陳 惠貞

### 【授業の概要】

本講義は中国語の幅広い表現に触れ、中国語独特の表現の仕方に慣れることを目的とする。特に重要な表現に関しては、日本語との比較をしながら重点的に説明を行う。

### 【授業計画】

本講義は中国語専門コースのための専門クラスとその他のコースの非専門クラスに分けて授業を進める予定である。毎回単語テストあり、宿題の提出が要する。2回の授業で1課というペースで進み、専門クラスには、2課が終わるところでまとめの小テストを行う予定である。本講義を履修することにより、より多くの単語を覚え、豊かな表現力が身につくことが期待できる。

授業は前期の続きで、下記の内容となっている。

1. 中国的竜
2. 中国的茶
3. 孔子
4. 中秋節
5. 屈原
6. 新婚之喜
7. 中国的春節

前期と違って後期の内容は中国の文化の紹介に重点を置き、目的は中国語を学習すると共に、中国の文化への理解を深めることにある。本講義に使う教材をホームページに作成し、学生たちは自宅や大学のパソコン実習室で自分の好きな時間に、発音やリスニングなどの練習ができる。また教材の練習問題は中国語能力試験として中国政府によって唯一に認定されているHSK試験の問題に倣って作られているので、HSKの5級か6級の合格に大いに役立つことを期待している。

### 【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて、総合的に評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

「中国語表現」(出版社：マナハウス)。

### 【参考文献・資料】

授業の時に指示する。

## 中国語表現Ⅰ

杜 英起 陳 惠貞

### 【授業の概要】

本講義は中国語の幅広い表現に触れ、中国語独特の表現の仕方に慣れることを目的とする。特に重要な表現に関しては、日本語との比較をしながら重点的に説明を行う。

### 【授業計画】

本講義は中国語専門コースのための専門クラスとその他のコースの非専門クラスに分けて授業を進める予定である。毎回単語テストあり、宿題の提出が要する。2回の授業で1課というペースで進み、専門クラスには、2課が終わるところでまとめの小テストを行う予定である。本講義を履修することにより、より多くの単語を覚え、豊かな表現力が身につくことが期待できる。

授業の内容は、下記の通りである。

1. 南京師範大学の校園
2. 我的留学生活
3. 感謝信(1)
4. 感謝信(2)
5. 幸福与快樂
6. 自相矛盾
7. 師生情

本講義の目的は学生にとって身近な話題を提供することによって、中国語学習への意欲を引き出し、積極的に中国語でコミュニケーションする姿勢を養成することにある。本講義に使う教材をホームページに作成し、学生たちは自宅や大学のパソコン実習室で自分の好きな時間に、発音やリスニングなどの練習ができる。また教材の練習問題は中国語能力試験として中国政府によって唯一に認定されているHSK試験の問題に倣って作られているので、HSKの4級か5級の合格に大いに役立つことを期待している。

### 【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて、総合的に評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

「中国語表現」(出版社：マナハウス)。

### 【参考文献・資料】

授業の時に指示する。

## 中国文学講読Ⅰ・Ⅱ

杜 英起 陳 惠貞 周 素芬

### 【授業の概要】

この授業の目的は、中国語の表現力を高めること、豊富な語彙を獲得させること、読む力を身に付けさせることにある。授業の内容は、主として故事物語になっているが、その狙いが普段話しやすい故事物語の学習を通して、中国語コミュニケーションにおける豊富な表現力を身に付けることにある。そのほかに、練習問題がHSKの出題方式に倣って作られているため、この授業を履修することによってHSKの合格率を高めることも期待できる。

### 【授業計画】

前期：

1. 道听途説
2. 拔苗助長
3. 空中楼阁
4. 杯弓蛇影
5. 黔驢技窮
6. 囫圇吞棗
7. 呆若木鷄

後期：

1. 坐井觀天
2. 毛遂自荐
3. 守株待兔
4. 爭先恐后
5. 伯樂識馬
6. 一鳴驚人
7. 熟能生巧

### 【評価方法】

受講の態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

「中国文学講読」(出版社：マナハウス)

## 中国語会話3

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 杜英起

### 【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語るができる。

### 【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話3 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話4

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 陳惠貞

### 【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙量とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語るができる。

### 【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話4 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語聴解I

馮富榮 杜英起 陳惠貞

### 【授業の概要】

本講義は中国語専門コースのための専門クラスとその他のコースの非専門クラスに分けて授業を進める予定である。専門クラスではオリジナルなメディア教材を使用し、非専門クラスでは市販のメディア教材を使用する。具体的な履修方法についてはガイダンスで説明する。

専門クラスはメディア教材による事前の練習を必要とし、練習の成果を授業で確かめた後、単語や文章の解説を行う。そして習った表現を使って会話の練習を行う。内容は2年に開講される「中国語表現I II」と「中国文学講読I II」の内容とHSKによく出題された問題を組み合わせたものである。本講義によって学習した知識をいっそう固め、HSKのよりよい成績が出せるように期待している。

非専門クラスは市販のメディア教材を使用し、実用的というところに力を入れて授業を進めていく。具体的には、「日常挨拶」や「道を尋ねる」、「旅館の予約」などの会話を通して、耳の訓練をする。中国人の日常の簡単な会話が開けることが目的である。

要するに、この中国語聴解Iという授業は、中国人の普通の会話が開けるだけでなく、日本人にとって難関となるHSKの聴解問題が開けるようになることを本講義の最大の目標である。

### 【授業計画】

専門クラスでは一回の授業で一課の進度で、「中国語表現」及び「中国文学講読」と平行しながら授業を進めていく予定である。たとえば第1課と第2課はそれぞれ上記した2冊の教材の第1課の内容をブレンドしたものである。出題の方法はまったくHSKの聴解問題と同じである。いわゆるHSKに合格するための特訓と考えてもよい。

非専門クラスでは主として日常挨拶、友人の紹介、お客さんの招待、電話をかける、道を尋ねる、買い物という六つの場面を設定して聞く訓練と話す訓練を行う。実用性を重んずる授業である。

### 【評価方法】

毎回の宿題を点数化して、出席状況などを加味して総合的に評価する。  
期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

専門クラス：中文听力入門 (出版社：マナハウス)  
非専門クラス：実用漢語会話 (北京塔博思科技發展有限責任公司制作 高等教育電子音像出版社出版)

## 中国語聴解II

馮富榮 杜英起 陳惠貞

### 【授業の概要】

本講義は中国語専門コースのための専門クラスとその他のコースの非専門クラスに分けて授業を進める予定である。専門クラスでは市販のメディア教材を使用し、HSKの聴解模擬試験の問題である。内容は3つの部分に分かれ、第一部分は短文を聞いて質問を答える問題であり、第2部分は会話聞いて質問を答える問題である。そして第3部分は文章を聞いてその文章の内容についての質問を答える問題である。

非専門クラスではオリジナルのメディア教材を使用し、5つの部分から構成される。第一部分は単語の発音を入力する問題であり、第2部分は短文を聞いてそれを書き取る練習である。第3部分は録音を聞いて質問を答える問題であり、第4部分は会話聞いて質問を答える問題である。そして第5部分は文章を聞いてその文章の内容についての質問を答える問題である。

具体的な履修方法についてはガイダンスで説明する。

### 【授業計画】

専門クラスはメディア教材による事前の練習を必要とし、練習の成果を授業で確かめた後、単語や文章の解説を行う。使用するメディア教材はHSKの模擬試験の問題で、出題の方式や回答に所要する時間などがすべてHSKの試験に準ずる。いわばHSKの実践訓練である。この講義を履修することによってHSKの5級に合格することを期待している。

非専門クラスは専攻クラスの前期に使用するオリジナルの教材を使う。内容は2年に開講される「中国語表現I II」と「中国文学講読I II」の内容とHSKによく出題された問題を組み合わせたものである。本講義によって学習した知識をいっそう固め、HSKの4級に合格できるように期待している。

要するに、この中国語聴解IIという授業は、中国人の普通の会話が開けるだけでなく、日本人にとって難関となるHSKの聴解問題が開けるようになることを本講義の最大の目標である。

### 【評価方法】

毎回の宿題を点数化して、出席状況などを加味して総合的に評価する。  
期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

「中文听力入門」(出版社：マナハウス)

## 中国語海外研修

馮 富榮 杜 英起

### 【授業の概要】

この研修は、2年次の後期から中国語しか使わないゼミへの準備学習として位置付けられているので、今まで獲得してきた中国語の語学力をさらに磨き、高度な中国語の力の獲得と異文化との触れ合いが最大の目的である。

この研修は、合計7週間（事前研修は1週間、現地研修は6週間）である。事前研修には、研修先の紹介や注意事項の説明及び簡単な中国語講習会などが含まれる。現地研修には、6週間の授業と日帰りの北京観光が含まれる。授業期間中、月曜日から金曜日まで毎日午前2コマの授業があるので、密度の高い研修内容となるので、高い教育効果が期待できると思われる。具体的に説明すると「読解と作文」、「聴力」と「会話」と「中国文化講座」の授業がある。「中国文化講座」という授業の中で、学生は自分の趣味に合わせて、中国の民族舞踊、歌、太極拳、演劇などを習うことができる。

研修期間中、授業のほかは、1週間のホームステイを体験したり、中国の大学生との交流会や座談会を開いたりすることが予定されている。さらに天津市の市内観光も行う計画である。最後には、学習成果の発表会が開かれ、研修の参加者は学習の成果を歌や踊り、または寸劇などの形で発表することになる。

要するに、この研修を通して、中国語を深く知り、中国語に内包されている文化的背景も理解することができ、また自分から進んで中国語を発信し、そしてそれが理解されるとき楽しさを体験することもできる。

### 【授業計画】

#### 【履修上の注意】

この授業の対象者は、言語コミュニケーション学科の2年次である。

### 【評価方法】

研修先の担当先生の評価を参考にして、引率者が最終の成績を出す。

### 【テキスト】

学生のレベルにあった教科書を使用する。研修先で提供する。

## 日本語表現演習Ⅱ

窪田守弘

### 【授業の概要】

文章の表現能力は、短期間では養成されにくいのが、少なくとも本演習では学生が自らの文章で自己表現できるようにする。従って、担当教員は、当初学生に対して小論文の書き方の様々な知識や技術を与えるにしても、最終的には学生が自身の手で自分の文章の問題点を発見し、推敲ができるような力を身につけるよう配慮する。それによって、学生が将来あらゆる分野の職業に対応できるような文章力を養う。

### 【授業計画】

学生は文章を書くことを苦手としているので、毎回課題を与えて考える時間を与え、それに対する感想レポートを原稿用紙一枚（400字）程度にまとめるようにする。教員はその感想レポートのチェックを行なって、次回の授業時にチェックポイントを説明しながら返却するようにする。このように学生は自分の書いた文章に対して、毎回教員から直接指導を受けて、彼らは問題点を明確に把握し推敲を重ねていくようになる。

本演習は、新聞や週刊誌の記事を中心に、有名な小説や評論、学術論文などを補助教材として使用する。文章を徹底的に書き込むことによって、学生に真の表現力や文章力が自然につくことを目標としている。

1. ショート・ストーリー作成
2. 映画・演芸・文藝評論作成
3. 企画書・広告文（新聞、テレビなど）作成
4. 短編小説の創作（資料：漱石の『夢十夜』）
5. 自伝のまとめ（資料：論吉『福翁自伝』、映画『福沢諭吉』）
6. レジメの書き方（資料：論文）
7. レジメの作成（研究発表）
8. 課題文作成（レポート提出）

### 【評価方法】

毎回の発表、学期末のレポート、出席状況などで総合的に評価する。

### 【テキスト】

配布プリント

### 【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。

## 日本語論Ⅱ

山内啓介

### 【授業の概要】

日本語についてわかりやすく解説をする。現代に共通する日本語の諸問題と歴史的な変遷をたどる言語の現象をとりあげて講義する。

### 【授業計画】

日本語論は共時論のアプローチと通時論の記述からなる。日本語の現象は現代を世代の約30年と見ると1970年代から今までのあいだの言葉についてのできごとを見ることになる。しかし日本語が記録され伝えられた歴史は、平仮名で書かれた日記、和歌、物語などから始まっておよそ1100年がたっている。その歴史は下って現代に連なり、わたしたちの日本語を支え、わたしたちのコミュニケーション言語として息づいている。日本語論では日本語のことばとしての基本的な知識を次の項にしたがって講義する。

- 1 日本語の歴史
- 2 日本語の研究分野
- 3 現代語とことば
- 4 日本語コミュニケーション
- 5 外国語（英語・中国語）と日本語
- 6 言葉は変化するか

### 【評価方法】

出席度30%、期末テスト60%、クイズ・レポート提出10%で評価する。

### 【テキスト】

日本語論の方法（山内啓介）講義時に配布する。

### 【参考文献・資料】

各出版社から出ている新書、文庫のうちから日本語に関する書を授業時に推薦する。

## 日本語表現演習Ⅲ

窪田守弘

### 【授業の概要】

日本語表現演習Ⅰ・Ⅱにおいて、日本語にはさまざまな表現形式と内容があることを学んだが、それらの基礎的な知識や技術によって、さらに専門的な日本語表現についての分析と考察を進めていく。本演習では学生の自発的な参加を求めているが、学生自らの力で考える習慣を身につけ、それを口頭発表することによってディスカッションやプレゼンテーション能力を高めていくように配慮する。

### 【授業計画】

1. 動詞の基本的な体系を考える。  
動詞の役割、動詞の変化、動詞の種類、補助動詞の役目、授受動詞、「する」と「なる」動詞など
2. 敬語表現の理論と実践  
敬語の意義、敬語表現の現実、敬語体系の分析、常体と敬体、敬語行動、新しい敬語法など
3. プレゼンテーションの方法を学ぶ  
口頭発表の準備、資料の収集と整理の仕方、テーマの絞り方、レジメの作成法、ディスカッションの進め方、全体討議（ディスカッション）の在り方の練習など

### 【評価方法】

授業中の発表内容や参加態度、提出課題の内容、学期末のレポートなどで総合的に評価する。

### 【テキスト】

配布資料を主な教材とするが、授業時に簡単なテキストを指示する予定である。

### 【参考文献・資料】

授業時に提示する。

## 日本語表現演習Ⅳ

山内啓介

### 【授業の概要】

Ⅲまでの日本語表現演習で養われた発表技術をもう一段階発展させ、学会、企画会議、研修会等目的に応じたプレゼンテーション能力を養う。コンピュータのプレゼンテーションソフトを使いこなすとともに視聴覚機器の効果的な使い方自身につける。

### 【授業計画】

テーマを設定し、ディベートをおこなう。

- 1 日本語ディベートの効果
- 2 ディベートのルール
- 3 未来塾改良型4人制ディベート方式
- 4 ディベートのテーマと問題点
- 5 討論の応用

プレゼンテーションツールを用いた実習。

- 1 ホームページとプレゼンテーション
- 2 ウェブサイトとコンテンツ
- 3 パワーポイントとテンプレート
- 4 説得することは聞き手の立場を知ること
- 5 ツールの応用

### 【評価方法】

出席と参加度30%、実践練習50%、発言とコミュニケーション20%の割合で評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献・資料】

- 頭を鍛えるディベート入門 (松本茂 (1996) 講談社 BLUE BACKS)  
定訳 菊と刀 (R・ベネディクト著 長谷川松治訳 (1972) 社会思想社)

## 日本語学Ⅱ

阿部美枝子

### 【授業の概要】

現代日本語の文法現象の中から基本的、かつ重要なトピックを演習の形で取り上げ、言語学的、日本語学的手法で分析し、日本語の体系を理解していく。

### 【授業計画】

現代日本語の文法現象を整理し、その体系を理解することをテーマとする。

1. 日本語の基本構造
2. 構造の階層性
3. 文：情報の単位として
4. 述語の型
5. 助詞
6. 自動詞と他動詞
7. 受動文
8. 使役文
9. テンスとアスペクト
10. 主題の「は」

以上のような項目について、言語学的、日本語学的に分析していく。

主に講義の形を取るが、随時課題を出す。

### 【評価方法】

学期末筆記試験、及び課題の結果で評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

1. 生成日本語学入門 (1999年 大修館書店)
2. はじめての人の日本語文法 (1991年 くろしお出版)

## 日本語学Ⅰ

阿部美枝子

### 【授業の概要】

言語の基本である音声科学的、客観的に提示し、日本語がどのような音から構成されているかをみていく。

### 【授業計画】

1. 文字と音声
2. 発音のメカニズム
3. 日本語の音
4. 韻律現象

以上の構成で主に講義の形で授業を進めるが、日本語話者としての受講者の直感、意見等も積極的に講義の中に取り入れていく。

随時、課題を出す。

### 【評価方法】

学期末試験、および課題を評価の対象とする。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献・資料】

生成言語学入門 (1999年 大修館書店)

## 日本語学Ⅲ

山内啓介

### 【授業の概要】

語彙についての基本的な理解を得るため、術語や理論を学習して言語研究の応用方法を解説する。また、意味についての研究史から、意味の基本三角形、指示の意味、差異化、概念の外延と内包、関係の意味などの基本的な知識を得る。

### 【授業計画】

- 1 はじめに 語と語彙
- 2 語彙論とは何か。 語の単位・語彙調査・語彙表
- 3 語の延べと異なり。 資料体の総量・古典対照語彙
- 4 基本語彙について。 基礎語彙・基幹語彙・語彙量
- 5 語彙の構造。 分類基準・意義・形態・語性・地域
- 6 語誌の研究。 語源・語義・本義・派生義・語構成
- 7 語種。 和語・漢語・外来語・混種語・カタカナ語
- 8 語と意味。 意味とは、意味の捉え方・語義反義語
- 9 語の意味の研究。 指示の意味・意味の基本三角形
- 10 関係の意味。 象徴記号・概念と用法・語義の差異
- 11 意味分析の方法。 文脈の意味・臨時的意味・比喩
- 12 語の意味変化について。 意味の変遷・辞書の記述
- 13 日本語語彙の特徴。 死語・流行語・若者語・造語
- 14 語彙史と辞書史。 字引き・索引・コンコーダンス
- 15 語彙研究の課題・意味研究の将来

### 【評価方法】

定期試験による。出席回数を重視する (80%以上)。

### 【テキスト】

プリント資料を配布。

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介するので、図書館などで利用されたい。

## 日本語教授法Ⅰ

窪田守弘

### 【授業の概要】

日本語教授法は、外国人を対象に外国語として日本語を教えることであり、日本人を対象にした「国語教育」とは方法論も指導内容も異なっている。そこで、本講義ではまず外国語教授法の変遷をたどり、ついで日本語を外国語として教える日本語教授法について考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 日本語教育と国語教育の概観
2. 外国語教授法の変遷と日本語教授法の方法論  
文法直訳法、直説法、オーディオ・リンガル法、段階的教授法、認知学習法、全身反応教授法、コミュニティ言語学習法、サイレント・ウェイ法、サジェストベディア法（暗示式）、コミュニケーション・アプローチ法など
3. 外国語として教える日本語の楽しさと難しさ

### 【評価方法】

授業時の発表、学期末のレポート、出席などで総合的に評価する。

### 【テキスト】

配布資料を使用する。

### 【参考文献・資料】

改定新版日本語教授法（石田敏子著 1995 大修館書店）

## 日本語教育入門Ⅱ

窪田守弘

### 【授業の概要】

言葉は文化を映し出す鏡とよく言われている。これからの日本語教育は、日本社会で実際にうまくコミュニケーションをするために、文法・発音・語彙などの正確さだけでなく、話し手や聞き手の人間関係、状況や場面に応じた言葉の使い分けが必要である。

そこで、本講義では日本語の学習者がその構造上の知識だけではなく、それが社会・文化・生活などに深く密着しているという観点から、日本語コミュニケーションの実態を明かにする。そして、日常会話での典型的な文型を分類し、発話行為の実態を理解するために基本的な談話分析も試みていく。

### 【授業計画】

1. 話し手と聞き手の人間関係
2. 敬語の仕組みとその応用
3. 授受動詞の実際と応用
4. 標準語と方言の関係
5. コミュニケーション行動
6. 日常会話の分類と分析
7. 発話行為と談話分析
8. 第二言語習得

### 【評価方法】

課題レポート、学期末のレポート、出席状況などで総合的に判断する。

### 【テキスト】

プリント配布

### 【参考文献・資料】

講義時に随時紹介する。

## 日本語教授法Ⅱ

山内啓介

### 【授業の概要】

外国人に対する日本語教授法、特に中級、上級レベルの日本語教授法を中心に学習する。初級における口頭練習、読解指導の教案作成および模擬授業をふまえ、中級、上級と様々なレベルの日本語教育が日本語学習者の立場に立って体験できるようにする。

### 【授業計画】

次の講義と教壇実習を行う。

- 1 初中級のとらえかた
- 2 中級のとらえかた
- 3 中級の教えかた
- 4 専門日本語とは
- 5 談話の分析
- 6 教案と授業の実際
- 7 シミュレーション
- 8 日本語学習者論
- 9 PAL法の実演（1）
- 10 PAL法の実演（2）
- 11 PAL法の実演（3）
- 12 日本語とコミュニケーション
- 13 日本語コミュニケーター

### 【評価方法】

単位取得の評価は、授業参加30%、複数回のテスト60%、受講生のコミュニケーション10%で行う。

### 【テキスト】

各種ある日本語の教科書について、実践しようとするものについて、ひとつを選び購入すること。

## 日本語・日本文化講義Ⅰ

山内啓介

### 【授業の概要】

日本語文献を講読する。

日本文化を読み解き日本文化論の変容について受講生とともに考えたい。

そして日本語の背景にある日本語コミュニケーションと言語文化の諸問題を探究する。

### 【授業計画】

- 1 日本文化論とは
- 2 日本文化論の変容
- 3 菊と刀—文化人類学から
- 4 特殊性、歴史的相対性
- 5 日本文化の肯定的特殊性
- 6 日本人論と日本文化議論
- 7 日本文化議論のキーワード
  - 1) ギリ
  - 2) 甘え
  - 3) たて社会
  - 4) 間人主義
  - 5) グローバリズム
- 8 文化基盤
- 9 クール・アニメ・若者文化
- 10 日本文化論の流れ

### 【評価方法】

レポートを課す。

### 【テキスト】

日本文化論の変容（青木保（1990） 中央公論社）  
[なお、文庫版がある]

### 【参考文献・資料】

文化議論の参考書を多数、課題図書として授業時に紹介する。

## 日本語・日本文化講読Ⅱ

窪田守弘

### 【授業の概要】

日本語は、政治や経済の中心が京都から江戸に移って以来、活発な商業活動や行政政策を通じて京都弁や大阪弁に代わり江戸弁が急速に広がっていった。その後、江戸から東京に時代が変わり、東京の山手地域を中心としたコトバ（後に標準語の中心勢力となる）が、放送用語として採用され、1965年のテレビ放送の開始に伴って、電波と共に従来考えられないスピードで全国の視聴者にNHK語が広まっていった。さらに、文部省が国定教科書に、標準語を採用して学校教育の現場でカリキュラムとして日本語の標準語化に入ってしまったという時代的な背景があった。

そこで、本講義では日本語の標準語化がどのようなプロセスを経てなされていったのかに関して、基本的な資料を読みながらその背景を考えていくことにする。そして、現在の標準語となっている東京コトバの体系が、どのような言語的、文化的な要素と背景をもっているのかも明らかにしてみたい。

### 【授業計画】

日本語の特徴を時代的に概観するため、具体的な資料を集めながらデータを作ることとする。その際、小説や評論文などには時代的な背景が反映されていることが多いので、幾つかの作品を中心に時間をかけて講読していきたい。例えば、明治時代という急激な近代化の中で、漱石や鴎外などの知識人が自己の思想をどのような文章で表現しようとしたのかについて分析をしてみたい。

授業の内容は、日本語の特徴について、時代別、標準語と方言、作家別という項目の中で以下のようにすすめていく予定である。

- 1 時代別コトバの特色……江戸時代、明治～大正時代、昭和～平成時代
- 2 標準語と方言の特色……方言の実態と将来、標準語の推移と背景
- 3 作家別表現形式の特色……夏目漱石、森鷗外などの作品分析

### 【評価方法】

授業態度、出席状況、課題レポートの提出などを総合的に判断する。

### 【テキスト】

講義時に随時プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

日本語の世界（田中章夫）

## 専門演習Ⅰ

松本青也

### 【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

### 【授業計画】

今や世界共通語とも言われるアメリカ英語と、日本人の考え方や生き方にも大きな影響を与えているアメリカ文化を考えようとするものです。アメリカ英語とその背景にある文化、特に人生、孤独、愛と性、生と死、幸福などの基本的なテーマについて日米の思想を比較対照して考え、更に自由、平等、人権といった理念が日米で現実の様々な問題解決にどう機能しているかまでを幅広く扱います

2年次前期では次のような活動を中心に進めます。

- (1) アメリカの作家、哲学者、科学者、ジャーナリストなどによる珠玉の英文の味読と討論
- (2) ゼミ合宿でのプレゼンテーションと討論
- (3) 松本ゼミのホームページ作成

### 【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況などによる総合評価

### 【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

## 専門演習Ⅰ

McDANIEL, Edwin R.

### 【Course Content】

The world's population is becoming increasingly international as a result of greater opportunities for working, studying, and traveling in other countries. Interaction between people from diverse national and ethnic cultures will continue to grow in both frequency and importance. Effective communication will be the vital link that successfully unites people holding different cultural beliefs, values, and attitudes

This seminar will examine how culture influences communication, both oral and nonverbal, in varied contexts. The different contexts studied will be determined by, and adapted to, the students' interests. Each student will be expected to identify a particular context of interest and develop a degree of expertise in that area. The emphasis will be on comparing Japan with other cultures, and the class should be of particular interest to students who anticipate engaging in a significant amount of intercultural communication.

### 【Schedule】

Class meetings will be a combination of lecture and discussion. Topics examined may include, but are not limited to, the following:

- Education
- Business
- Tourism
- Healthcare
- Interpersonal relations

### 【Assessment】

Class participation, short written or oral reports, and at least one class presentation relating to the selected context of interest will be used to evaluate student progress.

### 【Textbooks】

A textbook may be assigned in the second term.

## 専門演習Ⅰ

山内啓介

### 【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

### 【授業計画】

まず次の講義を行う。

- 1 日本語学（1）日本語コミュニケーションと音声科学について
- 2 日本語学（2）日本語コミュニケーションと音韻論について
- 3 日本語学（3）日本語コミュニケーションと文法・形態論について
- 4 日本語学（4）日本語コミュニケーションと文法・統語論について
- 5 日本語学（5）日本語と語彙について
- 6 日本語学（6）日本語意味論について

次のテーマで受講生と演習を行う。

- 7 日本語教育と日本語コミュニケーション
- 8 日本語コミュニケーションのさまざまなケース・スタディ
- 9 日本語コミュニケーションが必要な場面とその会話
- 10 日本語学の理論
- 11 日本語教育の実践
- 12 日本語と文化

[附] インターネット日本語 日本語研究

### 【評価方法】

演習のプレゼンテーションを評価する。  
議論の参加と発言を参考とする。

### 【テキスト】

特に定めない。

### 【参考文献・資料】

言語学大辞典の日本語の項目  
(三省堂 第2巻世界言語編 1569ページ-1791ページ)

## 専門演習 I

馮 富榮

### 【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例が挙げられる。この授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていく方法を取る。

### 【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点が移っていく。

2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

### 【評価方法】

平常点で評価する。

### 【テキスト】

《漢語教程》第二冊（北京語言文化大学出版社）

## 専門演習 I

MOLDEN, Danny T.

### 【Course Content】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

### 【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

## 専門演習 I

窪田守弘

### 【授業の概要】

日本語コミュニケーションについて、特に「談話分析」などの先行研究を概観し、日常会話における日本語の基本的な文型や表現形式をまとめる。その際に、日本映画（アニメを含む）やテレビ・ドラマのシナリオや字幕などを主な資料として分析を試みる。

また、本ゼミでは「談話分析」という新しい理論を習得し、それを応用して日本語コミュニケーションの教材開発の可能性も研究する。

### 【授業計画】

日本人の日常会話は自然に行なわれているようであるが、実はそこにはさまざまな必然的なルールがある。その実態を詳しく調べるため多くの会話場面のサンプルを集め、「談話分析」という方法論で考察を進めていく。なお、分析は次のような内容で調べていく予定である。

<基礎的な会話分析>

- 1 会話とは何か。
- 2 会話の順番取りとシステム
- 3 会話とトピックの組織化

<制度的状況と会話分析>

- 1 会話の制度的状況とは何か。
- 2 制度的状況と会話分析
- 3 会話分析と日本語記述

### 【評価方法】

授業態度、出席状況、課題レポートの内容などを総合的に判断する。

### 【テキスト】

配布プリント、ビデオ、DVDなど。

### 【参考文献・資料】

演習時に紹介する。

## 専門演習 I

McGEE, Jennifer J.

### 【Course Content】

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers. This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet. This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate. This seminar has two areas of study-theoretical and practical. Studying media theory means you will learn about how media works and why communication in the media is different from face-to-face communication.

### 【Schedule】

The schedule will be flexible. Topics will depend on student interests and current events.

### 【Assessment】

Grades will be based on attendance, participation in class, and short reports.

### 【Textbooks】

There will be no certain textbook, but there will be various readings in Japanese and English.

## 専門演習 I

杜 英起

### 【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例が挙げられる。この授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていく方法を取る。

### 【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点を移っていく。2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

### 【評価方法】

平常点で評価する。

### 【テキスト】

《漢語教程》第二冊 北京語言文化大学出版社

## 専門演習 I

CHARLEBOIS, Justin

### 【Course Content】

The focus of this course will be to give you a basic introduction to some concepts within sociolinguistics. The emphasis will mainly be on English; however, Japanese will be studied as well. Both English and Japanese will be used in this class.

### 【Schedule】

- introduction to sociolinguistics
- language choice
- code-switching
- language death
- language birth (Pidgins and Creoles)
- dialects
- gender and language
- intercultural communication
- politeness

### 【Assessment】

- Homework
- Midterm Paper
- Final Paper

### 【Textbooks】

社会言語学入門 (東照二 研究社 1997)

### 【Reference】

社会言語学への招待 (田中春美 ミネルヴァ 2004)

## 専門演習 I

WRINGER, Paul

### 【Course Content】

This course will attempt to cover some of the many aspects of life in contemporary Britain. Through articles, short documentary films, and other published materials, students will be introduced to facts and information on the aspects of life in Britain shown below.

As well as reading and writing about and discussing various topics, the students will be expected to relate what they have understood to similar aspects of their own culture.

British and Japanese cultural awareness will be used to encourage analytical and imaginative participation of students in the language learning process. This course is based around genuine communication and will take into account genuine contexts, reproducing realistic conditions through pair and group work, interviews, and presentations.

### 【Schedule】

Each topic will be covered over a two to three week period

- WHAT IS BRITAIN?
- CULTURAL DIVERSITY
- CUSTOMS AND HABITS
- EDUCATION
- THE MEDIA

### 【Assessment】

Grades will be determined from the following:

- ATTENDANCE
- HOMEWORK ASSIGNMENTS
- PRESENTATIONS
- PARTICIPATION IN PAIR/GROUP WORK
- SHORT END OF SEMESTER REPORTS

### 【Textbooks】

No set text. Handouts will be prepared and made available.

## 専門演習 II

松本青也

### 【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

### 【授業計画】

今や世界共通語ともされるアメリカ英語と、日本人の考え方や生き方にも大きな影響を与えているアメリカ文化を考えようとするものです。アメリカ英語とその背景にある文化、特に人生、孤独、愛と性、生と死、幸福などの基本的なテーマについて日米の思想を比較対照して考え、更に自由、平等、人権といった理念が日米で現実の様々な問題解決にどう機能しているかまでを幅広く扱います。

2年次後期では次のような活動を中心に進めます。

- (1) アメリカの作家、哲学者、科学者、ジャーナリストなどによる珠玉の英文の味読と討論
- (2) 各自が選んだテーマについて、インターネットによる情報検索やE-mailでの情報収集をもとにした研究発表
- (3) 研究小論文の執筆

### 【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況などによる総合評価

### 【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料



## 専門演習Ⅱ

McDANIEL, Edwin R.

### 【Course Content】

The world's population is becoming increasingly international as a result of greater opportunities for working, studying, and traveling in other countries. Interaction between people from diverse national and ethnic cultures will continue to grow in both frequency and importance. Effective communication will be the vital link that successfully unites people holding different cultural beliefs, values, and attitudes

This seminar will examine how culture influences communication, both oral and nonverbal, in varied contexts. The different contexts studied will be determined by, and adapted to, the students' interests. Each student will be expected to identify a particular context of interest and develop a degree of expertise in that area. The emphasis will be on comparing Japan with other cultures, and the class should be of particular interest to students who anticipate engaging in a significant amount of intercultural communication.

### 【Schedule】

Class meetings will be a combination of lecture and discussion. Topics examined may include, but are not limited to, the following:

- Education
- Business
- Tourism
- Healthcare
- Interpersonal relations

### 【Assessment】

Class participation, short written or oral reports, and at least one class presentation relating to the selected context of interest will be used to evaluate student progress.

### 【Textbooks】

A textbook may be assigned in the second term.

## 専門演習Ⅱ

馮 富榮

### 【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすこと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例がある。また授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていくという方法を取る。

### 【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点が移っていく。

2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

### 【評価方法】

平常点で評価する。

### 【テキスト】

《漢語教程》第三冊（北京語言文化大学出版社）

## 専門演習Ⅱ

山内啓介

### 【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

### 【授業計画】

専門演習Ⅰにつづき、日本語学、日本語教育の演習を行う。なお、課題の発見は広く領域をとって国語教育や日本文化などの問題に及ぶことがあってよい。

次の演習を行う。

文献解題

問題点と調査・実験

演習は2回を担当する。プレゼンテーションにはそれぞれ、レジュメを用意する。

1回目：文献選択、内容の抄録、梗概説明、問題提起。

2回目：課題提示、トピックとアンサー、調査実験のプロセス。

演習の参加は、発表について事前準備に3週間は必要とする。あらかじめ、発表当番をエントリーし、計画的に学習が進められるように話し合い、プレゼンテーションを実行する。

### 【評価方法】

プレゼンテーションによる。

### 【テキスト】

特になし。各自の発表用レジュメ。

### 【参考文献・資料】

授業時に示される。

## 専門演習Ⅱ

窪田守弘

### 【授業の概要】

「談話分析」に関する論文の主要なものを資料とし、日本語コミュニケーションの実態を整理する。そして、今日的課題があればそれを分類しながら、学生自らの課題として考察を進めていく。日常会話では無意識に取り上げるトピックや選択手順などが、一定の条件下では、かなり限定的、かつ複雑な言語行動となっている。学生はその現象を的確に把握するために、さまざまな場面を明確に顕在化させるための分析方法論が学べるようにする。演習は学生が主体となり、十分時間をかけて議論や発表ができるように配慮する。

### 【授業計画】

日本語コミュニケーションの概念を明確にするため、「談話分析」に関して基礎から応用まで、主な理論と方法論を理解を学ぶ。その際に、外国の文献も参考にしながら、詳しく調べていく。

<発話の分析について>

- 1 発話の構成単位と機能
- 2 発話行為と展開
- 3 発話の基本的スタイル

<談話構造について>

- 1 談話構造
- 2 形式と機能
- 3 談話分析の方法論上の考察

### 【評価方法】

授業態度、出席状況、課題レポートの内容などを総合的に評価する。

### 【テキスト】

配布プリント、ビデオ、DVDなど。

### 【参考文献・資料】

演習時に紹介する。

## 専門演習Ⅱ

MOLDEN, Danny T.

### 【Course Content】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

### 【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

## 専門演習Ⅱ

杜英起

### 【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例がある。また授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていくという方法を取る。

### 【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点が移っていく。2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

### 【評価方法】

平常点で評価する。

### 【テキスト】

《漢語教程》第三冊 北京語言文化大学出版社

## 専門演習Ⅱ

McGEE, Jennifer J.

### 【Course Content】

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers. This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet. This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate. This seminar has two areas of study-theoretical and practical. Studying media theory means you will learn about how media works and why communication in the media is different from face-to-face communication.

### 【Schedule】

The schedule will be flexible. Topics will depend on student interests and current events.

### 【Assessment】

Grades will be based on attendance, participation in class, and short reports.

### 【Textbooks】

There will be no certain textbook, but there will be various readings in Japanese and English.

## 専門演習Ⅱ

WRINGER, Paul

### 【Course Content】

This course will attempt to cover some of the many aspects of life in contemporary Britain. Through articles, short documentary films, and other published materials, students will be introduced to facts and information on the aspects of life in Britain shown below.

As well as reading and writing about and discussing various topics, the students will be expected to relate what they have understood to similar aspects of their own culture.

British and Japanese cultural awareness will be used to encourage analytical and imaginative participation of students in the language learning process. This course is based around genuine communication and will take into account genuine contexts, reproducing realistic conditions through pair and group work, interviews, and presentations.

### 【Schedule】

<Each topic will be covered over a two to three week period>

- THE MONARCHY
- YOUTH CULTURE
- FASHION
- MUSIC
- RELIGION

### 【Assessment】

Grades will be determined from the following:

- ATTENDANCE
- HOMEWORK ASSIGNMENTS
- PRESENTATIONS
- PARTICIPATION IN PAIR/GROUP WORK
- SHORT END OF SEMESTER REPORTS

### 【Textbooks】

No set text. Handouts will be prepared and made available.

## 専門演習Ⅱ

CHARLEBOIS, Justin

### 【Course Content】

This seminar will focus on introducing you to the field of discourse analysis (談話分析): the study of both written and spoken "text." We will look at how factors beyond language (e.g. culture, gender) influence interlocutors' speech. The class will consist of reading actual studies (論文), class discussions, class activities, and occasionally viewing films.

### 【Schedule】

- introduction to discourse analysis
- interpreting interruption in conversation
- Hillary Rodham Clinton: What the Sphinx Thinks
- "The Color Purple"
- language and identity

### 【Assessment】

- Homework
- Midterm Paper
- Final Paper

### 【Textbooks】

None. Just the prints that I distribute.

## 比較文化論Ⅰ (日・米)

松本青也

### 【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

### 【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由で伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則 (CTR)
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日本語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化

### 【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

### 【テキスト】

日米文化の特質 (松本青也 研究社)

## 異文化コミュニケーション

高井次郎

### 【授業の概要】

異文化の相手との相互作用を円滑に運ぶために必要な知識、態度および対人行動技術について、言語および非言語行動を中心に考察する。日本の対人行動パターンの自覚を通じて、異文化コミュニケーションの障壁となり得る要因を考察する。

### 【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 文化とコミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 言語コミュニケーション
5. 非言語コミュニケーション
6. 非言語コミュニケーション
7. 対人認知
8. ステレオタイプ
9. 人種偏見
10. 人種差別
11. 異文化間能力
12. 異文化間トレーニング
13. コミュニケーション研究
14. コミュニケーション理論
15. 期末試験

### 【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

### 【テキスト】

未定

## 比較文化論Ⅱ (日・欧)

山井徳行

### 【授業の概要】

日本と欧州の関係を歴史的に概観しながら、日本人の中に生成されてきたヨーロッパのイメージを点検する。そのような関係性の中に、日本人としてのヨーロッパ理解の実態が浮き上がる、と思うからである。次に、ヨーロッパ精神の源流をギリシャ文化とキリスト教、さらには近代合理主義の中に求める。以上のような理解をした上で、地理的にヨーロッパをとらえて、具体的な国々の特徴を見て行く。

そして、現代に生きる同時代人としての日本人とヨーロッパ人の具体的な生き方において、比較文化的考察を行う。

時間があれば、ヨーロッパ連合の問題を取り上げたい。2004年には加盟国15ヶ国が25ヶ国に拡大した。

### 【授業計画】

- 第1週 授業のやり方や準備の仕方を説明する。
- 第2～4週 日本とヨーロッパの関係を歴史的に探る。
- 第5～7週 ヨロッパ文明の根幹をなすキリスト教や科学主義について講義する。
- 第8～10週 具体的なヨーロッパの国々と生活。
- 第11～12週 日本人の生き方、ヨーロッパ人の生き方。
- 第13～15週 整理とまとめ。

2004年の授業では、イラクにおける「日本人拉致事件」を題材に日本とヨーロッパとの反応を比較した。

今年度も時事問題を題材に比較文化を試みることもありえる。Power Pointを使って授業をする予定です。

### 【評価方法】

発表 (またはレポート) と定期試験の結果で行う。

### 【テキスト】

特になし。プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

- 沈黙のことば (エドワード・T・ホール著 [The Silent Language (Edward T. Hall)])
- 英語と日本人 (太田雄三著 講談社学術文庫)
- 福翁自伝 (福沢諭吉)

## 比較文化論Ⅲ (日・アジア)

尹 大辰

### 【授業の概要】

(概要) アジア諸国の中でも、特に日本と深い関わりのある中国と韓国を取り上げ、歴史認識や政治までを含めた広範囲な文化を日本と比較する。

前半は日本と中国、韓国の文化・習慣の違いについて説明する。主として、両国の食文化、風俗習慣、建築文化、漢字文化、交流文化及びお茶とお酒の文化などをテーマにし、講義し、比較する。

後半は「日韓両国の歴史認識への接近」をテーマに韓国近代史に焦点をあて、まず自らを点検し、共有する歴史認識の確立をめざし、今後のあるべき姿を模索していこうとするものである。

### 【授業計画】

学生のアジア諸国に対する真の理解を深めることを目的としているので、中国や韓国の文化習慣を多面的に紹介する。具体的に以下の内容となる。

1. 中国文化の原点である「天人合一」について
2. 何千年の歴史を持つ中国の漢字文化
3. 世界でも大変評判になっている中国の食文化
4. 中国の祝日と風俗習慣
5. 中国の古都の紹介
6. 中国の文化習慣がいかにして中国人の日本語学習に影響を及ぼすか
7. 中国に関する全体的なまとめ
8. 日本と朝鮮半島との文化交流 (古代)
9. 日本と朝鮮半島との文化交流 (中世)
10. 日本と朝鮮半島との文化交流 (近代)
11. 朝鮮半島の自然と文化・風土
12. 韓国の家族制度と姓・本貫
13. 韓国の社会生活から見た文化比較

### 【評価方法】

レポート及び平日の出席状況などを考えて、総合的に判断する。

### 【テキスト】

自作教材

### 【参考文献・資料】

金河基監修図説「韓国の歴史」(河出書房新社)

## 比較文化論Ⅳ (日・中東)

澤江史子

### 【授業の概要】

現代世界に生きる私たちにとって理解が不可欠となっている中東イスラーム世界について、文明、歴史、国際政治、宗教という多様な側面から理解することを目指す。事例としてはトルコを中心に取り上げる。

### 【授業計画】

1. 導入
  - \* 「中東」とオリエンタリズムの問題
  - \* 中東の文化とアイデンティティの重層性
2. 近世から近代へ
  - \* オスマン帝国における近代化の歴史と問題
  - \* 近代の日本とオスマン帝国/トルコ
3. イスラーム世界と国際政治
  - \* イスラーム世界とヨーロッパ
  - \* 冷戦後のイスラーム世界
  - \* 「原理主義」と「文明の衝突」論
4. 現代国家におけるイスラーム
  - \* 国家原理の変更と新しい問題：世俗主義とイスラーム復興の対立
  - \* イスラームとは何か
  - \* イスラーム復興運動とは何か
  - \* イスラーム復興と女性

### 【評価方法】

授業中の課題および試験によって評価する。

### 【参考文献・資料】

オスマン帝国-イスラーム世界の「柔らかな専制」  
(鈴木董 講談社現代新書 1992年)  
イスラームとは何か (小杉泰 講談社現代新書 1994年)  
イスラームの日常世界 (片倉もとこ 岩波新書 1991年)  
その他、授業中に適宜指示する。

## 比較文化論Ⅴ (日・中)

杜 英起

### 【授業の概要】

中国の花の文化、食の文化、お酒の文化、建築の文化(民居、庭園)、そして漢字の文化を紹介し、儒教の思想の真髄を探求する。よって、日本の文化と中国の文化の接点を探るとともに、それぞれの文化の特質を浮き彫りにする。目的は、日・中両国間の相互理解を深めることにある。

### 【授業計画】

1. 花の文化について
2. 食の文化について
3. お酒の文化について
4. お茶の文化について
5. 建築の文化について
  - (1) 北京の民居・胡同
  - (2) 中国の四大名園の紹介(主として頤和園と拙政園を紹介する)
  - (3) 万里の長城
  - (4) 日本の建築
6. 漢字と文化
7. 中国の儒教、儒教による日本への影響

### 【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

### 【テキスト】

未定

## ビジュアルコミュニケーション

後藤卓男

### 【授業の概要】

「ケータイ」の最近の使用状況が物語っているように、視覚的な情報媒体を用いたコミュニケーションの比重は、現代社会においてますます高まってきている。本講では、人の知覚が、外界の刺激の正確な反映ではなく、いかに人間の側の条件に依存しているかを論じ、コミュニケーションにおける望ましい視覚情報の利用について考察を深める。

### 【授業計画】

- 1 オリエンテーション(授業内容の説明)
- 2 ビジュアルコミュニケーションの意味について
- 3 視覚情報受容(視知覚)の生理的基礎
- 4 視環境(視覚情報の発信・受信空間)の成立
- 5 視環境の基点(輪郭)
- 6 視環境の反転(図と地)
- 7 視環境のまとまり(形)
- 8 視環境の広がり(奥行き)
- 9 視環境の安定性(恒常現象)
- 10 視環境の振れ-1(形の錯視)
- 11 視環境の振れ-2(色の錯視)
- 12 視覚情報の統合(視覚モデル)
- 13 ビジュアルコミュニケーションの意義と利用

### 【評価方法】

期末には、ペーパーテストを行う。また、授業への意欲的な出席を重視し、授業時間に行ったショートレポートを評価に加える。

### 【参考文献・資料】

ビジュアルコミュニケーション(藤沢英昭他著 ダヴィッド社)

## マスメディア論

遠藤雄久

### 【授業の概要】

新しい情報メディアが次々に出現してくる状況のなかで、「もうマスメディアの役割は終わった」という声も聞かれるが、現実の社会生活のなかでのマスメディアの世論への影響力はむしろ強まっているように思われる。一方で、マスメディアは政治や経済と同じようにグローバル化の波に飲み込まれつつある。この講義はそうした現在のマスメディアの状況のなかでも、ジャーナリズム性という点に焦点を当てて、歴史的な考察もまじえながら、現在、未来のマスメディアのあり方について具体的に考えることを目的とする。

### 【授業計画】

- 1) 「ジャーナリズムとは何か」について歴史的に考える
- 2) マスメディア（マスコミ）とジャーナリズムの関係について
- 3) 世論とは何か、世論とマスメディア、ジャーナリズムとの関係
- 4) マスメディア、ジャーナリズムと民主主義
- 5) マスメディアはなくなってもいい、という議論について
- 6) 各国で現れてきているオルターナティブ（対抗的）メディアとはどんなものか
- 7) グローバル化はマスメディアにどんな影響を及ぼしているか
- 8) マスメディアの将来を考える

### 【評価方法】

数回出題するレポートと期末のテスト結果で判定する。出欠は受講者の人数に応じて考える。

### 【テキスト】

使用しない

### 【参考文献・資料】

授業のなかで適宜資料を配付し、参考文献も紹介する。

## 言語への認知的アプローチ

増田尚史

### 【授業の概要】

人間の知的活動の一つとしての言語行動について、認知科学のおよび認知心理学的な観点から検討を加える。特に、言語行動を支えるハードウェアとしての脳、ソフトウェアとしての文法（grammar）、そしてそれらをつなぐ役割を担う心的表象（mental representation）について考察する。さらに、言語行動の社会的意味についても考える。

### 【授業計画】

1. 言語の歴史
2. 言語行動と記憶活動
3. 言語行動を支える脳部位と失語症
4. 生成文法の意義と限界
5. 語用論とレトリック
6. 心的辞書
7. 言語の獲得
8. 言語とコミュニケーション

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。なお、日常では意識化されない言語行動の一端に目を向けてもらうために、授業の中で各種の調査や実験を実施する。

### 【評価方法】

期末試験（あるいはレポート）の成績（80%）と、授業への出席および実験等への参加協力の程度（20%）とによって評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用せず、適宜資料を配付する。

### 【参考文献・資料】

随時紹介する。

## リスク・コミュニケーション

元吉忠寛

### 【授業の概要】

私たちは、数多くのリスク（事故・災害・犯罪・環境・食・医療）に囲まれて生活しています。心理学を中心とした社会科学の視点から、リスクというものについて理解し、リスクに関わるコミュニケーションについて考えます。

### 【授業計画】

1. 授業ガイダンス
2. リスクとは何か
3. リスク・イメージとリスク認知
4. 意思決定におけるリスク認知のバイアス
5. ゼロリスク症候群とリスクの社会的受容
6. ヒューマンエラーのメカニズム
7. 組織におけるリスク・マネジメント
8. 医療リスクと患者の意識
9. 災害リスクと防災行動
10. 環境と持続可能な社会の構築
11. 安全・安心・信頼
12. リスク教育と情報
13. まとめ

### 【評価方法】

課題レポートと、出席状況から評価します。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献・資料】

講義中に紹介します。

## コミュニケーション障害論

西村辨作

### 【授業の概要】

ことばには、日常生活の用を足す伝達の機能、人間関係を維持し発展させる社交の機能、ことばそのものを楽しむ鑑賞の機能、それに思考の道具となって合理的判断を助ける働きがある。ことばを喋って意思を伝えること、言語を操作して考えることは人間の高次の神経活動であるが、この機能に不全がある状態を言語障害という。言語障害はさまざまな原因によって生じるが、このことを人のこころの成長や働きと関連つけて講義し、コミュニケーションに障害をもつ人にはどのような援助が必要かを考えていただく。

### 【授業計画】

- 第1回 コミュニケーションについて
- 第2回 人間の言語行動の特徴
- 第3回 子どもの発達障害
- 第4回 認知発達のみちすじ
- 第5回 心理社会的な成長
- 第6回 知的障害
- 第7回 自閉症
- 第8回 障害児を持つ家族
- 第9回 軽度発達障害
- 第10回 構音障害
- 第11回 失語症
- 第12回 聴力障害
- 第13回 記憶障害
- 第14回 補助代替コミュニケーション
- 第15回 予備日

### 【評価方法】

障害児・者が主人公の映画（ビデオ）の鑑賞感想文。指定ビデオは授業の中で通知する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜配布する

## 比較文化特論

山井徳行

### 【授業の概要】

日本とフランスを比較する。日本人とフランス人の一生を比較しながら展開する。出生・子供時代・教育・退職後の生活などなど、人生の具体的な一こま一こまを通して日本文化とフランス文化を比較してゆく。また、フランスの社会・地理・文化的多様性を語る事が、おのずと日本との比較になると考えるので、具体的なフランスの生活風景を提示して考察したい。

### 【授業計画】

パワーポイントを使った授業になります。フランスのテレビニュースをビデオで紹介しながら、フランスの現在も紹介する。

1. 授業のやり方や準備の仕方を説明する。
2. 誕生・出生率・国籍・子供時代
3. 大学生生活・友情・愛情
4. 仕事・余暇
5. 同棲生活・結婚・離婚
6. 家族・社交・人生の楽しみ
7. 社会問題
8. 衣食住に見る文化財・芸術
9. 第二の人生・人生の幕
10. 地方の風土と文化
11. 総括・人生を豊かにするために

### 【評価方法】

レポートと定期試験で行う。

### 【テキスト】

特になし。プリント配布。

### 【参考文献・資料】

ビゴーが見た日本人（清水勲著 講談社学術文庫）  
コレアン・ドライバーはパリで眠らない（洪世和（ホンセファ））  
フランス語で広がる世界（日本フランス語教育学会編）

## ノンバーバル・コミュニケーションⅡ

野口朋香

### 【授業の概要】

この授業では、私達の日常の対人コミュニケーションのしくみを学び、その中で重要な機能を果たしている非言語コミュニケーションの諸相を探ります。

また、分担発表により基本的な文献や論文を読みながら、ノンバーバルコミュニケーションに関する理解を深めていきます。

### 【授業計画】

この授業では、授業中の実験や課題を通じて、自分で実際に観察、経験することを重視し、授業への貢献を期待します。

また、音調学 (vocalics)、対物学 (objectics)、接触学 (haptics)、動作学 (kinesics)、嗅覚学 (olfactics)、近接学 (proxemics)、時間学 (chronemics) などの見地から、私達をとりまくノンバーバルコミュニケーションについてグループでリサーチし、その結果についてディスカッションを行います。

### 【評価方法】

授業参加および発表・レポートによって総合的に評価する

### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布

## ノンバーバル・コミュニケーションⅠ

野口朋香

### 【授業の概要】

この授業では、私達が意識的・無意識的に行うコミュニケーションのプロセスの中で、非言語コミュニケーションがどのような役割を果たしているかについて具体的な例を挙げながら考察します。

### 【授業計画】

Introduction：ノンバーバル・コミュニケーションとは

Aspects of nonverbal communication

Body movements and gestures

Facial expression & eye behavior

Territoriality & personal space

Touching behavior

Time

The voice and vocal expression

Clothing as Communication & Personal Artifacts as communication

Environmental influences on communication

### 【評価方法】

授業参加および試験・レポートによって総合的に評価する

### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布

## 中国語科教育法Ⅰ

王麗英

### 【授業の概要】

中学校及び高等学校の学習指導要領の趣旨に沿って、中国語科教育法について目的論、技能論、方法論を中心にして、中国語教育のあり方を考察する。中学生、または高校生を対象とする中国語教育は、どういった内容のものを教材として使ったほうがよいか、どういった指導法を取ればよいかなどについて、具体的に研究する。

### 【授業計画】

- 1、中国語科教育の原点と教育理念を議論する。
- 2、中国語科教育の目標を設定する。
- 3、中国語科教育の内容を議論する。
  - (1) 異文化理解
  - (2) 中国語によるコミュニケーション能力（聞くこと；話すこと；読むことと翻訳能力）
  - (3) 各学習期間区分の到達度
- 4、教育方法について
  - (1) 教授法の歴史（中国）
  - (2) 教授法の歴史（日本）
- 5、問題を提起する。
  - (1) 教育の内容について
  - (2) 教授方法について
  - (3) 異文化理解について
  - (4) 言語と文化の関係について
- 6、改善方法について考える。
  - (1) 教育の内容について考える
  - (2) 教授法について考える
  - (3) 異文化理解について考える

### 【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

### 【テキスト】

自作教材を使用する。

## 中国語科教育法Ⅱ

王麗英

### 【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国際理解、異文化理解と中国語コミュニケーション能力を育成するためには、中学校では、どのような授業を行えばよいかを講義し、こちらに用意した教材を元に、学習指導案を作成してもらい、また模擬授業を実施することによって、具体的・実践的な指導を行う。

### 【授業計画】

1. 外国語の教育理論
2. 外国語教育の伝統的な教授法と新しい試み
3. 中学生向けの中国語教育の特殊性と目標
4. 高校生向けの中国語教育の特殊性と目標
5. 指導案の構成
6. 指導案の作成指導
7. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考える。

### 【評価方法】

レポート、各自が作成した指導案と模擬授業の実施状況などで評価する。

### 【テキスト】

自作教材を使用する。

## 研究方法論

高井次郎

### 【授業の概要】

コミュニケーションのテーマにおける研究についての基礎的な概念および手法について教授する。実験法、観察法、調査法および内容分析法の概要について説明し、それによって得られたデータの分析および成果の提示法について取り上げる。

### 【授業計画】

1. 科学研究の特徴 (第1章、2章)
2. 仮説と研究計画 (第3章)
3. 研究の企画 (第4章)
4. 研究法の種類 (第5章)
5. 測定の基礎 (第6章)
6. 言語実験法 (第7章)
7. 観察法 (第8章)
8. 言語調査法 (第9章)
9. 態度の測定 (第10章)
10. データの整理と分析 (第11章)
11. データの整理と分析 (第11章)
12. データの整理と分析 (第11章)
13. データの整理と分析 (第11章)
14. 報告書の書き方
15. 報告書の書き方

### 【評価方法】

期末試験による。

### 【テキスト】

社会心理学研究入門 (末永俊郎著 東京大学出版)

## 中国現代事情

杜英起

### 【授業の概要】

80年代に、中国は、経済改革、開放路線を打ち出して以来、大きな社会的な変貌を見せてきている。とくに、教育制度、教育のあり方、そして現代の生活様式、消費観念、及び政治と経済など多面にわたって、画期的な変化が起こっている。しかし、日本は中国の隣国でありながら、中国のそうした激しい変化が一般的な日本人にあまり知られていないようである。本講義では、主として中国の現代教育、経済と政治などの現状を紹介する。

### 【授業計画】

1. 中国の教育
  - (1) 教育制度
  - (2) 教育の現状 (新しい試みと問題点)
  - (3) 教育改革の行方
2. 中国の経済
  - (1) 国営企業の現状
  - (2) 個人企業の現状
  - (3) これからの中国経済に関する展望
3. 中国の政治
  - (1) 政治制度
  - (2) 行政区分
4. 中国現代社会
  - (1) 現代中国人の生活状況
  - (2) 消費観念の変化
  - (3) 現代中国人の価値観

### 【評価方法】

レポートと出席率で評価する

### 【テキスト】

自作教材を使用する。

## 統計学Ⅰ

石橋善弘

### 【授業の概要】

コンピュータを用いた統計解析能力の育成を念頭において、確率論および統計学の基本的概念を講義し、統計と社会との関わりあいについて学ばせる。

### 【授業計画】

- |          |                  |
|----------|------------------|
| 第1回      | 本講義の目的および授業計画の提示 |
| 第2回～第6回  | 確率論              |
| 第7回～第11回 | 統計学の基礎的な概念の解説    |
| 第12回     | 補足とまとめ           |
- また、随時 Excel の利用訓練を行う。

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## 統計学Ⅱ

石橋善弘

### 【授業の概要】

コンピュータを用いた統計解析能力の育成を念頭において、統計学および推計学の基本的概念を講義し、統計と社会との関わりあいについて学ばせる。

### 【授業計画】

- |          |                                   |
|----------|-----------------------------------|
| 第1回      | 本講義の目的および授業計画の提示                  |
| 第2回-第4回  | 統計学の基礎的概念の解説                      |
| 第5回-第8回  | 推計学の基礎的概念の解説                      |
| 第9回-第11回 | 言語コミュニケーション学に関係の深い統計学、推計学の応用問題の解説 |
| 第12回     | 補足とまとめ                            |

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## 英語科教育法Ⅳ

山森孝彦

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼をおいて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

### 【授業計画】

- |         |   |
|---------|---|
| 第1回     | オリエンテーションと班分け(担当部分を決める)   |
| 第2回     | 授業の組み立て方などについての講義<br>(学生の模擬授業準備に時間がかかりそうなら第3回も山森が講義を行う)   |
| 第3~13回  | 模擬授業実習 <ul style="list-style-type: none"><li>・数人1組で模擬授業を行う。(教材研究・教案作り・授業)</li><li>・発表者以外の学生は生徒役もしくは授業分析ノートをつける。</li><li>・毎回授業に対するフィードバックとディスカッションを行う。</li><li>・全員が授業評価シートを毎回提出する。</li></ul> |
| 第14~15回 | 教育実習生としての心得についての講義と課題レポート提出   |

### 【評価方法】

出席状況・作成した教案や毎回の提出物・模擬授業・授業への貢献度を総合して評価する。

### 【テキスト】

Unicorn 英語Ⅰ・Ⅱ(文英堂)

### 【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 文部省

## 英語科教育法Ⅲ

高橋美由紀

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：中学校英語教師の資質について、テキスト説明、小・中・高・大の英語教育について
2. 授業の組み立て：授業を盛り上げるための教材・教具について、教案作成ワークショップその1、ビデオによる模範授業参観その1
3. 授業の組み立て：歌やゲームを取り入れた授業展開、教案作成ワークショップその2、ビデオによる模範授業参観その2
4. 授業研究：テキスト内容に沿ったオリジナル教材・教具の作成、生徒を引きつける授業の様々なアイディア
- 5~14. 各グループによる模擬授業
15. 予備日

### 【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

### 【テキスト】

*Sunshine Kids Book 1* (山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版)  
*Sunshine Kids Book 2* (高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版)  
*Sunshine 1・2・3* (松本青也他 開隆堂出版)  
中学校学習指導要領 外国語(英語)(文部科学省)  
その他、ゲーム集、歌、カセット、CD等はコピーを使用する。

### 【参考文献・資料】

教材・教具作成のために画用紙、マジックなどの文具類が必要である。

## 応用言語学海外研修

松本青也

### 【授業の概要】

異文化体験学習(ホームステイ、小旅行など)を加味した語学研修を中心に、両大学教員の連携指導のもとで、メーリングリストを利用したEメール通信などによって各自のテーマに沿った調査・研究も行う。

### 【授業計画】

米国の提携大学で実施。詳細は別の資料を参照のこと。

### 【評価方法】

提携大学での成績を中心に、事前オリエンテーションへの参加状況、事後報告レポートなどを加味して評価する。



## American Literature I

METCALF, Nicholas F.

### 【Course Content】

This course will introduce students to some of the major figures of nineteenth century American literature. This was the time when American writers were beginning to promote a distinct national literature. During the semester selections will be made from the works of Emily Dickinson, Edgar Allan Poe, Walt Whitman and Mark Twain.

### 【Schedule】

- Weeks 1 - 2 Historical background.
- Weeks 3 - 11 Individual writers will be covered over a two or three-week period.
- Week 12 Review

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation and coursework.

### 【Textbooks】

A textbook may be announced.

## American Literature II

METCALF, Nicholas F.

### 【Course Content】

The twentieth century was a time of rapid social and economic change in the United States. In this course we will look at the lives and works of some of the major American writers of the twentieth century to see how they responded to the changing world around them. Ernest Hemingway, F. Scott Fitzgerald, John Steinbeck and Jack Kerouac are among the writers we will consider.

### 【Schedule】

- Weeks 1 - 2 Historical background.
- Weeks 3 - 11 Individual writers will be covered over a two or three-week period.
- Week 12 Review

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation and coursework.

### 【Textbooks】

A textbook may be announced.

## Writing and Presentation I・II

DYCUS, David C. DAVIES, Alun

### 【Course Content】

英文を書き、英語で口頭発表する際に役立つ実用的な知識や方法を学ぶ。更にコミュニケーションの様々な状況を考えながら実際に論文を完成し、それを口頭発表する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

### 【Schedule】

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and / or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

- Organization and outlining
- Using outside sources
- Footnotes and Endnotes
- Speech Anxiety
- Impromptu and extemporaneous speaking
- Persuasive speaking

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

### 【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## Communication Strategies I

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J.

### 【Course Content】

議論やディベートについて基本的な概念を学びながら、その際の主張や証拠、論理の組立てについて分析し、話し合う。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students may give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion theory
2. Debate theory
3. Research

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

### 【Textbooks】

A textbook may be assigned

## Communication Strategies II

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J.

### 【Course Content】

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students may give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion theory
2. Debate theory
3. Research

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

### 【Textbooks】

A textbook may be assigned

## Seminar Overseas

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J. McDANIEL, Edwin R.

### 【授業の概要】

異文化体験学習（ホームステイ、小旅行など）を加味した語学研修を中心に、両大学教員の連携指導のもとで、メーリングリストを利用したE-メール通信などによって各自のテーマに沿った調査研究も行う。

### 【授業計画】

1. 目的  
下記の大学での夏季授業とホームステイ、小旅行を通じて、米国文化とアメリカ英語を習得すること。
2. 期間（予定）  
2003年夏期休暇中2001年7月31日～8月26日
3. 研修先  
米国 West Virginia University  
(予備調査での履習希望者数で決定します)
4. 費用（未定）
5. 渡航前 オリエンテーション  
2003年5月から7月まで

### 【評価方法】

研修先での成績を中心に、事前オリエンテーションへの参加状況、事後報告レポートなどを加味して評価する。

## 中国語聴解III

杜英起 陳惠貞

### 【授業の概要】

楽しい視覚教材、主として楽しい中国の映画や、童話、また有名な観光地と名所旧跡の紹介を授業の内容とする。もちろん映画の全部ではなく、中の一節である。耳の聞く力があくまでも熟練にあると思われるので、学生が随時授業の内容の聞く練習ができるように工夫されている。具体的に言うと、各授業の内容をパソコンに録音しておく。学生がクリック一つで繰り返し聞けるようにCD教材を作成する。学生の理解を助け、興味をもって聞けるようにするために、教材の内容と関連のある画面もできるだけ添えるようにする。

要するに、この中国語の聴解IIIと聴解IVという授業は、中国人の普通の会話のみでなく、聞き取りにくいとされている中国語の映画も聞ける程度の力を養成することを目的とする。

### 【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず映画や童話などの大まかな内容を日本語で解説し、それから聞く練習に入る。
  2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現については説明する。学生側は、CD教材を使って予習する必要がある。
  3. 映画などの内容についてのプリント（穴埋め問題式）を配り、学生は内容を聞きながらそのプリントの穴埋めをする。
  4. 最後に、教材の内容を学生自身が全体的にまとめ、グループ分けて、発表する。
- 以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

### 【評価方法】

出席状況と平常点に基づいて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

「中国語聴解中級」（出版社：マナハウス）。

### 【参考文献・資料】

授業で指示する。

## 中国語聴解IV

杜英起 陳惠貞

### 【授業の概要】

楽しい視覚教材、主として楽しい中国の映画や、童話、また有名な観光地と名所旧跡の紹介を授業の内容とする。もちろん映画の全部ではなく、中の一節である。耳の聞く力があくまでも熟練にあると思われるので、学生が随時授業の内容の聞く練習ができるように工夫されている。具体的に言うと、各授業の内容をパソコンに録音しておく。学生がクリック一つで繰り返し聞けるようにCD教材を作成する。学生の理解を助け、興味をもって聞けるようにするために、教材の内容と関連のある画面もできるだけ添えるようにする。

要するに、この中国語の聴解IIIと聴解IVという授業は、中国人の普通の会話のみでなく、聞き取りにくいとされている中国語の映画も聞ける程度の力を養成することを目的とする。

### 【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず映画や童話などの大まかな内容を日本語で解説し、それから聞く練習に入る。
  2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現については説明する。学生側は、CD教材を使って予習する必要がある。
  3. 映画などの内容についてのプリント（穴埋め問題式）を配り、学生は内容を聞きながらそのプリントの穴埋めをする。
  4. 最後に、教材の内容を学生自身が全体的にまとめ、グループ分けて、発表する。
- 以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

### 【評価方法】

出席状況と平常点に基づいて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

「中国語聴解中級」（出版社：マナハウス）と「愛情麻辣燙」（凱希メディアサービス発売）。

### 【参考文献・資料】

授業で指示する。

## 中国文学Ⅰ・Ⅱ

陳 惠 貞

### 【授業の概要】

この授業の目的は、文学作品の鑑賞と言語能力の向上という二つのところにある。言語能力の内、特に読む力とそのテクニックの養成に重点を置く。授業の内容は、主として近代の有名な短編小説や散文である。たとえば朱自清、魯迅や巴金などの作品であり、いずれも代表的な作品である。作品の後に作品を鑑賞する文章があり、それらを読むことによって、中国の文学に対する初歩的な理解を得ることができると同時に、中国語の読む力もアップすることができるのを狙っている。各課の後に、作品に関する課題を5つ設定し、それについてディスカッションを行うことが予定されている。要するに、本講義の目的は、先生の助けがなくても学生が自分で中国語の簡単な文学作品読めるようになると同時に文章を書く力と中国語で意見を述べる力を養成することにある。

### 【授業計画】

前期：

1. 海上日出
2. 匆匆
3. 春
4. 荷塘月色
5. 我的空中楼阁

後期：

1. 済南の冬天
2. 骆驼祥子
3. 一件小事
4. 讽刺论
5. 从百草园到三味书屋

### 【評価方法】

受講の態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて評価する。  
期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

自作教材

## 日本語教育海外研修

山内啓介 窪田守弘

### 【授業の概要】

日本語教育の関連科目の一環として、姉妹校である中国の南京師範大学の日本語学科で、日本語教育実習を実施する。将来日本語教師を目指す者は、当校で、約3週間の日本語教育実習を行うが、中国の学生と直接交流するという意味で、貴重な異文化体験プログラムともいえる。

### 【授業計画】

集中講義として行われる。  
南京師範大学日本語学科で教育実習を行う。

### 【評価方法】

実習の参加度、レポートによる。

### 【テキスト】

使用せず。

## 専門演習Ⅲ

松本青也

### 【授業の概要】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

### 【授業計画】

アメリカで製作されたTV番組や新聞雑誌記事などの英語を資料として分析しながら、その背景にあるアメリカ思想を歴史的形成過程と他文化との比較対照という二つの観点から深く掘り下げます。またそうした作業の課程で、インターネットとパソコンを駆使して、さまざまな情報の収集と分析の方法を学び、各自のテーマに沿った研究成果を発表することで、説得力のあるプレゼンテーションの方法も学びます。

### 【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況による総合評価。

### 【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

## 専門演習Ⅲ

DYCUS, David C.

### 【Course Content】

The general aim of the second year of this 3-year seminar to examine. Theoretical issues related to culture and communication.

### 【Schedule】

The following topics will be addressed:

1. Common research approaches
2. Hofstede's research findings
3. Gender and communication
4. Non-verbal communication

### 【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and participation, 2) shorter homework assignments related to individual lesson objectives or preparation for longer assignments, and 3) an end-of-term presentation. Students are encouraged to begin exploring a topic directly related to their graduation paper or project.

### 【Textbooks】

To be announced.

## 専門演習Ⅲ

山内啓介

### 【授業の概要】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

### 【授業計画】

専門演習Ⅱにつづき、日本語学、日本語教育の演習を行う。日本語学、日本語教育、国語と日本語、日本語と文化などについて研究領域を設定し、研究分野に従って自らの研究テーマを探究する。

次の演習を行う。

- 先行研究の探索
- 専門書の読み取り
- データ・資料収集
- プレゼンテーション
- レポート・論文を作成する

### 【評価方法】

プレゼンテーション、レポート、研究発表、討議の参加をくわえて総合的に評価を行う。

### 【テキスト】

- 発表用資料。
- 日本語学・日本語教育の論文、専門書。

## 専門演習Ⅲ

窪田守弘

### 【授業の概要】

学生による日本語コミュニケーションの課題発表や討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について考察を加える。また、学生が自分の考えでレジメの作成ができ、自由に発表できるように表現力をつける。

### 【授業計画】

日本や外国の映画のシナリオや文学作品を通して、「談話分析」の方法論が日本語コミュニケーションの実態にいかにも迫れるかを明らかにする。さらに、日本語を外国語教育の一環として考えた場合には、「第二言語習得」の理論が必要となるので、それをういた方法論についての知識を学ぶ。

### 【評価方法】

演習時の発表態度、提出レポートや作品、出席状況などで総合的に評価する。

### 【テキスト】

- 配布プリント、ビデオ、DVDなど。

### 【参考文献・資料】

- 演習時に紹介する。

## 専門演習Ⅲ

馮 富榮

### 【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループに分ける。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点などをまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

### 【授業計画】

前期では、関連文献や先行研究の学習を主とする。具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. 学生の関心のある話題や、研究テーマについての調査を実施する。
2. 人数的に比較的集中できる研究テーマを選出し、それに従って学生をいくつかのグループに分ける。
3. 各個人が研究のテーマに関する先行研究を探したり、ホームページなどで興味のある話題について調べたりしてきて、各グループ内でそれを中国語で発表する。そして、グループごとに先行研究や、発表した材料についてディスカッションを行う。
4. 先行研究や、興味のある話題に関する材料をグループでまとめ、まとめられた結果をゼミ全員を対象にグループ毎に発表する。発表のポイントは、先生は授業で説明する。

### 【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

### 【テキスト】

- プリント

## 専門演習Ⅲ

MOLDEN, Danny T.

### 【Course Content】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

### 【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

## 専門演習Ⅲ

McGEE, Jennifer J.

### 【Course Content】

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers. This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet. This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate. This seminar has two areas of study-theoretical and practical. Studying media theory means you will learn about how media works and why communication in the media is different from face-to-face communication.

### 【Schedule】

The schedule will be flexible. Topics will depend on student interests and current events.

### 【Assessment】

Grades will be based on attendance, participation in class, and short reports.

### 【Textbooks】

There will be no certain textbook, but there will be various readings in Japanese and English.

## 専門演習Ⅲ

杜 英起

### 【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループに分ける。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点などをまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

### 【授業計画】

前期では、関連文献や先行研究の学習を主とする。具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. 学生の関心のある話題や、研究テーマについての調査を実施する。
2. 人数的に比較的集中できる研究テーマを選出し、それに従って学生をいくつかのグループに分ける。
3. 各個人が研究のテーマに関する先行研究を探したり、ホームページなどで興味のある話題について調べたりしてきて、各グループ内でそれを中国語で発表する。そして、グループごとに先行研究や、発表した材料についてディスカッションを行う。
4. 先行研究や、興味のある話題に関する材料をグループでまとめ、まとめられた結果をグループ毎に発表する。発表のポイントについて、先生は授業で説明する。

### 【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

### 【テキスト】

プリント

## 専門演習Ⅲ

WRINGER, Paul

### 【Course Content】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Review and further in depth study of modern Britain covering different aspects of British life, including the environment, the media, lifestyles, festivals, and employment. There will be a direct comparison to similar aspects of Japanese culture.

### 【Schedule】

(Each topic will be covered over a two or three week period.)

The Media (Press)  
Sport and leisure  
Music  
Family life  
economy and the workplace  
Religion

### 【Assessment】

Grades will be determined from the following:

- Homework and assignments
- Presentations
- Participation in pair and group work
- Reports

### 【Textbooks】

No set text.  
Handouts will be prepared and made available.

## 専門演習Ⅲ

CHARLEBOIS, Justin

### 【Course Content】

This seminar will continue to focus on discourse analysis, however, we will gradually turn our focus to the study of narrative: personal accounts/"stories" that people tell. While we will be analyzing narrative from the perspective of linguistics, non-linguistic factors (e.g. gender, culture, society) will also be studied.

### 【Schedule】

- narrative analysis
- Holocaust narratives
- "The Story of Us"  
(narratives told by a married couple)

### 【Assessment】

Homework  
Midterm Paper  
Final Paper

### 【Textbooks】

None. Just the prints that I distribute.

### 【Reference】

*Approaches to Discourse.* (Shiffrin, D. (1994) . Oxford: Blackwell.)

## 専門演習Ⅳ

松本青也

### 【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

### 【授業計画】

各自の研究テーマについて、英語による研究発表（メディアを駆使した本格的なプレゼンテーション）を中心に、現代アメリカ英語と文化のさまざまな課題を取り上げます。最後に全員執筆の研究論文集『現代アメリカ研究2005』を作成します。

### 【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況による総合評価。

### 【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

## 専門演習Ⅳ

DYCUS, David C.

### 【Course Content】

The general aim of the second semester of the second year of this 3-year seminar to provide students with specific examples of intercultural contact. The focus will be comparative, usually involving the experiences of the Japanese interacting with people from North American countries.

### 【Schedule】

Each lesson will focus on a contrastive aspect of Japanese-North American culture and communication. Topics will include the following:

1. General cultural influences on communication preferences
2. Social institutions, such as marriage, family, and education in contrast.
3. Culture and personality
4. Communication in interpersonal relations

### 【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and participation, 2) shorter homework assignments related to individual lesson objectives or preparation for longer assignments, and 3) an end-of-term presentation. Students are encouraged to begin exploring a topic directly related to their graduation paper or project.

### 【Textbooks】

To be announced.

## 専門演習Ⅳ

山内啓介

### 【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、4年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

### 【授業計画】

専門演習Ⅲにつづき、日本語学、日本語教育の演習を行う。日本語学、日本語教育、国語と日本語、日本語と文化などについて、自らの研究テーマを探究する。

演習を行う。

プレゼンテーション

レポート・論文を作成する

### 【評価方法】

プレゼンテーション、レポート、研究発表、討議の参加をみて、総合的に評価を行う。

### 【テキスト】

発表用資料。

日本語学・日本語教育の論文、専門書。

## 専門演習Ⅳ

馬 富榮

### 【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループに分ける。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点をまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

### 【授業計画】

後期では、4年次のプロジェクトで引き続き取り組んでいく研究テーマを各グループで議論して決定する。それを完成させるための準備作業に入る。具体的には以下のステップを踏んで、授業が展開される。

1. 各グループでディスカッションをして4年次のプロジェクトという必修科目で取りこむ研究テーマを最終的に決定する。
2. 研究テーマを完成させるために、各学生の役割分担をグループで議論して決める。
3. 各学生は振り分けられた作業を授業外で成し遂げ、それを授業のときグループ内で報告する。そして、次の作業の内容をグループで決める。このように繰り返して、研究作業を進めていく。

### 【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

### 【テキスト】

プリント

後期では、学生主導で授業を展開する。つまり講義中心の授業からディスカッション中心の授業へと変化していく。より具体的に言うと、学生を二人ずつのペアに分け、二人で協力しあって、単語の説明や文法の説明を行う。どのような単語は例を添えて説明したほうがよいか、どの文法現象を取りたてて説明したほうがよいか、また本文のどこに特に注意を払ったほうがよいかなどは、学生たちが自分で考えなければならないが、そのための事前指導や、アドバイスはもちろん先生がする。このゼミの最終的な目標は、受け入れ型の学生ではなく、挑戦型の学生を養成することにあるので、そのための第一歩はここからスタートする。つまり、最初からできないのではなく、勇気をもって挑戦すればどんなことでも怖くないという自信、他人と協力することの大切さ、そして受講者が自分に何を求めようとしているか、自分がその人達に何ができるかという人の心を思いやる気持を培うことができればと期待している。さらに、後期の授業を通して翌年3月の中国語能力検定試験の準2級に合格することを期待している。

## 専門演習Ⅳ

窪田守弘

### 【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、4年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。特に、「談話分析」と「第二言語習得」に関して、研究発表としてレジュメが作成できるように指導を行ない、4年生のプロジェクトで自らの発想で自由に論文や作品ができるような表現力を養う。

### 【授業計画】

プロジェクト作品を作成する中から、学生が最も関心のある分野を絞り、十分な話し合いの中から自分のテーマを選び、課題や疑問点をいくつか整理していく過程で、それが完成するまでの過程を計画的に実行する。そして、各自が設定したテーマについて個人発表して、内容を充実させる。

<研究テーマの選定>

- 1 談話分析
- 2 第二言語習得
- 3 言語や文化論 など

### 【評価方法】

提出レポート、出席状況などで評価する。

### 【テキスト】

配布プリント

### 【参考文献・資料】

演習時に紹介する。

## 専門演習Ⅳ

McGEE, Jennifer J.

### 【Course Content】

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers. This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet. This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate. This seminar has two areas of study-theoretical and practical. Studying media theory means you will learn about how media works and why communication in the media is different from face-to-face communication.

### 【Schedule】

The schedule will be flexible. Topics will depend on student interests and current events.

### 【Assessment】

Grades will be based on attendance, participation in class, and short reports.

### 【Textbooks】

There will be no certain textbook, but there will be various readings in Japanese and English.

## 専門演習Ⅳ

MOLDEN, Danny T.

### 【Course Content】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、4年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

### 【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

## 専門演習Ⅳ

杜英起

### 【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループ分けする。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点などをまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

### 【授業計画】

後期では、4年次のプロジェクトで引き続き取りこんでいく研究テーマを各グループで議論して決定する。それを完成させるための準備作業に入る。具体的には以下のステップを踏んで、授業が展開される。

1. 各グループでディスカッションをして4年次のプロジェクトという必修科目で取りこむ研究テーマを最終的に決定する。
2. 研究テーマを完成させるために、各学生の役割分担をグループで議論して決める。
3. 各学生は振り分けられた作業を授業外で成し遂げ、それを授業のときグループ内で報告する。そして、次の作業の内容をグループで決める。このように繰り返して、研究作業を進めていく。

### 【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

### 【テキスト】

プリント

## 専門演習Ⅳ

WRINGER, Paul

### 【Course Content】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

In this section of the course students will look at cultural background knowledge, the British approach to life in general and what makes Britain different.

Topics already studied will be reviewed through group discussions, reports, and presentations.

### 【Schedule】

Topics will include the following:

- Identity
- Attitudes
- Welfare
- Multicultural festivals II
- Youth culture

### 【Assessment】

Grades will be determined from the following:

- Homework and assignments
- Presentations
- Participation in pair and group work
- Reports

### 【Textbooks】

No set text.

Handouts will be prepared and made available.

## 専門演習Ⅳ

CHARLEBOIS, Justin

### 【Course Content】

This course will continue to focus on discourse analysis and narrative analysis. Specifically, we will examine how interlocutors with different conversation styles can have breakdowns in communication. Besides studying Deborah Tannen's book, "You Just Don't Understand"

(わかりあえない理由), we will continue to view films that illustrate differing conversation styles.

### 【Schedule】

- men and report talk
- women and rapport talk
- troubles talk
- conversation style and ethnicity
- "My Cousin Vinny"  
(high involvement speech)

### 【Assessment】

- Homework
- Midterm paper
- Final paper

### 【Textbooks】

わかりあえない理由 (デボラタネン (1990) 田丸美寿 訳 (1992) 講談社)

### 【Reference】

*The Handbook of Discourse Analysis.*

(Schiffrin, D. (Ed.) (2001) Oxford: Blackwell.)

*Conversation Style.* (Tannen, D. (1984) London: Ablex.)

## 比較教養特論

柳澤幾美

### 【授業の概要】

北アメリカのエスニシティと女性観、さらに、日本との比較や二言語教育について論じる。そこから、北アメリカ社会における「教養」を概説する。

### 【授業計画】

1. イントロダクション
- 2~3. アメリカ植民地時代の女性観
- 4~5. 19世紀のビクトリアの女性観
- 6~7. 20世紀北アメリカの女性観
- 8~9. 現代北アメリカの女性観
- 10~11. 現代北アメリカのエスニシティ
- 12~13. 二言語教育について
14. 今日の日本の女性観と北アメリカとの比較
15. 総括

### 【評価方法】

プレゼンテーション、討議により評価する。

### 【テキスト】

『北アメリカ社会を眺めて：女性軸とエスニシティ軸の交差点から』  
(北米エスニシティ研究会編 関西学院大学出版会、2004年)

### 【参考文献・資料】

その都度紹介する。

## 比較文化特論Ⅰ

國信潤子

### 【授業の概要】

日常生活においても異文化接触は頻繁に見られる。国境を越えるビジネス、労働によって文化慣習の相違が頻繁に体験されるようになった。そこでこの講義ではジェンダーつまり社会・文化的に形成された性がビジネス・シーンにどのように現れるが、特に先進諸国と、開発途上国における労働、家族、地域における人間関係について事例紹介を行う。南北社会対立、持続可能な開発などをキーワードにジェンダー関係のアンバランスが労働、家族関係にどのように現象化しているかについて考える。

### 【授業計画】

ジェンダー概念を説明し、各種関連国際法、人権規約などを紹介する。また雇用機会の均等化、男女ともに取れる育児・介護休業法、社会保障等法制改革の近年の状況について講ずる。

### 【評価方法】

授業出席状況、履修態度、感想カード内容、期末レポートなどの総合評価による。

### 【テキスト】

授業時に提示する。

### 【参考文献・資料】

また随時資料配布する。



## 比較文化特論Ⅱ

山井德行

### 【授業の概要】

日本とフランスを比較する。日本人とフランス人の一生を比較しながら展開する。出生・子供時代・教育・退職後の生活などなど、人生の具体的な一こま一こまを通して日本文化とフランス文化を比較してゆく。また、フランスの社会・地理・文化の多様性を語る事が、おのずと日本との比較になると考えるので、具体的なフランスの生活風景を提示して考察したい。

### 【授業計画】

パワーポイントを使った授業になります。フランスのテレビニュースをビデオで紹介しながら、フランスの現在も紹介する。

1. 授業のやり方や準備の仕方を説明する。
2. 誕生・出生率・国籍・子供時代
3. 大学生生活・友情・愛情
4. 仕事・余暇
5. 同棲生活・結婚・離婚
6. 家族・社交・人生の楽しみ
7. 社会問題
8. 衣食住に見る文化財・芸術
9. 第二の人生・人生の幕
10. 地方の風土と文化
11. 総括- 人生を豊かにするために

### 【評価方法】

レポートと定期試験で行う。

### 【テキスト】

特になし。プリント配布。

### 【参考文献・資料】

ビゴーが見た日本人（清水勲著 講談社学術文庫）  
コレアン・ドライバーはバリで眠らない（洪世和（ホンセファ））  
フランス語で広がる世界（日本フランス語教育学会編）

## 日本語教授法Ⅲ

窪田守弘

### 【授業の概要】

本講義では、日本語教授法の理論について実践を交えながら整理する。そして、特に中級レベルの日本語教授法を中心にさまざまな指導法を学ぶ。実際の日本語教授法にあたっては、日本語教育の分野での文法理論や教授法があるので、まずその体系や知識を明確にする。口頭練習や読解指導については、実際に教材を作成しながら授業内容を確認し、できれば模擬授業も実施したい。

### 【授業計画】

1. 日本語教授法の理論と実践
2. 日本語学習の中級レベルの教授法  
中級の代表的な文型、基本的な文法事項、音声・文字・構文の指導法、品詞の扱い方、漢字教育の在り方、基本的なテキストの分析、メディアの活用など
3. 中級レベルの教材と教育方法論

### 【評価方法】

授業時の発表、学期末のレポート、出席などで総合的に評価する。

### 【テキスト】

配布資料を教材とする。

### 【参考文献・資料】

講義中に紹介する。

## 日本語教授法Ⅳ

山内啓介

### 【授業の概要】

日本語教師の役割、教材およびテスト等学習環境を教育所産として再確認した上で、日本語教育の現場を見据えた実践的な日本語教育教材の取り扱い方を学ぶ。また、日本語教育におけるテストの作成およびその評価法についても学ぶ。

### 【授業計画】

次の講義と演習を行う

- 1 日本語教育の実際
- 2 日本語指導者と享受者
- 3 日本語教育とカリキュラム
- 4 コースデザインのとらえかた
- 5 ニーズアナリシス
- 6 シラバスデザイン
- 7 日本語学習用のスキット
- 8 教科書・教具の作成
- 9 テストと評価法
- 10 日本語ボランティア（1）日本語と地域
- 11 日本語ボランティア（2）学校教育の現場
- 12 日本語ボランティア（3）第2言語教育
- 13 日本語教授法の課題

### 【評価方法】

単位取得の評価は、授業参加30%、複数回のテストおよびシミュレーション60%、受講生のコミュニケーション10%で行う。

### 【テキスト】

講義開始時に指示する。

## 中国語科教育法Ⅲ

馮富榮

### 【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、高度な中国語コミュニケーション能力を育成するのに、どういった内容の教材を使えばよいのか、またどういった指導法が学習意欲をより引き出すことができるのかを研究し、高校生向けの中国語の学習教材の作成、学習指導案の作成に取り組み、そして模擬授業を実施することによって、具体的・実践的な指導を行う。

### 【授業計画】

1. 従来の中国語教育に残っている問題点を整理する。
2. 会話能力を高めるための工夫  
1) 教材の工夫  
2) 授業の進め方の工夫  
3) 授業外の学習時間の確保についての工夫
3. 学習意欲を燃やすための工夫  
1) 教材の工夫  
2) 授業の進め方の工夫  
3) 学生を認めるための工夫
4. 上記した工夫を入れ込んだ教材と学習指導案の作成指導
5. グループわけをして、各自が作成した教材と学習指導案に基づいて、50分の模擬授業を実施する。
6. 授業の実践の後、グループでディスカッション形式で、授業の批評をし合う。よってよりよい授業を工夫していく。

### 【評価方法】

作成した教材の出来具合や普段の努力で評価する。

### 【テキスト】

特になし。

## 中国語科教育法Ⅳ

馮 富榮

### 【授業の概要】

情報化が速いスピードで進んでいる中、外国語教育でもインターネットなどによるマルチメディアが発達したために画期的な変化が起ころうとしている。インターネットなどのマルチメディアによる外国語教育法は、さまざまに試みられつつある。この授業では、そうした斬新な中国語の教育方法を試み、メディアによる中国語教育の教材や学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。よって中国語教育への新しい可能性を提起する。

### 【授業計画】

1. インターネットやCDROMの外国語教育のモデルを紹介する。
2. 中国語教育におけるインターネットなどのマルチメディアの利用現状を説明する。
3. 中学生、高校生向けの中国語の授業に貢献できるマルチメディア教材としては、どんなものが必要なのか、またどんなものがよいのかを考える。
4. 自分の考えを取り入れるような、比較的簡単に制作できるようなマルチメディア教材をグループ毎に制作する。
5. その教材に基づいて学習指導案をグループ毎に作成する。
6. グループ毎に、各自で作成した教材と学習指導案を元にした模擬授業を実施する。
7. グループ毎に、模擬授業を評価し、良い点と反省点をまとめ、今後の中国語教育への新しい可能性を提案する。

### 【評価方法】

教材の出来具合や普段の努力で評価する。

### 【テキスト】

特になし。

## ビジネス英語

蜂須賀幸志

### 【授業の概要】

このクラスは、ビジネスに基づいたビジネス取引に欠かせない交渉英語の再確認をすくと共に、実践的な取引事例をとりあげながら、海外との取引に欠かせない外国為替の知識の修得をゴールとする。従って、受講者は各自でビジネス関連資料、新聞、経済関係雑誌（海外ニュース紙含）、外国為替の推移等に興味を持ち、日々そうした記事に目をとうし精通するように努力することが必要である。

### 【授業計画】

- 1) 取引、交渉に入る事前準備
- 2) 会社組織の知識
- 3) アポイントメントの取り方、電話の応対
- 4) アポイントメントの確認、
- 5) 取引交渉の不成立、拒絶にたいする対処、再確認
- 6) 小テスト（これまでの復習）
- 7) 外国為替の知識、扱い方
- 8) 外国為替の流れ
- 9) 外国為替送金
- 10) クレームにたいする対処
- 11) 小テスト（これまでの復習）
- 12) プレゼンテーション
- 13) クラスおよび自己評価
- 14) 定期試験

### 【評価方法】

出席回数、クラスにたいする貢献度、小テスト、宿題、期末試験など全てを対象にした総合評価。

テキスト：プリント及び supplementary reading materials

### 【テキスト】

テキスト Market Leader :Elementary Business English  
Course book  
by David Cotton, David Falvey, Simon Kent  
Published Pearson Longman

### 【参考文献・資料】

テープ、ビデオ等視聴覚教材

質問日時：火曜日14:00～15:00  
場所：非常勤講師室

## ことばの発達と障害

二宮 昭

### 【授業の概要】

人間のことばによるコミュニケーション行動に関して、それは一体どのような過程を経て発達してくるのか、また、その障害はそのような場合にどのようなかたちで現れ、それを改善していくにはどういうことが重要であるか、ということを通して、人間にとってことばのもつ意義を考える。

### 【授業計画】

第1～6回 「ことば」の発達

- 1) 原初的コミュニケーションー「ことば」の発達の基盤
- 2) 語と文の発達
- 3) 言語的現実の自覚の発達ー3歳児はなぜしりとりができないのか

第7～12回 「ことば」の障害

- 1) 自閉症児の「ことば」
- 2) 知的障害児の「ことば」

第13回 試験

### 【評価方法】

学期末に行う筆記試験による。

### 【テキスト】

使用しない。適時参考資料を配付する。

## ビジネス中国語Ⅰ

杜 英起

### 【授業の概要】

本講義は、ビジネス中国語Ⅱと共に中国語でのビジネスに必要なとなる全般的な知識を紹介することを目的とする。講義の内容には、中国の経済状況と日・中経済交流の全般に対する紹介から、日・中貿易および対中投資の実務まで、ビジネスに関する幅広い知識が含まれる。具体的には、駐在員の生活、商談、交渉、そして通関などのようなさまざまなビジネスの場面が各講義のテーマとなる。

### 【授業計画】

1. 電話連絡
2. 会社の表敬訪問
3. 輸出入業務の打ち合わせ
4. オファー（価格の提示）
5. カウンター・オファー（値下げなどの価格交渉）
6. 納期の交渉
7. 決済について
8. 商品の包装交渉
9. 保険条件の交渉
10. 契約
11. クレームと交渉について
12. 他の貿易形式について  
A. 補償貿易  
B. 委託加工貿易
13. 日中貿易の相違点について

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験によって総合的に評価する

### 【テキスト】

自作教材

## ビジネス中国語Ⅱ

杜 英起

### 【授業の概要】

本講義は、ビジネス中国語Ⅰと共に中国語でのビジネスに必要な全般的な知識を紹介することを目的とする。講義の内容には、中国の経済状況と日・中経済交流の全般に対する紹介から、日・中貿易および対中投資の実務まで、ビジネスに関する幅広い知識が含まれる。具体的には、駐在員の生活、商談、交渉、そして通関などのようなさまざまなビジネスの場面が各講義のテーマとなる。

### 【授業計画】

1. 日・中経済提携の主な形式
  - 1 補償貿易
  - 2 委託加工貿易
  - 3 全額出資と合弁企業
2. 中国側会社の招待を受ける
3. 商談 1
4. 商談 2
5. 契約について
  - 1 契約書の書き方
  - 2 契約する際の注意点
  - 3 契約をかわす
6. クレームと交渉
7. 保険金の支払いとゴルフ
8. 中国ビジネスマナー 1
9. 中国ビジネスマナー 2

### 【評価方法】

平均点に出席を加味して評価する。

### 【テキスト】

ビジネス中国語（出版社：マナハウス）

### 【参考文献・資料】

授業で指示する。

## 応用言語学特殊講義Ⅱ

外池俊幸

### 【授業の概要】

この講義では、Ⅰと内容を分け、認知科学の言語に関する領域の研究の歴史を概観し、その後、認知科学的な言語研究の最新の成果・動向を取り上げて、その問題点、今後の課題だと考えられる事柄を論じる。

### 【授業計画】

応用言語学特殊講義Ⅰを受講していることを前提に、それに引き続き、次の順に講義を行う。

- 1 認知科学としての言語研究がどのようなものなのかを、いくつか具体的なトピックを取り上げて考える
- 2 言語だけでなくひろく人間に関する研究の将来について考える

### 【評価方法】

出席とレポートの評価によって成績評価を行う。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、参考文献の1と2を読んでおくこと。さらに興味のある人は、文献3の各巻の目次をみて、興味のあるところを読んでみるとよい。

### 【参考文献・資料】

- 1 言語学への招待（中島平三・外池滋生編著 大修館書店）
- 2 認知心理学（守一雄著 岩波書店）
- 3 認知心理学 全5巻（東京大学出版会）
  - 1 知覚と運動
  - 2 記憶
  - 3 言語
  - 4 思考
  - 5 学習と発達

## 応用言語学特殊講義Ⅰ

外池俊幸

### 【授業の概要】

この講義では、脳科学、計算機科学、哲学、数学、心理学などとの学際的な研究領域としての認知科学、その一部としての言語研究を、関連する領域の成果と共に学ぶ。Ⅰでは、認知科学の観点からの言語研究の歴史をたどる。

### 【授業計画】

- 1 言語学がどのような研究領域であるかを概観する
- 2 認知科学の歴史を概観する

### 【評価方法】

出席とレポートの評価によって成績評価を行う。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、参考文献の1と2を通読してから受講することが望ましい。

### 【参考文献・資料】

- 1 言語学への招待（中島平三・外池滋生編著 大修館書店）
- 2 認知心理学（守一雄著 岩波書店）
- 3 認知心理学 全5巻（東京大学出版会）
  - 1 知覚と運動
  - 2 記憶
  - 3 言語
  - 4 思考
  - 5 学習と発達

## Writing and Presentation III・IV

GREENE, Scott R.

### 【Course Content】

ⅠとⅡにおけるテーマと練習をさらに発展させる。又、即興スピーチや質疑応答など、形式張らない形の発表の仕方を学び、練習する。

英語による発表を学ぶ上級クラス。ここでは様々な場合の口頭発表（情報伝達、説得、特別な状況など）に焦点を当てて体験させるとともに、高度な論文の作成と、その口頭発表について学ぶ。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

### 【Schedule】

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and/or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

- Organization and outlining
- Using outside sources
- Footnotes and Endnotes
- Speech Anxiety
- Impromptu and extemporaneous speaking
- Persuasive speaking

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

### 【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## Communication Strategies III

MOLDEN, Danny T.

### 【Course Content】

主張や証拠、理論の組み立てを論破する様々な方法を学びながら、論議やディベートへの対応について考察する。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students will give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion
2. Debate
3. Research

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

### 【Textbooks】

A textbook may be assigned for this course.

## Communication Strategies IV

MOLDEN, Danny T.

### 【Course Content】

議論やディベートにおける相互作用という側面に焦点をあてながら、実際にディベートを準備してクラスで行い、ディベートのもつ様々な要素について考察を加える。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students will give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion
2. Debate
3. Research

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

### 【Textbooks】

A textbook may be assigned for this course.

## 中国語学 I

周素芬

### 【授業の概要】

本講義は、中国語の全体的な文法知識、中国語の構文ルール、また中国語研究の基本方法など、中国語学に関する基礎知識の紹介に重点を置いて行う予定である。中国語の教師として、または中国語の研究者として基本的な知識を身につけることを本講義の目的とする。

### 【授業計画】

主として、論文講読という方法を取るが、授業は、講義式で展開するのではなく、討論という形で展開する予定である。具体的に言うと、学生が事前に論文を講読し、質問や自分の意見を考えておく必要がある。それを授業で発表し、意見交換を行う。最後に授業の担当者がまとめをする。この授業を履修することによって、中国語学に関する知識を獲得するだけでなく、中国語による発話能力や、中国語の研究力を身につけることもできるよう期待している。授業は、学生による輪読という形式であるので、学生を主体とする展開となる。

### 【評価方法】

学年末にレポートを提出してもらい、それを基本としながら、平常点と出席状況を加味して評価する。

### 【テキスト】

関連の論文のコピーを使用する。

## 中国語学 II

周素芬

### 【授業の概要】

本講義は、中国語研究の歴史、研究の分野などを紹介すると共に、中国語研究の最新成果を反映する代表的な論文を講読する。さらに、中国語と日本語の構文ルールなどの相違点を探り、その相違点による日本人の中国語学習上の問題点を想定する。そしてその問題点を質問紙調査などで検証すると同時に、その問題点を解決することのできるような中国語の教授法も吟味する。

### 【授業計画】

主として、論文講読という方法を取るが、授業は、講義式で展開するのではなく、討論という形で展開する予定である。具体的に言うと、学生が事前に論文を講読し、質問や自分の意見を考えておく必要がある。それを授業で発表し、意見交換を行う。最後に授業の担当者がまとめをする。この授業を履修することによって、中国語学に関する知識を獲得するだけでなく、中国語による発話能力や、中国語の研究力を身につけることもできるよう期待している。さらに、日本人が中国語を学習するとき、どこで、どのような問題を抱えるか、それを解決するためには、どのような教授法を取ればよいのかなどについても議論する予定である。よって、卒論が書きたい学生にぜひ薦める授業である。

### 【評価方法】

学年末にレポートに平常点を加味して評価する。

### 【テキスト】

関連の論文のコピーを使用する。

## 日本語特殊講義Ⅰ

窪田守弘

### 【授業の概要】

将来、日本語教師を目標としている学生は、少なくとも外国語の文献や資料を読みこなす能力が必要である。20世紀には多くの言語学者の学説が発表されたが、日本語教授法に関する基本的な文献を広い視野から精読していく。

### 【授業計画】

教師が日本語で教える際に、現在では直接外国語を使うことはあまり必要とされない。そして、それは教授法の一手段として有効な場合が多い。特に文法上の説明では、定義を明確にする必要から、学習者の母国語が有効な役割を果たすことは事実である。

そこで、少なくとも国際語と称される英語力は不可欠で、その基礎的な運用能力をつけるために主に日本語教授法に関する英文の資料の読解を試みる。

### 【評価方法】

発表やレポートの内容、出席状況などで評価する。

### 【テキスト】

配布プリント

### 【参考文献・資料】

講義時に紹介する。

## 日本語特殊講義Ⅱ

窪田守弘

### 【授業の概要】

外国語の文献では、欧米学者の学説を極力原書で紹介するが、原書で読めないものに関しては、翻訳によってその言語学者の考えの凡そを理解するようにする。そして、学生が各自関心のある学説に関しては、各自が分担して発表を行うようにする。そして、少なくとも分担した部分は、原書で読めるような読解力を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

日本語の文法に関する英文の資料を中心に読解を心がける。本講義では前期の内容を踏まえてさらにアメリカにおける日本語教育の実態についても学んでいきたい。

### 【評価方法】

授業時の発表、レポートの内容、出席状況などで評価する。

### 【テキスト】

配布プリント

### 【参考文献・資料】

講義時に紹介する。

## プロジェクト

松本青也 ジョリー佐々木幸子 山内啓介 馮富榮 窪田守弘 MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J. 杜英起 DYCUS, David C. WRINGER, Paul CHARLEBOIS, Justin

### 【授業の概要】

それぞれの分野において、個性を生かした多様な学習・研究活動の目標を主体的に選択、設定させ、各自の目標達成に向けて適切な指導を加えながら、学習・研究業績をあげさせようとするものである。

### 【授業計画】

学習・研究業績には、論文のほか、言語コミュニケーションの実践の場としてのヶ月以上にわたる海外ボランティア活動、実用英語検定試験一級合格などが含まれる。なお、論文以外は報告書を提出するものとする。

週二回の授業時間は、原則として一回を全員参加による演習、他の一回を個人指導に充てる。

〈主な日程〉

- ・ 4月25日(月)「プロジェクト計画書」提出締切り：4月1日以降、研究棟1階事務室窓口にある用紙に記入して1号棟3階レポートボックスに提出。
- ・ 5月23日(月)『プロジェクト概略』提出締切り：5月1日以降、研究棟1階事務室窓口にある用紙に記入して1号棟3階レポートボックスに提出。
- ・ 個別指導の日程、論文の梗概提出、初稿提出などの詳細は指導教員の指示による。
- ・ 12月16日(金)午後4時：論文もしくは報告書提出締切り(12月9日より研究棟1階事務室で受け)

### 【評価方法】

学習・研究業績の内容を中心に、演習授業への出席状況などを加味して評価する。

## 日本語教育実習

山内啓介

### 【授業の概要】

具体的な日本語の授業のための「授業計画」(指導案)に基づいて授業実習を行なう。授業実習の準備、授業見学、授業実習、実習反省。

### 【授業計画】

本年は教育実習を留学生別科にて実施する。

授業実習講義を10月第2週に予定(掲示で日時を指示)する。

実施時期は10月第4週から11月第2週までの間に(予定を組んで)おこなう。

実習にあたっては事前の準備を始め、見学・参加・実習のステップを通して学習する事柄が多いので、受講生は真剣に取り組んで欲しい。

### 【評価方法】

事前・事後の学習の態度、実習の参加度を評価する。

レポートを課す。

### 【テキスト】

みんなの日本語(スリエーネットワーク)

## ビジネスとコミュニケーション

小池弘道 大塚英揮

### 【授業の概要】

コミュニケーション不足で起きたトラブルの事例を踏まえ、コミュニケーションの必要性と限界について説明する。内容は次の3つのトピックから構成される。(1)日本のユニークな生産方式を海外に移植したケースの説明を踏まえ、仕事に対するアプローチの仕方について、欧米と日本の違いとその対応の仕方を解説する。(2)次に、企業間で必要とされるコミュニケーションのあり方を流通現象を例にあげて説明する。(3)企業と消費者との間で見られるコミュニケーションについて、マーケティングのケースを例に解説する。そして、日本のユニークな生産方式を海外に移植したケースの説明を踏まえ、仕事に対するアプローチの仕方について、欧米と日本の違いとその対応の仕方を解説する。

### 【授業計画】

12回のうち6回を小池弘道、残り6回を大塚英揮が担当する。

小池弘道担当：

コミュニケーションの不足で起きるトラブル

コミュニケーションの取り方と限界

ビジネス社会でのコミュニケーション

国際社会でのチャレンジの仕方—郷に入って、郷に従う

大塚英揮担当：

企業間のコミュニケーション—流通を例にして

企業と消費者のコミュニケーション—マーケティング・コミュニケーション

企業と社会のコミュニケーション—エコマーケティング

### 【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

### 【テキスト】

使用しない(必要に応じて資料配付)

### 【参考文献・資料】

日本の常識はどこまで通じるか(ジョリー佐々木幸子、小池弘道 風媒社)

## 異文化コミュニケーション I

ジョリー佐々木幸子

### 【授業の概要】

日本は21世紀のボーダレス社会において、工業大国と呼ばれながらも、外交や貿易取引、あるいは海外への多額の経済援助にも拘わらず、コミュニケーションの分野でややもすると誤解を受けたり、「顔」が見えないなどの批判を受けている。日本はなぜ世界から理解されないのか? 当コースでは「多文化共生時代」を生きる学生と共に、異文化間でのコミュニケーションのあり方を模索、探求することを目的とする。

### 【授業計画】

1. Orientation

2. 第1章：世界文化とコミュニケーション：異文化コミュニケーションのこれからの意義

3. 第2章：国際派コミュニケーターの条件とは?：多文化共生社会が求める人物像

4. 第3章：真の国際理解はどうしたら可能か：異文化理解のためのさまざまな方法

5. 第4章：ふだん着のグローバリゼーション：日常生活のグローバリゼーションを考える

6. 第5章：異文化にみる非言語コミュニケーション：国際感覚を磨くためのコミュニケーションの方法

7. 期末試験

### 【評価方法】

期末試験、出席率、授業への参加状況などを総合的に評価判断する。

### 【テキスト】

多文化共生時代のコミュニケーション力 *The Age of Multicultural Communication Power* (御手洗昭治 ゆまに書房 2004)

### 【参考文献・資料】

異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる。(八代京子他 三修社 1998.)

## 比較文化論 I (日・米)

鈴木哲至

### 【授業の概要】

日本とアメリカの文化を比較をするとき、表層のみならず深層文化へ思いをめぐらし考察することにより、日米の人々の意識の違いが浮き彫りになってくるに違いない。この授業では日本とアメリカの文化の中で、変化しつつあるものとそうでないものを見つめながら、深層にある隠れた文化をつぎとめる試みをする。

### 【授業計画】

アメリカ文化関連新聞記事の切り抜きの発表、課題の文献(英語)の要約の発表の後、講義、討論などにより、毎回のテーマの考察をする。また、美しいビデオ映像などにより、視覚的にも日米文化の比較を楽しみながら授業を進める。

パート 1 文化の基盤

1. 文化の型
2. 自然環境
3. 宗教
4. 政治

パート 2 文化のスナップショット

5. 権力
6. 時間
7. 多様性
8. 性意識
9. 新聞

パート 3 変わりゆく価値観

10. 買い物とビジネス
11. 新しい家族
12. 新しい学生
13. 新しい働き手

### 【評価方法】

出席状況、授業態度、レポート、その他を総合的に評価する。

### 【テキスト】

日本とアメリカ—深層文化へのアプローチ (Exploring Hidden Culture) (Paul Stapleton 著 金星堂)

夢のアメリカ合衆国探訪 (Wonderful USA) (Timothy Kiggell 著 マクミランランゲージハウス)

## モジュール I・II

上原 衛 ジョリー佐々木幸子 杉本典之 福本明子 藤井正志 森下允之  
浅井敬一郎 石川雅之 石坂綾子 梅田敏文 大塚英揮 吉村文雄

### 【授業の概要】

ビジネスに関する基本概念、仕組を学習し、受講者相互のコミュニケーションを通して、自己の考えを自発的、創造的にまとめ、効果的に発表する態度を育成する。

### 【授業計画】

経済・金融・会計を含むビジネスの幅広い分野についての全体的な理解を得られるように、担当教員が基本的なことから説明する。

### 【評価方法】

出席状況による。

### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

## モジュールⅢ・Ⅳ

上原 衛 ジョリー佐々木幸子 杉本典之 福本明子 藤井正志 森下允之  
浅井敬一朗 石川雅之 石坂綾子 梅田敏文 大塚英揮 吉村文雄

### 【授業の概要】

モジュールⅠⅡを踏まえて、ビジネス分野の基本知識習得をさらに高め、意欲的に、自ら進んで課題に取り組む態度を育成する。

### 【授業計画】

経済・金融・会計を含むビジネスの幅広い分野について担当教員がそれぞれの視点からさまざまなテーマを取り上げる。

### 【評価方法】

出席状況による。

### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

## 経済学概論

石坂綾子

### 【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

### 【授業計画】

1. ガイダンス
2. 市場経済システム
3. マーケットメカニズム  
(1) 需要と供給  
(2) 規制と保護による損失
4. 社会主義の失敗
5. 金融仲介機能
6. 株式会社
7. 競争社会の光と影
8. 所得の決定
9. 市場の失敗
10. 大不況を克服する方法
11. グローバルエコノミー
12. 貿易黒字の発生
13. 日本型システムの崩壊

### 【評価方法】

中間試験と期末試験の成績によって評価する。2つの試験の評価比率は、50%ずつである。

### 【テキスト】

特に指定しない。第1回目の授業において資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

痛快!経済学 (中谷 巖著 集英社インターナショナル/集英社文庫)

## マクロ経済学

村上敬進

### 【授業の概要】

消費、投資、物価、所得などのマクロ経済変数の分析を通じて、景気や経済全体の動きを理論的に考察する。

### 【授業計画】

1. マクロ経済学はどんな学問でしょうか?
2. マクロ経済学と日本経済
3. GDP
4. 消費と貯蓄
5. 企業の投資
6. 政府の支出
7. 総需要の経済学

### 【評価方法】

成績評価は定期試験で行う。

### 【テキスト】

基礎からわかるマクロ経済学 (家森信善著 中央経済社)

### 【参考文献・資料】

基礎からわかるミクロ経済学 (家森信善・小川光著 中央経済社)

## ビジネス概論Ⅰ

浅井敬一朗

### 【授業の概要】

我々の生活は企業無しではもはや成り立たない程、企業と深い関係がある。本講義では、ビジネスの中心である企業および企業が抱える問題の全体像を理解することを目的とする。まず企業はどのようなもので、どのような活動をしており、各々の企業が、どのような構造・形態をしているのかを取り上げる。次に企業は誰のため、何のためにあるのかという、コーポレートガバナンス (企業統治) の視点から企業を分析した上で、企業の社会的責任や社会貢献の問題についても取り上げる。

### 【授業計画】

- |         |                    |
|---------|--------------------|
| 第1回     | ガイダンス              |
| 第2回     | 企業とは何か             |
| 第3～6回   | 企業の諸形態             |
| 第6～9回   | 株式会社の経営機構          |
| 第10～11回 | 従来の日本型株式会社制度の構造と実態 |
| 第12～13回 | 企業統治               |
| 第14～15回 | 企業の社会的責任           |

### 【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

### 【テキスト】

会社入門 (上田泰他著 多賀出版)

### 【参考文献・資料】

企業論 (三戸浩他著 有斐閣アルマ)  
経営のしくみ (青木三十一著 日本実業出版社)  
株式会社のしくみがよくわかる本 (北條恒一著 PHP)  
※2005年は商法 (会社法) が改正される予定なので、関連する新聞、雑誌の記事に注意を払うこと

## ビジネス概論Ⅱ

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

ビジネスは変化する経営環境の中で生存するべく、様々なマネジメント活動を行っている。その中でとくに（1）成長戦略、競争戦略といった経営戦略を立案し、（2）いかに分業し調整するという組織構造、組織形態の選択、（3）インセンティブシステムを確立し、いかに人を動かす仕組みを作り上げるかについての決定がなされなければならない。本講義では、これら3つのついでに概論を具体的な事例を取り上げながら体系的に講義していく。

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2～8回 企業の経営戦略
  - ・経営戦略の体系
  - ・企業ドメイン
  - ・成長戦略
  - ・競争戦略
- 第9～12回 企業の組織形態
- 第13～14回 企業のインセンティブシステム
- 第15回 まとめ

### 【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

経営戦略（大滝精一他著 有斐閣アルマ）  
新しい人事労務管理—新版—（佐藤博樹他著 有斐閣アルマ）  
経営管理（塩次喜代明他著 有斐閣アルマ）

## 情報処理概論Ⅰ

奥村文徳 MAHSUT, Muhtar

### 【授業の概要】

コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの知識、およびプログラミングのアルゴリズム、計測・制御など情報処理の基本機能を実習を通して学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 コンピュータの基礎知識
  - 第3回 エンドユーザーコンピューティングとは
  - 第4回 コンピュータの5大装置
  - 第5回 コンピュータの情報表現
  - 第6回 論理演算と論理回路
  - 第7回 コンピュータの基礎知識のまとめ
  - 第8回 ハードウェアの基礎
  - 第9回 補助記憶装置
  - 第10回 入出力装置
  - 第11回 ソフトウェアの基礎
  - 第12回 オペレーティング・システムの役割
  - 第13回 データ管理と記憶管理
  - 第14回 まとめ
  - 第15回 テスト
- （毎回、授業中にパソコン演習を含む）

### 【評価方法】

出席状況、授業中の課題、ミニテスト等の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

エンドユーザーコンピューティング（ウイネット）

### 【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

## 統計基礎

元吉忠寛

### 【授業の概要】

本講義では、社会調査やマーケティング・リサーチを行う上で必要となる統計の基礎（どのような分析の際にどのような統計手法を使用するか、また結果をどのように解釈するか）について、統計パッケージSPSSを利用しながら学びます。なお、教養教育科目の「統計学」を履修しておくことが必要です。

### 【授業計画】

1. 授業ガイダンス
2. 統計的推測とは
3. 統計的検定とは
4. SPSSの基本的な使用方法
5. 2群間の平均の比較
6. 相関係数
7. 因子分析（1）
8. 因子分析（2）
9. 回帰分析（1）
10. 回帰分析（2）
10. 分散分析（1）
11. 分散分析（2）
12. カテゴリー変数の関連分析
13. まとめ

### 【評価方法】

課題レポート、期末試験、出席状況から評価します。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献・資料】

講義中に紹介します。

## 金融論

藤井正志

### 【授業の概要】

資金循環勘定と企業の資金調達、直接金融・間接金融に係る金融仲介機関の機能、金融市場と金利等、金融の役割・仕組みについて論ずる。

### 【授業計画】

- 第1講 マクロ経済・金融の基礎知識
- 第2講 デフレ経済の問題点
- 第3講 日本の金融の問題点
- 第4講 マクロ金融政策の課題
- 第5講 金融政策（IS-LM分析）
- 第6講 金融政策まとめ・ミニテスト
- 第7講 金融仲介機関の役割
- 第8講 金利の基本概念
- 第9講 金融商品
- 第10講 金融市場
- 第11講 金融機関・金融市場まとめ・ミニテスト
- 第12講 ブルーデンス政策
- 第13講 金融ビッグバンと金融システム不安
- 第14講 今後の金融監督手法の展望

### 【評価方法】

期末試験、ミニテストなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

金融論講義ノート（マナハウス）を使用する。



## 基礎演習 I

浅井敬一朗

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

- (1) 新聞の経済記事を読む上で最低限必要とされる経済の仕組みについて学ぶ。  
入本的なテキストを輪読する。報告者が担当箇所をレジメにまとめ、報告し、質疑応答を行う。
- (2) 報告者は適宜、関連する新聞、雑誌などの記事をまとめ、解説する。質疑応答を通じて、自分と報告者他との相違点・共通点について検討する。さらに、その意見の前提は何かについて考えるスキルを養う。
- (3) 3年生と合同でマネジメント・ゲーム実習を行う（春休み、夏休み期間集中）
- (4) テキストとは別に適宜、課題図書を指定し、レポートを提出する

### 【評価方法】

演習での報告、討論の状況（各授業毎に一人一発言を義務づけている）、レポートにより評価する。また各章ごとに小テストを行う。  
無断欠席をした場合は単位を認定しない

### 【テキスト】

適宜指定する

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する

## 基礎演習 I

浅野敬志

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

日商簿記検定2級の合格支援を行うと同時に、下記教科書を使用して、ディベートの技法、考える技術・書く技術、プレゼンテーションの技法などを学ぶ。

### 【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

### 【テキスト】

新検定簿記講義2級商業簿記（平成17年版）（加古宜士・渡辺裕巨編著 中央経済社）

新検定簿記ワークブック2級商業簿記（加古宜士・渡辺裕巨編著 中央経済社）

合格テキスト日商簿記2級工業簿記（TAC簿記検定講座著 TAC出版）

考える技術・書く技術（バーバラ・ミント著 ダイアモンド社）

頭を鍛えるディベート入門（松本茂著 ブルーバックス）

## 基礎演習 I

石川雅之

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

学生による発表と講義をおりまぜながら行う。

### 【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

演習の最初に指示する。

## 基礎演習 I

石坂綾子

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

### 【評価方法】

出席状況・演習での報告によって総合的に評価する。特に出席状況は重視する。

### 【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

### 【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

## 基礎演習 I

石橋善弘

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## 基礎演習 I

上原 衛

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1. 情報社会について
2. 情報システムとデータの重要性
3. システムリスクについて
4. Excelno 応用、VBA
5. ホームページ作成
6. プレゼンテーション、表現力の重要性

### 【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に別途指示・紹介する。

## 基礎演習 I

梅田敏文

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 パワーポイントの構成と機能
- 第3講 プレゼンテーションとは何か
- 第4講 プレゼンテーションの計画
- 第5講 プレゼンテーションの技法
- 第6講 発表とディスカッション (1)
- 第7講 発表とディスカッション (2)
- 第8講 発表とディスカッション (3)
- 第9講 発表とディスカッション (4)
- 第10講 発表とディスカッション (5)
- 第11講 発表とディスカッション (6)
- 第12講 まとめ

### 【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容、出席を総合的に評価する。

### 【テキスト】

創造するプレゼンテーション (梅田敏文著 弘学出版)

## 基礎演習 I

小池弘道

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

個人として必要な能力の習得をめざして、下記のような内容について、実際の演習を行う

- ディベート訓練
- パブリックスピーキング
- プレゼンテーション
- QC管理と手法
- 財務諸表の見方、企業会計原則、経営分析、

### 【評価方法】

演習への取り組み姿勢、レポート、出席を総合して評価する。

### 【テキスト】

授業の中で、適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

## 基礎演習 I

國信潤子

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

基礎演習はまずビジネスとジェンダーの接点において、各学生の問題意識、関心領域を意見交流し、それらに沿った資料の講読をおこなう。

原則的に産業社会学、開発社会学の基礎資料の講読をする。各自が分担部分をレジュメ作成し、パワーポイントなどを活用し報告・討議する。

- 1) 関心領域の意見交流～ジェンダーとビジネス～
- 2) 産業社会学、開発社会学の基礎文献資料
- 3) ジェンダーの視点から労働環境、ビジネスシーンの社会分析をおこなう。  
各種ジェンダー区分された統計資料の考察
- 4) 学生の企画による企業訪問、ディベート、夏期合宿などを実施
- 5) 国内外の専門家をゲストスピーカーとして招聘し、講演を頂き、討議を行う。

### 【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

### 【テキスト】

特になし

### 【参考文献・資料】

新しい産業社会学 (犬塚 有斐閣)  
開発社会学 (恩田 ミネルヴァ書房)  
職業とジェンダー (岡村他 日本評論社)

## 基礎演習 I

真田幸光

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

ビジネスのあり方、経営のチェックポイント、起業に向けての理論武装などについて考察する。

### 【評価方法】

演習に対する取組姿勢と分析・考察レポートによる。

### 【テキスト】

無し

## 基礎演習 I

島田舒一

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

- 第1回～6回 証券と証券取引、証券市場など基礎的分野についていくつかのテーマを取り上げて研究し、報告、討論を通じて理解を深める。
- 第7回～12回 基礎的分野で残されたテーマおよび証券業務、証券ビジネスの中から問題を取り上げて研究し報告、討論を通じて理解を深める。
- また、ネットによる株式投資を行うことで証券投資を具体的に理解する。

### 【評価方法】

参加状況、課題に対する取り組み、報告内容によって評価する。

### 【参考文献・資料】

証券ビジネスの基礎知識 (拙著 中日本教育文化会)  
現代日本の証券市場 (日本証券経済研究所編集、発行)

## 基礎演習 I

杉本典之

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

この基礎演習 I の共通テーマは、ビジネス社会の「国際語」である「複式簿記の機構に支えられた企業会計」を学んで、考えよう、ということである。このような共通テーマに接近するために、さしあたり下記のテキストを教材にして、発表の仕方や討論の仕方等を実践にそくして学習する。学生各人の問題意識が芽生えかつ発展するにしたがって、各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。

### 【評価方法】

演習形式のこの授業では、講義形式の多くの授業とは異なり、学生の皆さんが主役である。各人の主体的・能動的・積極的な行動が授業を活性化させる。よって皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

### 【テキスト】

相談して決める。

### 【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

## 基礎演習 I

藤井正志

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

第1講～第12講 演習の受講者が、経済金融の基礎知識を習得することを目的とする。

テキストを使用し、受講者が交代で自分の担当部分について報告し、質疑応答により進める。

### 【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

## 基礎演習 I

前川三喜男

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

簿記の基礎知識を理解させる。企業会計に関する基礎知識、仕組を理解させる。実務演習。

### 【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

### 【テキスト】

商業簿記2級レベルの教材  
その他レジュメで対応

## 基礎演習 I

森 恒夫

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

会計は原理原則を頭で理解しただけではどうにもならない、身体で覚えて初めて使い物になるという、スキルの要素が多分にある。自分でやってみて体得することが何よりも大切であるから、練習を重ねるとともに、理論的背景及び財務諸表論もあわせて学ぶ。

### 【評価方法】

出席状況、平常点及びレポート等により評価

### 【テキスト】

演習時に指示する

## 基礎演習 I

森下允之

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

NHK海外放送、CNN、NBC、BBCなどのニュースを通して国内、海外の出来事を英語で把握する。

毎月、事前に特定の番組を留守録画します。これを学生は必ず事前にマルチ・リソース・センターで視聴し、理解につとめる。ゼミでは理解できない箇所をお互いに教え、反復練習をする。

### 【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

## 基礎演習Ⅱ

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

- (1) 経営戦略の基礎的な文献を輪読する
- (2) 報告者は適宜、関連する新聞、雑誌などの記事をまとめ、解説する。質疑応答を通じて、自分と報告者他との相違点・共通点について検討する。さらに、その意見の前提は何かについて考えるスキルを養う。
- (3) 3年生と合同でマネジメント・ゲーム実習を行う（春休み、夏休み期間集中）
- (4) テキストとは別に適宜、課題図書を指定し、レポートを提出する

### 【評価方法】

演習での報告、討論の状況（各授業毎に一人一発言を義務づけている）、レポートにより評価する。また各章ごとに小テストを行う。無断欠席をした場合は単位を認定しない

### 【テキスト】

適宜指定する

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する

## 基礎演習Ⅱ

浅野敬志

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

日商簿記検定2級の合格支援を行うと同時に、下記教科書を使用して、ディベートの技法、考える技術・書く技術、プレゼンテーションの技法などを学ぶ。

### 【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

### 【テキスト】

新検定簿記講義2級商業簿記（平成17年版）（加古宜士・渡辺裕巨編著 中央経済社）

新検定簿記ワークブック2級商業簿記（加古宜士・渡辺裕巨編著 中央経済社）

合格テキスト日商簿記2級工業簿記（TAC簿記検定講座著 TAC出版）

考える技術・書く技術（バーバラ・ミント著 ダイアモンド社）

頭を鍛えるディベート入門（松本茂著 ブルーバックス）

## 基礎演習Ⅱ

石川雅之

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

学生による発表と講義をおりまぜながら行う。

### 【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

演習の最初に指示する。

## 基礎演習Ⅱ

石坂綾子

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

### 【評価方法】

出席状況・演習での報告によって総合的に評価する。特に出席状況は重視する。

### 【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

### 【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

## 基礎演習Ⅱ

石橋善弘

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## 基礎演習Ⅱ

上原 衛

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1. 経営管理
2. 情報処理と分析力の重要性
3. 統計学
4. 情報システムを利用した業務の効率化
5. エンドユーザー・コンピューティング

### 【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

### 【テキスト】

経営管理（有斐閣アルマ）。その他、授業中に適宜指示・紹介する。

## 基礎演習Ⅱ

梅田敏文

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 企業の機能と組織
- 第3講 ケース・スタディの説明
- 第4講 ケース・スタディへの取り組み
- 第5講 チーム別作業（1）
- 第6講 チーム別作業（2）
- 第7講 チーム別作業（3）
- 第8講 チーム別作業（4）
- 第9講 発表とディスカッション（1）
- 第10講 発表とディスカッション（2）
- 第11講 発表とディスカッション（3）
- 第12講 発表とディスカッション（4）
- 第13講 まとめ

### 【評価方法】

ケース・スタディの報告書、発表内容、出席を総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に、適宜配布する。

## 基礎演習Ⅱ

小池弘道

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

ビジネスにおける専門知識習得のため、下記のような内容について演習を行う

法律関係

- 1) 労働法（差別問題・セクハラを含む）、

- 2) 商法、税法

- 3) 独占禁止法

品質関係

基本的考え方、QC手法、ISOなど

### 【評価方法】

演習への取り組み姿勢、レポート、出席を総合して評価する。

### 【テキスト】

授業の中で、適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

## 基礎演習Ⅱ

國信潤子

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

前期授業の継続

原則的に産業社会学、開発社会学の基礎資料の講読をする。

各自が分担部分をレジメ作成し、パワーポイントなどを活用し報告・討議する。

- 1) ジェンダーの視点から労働環境、ビジネスシーンの社会分析をおこなう。  
各種ジェンダー区分された統計資料の考察
- 2) 学生の企画による企業訪問、ディベート、夏期合宿などを実施
- 3) タイ・チェンマイ大学における研修を実施する場合はその事前・事後調査報告書作成
- 4) 英語資料講読：雇用機会均等法の国際比較など
- 5) 国内外の専門家をゲストスピーカーとして招聘

### 【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

### 【テキスト】

特になし

### 【参考文献・資料】

開発社会学（恩田 ミネルヴァ書房）

開発とジェンダー（田中他 国際開発出版会）

## 基礎演習Ⅱ

真田幸光

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

前期に作成した各自レポートを発表、これを基に全ゼミ生によるディベートを実施する。

### 【評価方法】

各自発表内容とディベート参加姿勢による。

### 【テキスト】

無し

### 【参考文献・資料】

特になし。

## 基礎演習Ⅱ

島田舒一

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

第1回～6回、証券会社の経営、証券市場の国際化、金融・証券の新ビジネスの中からテーマを選択し成果をまとめて報告、討論を通じて理解を深める。

第7回～12回、証券ビジネスと経営、証券市場の諸問題を経済・金融の動向、政策およびマーケットと関連づけて分析し、理解を深める。

### 【評価方法】

参加状況、課題に対する取り組み、報告内容によって評価する。

### 【参考文献・資料】

証券経営の新ビジネスモデル（資本市場研究会編 清文社）

現代日本の証券市場（日本証券経済研究所編集、発行）

証券経営のフロンティア（資本市場研究会編 清文社）

## 基礎演習Ⅱ

杉本典之

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

この基礎演習Ⅱの共通テーマも、基礎演習Ⅰのそれと同じく、ビジネス社会の「国際語」である「複式簿記の機構に支えられた企業会計」を学んで、考えよう、ということである。

基礎演習Ⅰの成果として学生各人が自覚するようになった問題意識を、さらに明確化させかつ発展させる。そして、そのような各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。

### 【評価方法】

この基礎演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

### 【テキスト】

相談して決める。

### 【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにはしていきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

## 基礎演習Ⅱ

藤井正志

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

第1講～第12講 エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、経済金融に関する理解を深める。

### 【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

## 基礎演習Ⅱ

前川三喜男

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

簿記の基礎知識を理解させる。企業会計に関する基礎知識、仕組を理解させる。実務演習。

### 【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

### 【テキスト】

商業簿記2級レベルの教材  
その他レジメで対応

## 基礎演習Ⅱ

森 恒夫

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

- (1) 基礎演習Ⅰに引き続き個別論点の理解を深める。
- (2) 決算の簿記をマスターして、諸会計法規に準拠した財務諸表の作成を学ぶ。

### 【評価方法】

出席状況、平常点及びレポートにより評価

### 【テキスト】

演習時に指示

## 基礎演習Ⅱ

森下允之

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業計画】

NHK海外放送、CNN、NBC、BBCなどのニュースを通して国内、海外の出来事を英語で把握する。

毎月、事前に特定の番組を留守録画します。これを学生は必ず事前にマルチ・リソース・センターで視聴し、理解につとめる。ゼミでは理解できない箇所をお互いに教え、反復練習をする。

### 【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。



## 【授業の概要】

職業生活に必要な基本的な能力、態度及び職業観を育成し、自らの将来の生き方や進路について考える。

## 【授業計画】

- 第1章 進路指導の歴史と発展
- 第2章 教育課程と進路指導
- 第3章 進路指導における組織と体制
- 第4章 特別活動における進路指導
- 第5章 進路指導の方法と技術
- 第6章 進路相談の方法と技術
- 第7章 進路指導の評価
- 第8章 資格取得指導
- 第9章 産業構造、職業構造の変化と進路指導
- 第10章 職業生涯設計の在り方

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

自作教材

## 教職入門

後口伊志樹

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途や、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定するための情報と機会を提供したい。

### 【授業計画】

- 1 教育現場はいま
- 2 教師像の変遷
- 3 現代の理想的教師像
  - (1) 教科指導者としての教師
  - (2) 特別活動の指導者としての教師
  - (3) 教師とカウンセリング
  - (4) 学級経営者としての教師
  - (5) 教師と校務
  - (6) 共生社会における教師の仕事
- 4 市民としての教師
- 5 子どもの未来を開く魅力ある人間としての教師
- 6 まとめ

### 【評価方法】

レポート、期末考査及び出席率を総合する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 教師論

佐藤実芳

### 【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

### 【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
  - (1) 教員養成の歴史と現在 (2) 教職課程の仕組 (3) 教員の採用
2. 教師について考える
  - (1) 教科指導 (2) 生徒指導 (3) 教員の研修
3. 種々な教師に学ぶ

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教職入門

小栗正彦

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

### 【授業計画】

- 1 教育現場はいま
- 2 教師像の変遷
- 3 現代の理想的教師像
  - (1) 教科指導者としての教師
  - (2) 特別活動の指導者としての教師
  - (3) 教師とカウンセリング
  - (4) 学級経営者としての教師
  - (5) 教師と校務
  - (6) 共生社会における教師の仕事
- 4 市民としての教師
- 5 子どもの未来を開く魅力ある人間としての教師
- 6 まとめ

### 【評価方法】

レポート、期末考査及び出席率を総合する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 教育原理

佐藤実芳

### 【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

### 【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育  
動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
3. 教育の本質  
注入主義(ソフィスト～本質主義)/開発主義(ソクラテス～進歩主義)
4. 教育の目的  
教育目的とは/教育目的の歴史の変遷(古代ギリシャ～現代)
5. 現代の教育

### 【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教育思想史

梅村敏郎

### 【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあるが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであるが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

### 【授業計画】

1. 教育思想史を勉強することの意義
2. 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3. コメニウス
4. ルソー
5. ベスタロッチ
6. ヘルバルト
7. フレーベル
8. デューイ
9. 教育思想と教育実践

### 【評価方法】

評価はレポートの提出、あるいは資料持ち込み自由の筆答試験による。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

## 教育心理学Ⅰ

小池理穂

### 【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の変遷を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

### 【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
  - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
  - ・生涯発達の視点
  - ・障害の意味と発達可能性
  - ・発達段階と発達課題
  - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
  - ・学習の成立過程
  - ・学習における知識の役割
  - ・学習意欲を育てる
    - 外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

### 【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 欧米教育文化史

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」の意味を、子どもの生活の変遷に着目しつつ、比較教育史的に明らかにし、今日の世界の教育文化と教養の問題を検討する。

### 【授業計画】

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3. 近代教育文化の生誕と展開（啓蒙思想と市民革命、産業革命）
4. 大学の誕生と展開
5. 西洋的教養と学校制度の確立
6. 欧米教育文化と今日の世界の教育

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

子どもの教育の歴史（江藤恭二他編 名古屋大学出版会）

### 【参考文献・資料】

子供とカップルの美術史（森洋子 日本放送出版協会）

歴史のなかの子どもたち（森良和 学文社）

教養の復権（沼田裕之他 東信堂）

## 教育心理学Ⅱ

富安玲子

### 【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めると共に、自分自身の自己形成のプロセスへの関心も深め、自己理解を促進していくことも視野にいれて学んでいく。

### 【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 他律的規範への順応
9. 第二の誕生
10. アイデンティティの確立
11. 生涯発達の視点と生き方
12. 自分探しの旅と人間関係

### 【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 障害児の教育

加藤文字

### 【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特別支援教育の現状と課題を認識する。

### 【授業計画】

- 1 心身障害児の理解
- 2 心身障害児の種類と程度  
心身障害児とは  
学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児  
視覚・聴覚・肢体不自由・知的障害・病弱・虚弱児等の程度と発生原因  
言語障害・情緒障害・重複障害児の発生原因と教育
- 3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性  
なぜ早期発見、早期教育が必要か  
社会自立に向けた後期中等教育の重要性
- 4 心身障害児の就学指導の仕組み
- 5 まとめ

### 【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

### 【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

## 学級経営

前田勝洋

### 【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めていきたい。

### 【授業計画】

- 小学校、中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていきたい。
- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
  - (2) 生徒理解と学級担任の役割
  - (3) 共感的学級経営の実践
  - (4) 成就型教育観と参加型教育観
  - (5) 学級担任と言葉の問題
  - (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしながら、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

### 【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心にしたい。

### 【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

## 教育制度

佐藤実芳

### 【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

### 【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育の変遷
5. 現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
6. 外国の学校教育制度

### 【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 比較教育論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあつて、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

### 【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

比較教育学の基礎（田中圭治郎編著 ナカニシヤ出版）

### 【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著 東信堂）  
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）  
多文化教育（中島智子編著 明石書店）  
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）  
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）  
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）  
世界の教育開発（米村明夫 明石書店）

## 教育課程

後口伊志樹

### 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

### 【授業計画】

1. 教育課程とは
  - (1) 教育課程の原理と理論
  - (2) 教育課程の構造と種類
  - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
  - (1) 戦前の教育課程の構造
  - (2) 戦後の教育課程の構造
  - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
  - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
  - (1) 教育課程研究と教師
  - (2) 望ましい教育課程の展開

### 【評価方法】

レポート及び期末考査、出席率を総合する。

## 教育課程

伊藤昭道

### 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

### 【授業計画】

1. 教育課程とは
  - (1) 教育課程の原理と理論
  - (2) 教育課程の構造と種類
  - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
  - (1) 戦前の教育課程の構造
  - (2) 戦後の教育課程の構造
  - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
  - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
  - (1) 教育課程研究と教師
  - (2) 望ましい教育課程の展開

### 【評価方法】

中間小テスト(レポート)及び期末考査

### 【テキスト】

教育課程概説(資格教育センター編 300円)

### 【参考文献・資料】

中学校学習指導要領(文部省)  
高等学校学習指導要領(文部省)

## 教育課程

小栗正彦

### 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

### 【授業計画】

1. 教育課程とは
  - (1) 教育課程の原理と理論
  - (2) 教育課程の構造と種類
  - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
  - (1) 戦前の教育課程の構造
  - (2) 戦後の教育課程の構造
  - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
  - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
  - (1) 教育課程研究と教師
  - (2) 望ましい教育課程の展開

### 【評価方法】

レポート及び期末考査、出席率を総合する。

## 英語科教育法 I

松本青也

### 【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

### 【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 機能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史(日本)
9. 教授法の歴史(外国)
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. (模擬授業)指導過程の構成
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

### 【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

### 【テキスト】

未定。

## 英語科教育法II

高橋美由紀

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するために、特に入門期でどのような指導をすればいいかを中心に教育方法を考える。授業は、入門期の英語教育の意義や効果的な指導法、授業計画、指導案の書き方、教材・教具研究などの講義と、入門期の学習者が楽しめる英語教育を行うためのワークショップから構成される。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：入門期の英語教員の資質について
2. 入門期の英語教育の現状と課題・レベルや経験年数が異なる学習者の指導について
3. 入門期の英語教育の目的と意義・入門期の学習者の効果的な教授法
4. 音声重視の英語教育・入門期の学習者と文字教育
5. 歌やゲームを利用した英語教育
6. 入門期の英語教育の視覚教材・聴覚教材研究
7. 入門期の英語教育のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
8. ALTとのTT授業について・テキストと授業計画、指導案の書き方について
9. 模擬授業の具体例と指導案（その1）
10. 模擬授業の具体例と指導案（その2）
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業の反省と今後の課題

### 【評価方法】

テスト、出席状況、授業態度  
課題レポート

### 【テキスト】

小学校英語活動実践の手引き（文部科学省 開隆堂出版）  
*Sunshine Kids Book 1*（山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版）  
*Sunshine Kids Book 2*（高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版）  
その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

## 英語科教育法IV

山森孝彦

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼をおいて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと班分け（担当部分を決める）
- 第2回 授業の組み立て方などについての講義  
（学生の模擬授業準備に時間がかかりそうなら第3回も山森が講義を行う）
- 第3～13回 模擬授業実習  
・数人1組で模擬授業を行う。（教材研究・教案作り・授業）  
・発表者以外の学生は生徒役もしくは授業分析ノートをつける。  
・毎回授業に対するフィードバックとディスカッションを行う。  
・全員が授業評価シートを毎回提出する。
- 第14～15回 教育実習生としての心得についての講義と課題レポート提出

### 【評価方法】

出席状況・作成した教案や毎回の提出物・模擬授業・授業への貢献度を総合して評価する。

### 【テキスト】

Unicorn 英語I・II（文英堂）

### 【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 文部省

## 英語科教育法III

高橋美由紀

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：中学校英語教師の資質について、テキスト説明、小・中・高・大の英語教育について
2. 授業の組み立て：授業を盛り上げるための教材・教具について、教案作成ワークショップその1、ビデオによる模範授業参観その1
3. 授業の組み立て：歌やゲームを取り入れた授業展開、教案作成ワークショップその2、ビデオによる模範授業参観その2
4. 授業研究：テキスト内容に沿ったオリジナル教材・教具の作成、生徒を引きつける授業の様々なアイデア
- 5～14. 各グループによる模擬授業
15. 予備日

### 【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

### 【テキスト】

*Sunshine Kids Book 1*（山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版）  
*Sunshine Kids Book 2*（高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版）  
*Sunshine 1・2・3*（松本青也他 開隆堂出版）  
中学校学習指導要領 外国語（英語）（文部科学省）  
その他、ゲーム集、歌、カセット、CD等はコピーを使用する。

### 【参考文献・資料】

教材・教具作成のために画用紙、マジックなどの文具類が必要である。

## 中国語科教育法I

王麗英

### 【授業の概要】

中学校及び高等学校の学習指導要領の趣旨に沿って、中国語科教育法について目的論、技能論、方法論を中心にして、中国語教育のあり方を考察する。中学生、または高校生を対象とする中国語教育は、どういった内容のものを教材として使ったほうがよいか、どういった指導法を取ればよいかなどについて、具体的に研究する。

### 【授業計画】

1. 中国語科教育の原点と教育理念を議論する。
2. 中国語科教育の目標を設定する。
3. 中国語科教育の内容を議論する。  
（1）異文化理解  
（2）中国語によるコミュニケーション能力（聞くこと；話すこと；読むことと翻訳能力）  
（3）各学習期間区分の到達度
4. 教育方法について  
（1）教授法の歴史（中国）  
（2）教授法の歴史（日本）
5. 問題を提起する。  
（1）教育の内容について  
（2）教授方法について  
（3）異文化理解について  
（4）言語と文化の関係について
6. 改善方法について考える。  
（1）教育の内容について考える  
（2）教授法について考える  
（3）異文化理解について考える

### 【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

### 【テキスト】

自作教材を使用する。

## 中国語科教育法Ⅱ

王麗英

### 【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国際理解、異文化理解と中国語コミュニケーション能力を育成するためには、中学校では、どのような授業を行えばよいかを講義し、こちらに用意した教材を元に、学習指導案を作成してもらい、また模擬授業を実施することによって、具体的・実践的な指導を行う。

### 【授業計画】

1. 外国語の教育理論
2. 外国語教育の伝統的な教授法と新しい試み
3. 中学生向けの中国語教育の特殊性と目標
4. 高校生向けの中国語教育の特殊性と目標
5. 指導案の構成
6. 指導案の作成指導
7. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考える。

### 【評価方法】

レポート、各自が作成した指導案と模擬授業の実施状況などで評価する。

### 【テキスト】

自作教材を使用する。

## 中国語科教育法Ⅲ

馮富榮

### 【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、高度な中国語コミュニケーション能力を育成するのに、どういった内容の教材を使えばよいか、またどういった指導法が学習意欲をより引き出すことができるのかを研究し、高校生向けの中国語の学習教材の作成、学習指導案の作成に取り組み、そして模擬授業を実施することによって、具体的・実践的な指導を行う。

### 【授業計画】

1. 従来の中国語教育に残っている問題点を整理する。
2. 会話能力を高めるための工夫
  - 1) 教材の工夫
  - 2) 授業の進め方の工夫
  - 3) 授業外の学習時間の確保についての工夫
3. 学習意欲を燃やすための工夫
  - 1) 教材の工夫
  - 2) 授業の進め方の工夫
  - 3) 学生を認めるための工夫
4. 上記した工夫を入れ込んだ教材と学習指導案の作成指導
5. グループわけをして、各自が作成した教材と学習指導案に基づいて、50分の模擬授業を実施する。
6. 授業の実践の後、グループでディスカッション形式で、授業の批評をし合う。よってよりよい授業を工夫していく。

### 【評価方法】

作成した教材の出来具合や普段の努力で評価する。

### 【テキスト】

特になし。

## 中国語科教育法Ⅳ

馮富榮

### 【授業の概要】

情報化が速いスピードで進んでいる中、外国語教育でもインターネットなどによるマルチメディアが発達したために画期的な変化が起ころうとしている。インターネットなどのマルチメディアによる外国語教育法は、さまざまに試みられつつある。この授業では、そうした斬新な中国語の教育方法を試み、メディアによる中国語教育の教材や学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。よって中国語教育への新しい可能性を提起する。

### 【授業計画】

1. インターネットやCDROMの外国語教育のモデルを紹介する。
2. 中国語教育におけるインターネットなどのマルチメディアの利用現状を説明する。
3. 中学生、高校生向けの中国語の授業に貢献できるマルチメディア教材としては、どんなものが必要なのか、またどんなものがよいかを考える。
4. 自分の考えを取り入れるような、比較的簡単に制作できるようなマルチメディア教材をグループ毎に制作する。
5. その教材に基づいて学習指導案をグループ毎に作成する。
6. グループ毎に、各自で作成した教材と学習指導案を元にした模擬授業を実施する。
7. グループ毎に、模擬授業を評価し、良い点と反省点をまとめ、今後の中国語教育への新しい可能性を提案する。

### 【評価方法】

教材の出来具合や普段の努力で評価する。

### 【テキスト】

特になし。

## 公民・社会科教育法Ⅰ

担当者未定

### 【授業の概要】

中学校社会科の公民的分野を視野にいれて、高等学校学習指導要領（公民科）の構成とその目的を学習し、民主主義社会の担い手としてふさわしい資質の育成をめざす。「現代社会」の授業においては、中学校社会科の公民的分野を発展させて、現実的・具体的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（現代社会）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

### 【授業計画】

1. 公民科設定の趣旨と基本理念に基づいて、「公民の概念」と「公民として資質」を育む公民教育について、中学校社会科の公民分野との関連にも留意し学習する。
2. 「総合的な学習」を視野にいれ、特に「現代社会」の新しい課題として平和教育、人権教育、環境教育を取り上げ具体例に基づいて考察する。
3. 「現代社会（公民科）」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考察する。

### 【評価方法】

授業内で発表する。

### 【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 公民編（文部省 実教出版子価230円）  
現代社会（高等学校教科書 一橋出版 子価580円）

## 公民・社会科教育法Ⅱ

担当者未定

### 【授業の概要】

「倫理」及び「政治・経済」の学習を通して、深い洞察力をそなえた民主的な行動と実践ができる人間の育成をめざす。「倫理」及び「政治・経済」の授業においては、特に今日的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（倫理、政治・経済）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

### 【授業計画】

1. 学習指導要領が目指す高等学校公民科の「倫理」及び「政治・経済」の目標と内容について概説する。
2. 生涯学習にも深いかかわりをもつ自己指導能力の育成を目的とする「倫理」と、現代における政治、経済、国際関係等の諸課題について公正な判断力を養うことを目標とする「政治・経済」について中学校公民分野との関連にも留意しつつ、具体例に基づいて考察する。
3. 「倫理」及び「政治・経済」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、創造的な授業の在り方についても考察する。

### 【評価方法】

授業内で発表する。

### 【テキスト】

政治・経済（高等学校教科書 教育出版 予価435円）

倫理（高等学校教科書 教育出版 予価435円）

## 商業科教育法Ⅰ

宮部幸雄

### 【授業の概要】

高等学校学習指導要領の改定の趣旨とその内容を学習し、教科指導に必要な基本的な知識と技法を指導する。

### 【授業計画】

- 1 学習指導要領と商業教育
  - (1) 学習指導要領の性格及び構成
  - (2) 商業の目標・組織・学科
- 2 教育課程の編成
- 3 指導計画の作成と内容の取扱い  
年間指導計画・学習指導案の作成
- 4 各科目の内容とねらい  
「ビジネス基礎」「課題研究」「総合実践」
- 5 授業の具体的展開  
教材作成、AV機器の利用、学習評価、副教材の活用

### 【評価方法】

授業内で発表する。

### 【テキスト】

商業科教育法（吉野弘一 著 実教出版株式会社）

## 商業科教育法Ⅱ

宮部幸雄

### 【授業の概要】

商業科教育も国際化、情報化、サービス経済化の進展に対応しその内容が変化してきた現実をふまえ、各科目群の教育目標とその具体的な展開について学習し、教科指導に必要な知識や指導技術の向上を図る。

### 【授業計画】

- 1 学習指導と評価
  - (1) 学習指導の一般原則
  - (2) 学習指導の形態と方法
  - (3) 商業教科の評価
- 2 各科目の内容とねらい  
流通ビジネス科目群、国際経済科目群、簿記会計科目群、経営情報科目群
- 3 資格取得指導の現状と課題
- 4 商業高校における進路指導の視点 進学・就職
- 5 商業教育の将来

### 【評価方法】

授業内で発表する。

### 【テキスト】

商業科教育法（吉野弘一 著 実教出版株式会社）

## 道徳指導法

加藤文字

### 【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

### 【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史  
・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程  
・戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際  
・道徳教育の目標  
・道徳教育の内容  
・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成  
・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴  
・まとめ

### 【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

講義資料を配布



## 特別活動指導法

小林春治

### 【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。  
そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習の目標とする。

### 【授業計画】

1. 教育課程の位置と目標  
特別活動は、各教科、道徳とともに教育課程を構成する領域の一つであり、これらそれぞれの充実と相まって、中学校・高等学校の教育目標を達成することができることを学習する。
2. 戦後の教育状況と教育改革  
敗戦直後の教育状況と教育基本法・学校教育法の施行（六・三・三制の実施）にいたる大要を、GHQのつた教育政策にも注目しながら学習する。
3. 特別活動の変遷  
特別活動の変遷を中学校・高等学校の学習指導要領を通して論じ、その社会的背景についても具体的な資料に基づいて学習する。
4. 特別活動の基本となる指導法  
中学校の学級活動、高等学校のホームルーム活動が、生徒会活動、学校行事などと相互に関連していることの学習を通して、これらの集団生活の在り方、心身ともに健康で安全な生活習慣の形成などを基本にした指導法を、現状にも注目しながら考察する。

### 【評価方法】

期末試験の成績とレポートの評価及び出席率を総合する。

### 【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 特別活動編（文部省 東山書房 予価130円）

## 教育方法

霜田一敏

### 【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

### 【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
  - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
  - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
  - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
  - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
  - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
  - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
  - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
  - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
  - (2) 中学校における個を生かす学習集団
  - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

### 【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

### 【テキスト】

子どもの側に立つ授業論（霜田一敏著 明治図書 2,370円）

## 特別活動指導法

不破民由

### 【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。  
そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

### 【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性
  2. 特別活動の歴史の変遷
  3. 学級活動
  4. 生徒会活動
  5. 学校行事
    - (1) 儀式的行事 (2) 学芸的行事 (3) 健康安全・体育的行事
    - (4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事 等
- 以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題として取り入れる。

### 【評価方法】

数回のレポート

### 【テキスト】

どくろマンボウ青春記（北杜夫 新潮文庫）

### 【参考文献・資料】

特別活動（高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房）  
教科外活動を創る（折出健二他編 労働旬報社）  
<教育>の誕生（フィリップ・アリエス 中内敏夫・森田伸子訳 新評社、藤原書店）  
<子供>の誕生（フィリップ・アリエス 杉山光信・杉山恵美子訳 みすず書房）  
教養主義の没落（竹内洋 中公新書）  
立身出世主義（竹内洋 NHKライブラリー）  
立志・苦学・出世（竹内洋 講談社現代新書）  
日本の近代12 学歴貴族の栄光と挫折（竹内洋 中央公論新書）  
近現代日本の教養論（渡辺かよ子 行路社）  
学級経営の歴史（志村廣明 三省堂）  
「勉強」時代の幕開け（江森一郎 平凡社）  
運動会と日本近代（吉見俊哉他編 青弓社）  
教育には何ができないか（広田照幸 春秋社）  
近代日本の公民教育（松野修 名古屋大学出版会）  
教育に関する私の方法叙説（不和de民由 新風舎）

他

## 生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

### 【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

### 【授業計画】

1. 生徒指導  
現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。
  - (1) 社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
  - (2) 青少年非行と矯正教育
  - (3) 中学校における生徒指導の在り方と留意点
  - (4) 高等学校における生徒指導の在り方と留意点
2. 進路指導  
進路指導の基本理念及びその目的を学習する。
  - (1) 進路指導における教員の在り方と留意点
  - (2) 進路に関する情報伝達と進路相談
  - (3) 中学校における進路指導の在り方と留意点
  - (4) 高等学校における進路指導の在り方と留意点

### 【評価方法】

期末試験の成績と、レポートの評価及び出席率を総合する。

## 生徒指導（進路指導を含む）

加納篤憲

### 【授業の概要】

生徒指導は、学習指導以外のいっさいの教育的指導を指すが、そのねらいは、生徒一人一人が主体的・自律的な人間としての自己実現をなしとげることができるよう、自己指導能力と自己指導的態度すなわち自己教育力を育成するところにある。

したがって、授業内容は、生活指導・進路指導・集団指導（HRなど）・個別指導など多岐にわたるが、そのほかにも、青年期の特徴・教育観や人間観の歴史などの学習を通じて、生徒理解と教師としての在り方にもふれる。

### 【授業計画】

1. 現代日本における青年期の特徴と問題点
2. 日本における教育観の変遷と21世紀の教育観
3. 生徒指導の基本的観点と今日的課題
4. 生徒指導の方法——集団指導（HR指導を中心に）
5. 生徒指導の方法——個別指導・問題行動をもつ生徒の指導
6. 進路指導の基本的観点と進学・就職指導
7. 人間の在り方を求めて——ヨーロッパ・アジア・日本

以上の項目について学習するが、生徒たちが生きている日本や世界の情勢にも、常に関心を持つことが大切である。

### 【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

### 【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

### 【参考文献・資料】

学期始めに課題図書数冊を指定。『教師をめざす若者たち』（大橋功）など。

## 教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

### 【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

### 【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
  - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
  - ・教師-生徒の相互影響過程
  - ・生徒理解
3. 教育相談
  - ・学校における教育相談
    - 教育相談の位置づけ
    - 教育相談の特質
  - ・教育相談の進め方
    - カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
  - ・適応と不適応
  - ・問題行動のとらえ方とその対応
  - ・学校への不適応を考える
  - ・非行・いじめを考える

### 【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

### 【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

### 【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師-生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

### 【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## カウンセリング

富安玲子

### 【授業の概要】

我々が人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。そうした事実を体験的に理解し、傾聴について学んでいく。ロジャースのいう受容、共感、自己一致の中でも受容と共感に力点が置かれてきたように思われるので、自己一致の重要性についても考えていきたい。

### 【授業計画】

- 「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていきたい。
1. 教育相談とカウンセリングを巡って
  2. カウンセリングの歴史
  3. カウンセリングの人間観
  4. カウンセリングの理論
  5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
  6. 共感的理解のエクササイズ
  7. 正確に「聴く」とは
  8. カウンセリングの実例
  9. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
  10. 応答訓練
  11. ロールプレイ
  12. カウンセリングにおける諸問題

### 【評価方法】

期末試験とロールプレイ・レポートに、授業への出席・関与度を加えて評価する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 総合演習

小栗正彦 後口伊志樹 加藤文子 佐藤実芳  
霜田一敏 富安玲子 渡辺かよ子 羽場俊秀

### 【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の7テーマに別れて演習を行なう。(各テーマ20名以内)

- (1) 学校におけるクライシス・マネージメントの問題 (後口伊志樹)
- (2) みんなの学校問題 (小栗正彦)
- (3) 福祉一障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて (加藤文子)
- (4) 社会と子育て (佐藤実芳)
- (5) 高齢者福祉の実態と未来 (霜田一敏)
- (6) ジェンダーと教育 (富安玲子)
- (7) 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)
- (8) 国際化を考える

### 【授業計画】

※印は後期日程 (於 星ヶ丘)

1. 全体、各テーマ別 8月5日 ※1月10日  
(1) 総合演習とは、これからのすすめ方  
(2) 各テーマの概要説明 (各担当者)  
(3) 希望テーマ提出、テーマ別編成  
(4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 8月26日 ※2月10日  
課題レポートの提出 (必要部数の印刷)
3. 各テーマ別 9月2日 ※2月17日  
(1) 課題レポートについて報告 (1人10~15分)  
(2) 質疑応答、問題点について討議
4. 各テーマ別 9月9日 ※2月24日  
(1) 問題点について分析検討  
(2) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月16日 ※3月3日  
(1) グループ代表者の発表 (1名15~20分)  
(2) 担当教員の指導  
(3) 感想文の作成と提出

### 【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

## 教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

加藤文子

### 【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

### 【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的  
・前年度実習者からのアンケート結果  
・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法  
・教育実習の領域  
・教育実習の方法
3. 教育実習記録  
・実習記録の意義  
・実習記録の方法
4. 授業研究  
・教材研究、教具の意義  
・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導  
・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念  
・特別支援教育諸学校教育の理解  
・障害児(者)介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめ、アンケート実施

### 【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果(実習・体験評価を参考)により総合的に評価する。

### 【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。

介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」(全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社)使用。

## 教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

宮部幸雄

### 【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

### 【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
2. 教育実習の内容と方法
3. 教育実習記録
4. 授業研究  
・教材研究、教具の意義  
・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導・事後指導

### 【評価方法】

授業内で発表する。

### 【テキスト】

教育実習を成功させよう 2005年版 (小松喬生・次山信男編 一ツ橋書店)

## 教育実習 I

加藤文子

### 【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

### 【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として  
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。  
また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたりとも学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として  
前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。  
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として  
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

### 【評価方法】

実習校の評価(生徒指導、学習指導、実習態度)に基づいて評価する。

### 【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

## 教育実習Ⅱ

小栗正彦

### 【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

## 生涯学習概論

古野有隣

### 【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明ならびに学校教育との連関をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって学校教育を基礎とする、それを含めた生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～  
ユネスコ以降わが国における推移  
生涯教育のめざすもの  
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係  
生涯教育と社会教育  
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態：学校教育との違いと連関  
行政社会教育の主要領域  
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望：学校教育との相補性  
生涯学習関連施設の範囲  
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者：学校教師を越えて  
生涯学習指導者の範囲  
生涯学習指導者の役割

### 【授業計画】

講義。

### 【評価方法】

テスト。

### 【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

### 【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展  
生涯学習実践の課題  
生涯学習と社会  
生涯学習と人間  
社会教育の意義  
社会教育施設の概要  
社会教育の内容・方法・形態  
社会教育指導者  
総括

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

### 【参考文献・資料】

なし

## 国際理解教育論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取
  - (1) 近代化への萌芽
  - (2) 海外視察と帰国後の動向
  - (3) 外国人教員の雇用とその教育への影響
  - (4) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化
  - (1) 学校教育における国際理解教育
  - (2) 海外留学生等の派遣と受け入れ

### 【評価方法】

レポートにより評価を行う。

### 【テキスト】

授業中に紹介する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 学校経営と学校図書館

小栗正彦

### 【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

### 【授業計画】

1. 学校図書館の理念と教育的意義
  - (1) 学校教育における学校図書館の役割
  - (2) 館種別にみた図書館の世界
2. 学校図書館の発展と課題
  - (1) 学校図書館法の成立と展開
  - (2) 国内外の先進事例
  - (3) レファレンスサービスの実践
3. 教育行政と学校図書館
4. 学校図書館の経営
  - (1) 学校図書館の経営組織のあり方
5. 司書教諭の役割とその課題点
6. 学校図書館メディアの内容と構成
7. 学校図書館活動と社会のつながり

### 【評価方法】

出席状況及び課題による。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 学習指導と学校図書館

加納篤憲

### 【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1) の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

### 【授業計画】

1. 教育課程と学校図書館
2. 学習活動を促進する学校図書館——実践例
3. 学校図書館の現状と課題点——蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4. 各教科・科目の学習指導と図書館——実践例
5. 「総合学習」における図書館利用
6. 図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7. 図書館実習——テーマ学習における司書教諭の指導について
8. 討論——中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

### 【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

### 【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

### 【参考文献・資料】

特になし

## 学校図書館メディアの構成

中村和夫

### 【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
  - (1) 現在の学校図書館メディアの実態分析
  - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
  - (3) 児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
  - (1) 教養図書中心から教科学習に必要な資料の収集へ
  - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
  - (3) 「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目への対応
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
  - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
  - (2) FD、CD-ROM等の活字メディアに代わるもの
  - (3) Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と課題点
4. 学校図書館メディアの組織化
  - (1) 分類の意義と分類作業の基本
  - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

### 【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編 樹村房）  
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規）

## 読書と豊かな人間性

梅田卓夫

### 【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

### 【授業計画】

1. 読書のよここび
  - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
  - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶもの
  - (3) 受講者自身の学校図書館での本との出会い
2. 人間形成と読書
  - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
  - (2) 少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
  - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
  - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
  - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
  - (1) 家庭での読書についての親子の対話
  - (2) 友達同士の読書グループ、読書会
  - (3) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
  - (1) 情報化時代の読書のあり方
  - (2) 愛読書、好きな作家

### 【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

### 【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
  - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
  - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
  - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
  - (2) インターネットを使用する資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
  - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
  - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
  - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

### 【評価方法】

出席状況及び試験による。

### 【テキスト】

使用しない。

## 生涯学習概論

古野有隣

### 【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明ならびに学校教育との連関をまじえて、理解を深めることをねらいとした。また、先の長い人生を持っている自分にとって学校教育を基礎とする、それを含めた生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～  
ユネスコ以降わが国における推移  
生涯教育のめざすもの  
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係  
生涯教育と社会教育  
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態：学校教育との違いと連関  
行政社会教育の主要領域  
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望：学校教育との相補性  
生涯学習関連施設の範囲  
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者：学校教師を越えて  
生涯学習指導者の範囲  
生涯学習指導者の役割

### 【授業計画】

講義。

### 【評価方法】

テスト。

### 【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

### 【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展  
生涯学習実践の課題  
生涯学習と社会  
生涯学習と人間  
社会教育の意義  
社会教育施設の概要  
社会教育の内容・方法・形態  
社会教育指導者  
総括

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

### 【参考文献・資料】

なし

## 図書館情報学概論Ⅰ

櫻木貴子

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

### 【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野  
図書館学/情報学/図書館情報学  
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念  
概念・考え方・観点・立場  
定義の多様性と現象の多面性  
情報概念の歴史/情報・知識・データ  
定義の整理のための枠組み/構造的な理解  
認識・認知・こころ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注：「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料

## 図書館情報学概論Ⅱ

櫻木貴子

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

### 【授業計画】

1. 情報の流通過程  
情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程
2. 図書館・情報サービスの世界  
構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3. 協力と競合  
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の未来

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料

## 図書館経営論

松下 鈞

### 【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

### 【授業計画】

0. オリエンテーション・図書館の経営論の意義 1回
  1. 図書館種別の経営上の問題点と管理原則 1回
  2. 行政と図書館経営 1回
  3. 図書館学の五法則と図書館員の関わり 1回
  4. 図書館の自由に関する宣言 1回
  5. 図書館員の倫理綱領 1回
  6. 図書館員と労働基準法解説 1回
  7. 図書館関係法規と図書館のサービス基準解説 1回
  8. 図書館サービスの測定と評価（実例課題によるレポート提出） 1回
  9. 図書館計画の立案と実例解説 2回
  10. ネットワーク、コンソーシアム 1回
  11. 図書館建築・施設及び設備 1回
  12. 生涯学習と図書館及び利用者教育 2回
  13. 情報専門職の養成、アウトソーシング 1回
- \*講義の中から関心のある事項についてレポート提出 2回

### 【評価方法】

期末テスト実施—記述式、前期全体の講義の中から問題を2～3問と、提出されたレポートと記述試験の採点とを併せて評価する。

### 【テキスト】

講義シラバスを配付する。

## 情報サービス基礎論Ⅱ

松下 鈞

### 【授業の概要】

「情報サービス基礎論Ⅰ」の履修を前提とする。  
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

1. イントロダクション「図書館のフロアデザイン」
2. 自分の好きな図書館のコーナー
3. 図書館を設置する環境
4. 情報を求める人たち
5. こどもと情報
6. 高齢者と情報
7. ビジネスマンと情報
8. 大学生と情報
9. 研究者と情報
10. 機能と機器（什器）
11. 情報、資料
12. スタッフ

情報サービスを、環境、施設・設備、機能などの観点から検討してみたいと思います。皆さんがこれまで使ってきた図書館の目的、対象、機能などについて、建築プラン、フロアデザイン、家具、機器などハードウェアの面と、蔵書構築や目録作成、もろもろのサービスなどソフトウェアの面から見直し、理想とする図書館建築プランを構想してみましょう。

授業は、講義とグループ研究によって行ないます。  
受講に先立って、さまざまなタイプの図書館を見学しておくことを望みます。

### 【評価方法】

小レポート、グループ研究、最終レポートによるほか、授業への積極的な参加態度を加味して評価します。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

## 情報サービス基礎論Ⅰ

松下 鈞

### 【授業の概要】

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論Ⅰ」では、社会の多様化と情報の多様化と膨大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

### 【授業計画】

1. イントロダクション「自分史のなかの図書館」
2. さまざまな情報サービス
3. 情報環境の変化
4. こどもと図書館、老人と図書館
5. 情報環境のデザイン
6. 情報の連環
7. 情報源
8. 情報評価法
9. コミュニケーション・スキル
10. ネットワーク、コンソーシアム
11. 指定管理者制度、アウトソーシング
12. 求められる情報専門家

皆さんの生まれた1985年前後から2005年までの、およそ20年の間に急速に発達した電子情報技術は、私たちの日常生活や大学生活に大きな変化をもたらしています。この授業では、人々と情報との関わりを大きな節目に置かれている図書館の諸問題を、グローバル化、多様化する情報社会という視点と、私たちの日々の暮らしにおける図書館との関わり、という二つの視点から概観してみたいと思います。

授業は講義を中心としますが、グループ研究、研究発表を課します。受講に先立って以下のことをしておくこと。

- a) 「インターネット講習会」を受講しておくこと。
- b) インターネット検索エンジンを使いこなせるようにしておくこと。
- c) 近隣の複数の公共図書館を訪問し、その施設・設備、資料、サービスの概要を把握しておくこと。
- d) 愛知淑徳大学図書館のレファレンス・カウンターに相談のうえ、近隣の大学図書館を訪問し、その施設・設備、資料、サービスの概要を把握しておくこと。
- e) 自分史における本やAV資料との出会い、図書館の利用などについて思い出しておくこと。

### 【評価方法】

小レポート、グループ研究、期末レポートに授業への積極的な参加態度を加味して評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

## レファレンスサービス論

櫻木 貴子

### 【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

### 【授業計画】

1. レファレンスサービスの特徴・機能・組織
2. レファレンスプロセス
  - ・質問の受付から内容の確認へ
  - ・質問内容の分析から探索の実行へ
  - ・質問回答とレファレンスプロセスの終結
3. レファレンスサービスのための情報源

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

### 【参考文献・資料】

講義において指示する。



## 情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

櫻木貴子

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索  
学術論文  
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス、統制語彙
5. オンライン情報検索システム
6. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

松井美紀

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、情報検索での用語の理解とともに、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索  
学術論文  
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス、統制語彙
5. オンライン情報検索システム
6. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

中島玲子

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。  
本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業計画】

[演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）]

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
2. 1 雑誌記事（書誌情報）検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、ISA (DIALOG)、  
JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引 CD-ROM版
2. 2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
2. 3 シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、  
MEDLINE (DIALOG)
2. 4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
2. 5 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、  
PubMed (NLM/NCBI)
2. 6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA-IDS)
2. 7 図書（所蔵/目次情報）検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、  
WorldCat (OCLC FirstSearch)
2. 8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2. 9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

松井美紀

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。  
本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業計画】

[演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）]

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
2. 1 雑誌記事（書誌情報）検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、ISA (DIALOG)、  
JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引 CD-ROM版
2. 2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
2. 3 シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、  
MEDLINE (DIALOG)
2. 4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
2. 5 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、  
PubMed (NLM/NCBI)
2. 6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA-IDS)
2. 7 図書（所蔵/目次情報）検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、  
WorldCat (OCLC FirstSearch)
2. 8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2. 9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業計画】

[演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）]

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
2. 1 雑誌記事（書誌情報）検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、ISA (DIALOG)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
2. 2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
2. 3 シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
2. 4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
2. 5 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
2. 6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA-IDS)
2. 7 図書（所蔵/目次情報）検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat (OCLC FirstSearch)
2. 8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2. 9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 情報メディア基礎論Ⅰ

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

### 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

### 【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報メディア基礎論Ⅱ

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

### 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

### 【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報メディア論Ⅳ（人文社会情報メディア）

櫻木貴子

### 【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

### 【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
  3. 1 美術分野
  3. 2 音楽分野
  3. 3 文学
  3. 4 ビジネス分野
  3. 5 法律分野
  3. 6 心理学
  3. 7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

### 【評価方法】

平常点およびレポートによって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 資料組織論

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

### 【授業計画】

- 第1回 情報の組織化
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 目録規則
- 第6回 記述目録(1) AACR 2r, NCR
- 第7回 記述目録(2) アクセス・ポイントの選定; 標目形; 典拠コントロール
- 第8回 記述目録(3) 各種記述フォーマット
- 第9回 メタデータ
- 第10回 主題目録(1) 概要
- 第11回 主題目録(2) 分類法
- 第12回 主題目録(3) 主要分類法
- 第13回 主題目録(4) 主要件名標目表
- 第14回 期末テスト

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験

### 【テキスト】

初回時にテキスト配布。

### 【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題 (国立国会図書館編 日本図書館協会、2002)  
文献世界の構造: 書誌コントロール論序説 (根本彰著 勁草書房、1998)  
図書館ネットワーク-書誌ユーティリティの世界- (宮澤彰 丸善、2002)

## 資料組織演習

松井美紀

### 【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の基本を復習し、オンライン目録の実習を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。主題目録法では日本十進分類法、国際十進分類法、基本件名標目表を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

### 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
  - 分類: NDC、UDC
  - 主題件名標目表: BSH
- ・記述目録法
  - ISBD
  - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
  - アクセス・ポイント
  - 典拠コントロール

### 【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

### 【テキスト】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A. 2003年)

### 【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

## 資料組織演習

櫻木貴子

### 【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部で構成される。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の基本を復習し、オンライン目録の実習を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。主題目録法では日本十進分類法、国際十進分類法、基本件名標目表を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

### 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
  - 分類: NDC、UDC
  - 主題件名標目表: BSH
- ・記述目録法
  - ISBD
  - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
  - アクセス・ポイント
  - 典拠コントロール

### 【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

### 【テキスト】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A. 2003年)

### 【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

## 図書館学特殊Ⅲ (児童サービス論)

近藤洋子

### 【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

### 【授業計画】

- 1 公立図書館の児童サービス
  - (1) 子どもの読書と児童図書館
  - (2) 児童図書館の意義と歴史
  - (3) 児童用資料の種類と特性 (1) 絵本・文学
  - (4) 児童用資料の種類と特性 (2) ノンフィクション・その他
- 2 児童サービスの実際
  - (5) 児童室の企画・運営、児童室施設・設備、展示・広報活動
  - (6) 資料収集・蔵書構成、選書、貸出
  - (7) 予約・レファレンス、ブックトーク
  - (8) よみきかせ、ストーリーテリング、集会活動
- 3 児童サービスの対象
  - (9) 乳幼児・ヤングアダルト・一般・研究者
- 4 関係機関との連携
  - (10) 学校・保育園・幼稚園・病院・文庫等
- 5 児童図書館員の専門性
  - (11) 養成と採用 ボランティア
- 6 (12) 児童サービスの現在と今後 見学レポートによる
- 7 (13) 実習・ストーリーテリング

### 【評価方法】

出席状況 平常点 図書館見学等レポートを総合評価

### 【テキスト】

児童サービス論 (中多泰子編著 樹村房)

### 【参考文献・資料】

児童サービス論 (佐藤涼子編 教育史料出版会)  
クシュラの奇跡 (ドロシー・パトラ著 のら社)  
児童図書館のあゆみ (児童図書館研究会編 教育史料出版会)

## 情報学Ⅲ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅲでは、古代から中世までを対象とし、Ⅳに引き継ぐ。

### 【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

### 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房 税別定価3,800円）  
図書館情報学用語辞典（丸善 税別定価3,800円）

## 情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

松井美紀

### 【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

情報技術活用のための基礎を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) コンピュータの基本的な仕組み
- 7) 図書館の機械化
- 8) データベースと情報検索
- 9) メディアの多様化と情報技術
- 10) インターネットについての基礎知識
- 11) インターネットによる情報発信
- 12) 電子情報と知的所有権

### 【評価方法】

(1) 出席状況 (2) 定期試験（またはレポート）  
以上の結果により評価を行う。

### 【テキスト】

授業時に提示する。

## 情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅳでは、Ⅲの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱う。みなので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

### 【授業計画】

1. 印刷のもたらした近代  
学術情報流通システムの成立/新聞と雑誌/読書大衆
2. 図書館の世紀
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索
6. 図書館学と情報学
7. 未来を求めて：Vannevar BushのMemex 構想をもとに

### 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房 税別定価3,800円）  
図書館情報学用語辞典（丸善 税別定価3,800円）

## 博物館概論

長谷川 綏治

### 【授業の概要】

博物館とは何か、発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観する。

### 【授業計画】

- ア はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の発端Ⅰ…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- カ 近代博物館の発端Ⅱ…市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世からの主要な博物館を例にとり、特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
  - ・幕末から明治期にかけての博物館の発端
  - ・国威の宣揚と博物館
  - ・通俗教育による教化と博物館
  - ・十五年戦争と博物館

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 綏治 戸谷印刷）

## 博物館学各論Ⅰ

長谷川 綏治

### 【授業の概要】

博物館について、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

### 【授業計画】

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義されていることを念頭におき考える。
- イ 博物館の分類…分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて考える。
- キ 博物館の施設・設備…設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…大学・研究機関などとの連携についても考える。
- コ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察する。あわせて世界遺産についても考える。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 綏治 戸谷印刷）

## 博物館概論

早川 正一

### 【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

### 【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性  
専門職員としての「学芸員」とは何か  
博物館と美術館の発達とその時代背景  
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性  
博物館の分類と現代性  
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮  
博物館の相互協力と情報の活用  
毎時間、入念にノートをさせる。コピーは許さない。  
無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。  
長谷川 綏治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 綏治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

## 博物館学各論Ⅰ

早川 正一

### 【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

### 【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。  
博物館や美術館の展示と陳列構造  
博物館がとり扱う資料の収集と保存  
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究  
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育  
文化財の種類と保護にかかわる諸問題  
生涯学習の必要性と博物館の関連事業  
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。  
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。  
博物館学論考（長谷川 綏治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 綏治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

## 博物館学各論Ⅱ

長谷川 綉治

### 【授業の概要】

博物館資料とは何かの定義づけからはじめ、資料の取扱い方を含めて学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

### 【授業計画】

- ア 博物館の資料…「物」が博物館資料と位置づけられるのはどのようなことかを考える。
- イ 博物館資料の実際…資料について実技を含めて具体的に学ぶ。
  - 1 資料の収集
  - 2 資料の取扱い
    - ・掛軸
    - ・古文書 ・和装本
    - ・やきもの ・茶碗
    - ・瓦など
  - 3 資料の整理・保存
  - 4 資料の保全
- ウ 資料情報の管理…資料情報の管理についてその実際を探る。
- エ 調査・研究…博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

博物館学概説 (長谷川 綉治 戸谷印刷)

## 博物館学各論Ⅱ

松村 冬樹

### 【授業の概要】

「資料」をもたない博物館はあり得ない。では、「モノ」をもっていれば博物館といえるだろうか? 「モノ」と「資料」はどう違うのだろうか?

この講座では、「博物館資料」の考え方にはじまり、資料取扱の基本までを、実習を中心に学習する。

### 【授業計画】

かび臭い貴重品という「博物館資料」のイメージをくつがえし、博物館や美術館見学时に役立つ基本知識や心構えを修得する。

- ア 「資料」とはなにか
- イ 博物館と資料
- ウ 収集の方法
- エ 資料の取扱 (理論と実際)
- オ 整理と分類 (観察とドキュメンテーション)
- カ 調査と研究
- キ 保管と保全
- ク 管理と活用
- ケ 資料情報の公開
- コ 資料と学芸員

### 【評価方法】

- ・実習中心のため、適切な受講定員を設定する。
- ・実際の美術品を用いた実習が主体となるので、出席と実習態度を重視する。
- ・基礎的知識の修得度と、文化財取扱に対する心構え (適性) を評価する。

### 【テキスト】

『博物館学概説』(長谷川 綉治 戸谷印刷 青本)  
随時プリントを配布する。

## 博物館学各論Ⅱ

秋元 悦子

### 【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

### 【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的な種類を知る。
2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3. 資料の取扱い……基本資料の取扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。  
やきもの、和装・巻子本、掛け軸その他で実習する。
4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。  
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

### 【評価方法】

出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

### 【テキスト】

博物館学概説 (長谷川 綉治 戸谷印刷)  
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

## 博物館実習

長谷川 綉治

### 【授業の概要】

学芸員の基本的な役割について、講義、展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

### 【授業計画】

- ア 展示論……展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。
  - 1 展示とは
  - 2 展示のポイント
    - ・動線 ・視線 ・照明 ・温度 ・湿度
  - 3 展示の施設
  - 4 展示のプロセス
  - 5 展示と保全
- イ 普及・教育論……生涯学習が重要課題となっている現代社会にあって、博物館が果たす役割はどんなものかを探っていく。
- ウ 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
- エ 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
- オ 海外特別実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
- カ 県外実習……エ、オに参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

### 【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にはかならず参加し、それぞれレポートを提出。評価の対象とする。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

### 【テキスト】

博物館学概論 (長谷川 綉治 戸谷印刷)

## 博物館実習

秋元悦子

### 【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

### 【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的な事例をふまえながら、学んでゆく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の企画および実習……各自で企画した展覧会の計画書を作成し、また展示方法やその活用法を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後をになう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

### 【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、各自の展示企画についての口頭発表およびその計画書で評価する。

### 【テキスト】

博物館学概論（長谷川銑治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

### 【授業計画】

- 生涯学習理念の成立と発展
- 生涯学習実践の課題
- 生涯学習と社会
- 生涯学習と人間
- 社会教育の意義
- 社会教育施設の概要
- 社会教育の内容・方法・形態
- 社会教育指導者
- 総括

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

### 【参考文献・資料】

なし

## 博物館実習

川合剛

### 【授業の概要】

「展示」は、博物館と利用者とは結ぶインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

### 【授業計画】

「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多くとる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとらえられるようにする。

- (a) 展示とは
- (b) 展示のプロセス
- (c) 展示の構成要素
- (d) 展示と資料保全
- (e) 着想から実施まで
- (f) 解説の方法と印刷物
- (g) まとめ

\* 1 土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。

\* 2 夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。

\* 3 夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。

\* 2、\* 3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

### 【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出、（時間内）小テストの結果などにより評価する。

### 【テキスト】

『博物館学概論』（長谷川銑治 戸谷印刷）。

### 【参考文献・資料】

授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。

## 視聴覚教育メディア論

東浦信博

### 【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

### 【授業計画】

1. 視聴覚教育の意義と効果
2. 博物館と視聴覚教育メディア（手段としてのメディア、目的物としてのメディア）
3. 視聴覚教育メディア各論  
領域と種類  
録音メディア（レコード・テープ・CD等）  
映像メディア1（スライド・OHP等）  
映像メディア2（映画・ビデオ等）  
マルチメディアと情報ネットワーク  
講義中心であるが、OHP、ビデオを多用する。

### 【評価方法】

論述式定期試験（テキスト・ノート持込み可）。

### 【テキスト】

視聴覚メディアと教育（樹村房 ¥1,800+税）

## 教育学概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

教育学の基本的な知識や概念の習得とそれに基づく具体的な諸問題について考察を進めていくことにする。とりわけ、人間の社会生活と教育との関連に力点を置いて、本来の教育の意義や望ましい教育の作用を明らかにするように努めていくことにする。その際、取り上げる題材としてプリントやVTRを使用して理解を深めていきたい。

### 【授業計画】

- 1-2 教育学の概念
- 3-4 教育学の歴史
- 5 教育学の課題
- 6-8 学校と教育
- 9-11 社会と教育
- 12-14 家庭と教育
- 15 総括

### 【評価方法】

主に期末試験により評価するが、講義中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 美術史

角田美奈子

### 【授業の概要】

日本の美術の歴史にはたくさんの不思議があります。例えば、今、私たちが美術館で目にする「絵画」が、「日本画」と「洋画」に区別して紹介されていたりするのはどうしてでしょう。また、それはいつからのことでしょうか。

このような不思議を手がかりに日本の美術の歴史をたどり、理解を深めるとともに、作品鑑賞を豊かにする視点や問題意識を育みます。

必要にあわせて東洋や西洋の美術の歴史も参照します。

### 【授業計画】

ワーク・シートを配布し、設問に答えるところから全体の授業をはじめます。不思議を授業を通して発見する。講義は、不思議の背景などを説明し、また新たな不思議を見出すはたらきかけとする。解説プリント、ワーク・シート、感想・質問・要望などを記すフィードバック・シートを適宜配布する。

### 【評価方法】

ワーク・シートやフィードバック・シートを回収し、出欠の確認に代えりるとともに、内容を評価する。

これらを使用しないときは、出欠を確認し、評価に反映させる。

授業で自分の考えや答えを発表してもらう。授業に参加する姿勢もあわせて評価する。

内容の評価には、回答の正しさを必ずしも求めない。取り組みの姿勢や理解の深まりなども評価の対象とする。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

必要により、授業で紹介する。

## 民俗学

谷沢 明

### 【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折り返しにあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～  
学外教育としてフィールドワークを行う。

### 【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

### 【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

## 文化史

秋元悦子

### 【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、中国を例にさまざまな角度から検討するものである。

授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用して文化的特質を考察してゆく。

また、学芸員課程の一環として各資料の所在調査の方法や活用法も紹介していく。

教材としてプリントを配布し、視覚資料（ビデオ・OHCなど）を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

### 【授業計画】

1. 履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2. 歴史地理学概説
3. 中国と日本の自然地理を知る
4. 自然地理と歴史の関係概説 史前期から近代まで  
ユーラシア大陸の歴史と中国の王朝交代  
中国歴代王朝と都の位置
5. 中国人の地域概念  
『禹貢』の世界から現代の地理意識まで
6. 古代中国の地域と現状  
夏殷周三代の歴史とその遺跡
7. 中国の気候変遷と歴史の関係
8. 地形図にみる地域と歴史  
中国地形図の種類と現状

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回出欠調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

### 【参考文献・資料】

世界の歴史と文化 中国（陳舜臣・尾崎秀樹監修 新潮社）  
また、授業中に各種文献を紹介する。



## 【授業の概要】

学問としての考古学の主な対象は先人が遺した遺跡・遺物であり、それらを確認・資料化するための方法は発掘調査に拠っている。遺跡・遺物には、いつ造られ使われそして廃棄されたかという情報、即ち「時計」と、誰かどこでどのような材料で造ったかという情報、即ち「戸籍」が内包されている。その「時計」と「戸籍」を解明することが、考古学ではまず求められる。このために、近年は自然科学的分野との共同研究が活発化している。また、遺跡・遺物が先人の生活でどのような役割を担っていたかを知る上で、民俗学の知見も有効である。このように、考古学も他の学問領域との共同作業、学際的な道を歩んでいる。

しかし、遺跡・遺物に内包されている「時計」「戸籍」を解き明かすことだけが考古学の目的ではない。何故なら、考古学は歴史学の一分野として、単に先人の足跡を追跡するにとどまらず、それがどのような現代的意味、私たちが生きていく上での指針を持っているかを学ぶものだからである。特に、博物館などで資料として遺跡・遺物を活用する際に必要不可欠な視点であると考えたい。

講義では、西欧に端を発した考古学の理念、日本での考古学研究の歩みと今日の研究の到達点、さらには遺跡・遺物の文化財としての保存・活用について考えていく。

## 【授業計画】

- 1 考古学の理念と方法論
- 2 日本考古学の発展 ア 原始
- 3 " イ 古代・中世
- 4 " ウ 近世以降
- 5 文化財としての遺跡・遺物

随時、スライド、OHPを用いて視覚による理解を促す。

## 【評価方法】

出席状況、レポートにより判定する。

## 【テキスト】

講義の都度、レジュメを配布する。

## 【参考文献・資料】

特になし。

## 英語海外セミナーⅠ（米国）

担当者未定

### 【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス近辺のホテルに滞在し、約3週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。

期間は2月中旬から3月中旬の約1ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2004年度実施研修プログラムにおける1日（9:00～15:20）の学習内容は、以下の通り：

- 午前 少人数制英会話クラスと総合英語の授業
- 午後 アメリカ文化の授業とプロジェクト（音楽/芸術・ニュースレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、修了パーティーで発表する。）

### 【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。（全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。期間中、本学教職員は滞在しない。）

### 【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

### 【テキスト】

現地にて用意される。

### 【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

## 米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

### 【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織 (NPO) でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を定める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

（米国側協力団体）Civil Society Consulting Group (CSCG)

### 【授業計画】

（事前研修）・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

（現地プログラム）・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティー

（事後研修）・フォローアップ研修、報告書作成

### 【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し総合評価を行う。

### 【テキスト】

米国側提出の英文資料

### 【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

## 英語海外セミナーⅡ（オーストラリア）

NORRIS, Harry T.

### 【Course Content】

Students will be in an English Emersion course with Canberra University. Students will study English and English usage in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

### 【Schedule】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and Questacon.

The course will conclude with a 2 day excursion to Sydney, including sight seeing and a theatre show.

### 【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

### 【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

## 中国語海外セミナーⅠ（中国）

馮富榮

### 【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において4週間の中国語研修を行う。
  - ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
  - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を知る。
  - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
  - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
  - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州への一日旅行。
2. 言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実地する。
5. 終了者に2単位を認定する。

### 【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

### 【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

### 【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

## 韓国・朝鮮語海外セミナー I (韓国)

チョ スルソップ

### 【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形で韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる2泊3日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来とともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の8月中の3～4週間

内容：

- 韓国語研修
  - 梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
  - 実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
  - 入門の1段階から最上級の6段階に分けられたクラス編成
  - 専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
- 韓国文化研修
  - 芝居鑑賞
  - 板門店の訪問
  - ホームステイ(2泊3日)
- 日韓学生共同プログラム
  - 毎週1回程度の頻度
  - テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
  - テーマ、「韓国と日本の大学生生活を語る」、「地域探訪(文化財踏査)」、「韓国の民俗と礼節」など
- その他の課外活動

### 【授業計画】

- 4～5月：ガイダンス、参加者の募集および決定
- 6～7月：数回の事前研修
- 8月：現地研修
- 9～11月：事後研修および報告書のまとめ

### 【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

### 【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean 1, 2, 3, 4, 5」(梨花女子大学校出版部)中  
その他は特になし

## Japan's Global Interface

藤井正志 太田浩司 宮田 Susanne プイチトルン  
國信潤子 梅田敏文 JOLLY, James A. 石橋善弘

### 【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生(ただし交換留学による者)・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生(含む外国人留学生)である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan's global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to Special Credit-Auditors (exchange students only)-Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture-Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

### 【授業計画】

- |    |                      |  |
|----|----------------------|--|
| 1  | FUJII, Masashi       | Introduction   |
| 2  | OTA, Hiroshi         | Language Use in Japan  |
| 3  | OTA, Hiroshi         | Language Use in Japan  |
| 4  | MIYATA, Susanne      | Intercultural Communication from a Psychological Point of View |
| 5  | MIYATA, Susanne      | Intercultural Communication from a Psychological Point of View |
| 6  | BUI, Chi Trung       | Intercultural Communication Through NPO Activities             |
| 7  | KUNINOBU, Junko      | Gender Relations in Japanese Society                           |
| 8  | UMEDA, Toshifumi     | Information Technology and Information Ethics                  |
| 9  | UMEDA, Toshifumi     | Information Technology and Information Ethics                  |
| 10 | JOLLY, James         | Developing International Business Practices                    |
| 11 | JOLLY, James         | Developing International Business Practices                    |
| 12 | ISHIBASHI, Yoshihiro | Statistics in Social Sciences                                  |
| 13 | ISHIBASHI, Yoshihiro | Statistics in Social Sciences                                  |

### 【評価方法】

Assessment will be based on attendance and/or a paper.  
出席点及び教員ごとにレポートを課し、総合的に評価する。

### 【テキスト】

To be announced

### 【参考文献・資料】

To be announced

## スポーツ特殊講座 (ボウリング)

松田秀子

### 【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へとつなげる。

### 【授業計画】

- [ボウリング]
- 期日  
実習 平成17年9月7日(水)・8日(木)・9日(金)  
12日(月)・13日(火)・14日(水)  
計6日間 午前中のみ
  - 説明会 平成17年7月6日(水) 12:30～13:15  
実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。
  - 場所 星ヶ丘ボウル
  - 実習費 6,000円(平成16年度のものでありますので変更する場合があります。)
  - 定員 60名
  - 内容
    - 1日目 開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
    - 2日目 ボウリングの歴史、基本動作
    - 3日目 ボールのコントロール、軌道調整
    - 4日目 アジャスティングの基本と実践、3-2-1理論
    - 5日目 レーンコンディションとボールの曲がり  
ストライクアングルの実践練習
    - 6日目 競技会説明、競技会(アメリカン方式3ゲーム)、閉講式

### 【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

## スポーツ特殊講座 (スケート)

松田秀子

### 【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へつなげる。

### 【授業計画】

- [スケート]
- 期日  
実習 平成18年2月8日(水)・9日(木)  
10日(金)・13日(月)  
14日(火)・15日(水)  
計6日間 午前中のみ
  - 説明会 平成18年1月11日(水) 12:30～13:15  
実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。
  - 場所 名古屋スポーツセンター (大須)
  - 実習費 7,200円(平成16年度のものでありますので変更する場合があります。)
  - 定員 40名
  - 内容
    - 1日目 開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
    - 2日目 自然滑走、正しい押し出し
    - 3日目 フォアスケート・カーブ滑走
    - 4日目 ストップ、バックスケート・バックの基本
    - 5日目 クロスステップ、フォアからバックへのターン
    - 6日目 総合練習、実技テスト、閉講式

### 【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。